

# 今後の後期中等教育の在り方に関する調査研究 (「総合学科に関する調査」報告書)

平成 20 年(2008 年) 3 月

研究代表者 工 藤 文 三  
(国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長)

## は し が き

国立教育政策研究所において平成 18 年度から進めてきた「今後の後期中等教育の在り方に関する調査研究」では、1990 年代以降進められてきた高等学校改革に焦点を当て、都道府県ごとの実施動向及びその成果と課題等について分析検討してきた。高等学校改革は、教育内容や履修システムにかかわる学科や課程の改革を内容としながら、各地域における生徒数の変化や社会的要請を踏まえた高等学校の配置再編として実施されてきた。

教育内容及び履修システムの改革としては、単位制の導入や総合学科の新設、学校間連携や学校外学修の単位認定の仕組みの導入などが行なわれてきた。特に総合学科は、普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に学習させる学科として創設され、原則履修科目である「産業社会と人間」に象徴されるように、生徒の進路への自覚を深めさせる学習を重視する点に大きな特色があった。

本報告書は、上記のプロジェクト研究の一環として実施した総合学科の実施状況に関する調査の結果をとりまとめたものである。調査項目は概ね次のような内容とした。

- ・総合学科の設立に関する事項
- ・科目選択の方法や指導体制に関する事項
- ・開設科目と分野（系列）に関する事項
- ・「産業社会と人間」の指導体制や学習活動に関する事項
- ・「課題研究」の実施と指導体制に関する事項
- ・進路指導の体制や工夫に関する事項
- ・単位制の活用状況に関する事項
- ・ホームルームの編成や実施に関する事項
- ・学校間連携の実施に関する事項
- ・学校外の学修の単位認定に関する事項
- ・近年の入学者数、卒業者数、進路の状況に関する事項

なお、これらの調査項目の選定に当たっては、平成 11 年に文部省が実施した総合学科を対象にした調査と比較できるように配慮した。

総合学科の評価は多面的多角的になされることが必要であるが、この調査結果がそのための基礎的な資料として活用されることを期待したい。調査にご協力いただいた各学校に感謝申し上げる次第である。

平成 20 年 3 月

「今後の後期中等教育の在り方に関する調査研究」

研究代表者 工藤 文三

(国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長)

## 研究組織（平成 19 年度）

### 研究代表者

工藤文三 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 部長

### 研究協力委員

佐藤健公 秋田県教育庁高校教育課高校改革推進班 主任指導主事  
田中時義 神奈川県教育委員会教育局高校教育課 課長代理  
近藤繁彦 石川県教育委員会事務局学校指導課 参事  
中谷文弘 三重県教育委員会事務局教育改革室 室長  
藤井直 京都府教育庁指導部高校改革推進室 総括指導主事  
古前勝教 広島県教育委員会事務局教育部指導第二課 課長補佐  
谷脇澄男 高知県教育委員会事務局高等学校課学校教育班 指導主事  
高島孝一 福岡県教育庁教育企画部企画調整課改革推進班 指導主事  
横井敏郎 北海道大学大学院教育学研究科 准教授  
小川洋 聖学院大学基礎総合教育部 教授  
山村滋 大学入試センター研究開発部 准教授  
坂野慎二 玉川大学通信教育部教育学部 准教授（国立教育政策研究所客員研究員）

### 所内委員

小松郁夫 国立教育政策研究所教育政策・評価研究部 部長  
植田みどり 国立教育政策研究所教育政策・評価研究部 研究員  
下田好行 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官  
岩崎久美子 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官  
立田慶裕 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官  
川島啓二 国立教育政策研究所高等教育研究部 総括研究官  
加藤崇英 国立教育政策研究所高等教育研究部 主任研究官  
河合久 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官  
名取一好 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官  
二井正浩 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官  
鳩貝太郎 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官  
添野龍雄 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官  
吉開潔 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官

### 事務局

屋敷和佳 国立教育政策研究所教育政策・評価研究部 総括研究官  
橋本昭彦 国立教育政策研究所教育政策・評価研究部 総括研究官

### 研究会講師

矢作洋 全国定時制通信制高等学校長協会 理事長（東京都立小山台高等学校長）〔平成 19 年度 第 1 回研究会〕  
佐野幹男 全国農業高等学校長協会 理事長（東京都立農業高等学校長）〔平成 19 年度 第 2 回研究会〕  
能智功 全国工業高等学校長協会 理事長（東京都立田無工業高等学校長）〔平成 19 年度 第 3 回研究会〕

## 目 次

はしがき

研究組織

目次

総合学科に関する調査の概要

### 第1章 総合学科に関する調査結果の概要

1. 調査の目的・方法	5
2. 学校調査結果	6
3. 生徒調査結果	35

### 第2章 総合学科に関する調査の集計結果

1. 学校調査	
ア. 国立・公立・私立 全日制・定時制	47
イ. 公立 全日制	57
2. 生徒調査	
ア. 国立・公立・私立 全日制・定時制	67
イ. 公立 全日制	71

### 第3章 総合学科における成果と課題の自由記述

1. 教育課程について	77
2. 学校運営について	89
3. 各教科・科目等の授業について	103
4. 生徒指導について	113
5. 進路指導について	123

資料

1. 調査依頼状	137
2. 学校調査票	139
3. 生徒調査票	151



## 「総合学科に関する調査」の概要

### 1. 本調査のねらい

プロジェクト研究「今後の後期中等教育の在り方に関する調査研究」（平成 18～19 年度）の一環として、高校教育改革のパイオニアといわれた総合学科に対するアンケート調査を行い、今後の後期中等教育の改善ための基礎資料を得る。特に、平成 11 年の文科省調査結果と比較することにより、総合学科の成果と課題を把握することをねらいとする。

### 2. 本調査の経過

第 1 回研究会 平成 19 年 6 月 29 日（金）

研究協議において、「総合学科に関する調査」の調査票の検討を行った。

第 2 回研究会 平成 19 年 8 月 27 日（月）

8 府県委員（秋田県、神奈川県、石川県、三重県、京都府、広島県、高知県、福岡県）の「総合学科高校の概要と成果・課題」の報告の後、研究協議において、「総合学科に関する調査」の実施について検討を行った。

第 5 回研究会 平成 19 年 11 月 27 日（火）

「総合学科に関する調査」結果の速報を行った。

第 6 回研究会 平成 20 年 1 月 23 日（水）

「総合学科に関する調査」の結果報告（平成 11 年文部省調査との比較を中心に）を行った。

### 3. 調査及び結果の概要

#### ①調査の実施等

対象校は、平成 16 年度に総合学科を設置している国公立の全高校 241 校である。実施時期は平成 19 年 9 月であり、各校とも学校調査と生徒調査を行い、学校調査の回収率は 97.5 % であった。

#### ②調査結果

平成 11 年に文部省が調査を実施した時点では、総合学科は、公立の全日制課程にのみ置かれていた。その後、定時制課程、国私立高校にも総合学科は導入されており、今回の調査は、定時制課程及び国私立高校を含む。主要な知見は以下の通りである。

- ・平成 19 年の総合選択科目の分野（系列）を見ると、全体の 3 分の 2 の学校で「人文」が開設されており、最も開設率が高い。次いで「自然」「ビジネス」の順である。
- ・生徒が分野（系列）や科目を選択する際の指導体制は、「ホームルーム担任のみによる指導」で行っている学校の割合が平成 11 年よりも高くなっている。
- ・総合学科開設の際の分野（系列）の数を変更した学校については、増やした学校はまれで、ほとんどの学校は減少させている。
- ・原則履修科目「産業社会と人間」の指導体制については、「ホームルーム担任のみによる指導」で行っている学校の割合が、平成 11 年よりも高くなり、「ティーム・ティーチングによる指導」を行っている学校の割合が低くなっている。

- ・原則履修科目「産業社会と人間」の指導において、「職場見学・体験等」「調査研究」「ボランティア活動」「討論会」といった内容が計画されている割合が、平成 11 年よりも低くなっている。
- ・「産業社会と人間」を学ぶ意義について、平成 19 年の方が肯定的に捉えている生徒の割合は高くなっている。
- ・進路指導における専任のカウンセラーは、平成 19 年には約 1 割の学校に設置されている。また、平成 11 年と比べると設置されている学校の割合は倍増している。
- ・学校外の学修による単位認定を行っている学校は、平成 11 年では 3 割にとどまっていたが、平成 19 年には 6 割を超えるまでに増えている。
- ・単位認定の対象としている学修の内容は、平成 11 年と比べ、バリエーションが豊富になっている。
- ・生徒が総合学科を選んだ理由については、平成 11 年と比べ、平成 19 年では「自由に学ぶ科目を選択できる」とした生徒の割合が 15 %ポイント以上の減少、また「やりたい勉強ができる」とした生徒の割合も 10 %ポイント以上の減少が見られる。
- ・総合学科で学ぶことの満足度については、約 8 割の生徒が肯定的な評価をしており、その割合は平成 11 年よりも若干高くなっている。
- ・総合学科について満足している理由は、「興味・関心に応じて教科・科目を選択できる」、「多様な選択科目が開設されている」が上位であり、変化がない。
- ・総合学科について不満足な点については、「施設・設備が不十分」「体験的・実践的な学習活動がもっと必要」が平成 11 年と比べて増えている。

## 第1章 総合学科に関する調査結果の概要

## 1. 調査の目的・方法

### (1) 調査の目的

この調査は、「今後の後期中等教育の在り方に関する調査研究」の一環として、総合学科の実施に伴う成果と課題等を把握し、今後の後期中等教育の改善に資する資料を得ることを目的とする。

### (2) 調査の種類、対象及び主な調査事項

	調 査 の 種 類	調 査 の 対 象	主 な 調 査 事 項
1	学校調査 (悉皆調査)	平成16年度に総合学科を設置しているすべての学校の校長	・教育課程の編成、実施状況 ・生徒の進路状況 ・これまでの成果と課題
2	総合学科在校生調査 (標本調査)	上記の総合学科設置校の最終年次の生徒から、それぞれ45名を上限として抽出	・総合学科の特色 ・総合学科を選択した理由 ・総合学科への満足度

### (3) 調査票の回収状況

区 分		対象校数	回収校数	回収率
学 校 調 査	国公全日制	2	2	100.0
	国立定時制	0	0	
	公立全日制	205	200	97.6
	公立定時制	10	10	100.0
	私立全日制	21	21	100.0
	私立定時制	3	2	66.7
	全 体	241	235	97.5

区 分		対象校数	回収校数	回収数
生 徒 調 査	国立全日制	2	2	79
	国立定時制	0	0	0
	公立全日制	205	199	7910
	公立定時制	10	10	379
	私立全日制	21	20	804
	私立定時制	3	2	66
	全 体	241	233	9238

### (4) 調査の実施時期、集計方法等

本調査は平成19年9月に実施し、外部委託により集計を行った。

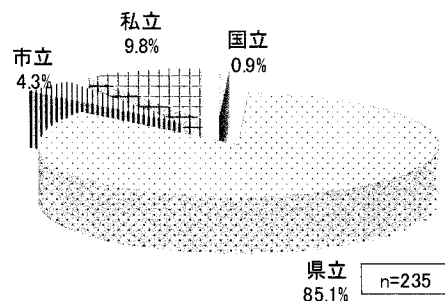
### (5) その他

本調査は平成11年3月から5月に「総合学科の今後の在り方に関する調査研究協力者会議」が実施した調査<sup>(1)</sup>と対照し、総合学科の状況の変化も把握できるように配慮した。

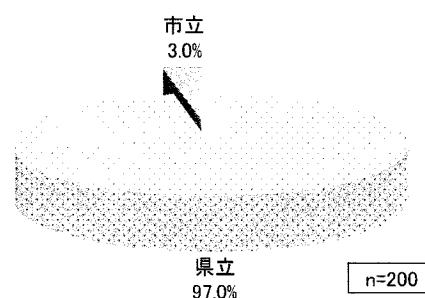
## 2. 学校調査結果

### (1) 回答校の設置者

#### ① 設置者別（全体）



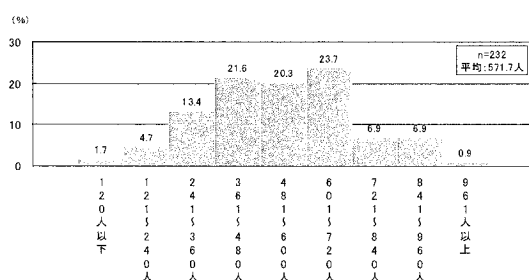
#### ② 設置者別（公立全日制学校）



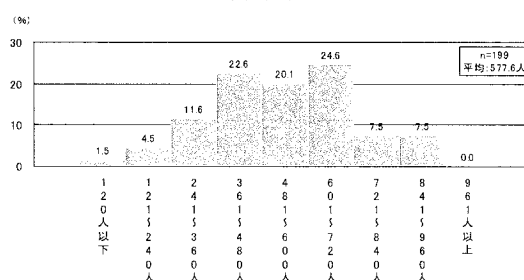
### (2) 学校の状況（平成19年5月1日現在）

#### ① 定員

##### ア. 全体

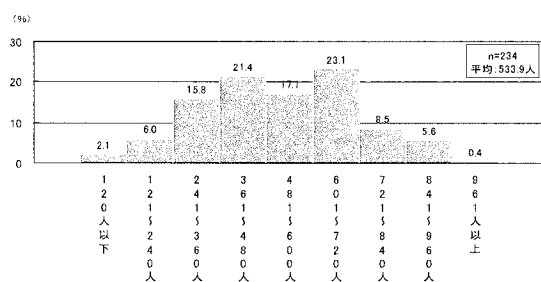


##### イ. 公立全日制学校

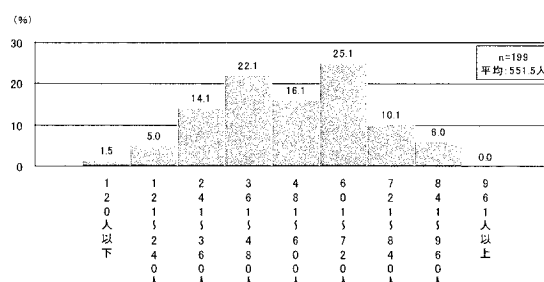


#### ② 在籍者数

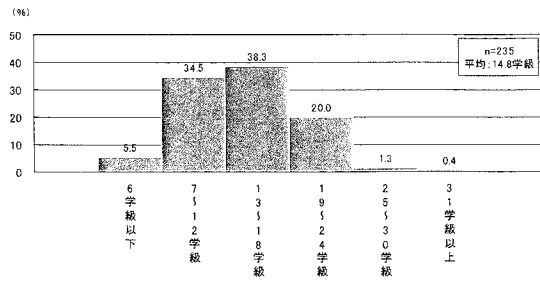
##### ア. 全体



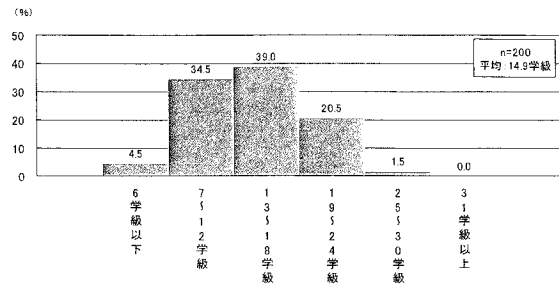
##### イ. 公立全日制学校



ア. 全体

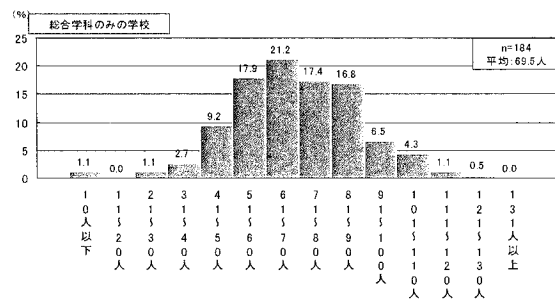


## イ. 公立全日制学校

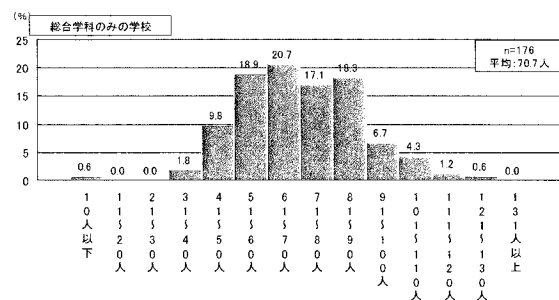


④ 教職員数（総合学科のみの学校を集計）

ア. 全体

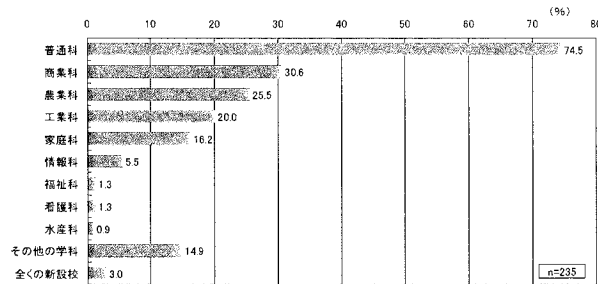


## イ. 公立全日制学校

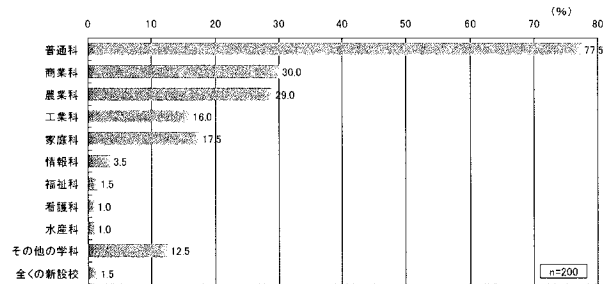


⑤ 総合学科が開設される以前の、いわゆる母体校に開設されていた学科〈複数回答可〉

ア. 全体



## イ. 公立全日制学校

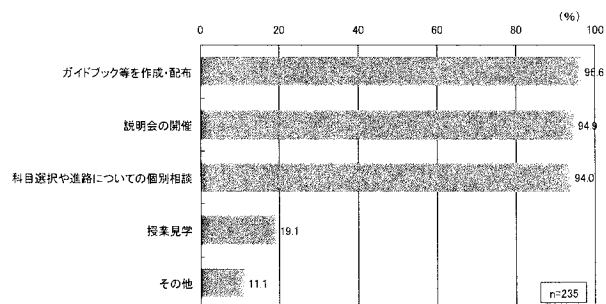


### (3) 総合学科において、生徒が科目を選択する際の指導

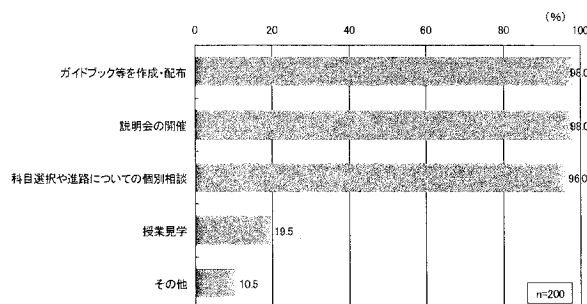
#### ① 生徒に対する選択科目の内容の紹介方法〈複数回答可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれ大きな違いは見られなかった。いずれも「ガイドブック等を配布」「説明会の開催」「科目選択や進路についての個別相談」といった項目が9割以上になっている。

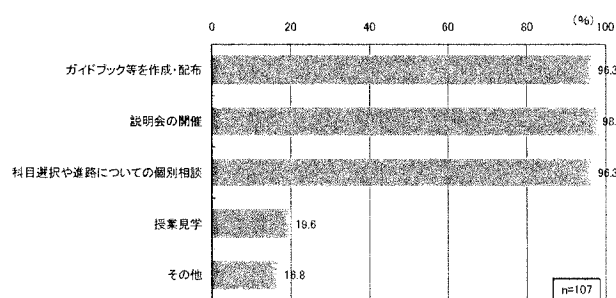
ア．全体



イ．公立全日制

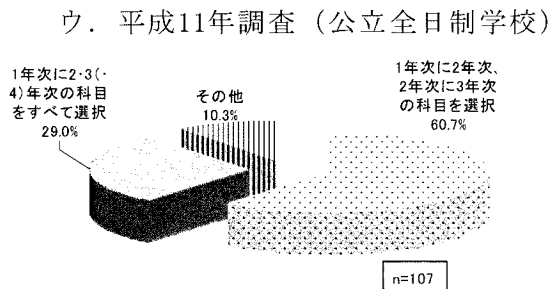
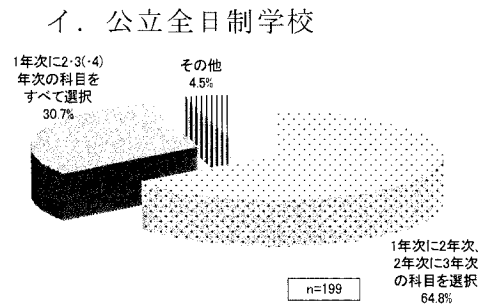
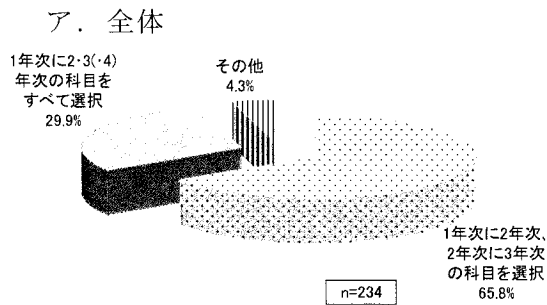


ウ．平成11年調査（公立全日制学校）

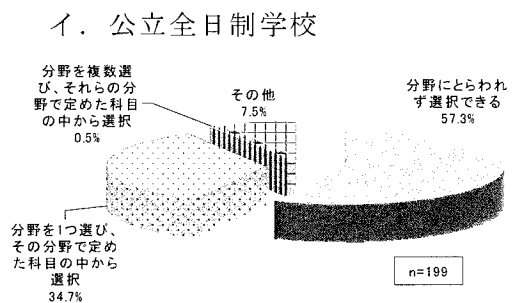
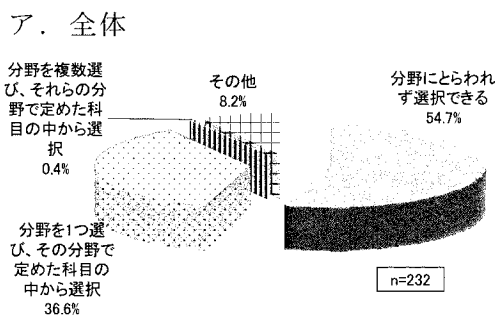


## ② 生徒の科目選択の方法〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれ大きな違いは見られなかった。いずれも「1年次に2年次、2年次に3年次の科目を選択」という項目が6割以上を占め、次いで「1年次に2・3年次の科目をすべて選択」という項目が3割程度を占めている。



## ③ 生徒に科目を選ばせる際の分野（系列）の役割〈複数回答不可〉

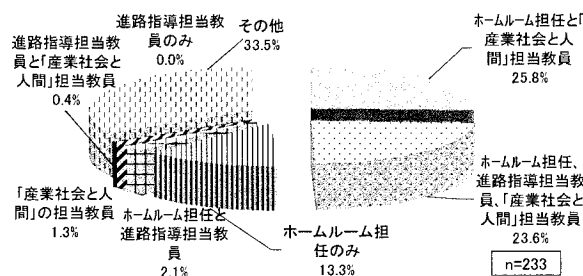




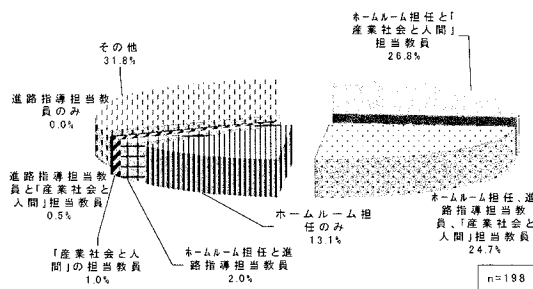
#### ④ 分野（系列）や科目を選択する際の指導体制〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれの項目の順位に大きな違いは見られなかった。ただ、平成19年調査では、「ホームルーム担任のみ」で科目選択を指導する割合（全体13.3%、公立全日制学校13.1%）が、平成11年調査の割合（7.5%）と比べ、ほぼ倍増している。

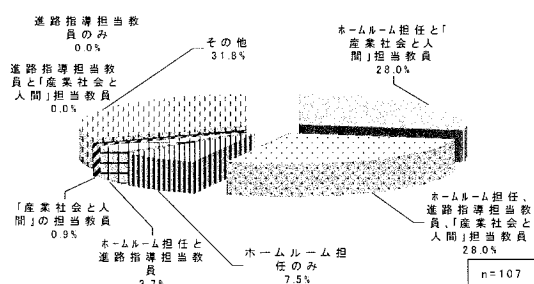
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



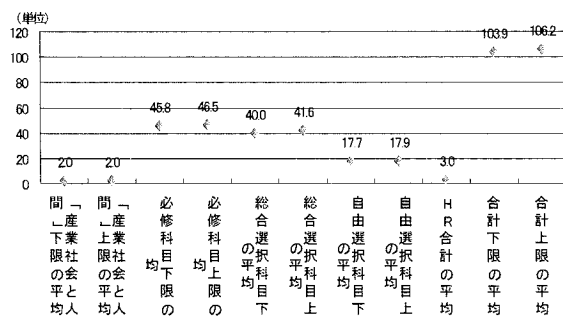
ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



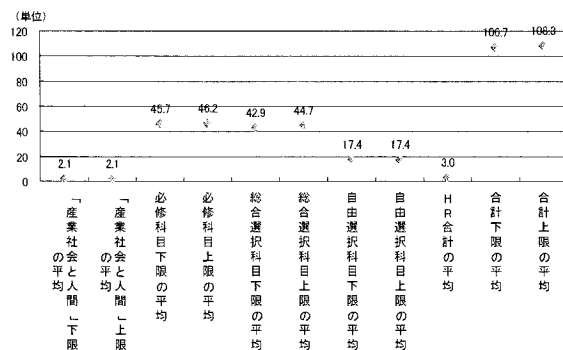
#### (4) 総合学科における開設科目状況

##### ① 原則履修科目、必修科目、H R活動の履修単位数

###### ア. 全体

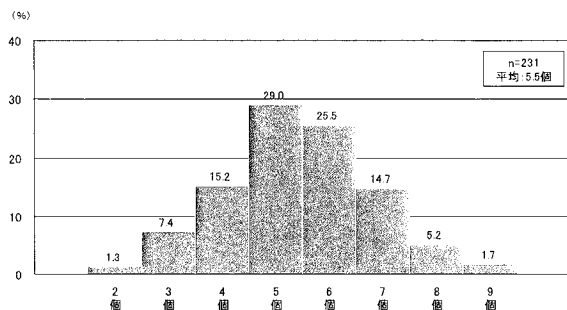


###### イ. 公立全日制学校

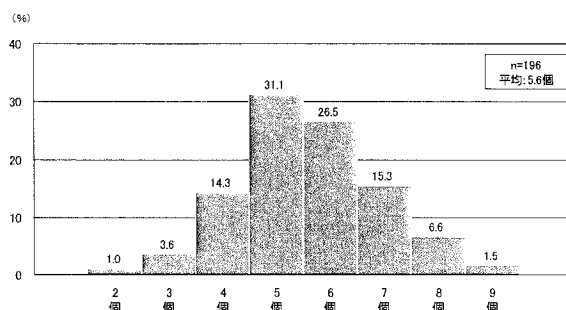


##### ② 開設分野（系列）数

###### ア. 全体

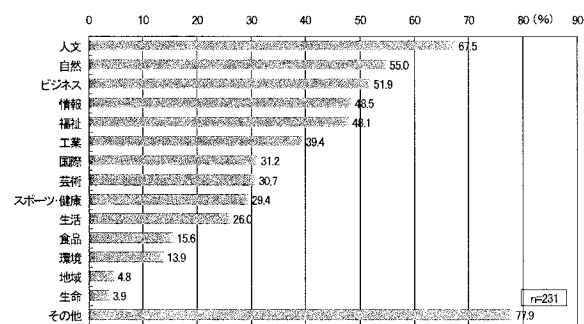


###### イ. 公立全日制学校

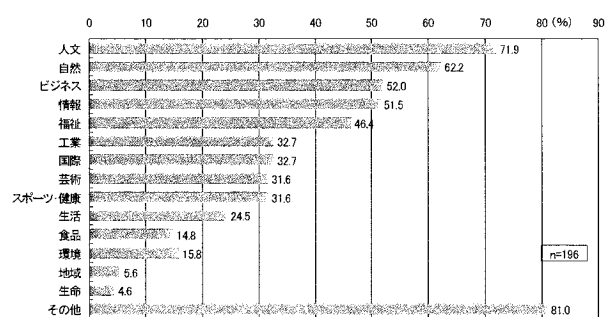


##### ③ 開設されている科目分野（系列）

###### ア. 全体



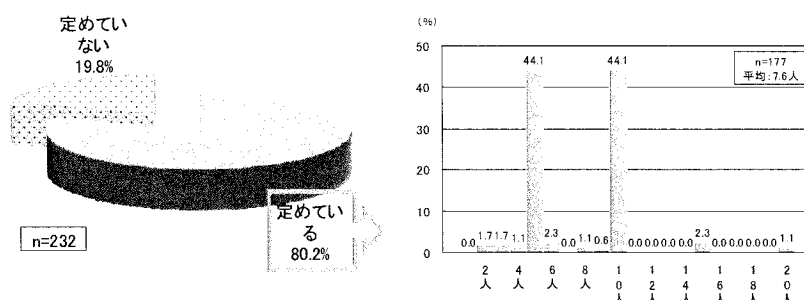
###### イ. 公立全日制学校



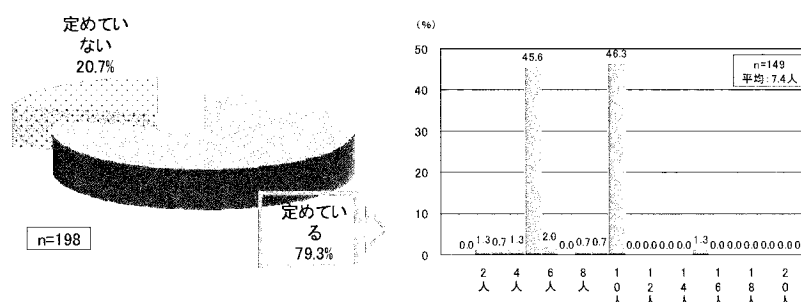
④ 選択科目の開講に必要な最低の履修人数〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）のそれぞれの項目の順位に違いは見られなかった。ただ、平成19年調査の結果と平成11年調査の結果を比べると、平成19年調査では「定めている」という項目の割合が15ポイント程度の増加し、「定めていない」という項目の割合が15ポイント程度減少している。

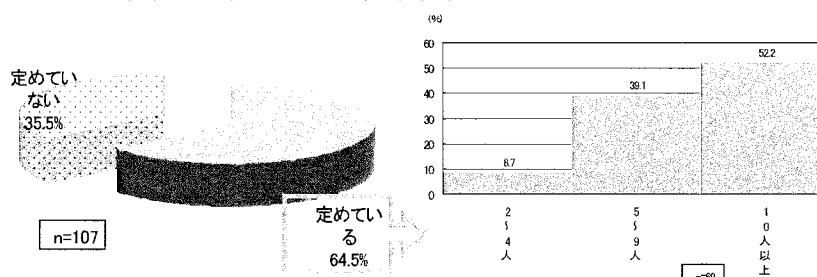
ア．全体



イ．公立全日制学校



ウ．平成11年調査（公立全日制学校）



⑤ 分野（系列）の新設・変更・廃止等の状況〈自由記述より〉

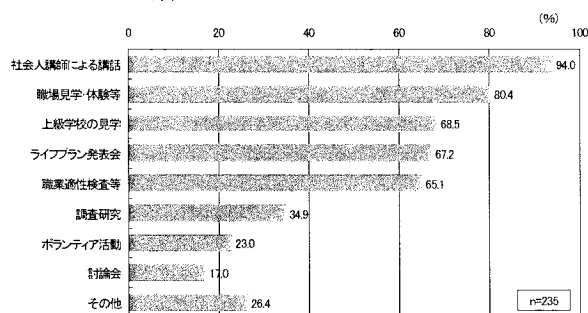
分野（系列）の新設・変更・廃止等の状況については、100校以上の学校で分野（系列）の新設・変更・廃止等が行われていることが分かった。その理由としては、生徒のニーズや実態、生徒数の減少に対応するためといったものが多い。分野（系列）数を変更した学校については、増やす学校はまれで、ほとんどの学校は減少させている。

## (5) 総合学科における原則履修科目「産業社会と人間」

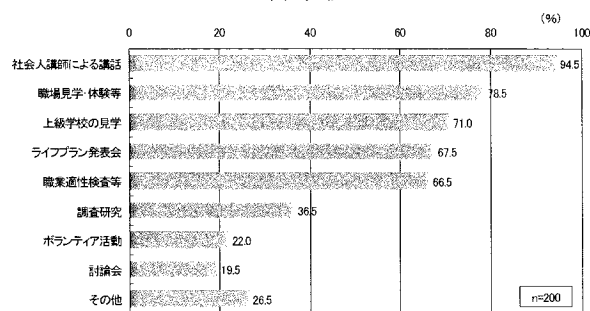
### ① 「産業社会と人間」の年間指導計画における活動〈複数回答可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）のそれぞれの項目の順位には違いは見られなかった。ただ、平成19年調査では「その他」以外のすべての項目の割合が平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）と比べて減少している。特に「職場見学・体験等」「調査研究」「ボランティア活動」「討論会」という項目は、10%ポイント以上の減少が見られる。

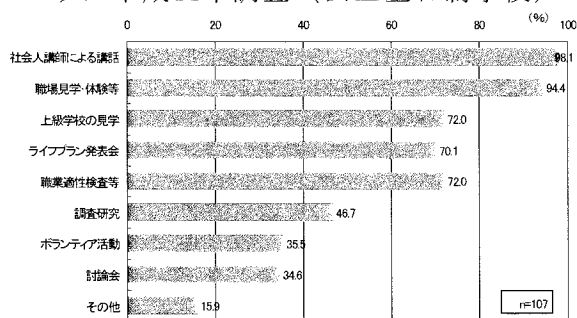
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



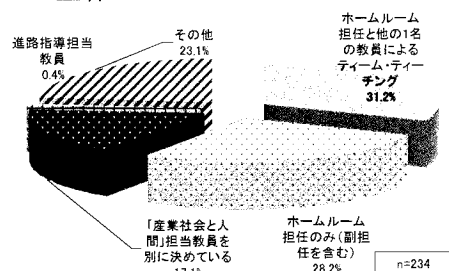
ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



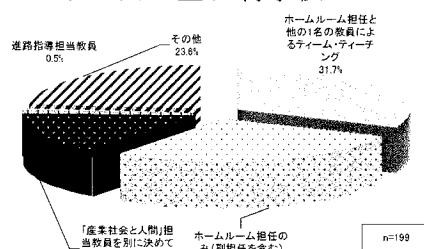
## ② 「産業社会と人間」の指導体制〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれの項目の順位には大きな違いは見られなかった。ただ、平成19年調査では「ホームルーム担任のみ（副担任を含む）」という項目が平成11年調査と比べて10%ポイント以上の増加が見られる一方、「ホームルーム担任と他の1名の教員によるティーム・ティーチング」という項目では15%ポイント程度の減少が見られる。

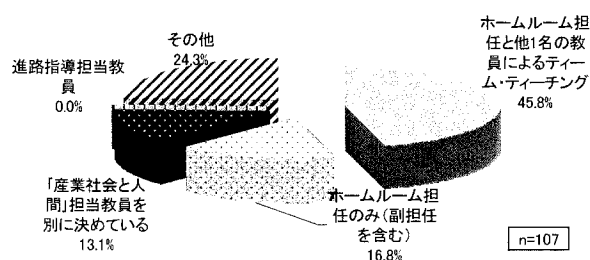
ア. 全体



イ. 公立全日制学校

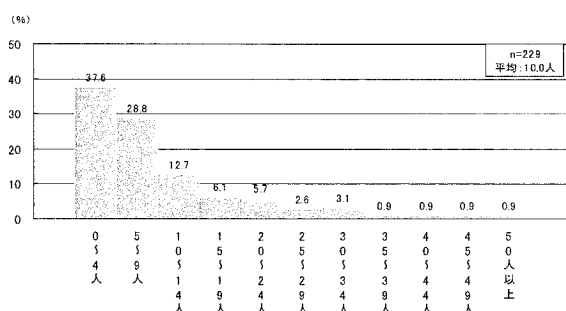


ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）

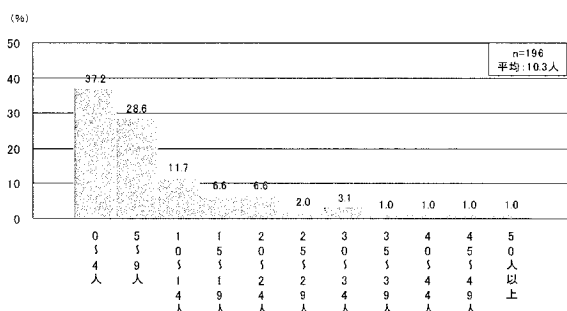


## ③ 「産業社会と人間」で協力を得た社会人講師の総数（平成18年度）

ア. 全体

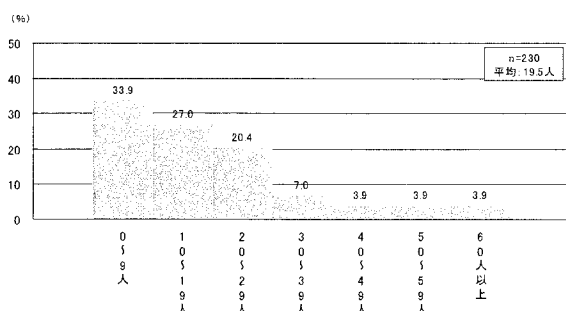


イ. 公立全日制学校

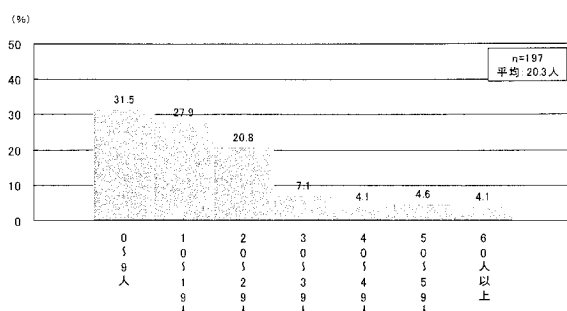


## ④ その他の教科科目等で協力を得た社会人講師の総数（平成18年度）

ア. 全体



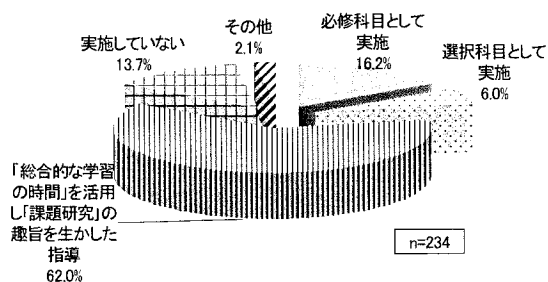
イ. 公立全日制学校



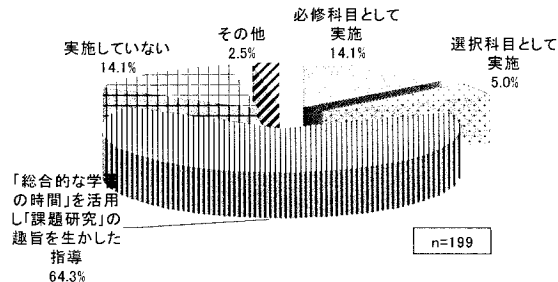
## (6) 総合学科における「課題研究」

### ① 「課題研究」の実施方法〈複数回答不可〉

#### ア. 全体



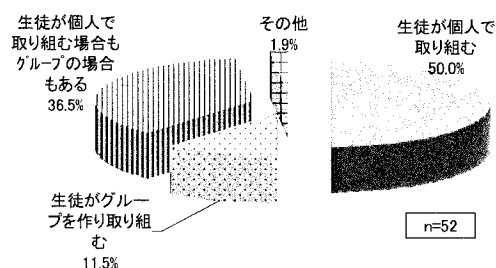
#### イ. 公立全日制学校



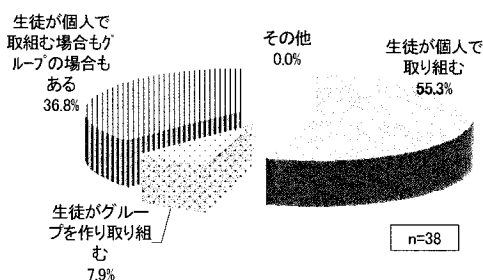
### ② 必修科目や選択科目として実施している場合の取り組み方法〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）のそれぞれの項目の順位には大きな違いは見られなかった。ただ、平成19年調査の結果と平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）を比べると、平成11年調査では1位であった「生徒が個人で取り組む場合もグループの場合もある」という項目が平成19年調査では2位に順位を下げ、代わって平成11年調査では2位であった「生徒が個人で取り組む」という項目が平成19年では順位を1位に上げている。割合で言えば、平成19年調査では「生徒が個人で取り組む場合もグループの場合もある」という項目の割合（全体36.5%、公立全日制学校36.8%）は、平成11年調査での割合（80.4%）と比べ半分以上の減少が見られる。一方、平成19年調査では「生徒が個人で取り組む」という項目の割合（全体50.0%、公立全日制学校55.3%）は、平成11年調査の割合（15.2%）と比べ、3倍以上の増加が見られる。

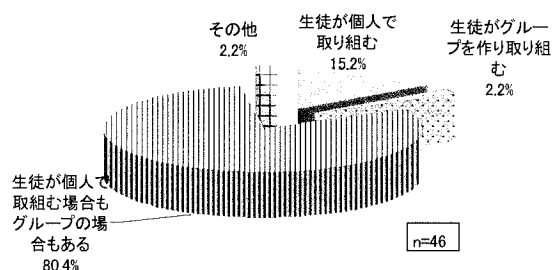
#### ア. 全体



#### イ. 公立全日制学校

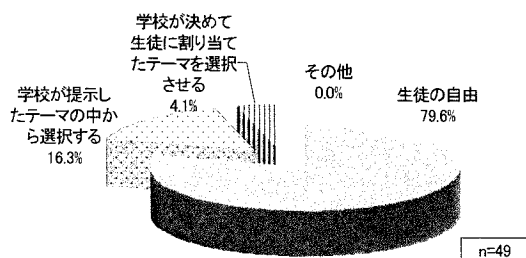


#### ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）

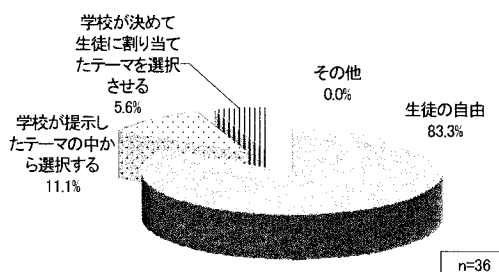


- ③ 必修科目や選択科目として実施している場合の「課題研究」における課題の決定方法  
平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれの項目の順位に大きな違いは見られなかった。

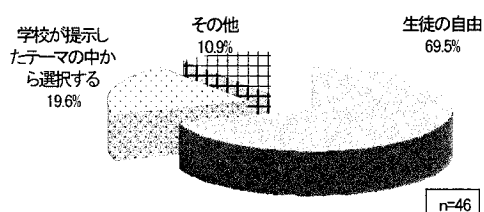
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）

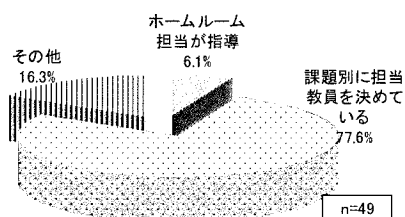


- ④ 「課題研究」の指導体制〈複数回答不可〉

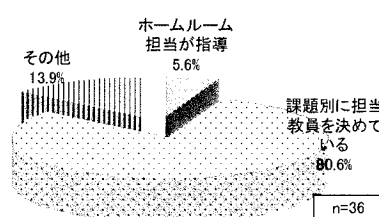
（必修科目又は選択科目として実施している学校について）

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）について、それぞれの項目の順位に大きな違いは見られなかった。ただ、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）では「ホームルーム担当が指導」という項目の割合は0%であったのに対し、平成19年調査では5%以上の割合となっている。

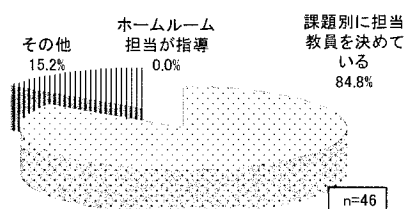
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



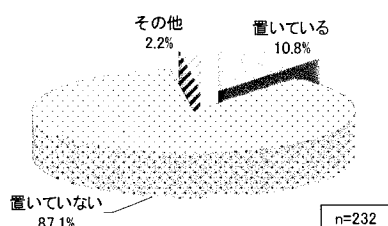
## (7) 総合学科における進路指導

### ① 科目選択や進路についての相談を担当する専任のカウンセラーの配置

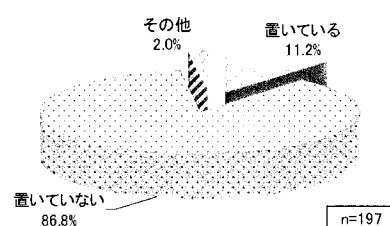
〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）について、それぞれの項目の順位に違いは見られなかった。ただ、平成19年調査の結果と平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）の結果を比べると、平成19年調査で専任のカウンセラーを配置していると回答した学校は、割合において全体で10.8%、公立全日制学校で11.2%であり、平成11年調査の割合（5.6%）から倍増している。

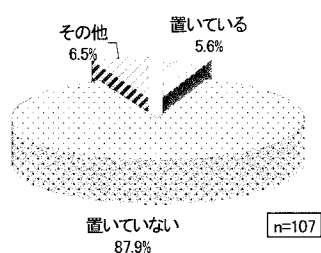
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



### ② 分野（系列）の選択・科目選択についてのガイダンスでの工夫〈自由記述〉

代表的なものとして、

- ・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」等の利用
- ・面談等の個別指導の充実
- ・各生徒のカルテの作成による、教員間で一人ひとりの生徒について話し合いや情報交換をおこなう
- ・説明会等の内容の充実
- ・ガイダンス週間などの実施、全体ガイダンス、個別ガイダンスの繰り返し
- ・授業見学、模擬授業・体験授業の実施、授業の様子のDVDを作成
- ・保護者向け説明会の充実
- ・上級生の体験談、感想等の紹介、上級生による時間割作成の指導、分野（系列）別ごとの卒業生による講話会・座談会・質問会の実施
- ・シラバスの充実、ガイダンスブックの作成
- ・各科目での使用教科書等の展示会
- ・学習ガイダンス課という分掌を設置して、教員間の連携と指導の強化を図る
- ・進路希望に基づいた分野（系列）の選択・科目選択のモデルプランを豊富に用



意

- ・分野（系列）の選択・科目選択についての教員の校内研修の充実
- ・各教科・科目の担当教員と自由に話ができるような環境や機会の保障

などが挙げられる。

③ 「産業社会と人間」の学習後、その成果の進路指導への活用〈自由記述〉

代表的なものとして、

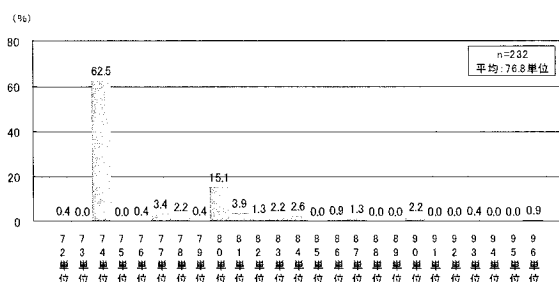
- ・2年次からの進路説明会、講演会、インターンシップ等につなげている。
- ・2年次以降の「総合的な学習の時間」と連結させ、キャリア教育を継続する。
- ・2年次以降の資格等の取得に結びつけている。
- ・2年次以降の進路別の学校訪問、インターンシップにつなげている。
- ・2年次以降のインターンシップや外部講師の講話などを継続して実施している。
- ・2年次以降、ライフプランを使い、保護者や生徒との話し合い等の進路指導を行う。
- ・発展的な引き継ぎが十分でないため、1年次の「産業社会と人間」が生かせない。

などが挙げられ、多くの学校で、「総合的な学習の時間」等を利用して何らかの形でキャリア教育を継続させていることが分かるが、うまくその成果を生かしていない学校も見られる。

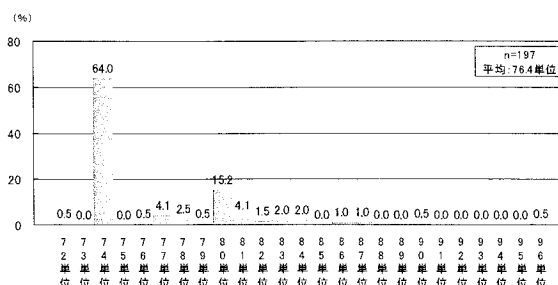
## (8) 総合学科における単位制の活用状況

### ① 卒業に必要な修得単位数

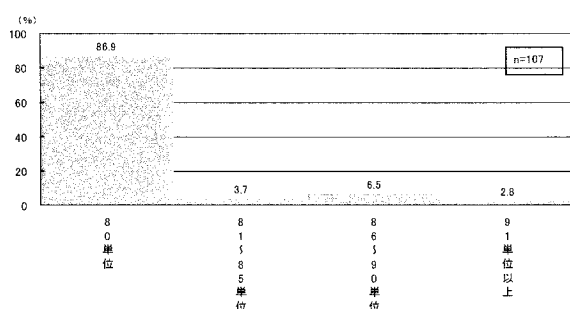
#### ア. 全体



#### イ. 公立全日制学校



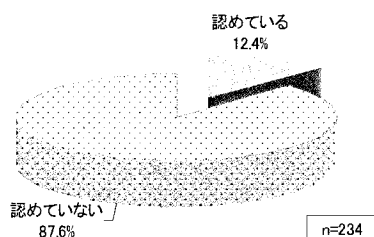
#### ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



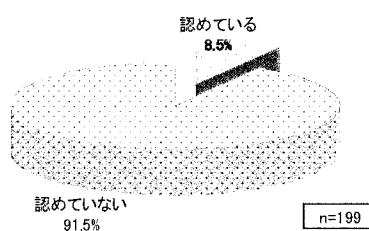
### ② 生徒が時間割を作成する際の、空き時間の設定〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれ大きな違いは見られなかった。

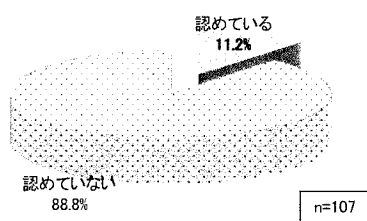
#### ア. 全体



#### イ. 公立全日制学校



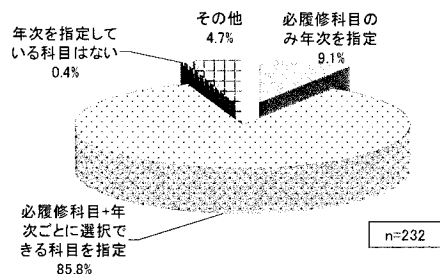
#### ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



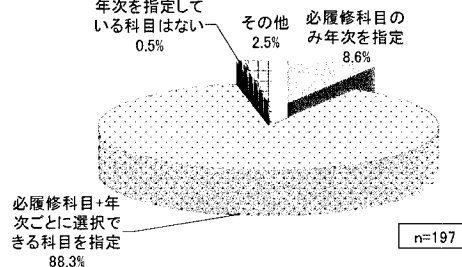
### ③ 履修年次を特定の年次に指定している科目〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれの項目の順位には大きな違いは見られなかった。ただ、平成19年調査では「必修科目のみ年次を指定」という項目の割合（全体9.1%、公立全日制学校8.6%）が、平成11年調査（26.2%）と比べ、三分の一程度に減少している一方、平成19年調査では「必修科目+年次ごとに選択できる科目を指定」という項目の割合（全体85.8%、公立全日制学校88.3%）は、平成11年調査での割合（70.1%）と比べ15%ポイント以上の増加が見られる。

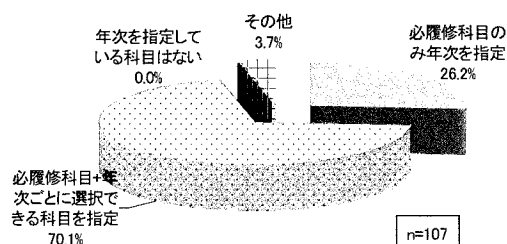
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



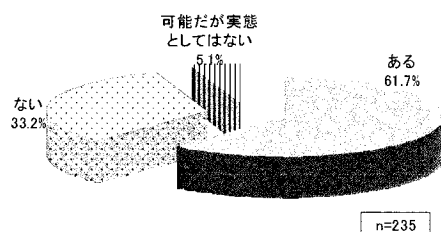
ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



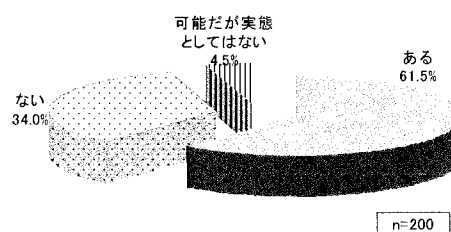
### ④ 複数の年次の生徒と一緒に受ける授業の有無〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、順位においては大きな違いは見られなかった。ただ、平成19年調査では「ある」という項目の割合（全体61.7%、公立全日制学校61.5%）が、平成11年調査（73.0%）と比べ、10%ポイント以上減少している。

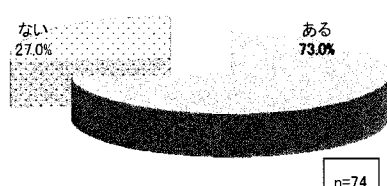
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



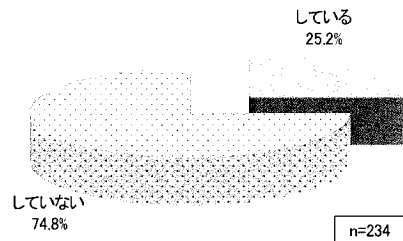
ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



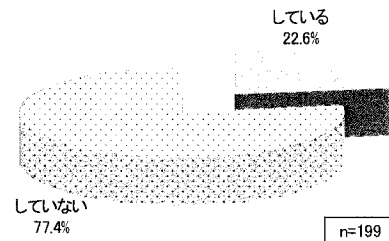
⑤ 学期ごとの単位認定の実施〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれ大きな違いは見られなかった。

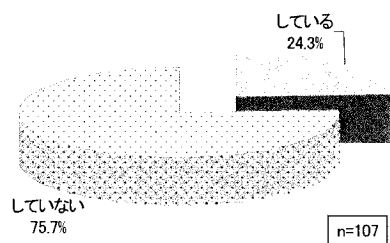
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



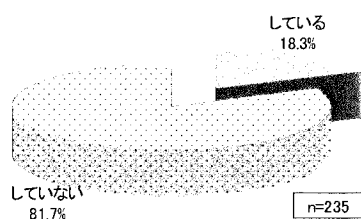
ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



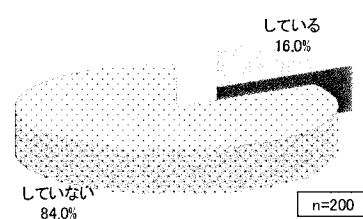
⑥ 学期ごとの卒業認定の実施〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれ大きな違いは見られなかった。

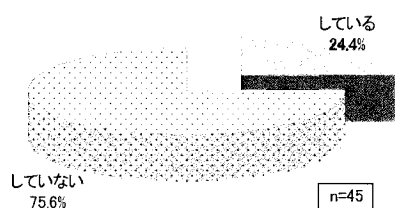
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）

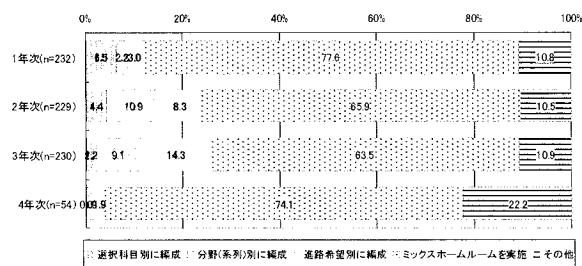


## (9) 総合学科におけるホームルーム

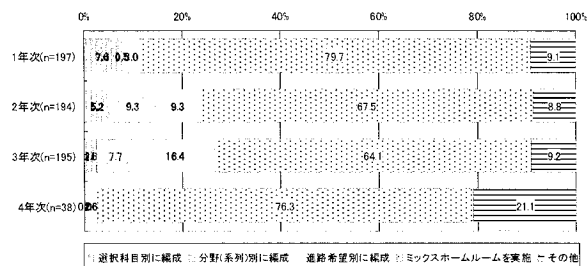
### ① ホームルームの編成方法〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれ大きな違いは見られなかった（1年次から3年次について）。いずれも「ミックスホームルームを実施」という項目が多くを占めており、また、2年次から3年次に移行する際には、「進路希望別に編成」が大きく増えている。

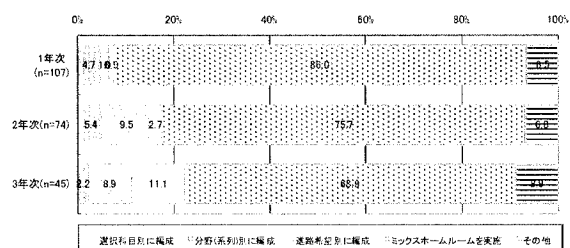
ア. 全体



イ. 公立全日制学校



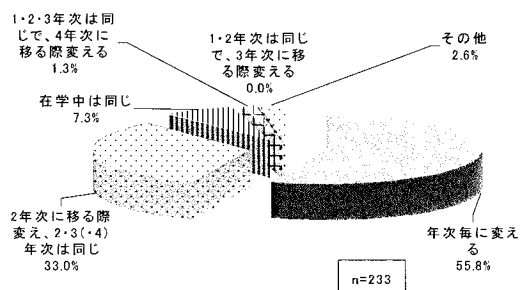
ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



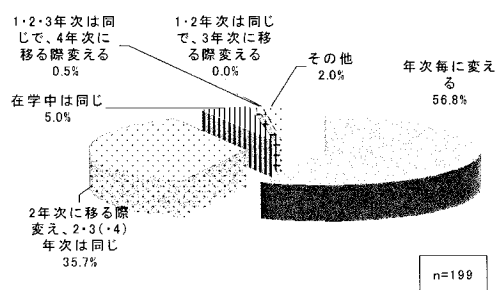
## ② 年次が変わる際のホームルーム編成の変更〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれ大きな違いは見られなかった。いずれも「年次毎に変える」という項目が過半数を占めており、次いで「2年次に移る際変え、2・3（・4）年次は同じ」という項目が多くを占めている。

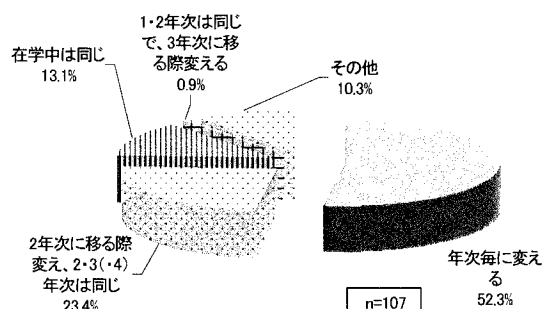
### ア. 全体



### イ. 公立全日制学校



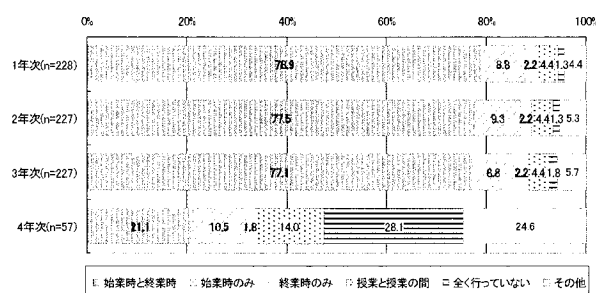
### ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



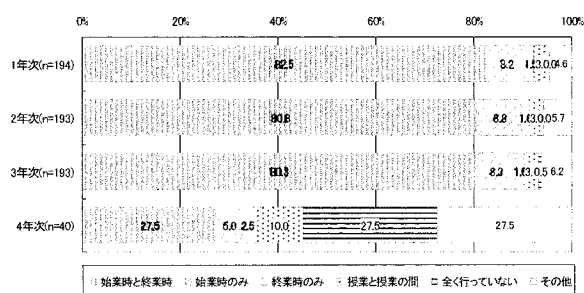
## ③ ショートホームルームの実施状況〈複数回答可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれ大きな違いは見られなかった（1年次から3年次について）。4年次を除けば、いずれも「始業時と終業時」という項目が多数を占めている。

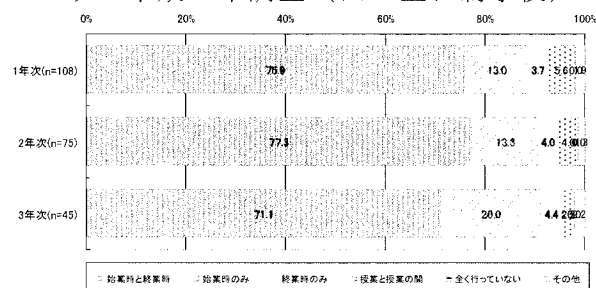
### ア. 全体



### イ. 公立全日制学校



### ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）

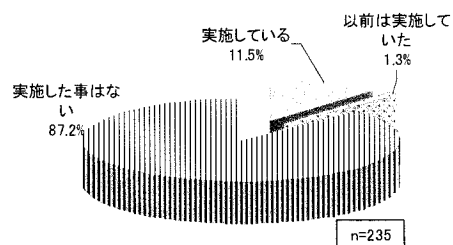


(10) 総合学科における学校間連携

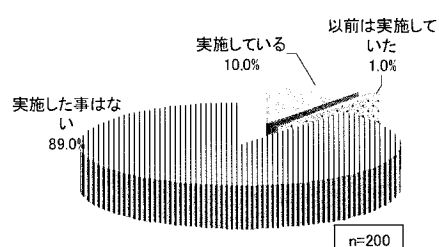
① 学修の単位認定を伴う学校間連携の実施〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）について、いずれも、「実施したことはない」という項目が大多数を占めている。

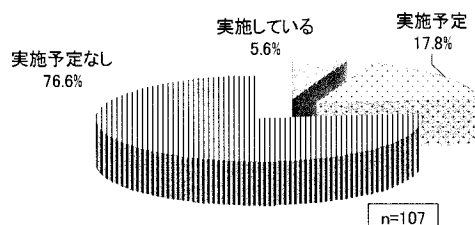
ア．全体



イ．公立全日制学校



ウ．平成11年調査（公立全日制学校）



② 学修の単位認定を伴う学校間連携を廃止した学校の理由〈自由記述〉

代表的なものとして、

- ・ 学校間の距離が離れている。
- ・ 受講希望者の減少
- ・ 受け入れ側の事情の変化

などが挙げられている。

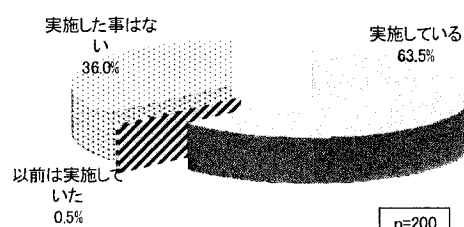
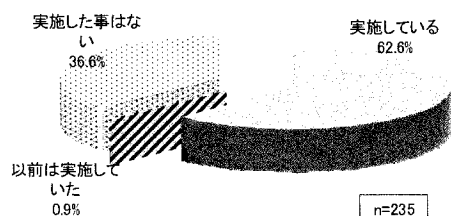
# (11) 総合学科における学校外での学修の単位認定

## ① 学校外での学修の単位認定の実施〈複数回答不可〉

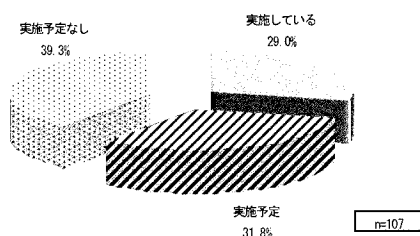
学校外の学修による単位認定を行っている学校は、平成19年調査では大幅に増え（全体62.6%、公立全日制学校63.5%）、平成11年調査（公立全日制学校）の割合（29.0%）の2倍を超えている。

ア. 全体

イ. 公立全日制学校



ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）

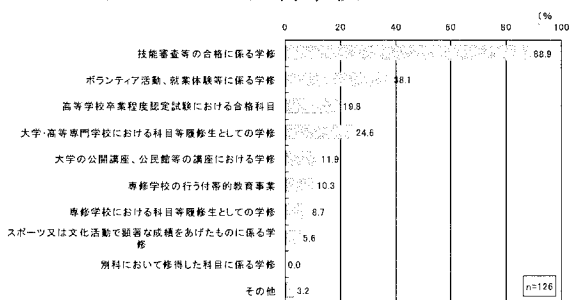
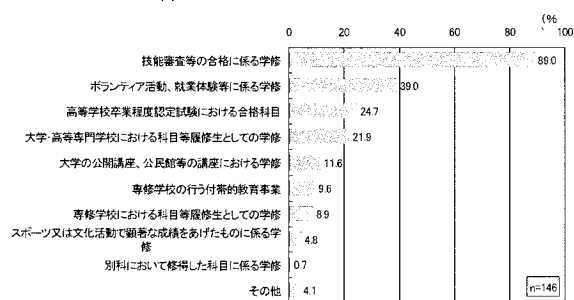


## ② 単位認定の対象としている学修の内容〈複数回答可〉

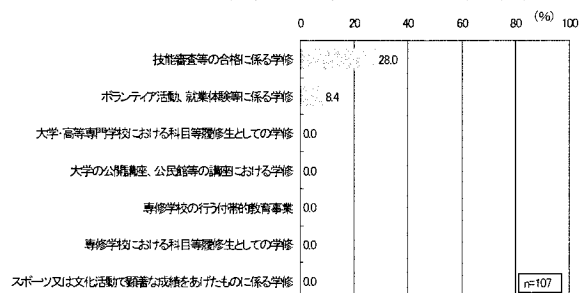
平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、いずれも、「技能審査等の合格に係る学修」「ボランティア活動、就業体験に係る学修」という項目が多数を占めている。また、平成11年調査の結果に比べ、平成19年調査の結果では、色々な学修によって単位認定が行われるようになってきていることがわかる。

ア. 全体

イ. 公立全日制学校



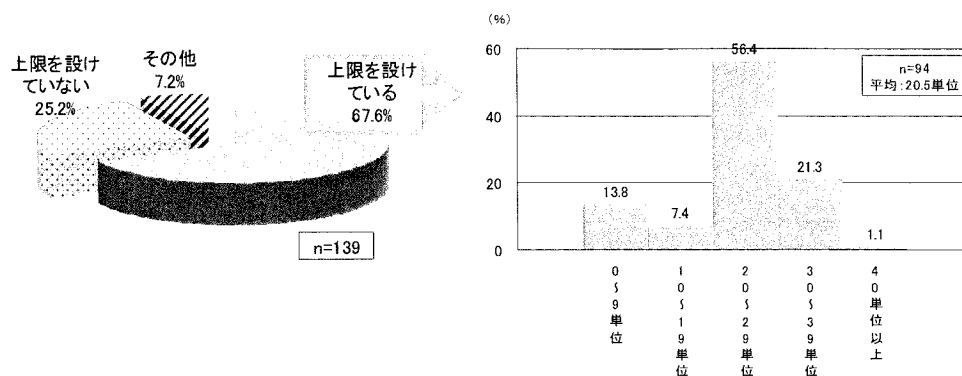
ウ. 平成11年調査（公立全日制学校）



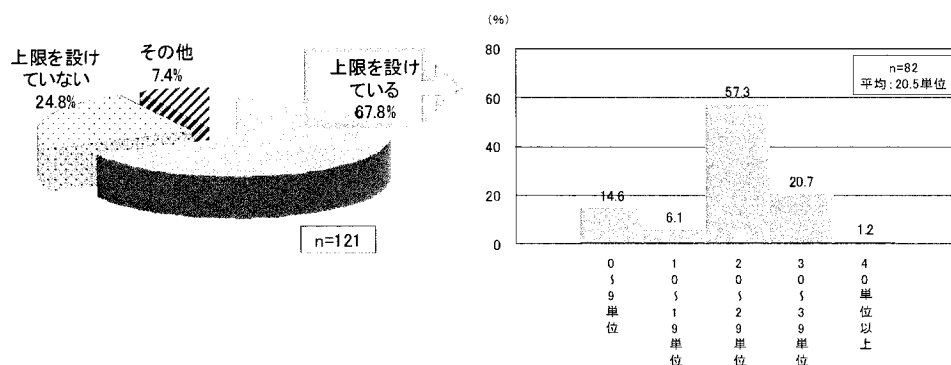


### ③ 単位認定する際の単位数〈複数回答不可〉

ア. 全体

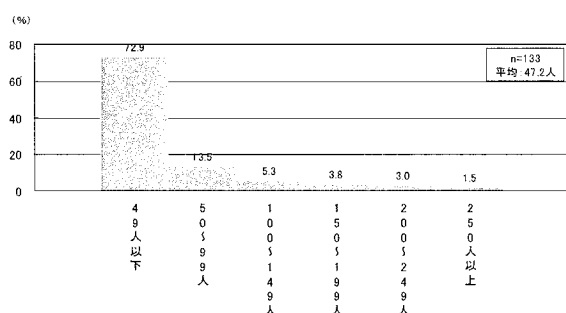


イ. 公立全日制学校

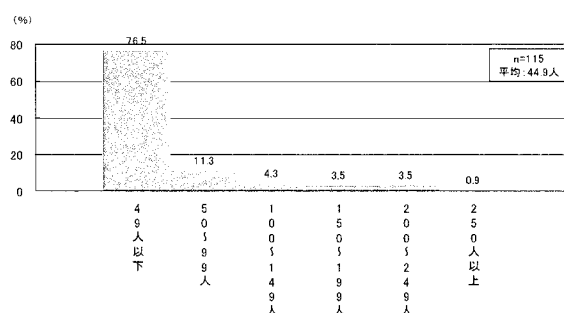


### ④ 学校外での学修の単位認定をした生徒の数

ア. 全体

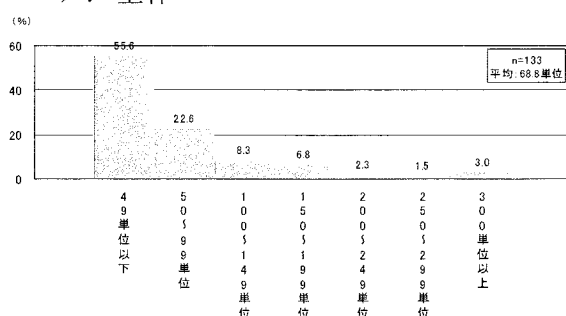


イ. 公立全日制学校

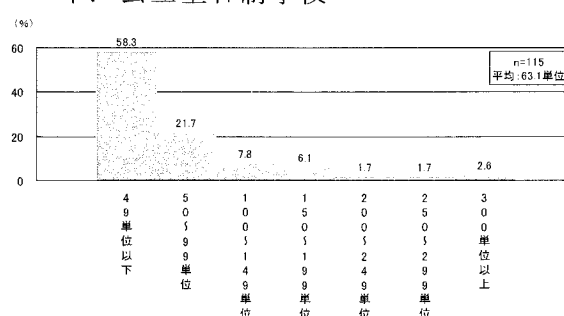


### ⑤ 学校外での学修の単位認定の単位総数

ア. 全体



イ. 公立全日制学校



⑥ 学校外での学修の単位認定を廃止した学校の理由〈自由記述〉

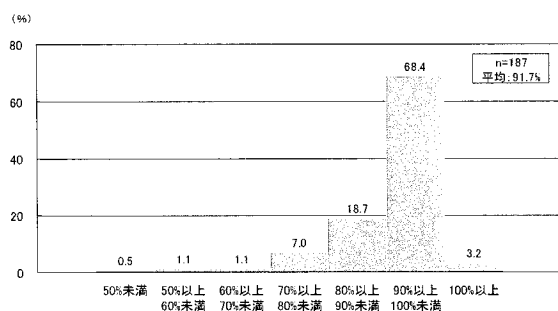
代表的なものとして、

- ・メリットが見いだせなかった。
  - ・高校の授業終了後に、遠い場所での学修をすることが難しかった。
- などが挙げられている。

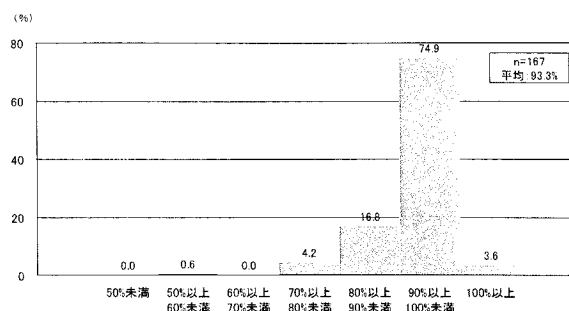
## (12) 総合学科の入学者及び卒業者

### ① 平成15年度入学者の17年度での卒業率

#### ア. 全体

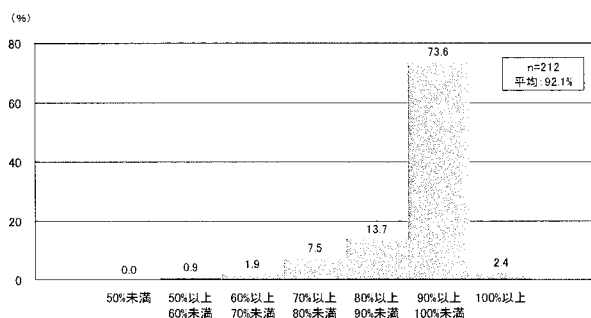


#### イ. 公立全日制学校

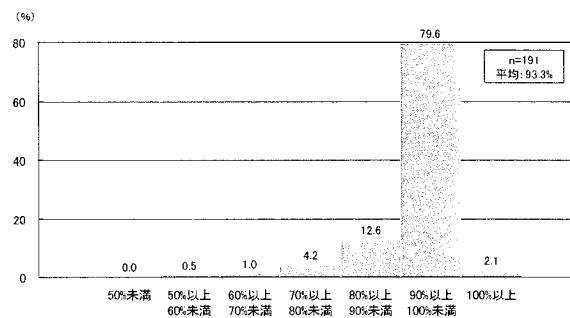


### ② 平成16年度入学者の18年度での卒業率

#### ア. 全体

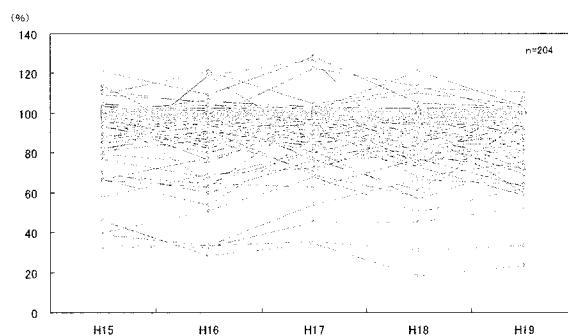


#### イ. 公立全日制学校

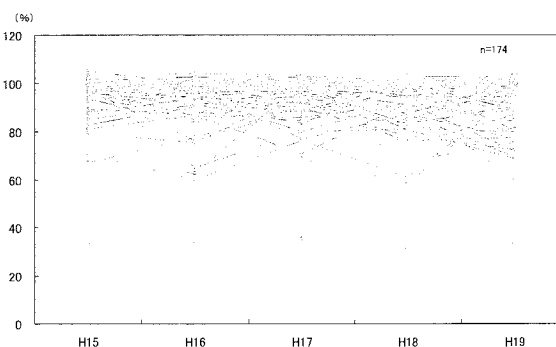


### ③ 定員に対する入学者の割合

#### ア. 全体

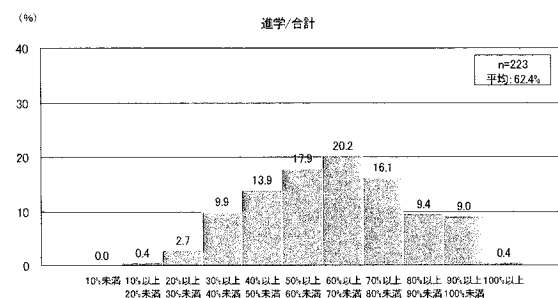


#### イ. 公立全日制学校

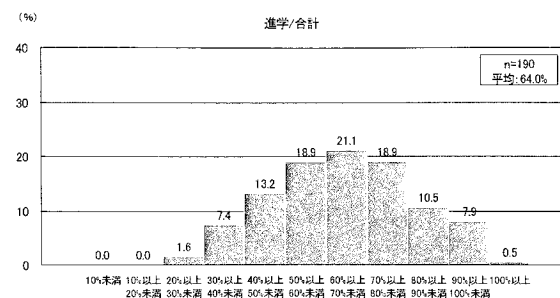


#### ④ 進学者の割合（平成18年度卒業生）

##### ア．全体

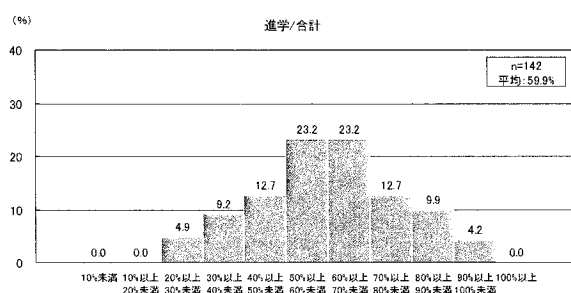


##### イ．公立全日制学校

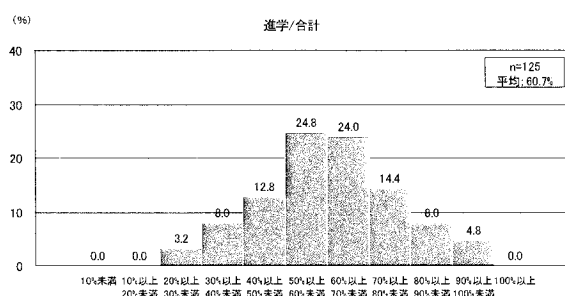


#### ⑤ 進学者の割合（平成13年度卒業生）

##### ア．全体

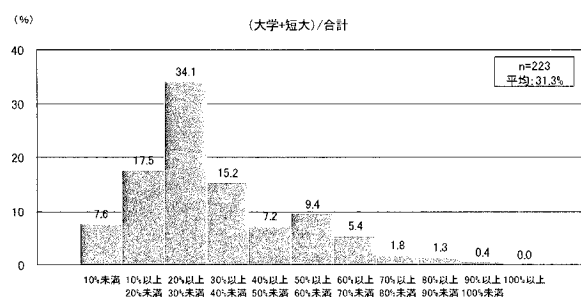


##### イ．公立全日制学校

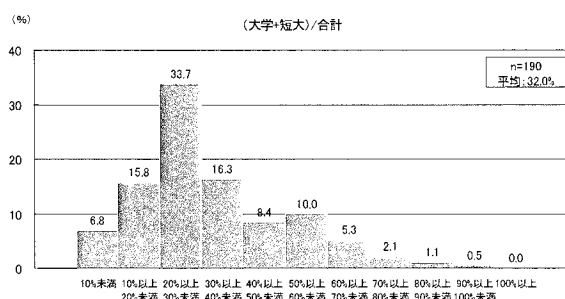


#### ⑥ 大学・短大への進学者の割合（平成18年度卒業生）

##### ア．全体

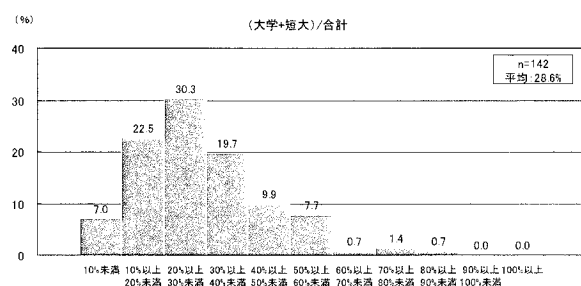


##### イ．公立全日制学校

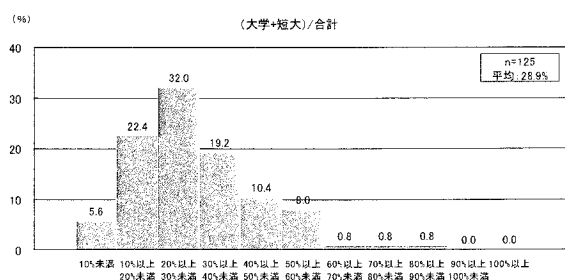


#### ⑦ 大学・短大への進学者の割合（平成13年度卒業生）

##### ア．全体

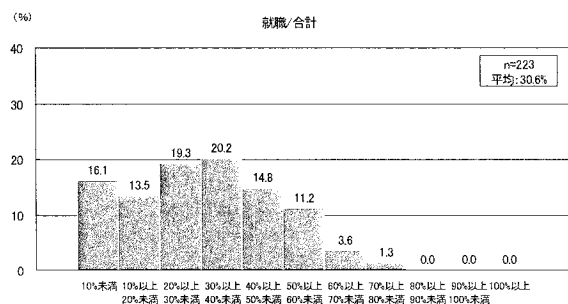


##### イ．公立全日制学校

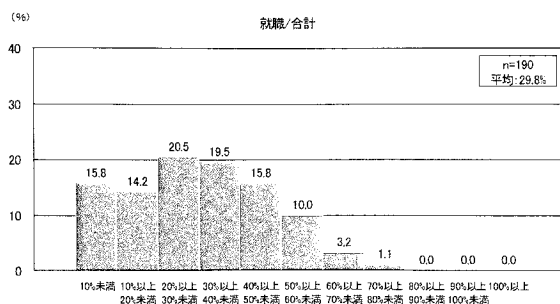


## ⑧ 就職者の割合（平成18年度卒業生）

### ア．全体

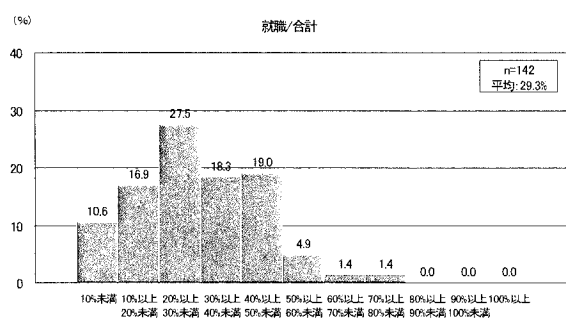


### イ．公立全日制学校

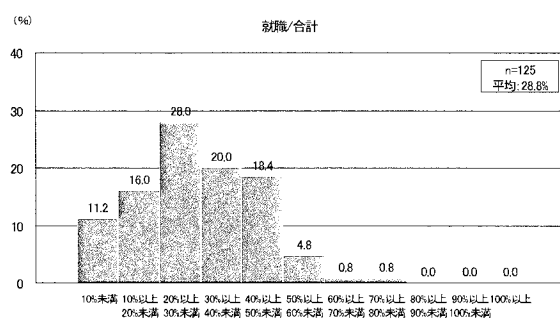


## ⑨ 就職者の割合（平成13年度卒業生）

### ア．全体



### イ．公立全日制学校



### (13) 総合学科の成果と課題

#### ① 教育課程についての成果と課題〈自由記述〉

##### ア. 成果

代表的なものとして、

- ・ 目的意識をしっかりとって授業に参加する生徒が増えた。学習意欲が向上した。
- ・ 生徒一人ひとりの興味関心に応じたきめ細やかな指導が実施できた。
- ・ 教員数が増加して、多様な選択科目が設置できた。
- ・ 地域の人材の活用が充実した。
- ・ 幅広い生徒の学力や進路希望に応えることができるようになった。
- ・ 学校のビジョンや教育目標を教育課程に反映できる。
- ・ キャリア教育が充実した。適切に勤労観や職業観が養われた。
- ・ 進路希望の実現状況が向上した。
- ・ 生徒の学力に応じて、多くの基礎科目等を充実させることができた。

などが挙げられている。

##### イ. 課題

代表的なものとして、

- ・ 普通科から学科転換したため、専門的な科目の教員が不足している。
- ・ 教員一人あたりの担当する科目数が増大し、授業の準備や評価の実施等にも限界がきている。
- ・ 教育課程の管理が煩雑な作業を増大させている。
- ・ 時間講師、社会人講師等の制約のため、時間割編成が硬直化する。
- ・ 選択科目の枠を設定したことで、不本意な科目選択を余儀なくされる生徒もいる。
- ・ 生徒数の減少に伴う教員数の削減で、選択科目の精選が急務になっている。
- ・ 教員や開講授業数の関係で、生徒の興味や関心が必ずしも生かせていない。不本意な科目選択を余儀なくされる生徒もいる。
- ・ 教員や開講授業数の関係で、多様な学力を持つ生徒に対応するだけのカリキュラム編成が困難。
- ・ 予算や学校の立地場所によって、講師の確保が難しい。
- ・ 科目選択の際、その選択基準となる進路希望の指導を短期間で行わざる得ないので、十分な指導が難しい。「産業社会と人間」の授業も十分になされないうちに科目選択をしなければならない。
- ・ 系列を超えた自由選択についての指導等の工夫。
- ・ 小規模校の総合学科は難しい。
- ・ 普通科目と専門科目のバランスを図ることが難しい。中途半端になりかねない。
- ・ 普通科でもない、専門学科でもない中途半端さが進路にも影響を与えている。
- ・ 全科目の基礎基本についてはバランス良く学ばせたいが、実際のところはかなり偏りが生じている。
- ・ 異学年混合授業が多いと、年度ごとの教育課程に変更等が難しい。
- ・ 系列が生徒や地域の実態と合わなくなりつつある。
- ・ 生徒の選択の希望によって、次年度のカリキュラムが毎年変わる。その為、生徒の選択が決定するまで教員の時間数や受け持ち科目が決められない。非常勤職員等への対応も遅れる。
- ・ 生徒に安易な科目選択をさせない工夫が求められる。

- ・進路希望を途中で変更した生徒に、科目選択の面で柔軟な対応ができていない。
- ・系列の強化、開講授業数の減少で、総合学科らしさがだんだんなくなってくる。などが挙げられている。

## ② 学校運営についての成果と課題〈自由記述〉

### ア. 成果

代表的なものとして、

- ・生徒指導上の問題が減少した。生徒が落ち着いた。
- ・各分掌の仕事内容がだんだん整理されてきて、円滑に運営されるようになった。
- ・教員間のコミュニケーションの向上、情報の共有、連携がスムーズになってきた。
- ・地域からの評価が改善した。
- ・習熟度別授業が実現した。
- ・教員の意識が変わった。
- ・学校管理システムの導入により、成績処理、および出欠管理が円滑になった。
- ・学校の広報活動等が積極的になった。
- ・学校運営組織が確立した。
- ・以前より入学希望の生徒が増えた。
- ・クラブ活動等も充実した。

などが挙げられている。

### イ. 課題

代表的なものとして、

- ・学校評価の改善と充実。
- ・講師や施設・設備の確保・管理に難しさが残る。
- ・生徒減等による教員定数減のため、教育課程上の制約が生じている。
- ・教員の多忙さが解消できない。
- ・学校組織のスリム化が求められる。
- ・総合学科としての広報活動の充実。
- ・今後の総合学科の方向性が見えてこない。現状では総合学科といっても多種多様である。将来像が描けない。
- ・専門性の高い講師の確保が難しい。
- ・個々の生徒の能力や興味・関心、進路希望等に、本当の意味で応じた指導を実現するための指導体制の確立。
- ・生徒同士の連帯感や仲間意識をどう育てるか。
- ・総合学科設置から何年か経つと、設置当時の教員も相当数異動し、設置時の志を引き継ぐのが難しくなった。
- ・放課後の会議がかなり増え、生徒とのコミュニケーション、部活動、授業準備を圧迫する。

などが挙げられている。

## ③ 各教科・科目等の授業についての成果と課題〈自由記述〉

### ア. 成果

代表的なものとして、

- ・小人数授業、T T 授業等、多様な授業形態が実施されるようになった。

- ・習熟度別授業等、生徒の学力に応じた授業が可能になった。
- ・教員の得意分野を生かせる科目を開設できるようになった。
- ・シラバスの作成により、授業に対する教員の意識も高まった。
- ・資格取得を目指す授業が増えた。
- ・生徒は自分が選択した科目なので、積極的に授業に取り組むようになった。

などが挙げられている。

#### イ．課題

代表的なものとして、

- ・科目の増大を反映して、教員一人ひとりの担当する授業時間数が増大した。
- ・科目の増大を反映して、教員一人ひとりの担当する科目がずいぶん多くなり、教材研究、授業準備、評価等といった一連の教科指導にかかる労力が格段に増えた。
- ・選択科目が多いため、教員が出張等で不在の場合に時間割変更等が難しく、自習が増える。
- ・自学時間・空き時間の過ごし方について検討する必要がある。
- ・専門学科ほどの専門性はないので、就職の際、中途半端になる。
- ・習熟度別クラスを行うと、クラスごとに進度等が異なり、クラスの入替えや再編が実質的にはできなくなる。
- ・学校設定科目等では、担当者任せになり、教科担当者間でも十分に検討がなされていない。
- ・基礎的な科目さえ1年次で履修すれば、選択の仕方により、卒業まで履修する科目のない教科も出てくる。
- ・専門科目の単位数が少なく、専門性の深化には課題がある。
- ・特色ある選択教科をつくっても、教員の異動でうまく引き継がれない。
- ・専門科目も十分に深められず、普通教科としての学力も不十分なまま卒業する生徒が少なくない。
- ・教員数や設備の問題で、生徒の希望する科目が開設できない場合も少なくない。
- ・苦手な科目等をなるべく避けて履修する生徒が多い。

などが挙げられている。

#### ④ 生徒指導についての成果と課題〈自由記述〉

##### ア．成果

代表的なものとして、

- ・個々の生徒に細やかに対応するようになり、指導の効果も上がっている。
- ・不本意入学が減少し、教育活動全般にわたって活気がでてきた。
- ・インターンシップや社会人講師等の授業を通じて、TPOを意識した行動ができるようになってきた。
- ・目的意識を持って取り組む生徒が増え、おちついた学校生活を送っている。
- ・生徒の自主性が高まり、学校行事や生徒会行事等も充実してきた。
- ・生徒一人ひとりが各自の時間割に従って移動することが多く、人間関係が築きにくい生徒でも大きなストレス無く過ごしている面もある。
- ・ホームルーム単位の授業が少ない（無い）ため、学校行事や生徒会行事に力を入れて指導をするようになった。

などが挙げられている。



イ．課題

代表的なものとして、

- ・教育相談的な観点に立った生徒指導の充実。
- ・ホームルーム単位の授業が少なくなり、クラス経営に労力を傾ける必要がある。
- ・クラスに対する意識が弱く、集団の中での行動、協調性等の指導の充実を要する。
- ・生徒の移動が多く、生徒の所在がつかみにくい。リアルタイムで生徒の出席状況を把握しにくい。
- ・単位制のため、単位修得を安易にあきらめてしまう生徒がいる。

などが挙げられている。

⑤ 進路指導についての成果と課題〈自由記述〉

ア．成果

代表的なものをまとめると、

- ・「産業社会と人間」やその後のインターンシップ等を通して勤労観や職業観が育成されている。
- ・資格取得者が増え、就職試験にも生かせることが多い。
- ・進路目標を早期に設定できる生徒が増えた。
- ・進学、就職ともに進路希望を実現する生徒が増えた。

などが挙げられている。

イ．課題

代表的なものをまとめると、

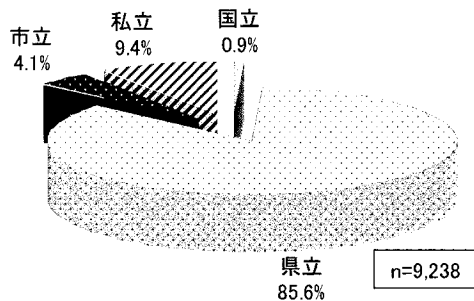
- ・多様な進路の生徒がいるので、指導体制が複雑になる。
- ・進学と就職の指導のバランスをうまくとる必要が生じている。
- ・興味や関心をそのまま進学や就職に結びつけることがきちんとできていない。
- ・興味や関心をそのまま進学や就職に結びつければそれで良いかどうかは疑問がある。
- ・中途半端な科目選択になり、進路に必要な科目を履修していない場合もある。
- ・選択科目の評定にばらつきが多く、推薦会議の際に問題になる。
- ・専門学科や普通科とくらべ、特徴が薄まってしまい、就職にも進学にも中途半端になることがあり、進路先へのアピールが弱い。
- ・教員のガイダンス能力が多様化する進路に対応できていない。

などが挙げられている。

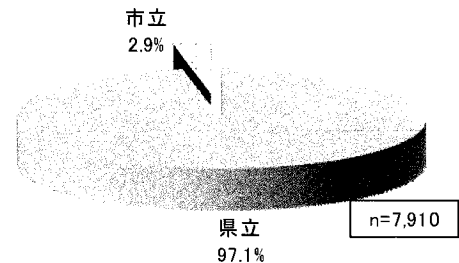
### 3. 生徒調査結果（最終年次生対象）

#### (1) 回答者について

##### ① 回答者の学校の設置者（全体）

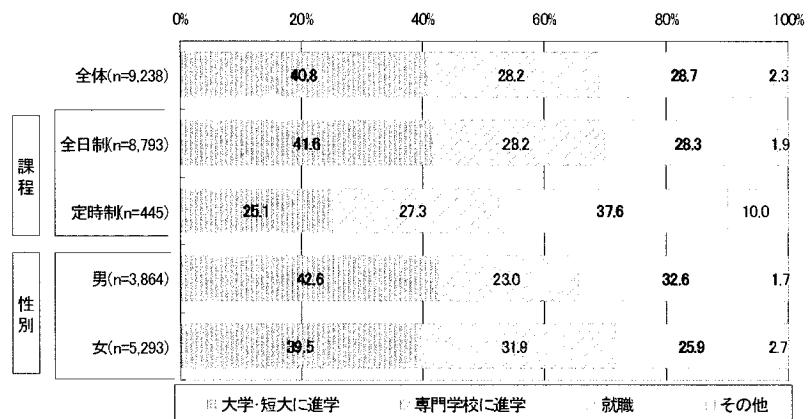


##### ② 回答者の学校の設置者（公立全日制学校）

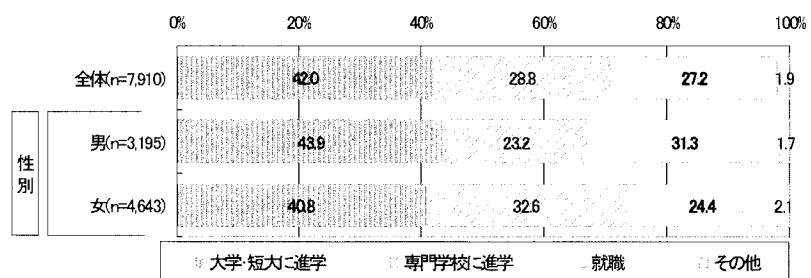


#### ③ 進路希望〈複数回答不可〉

##### ア. 全体

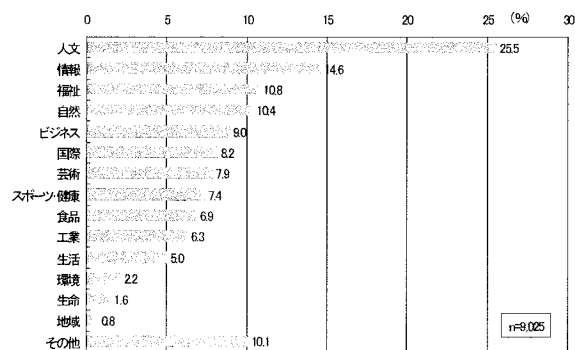


##### イ. 公立全日制学校

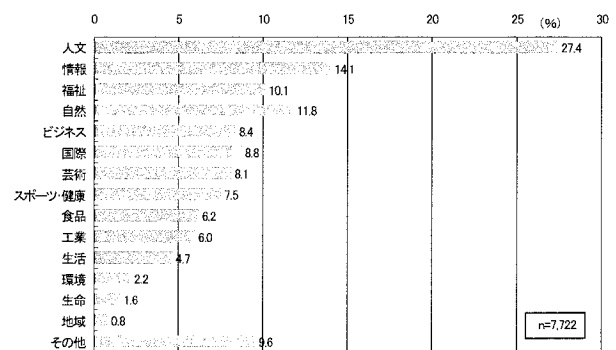


#### ④ 主に選択している科目（系列）分野〈複数回答可〉

##### ア. 全体



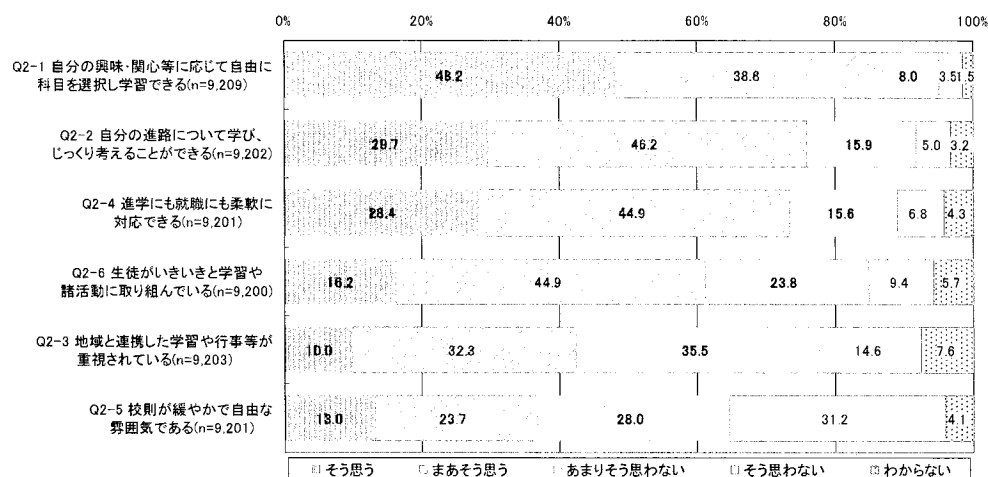
##### イ. 公立全日制学校



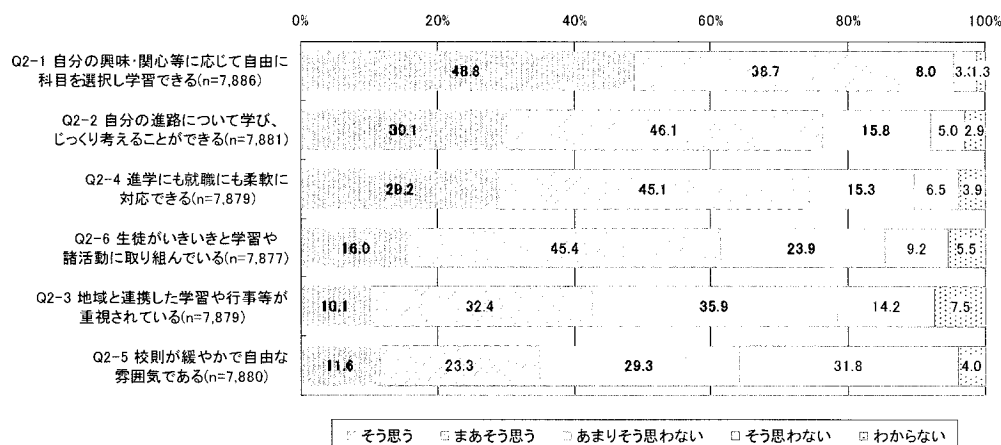
## (2) 総合学科の特色（複数回答不可）

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれ大きな違いは見られなかった。

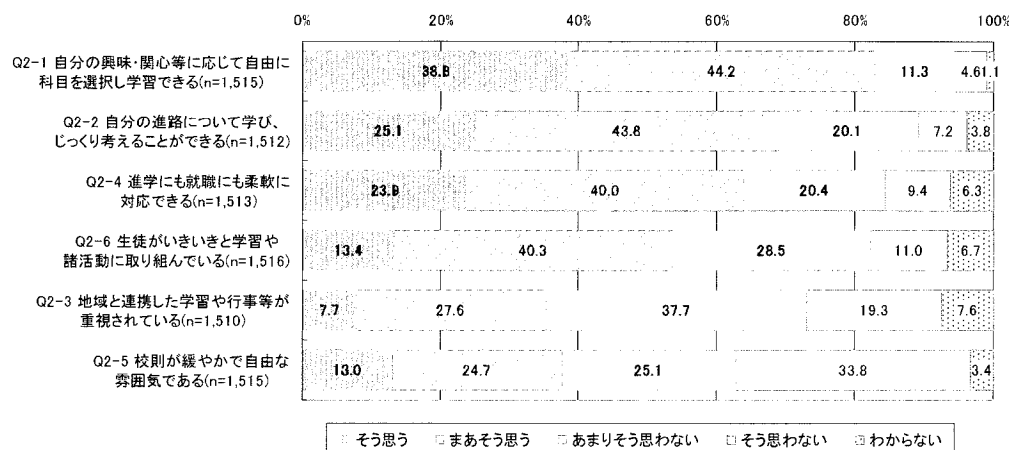
### ア 全体



### イ 公立全日制学校



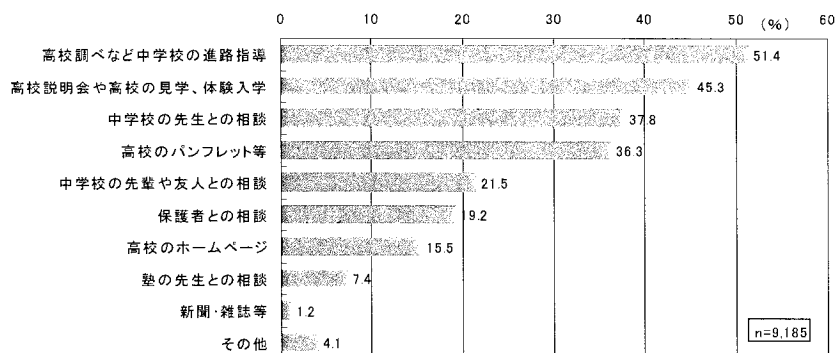
### ウ 平成11年調査（公立全日制学校）



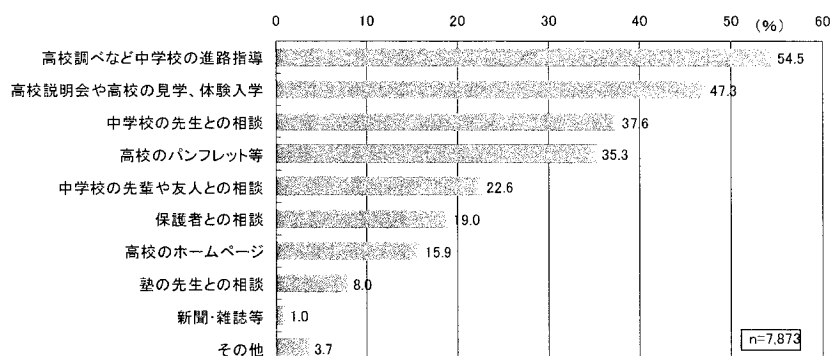
### (3) 中学生の時の、総合学科についての情報入手先〈複数回答可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）のそれぞれの項目の順位には違いは見られなかった。ただ、平成19年調査の結果と平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）を比べると、平成19年調査では「高校のパフレット等」という項目の割合（全体36.3%、公立全日制学校35.3%）について、平成11年調査での割合（45.7%）から10%ポイント程度の減少が見られる。また、平成19年調査では「高校のホームページ」という項目の割合が15%程度であったが、平成11年調査ではほとんど見られない（0.6%）。

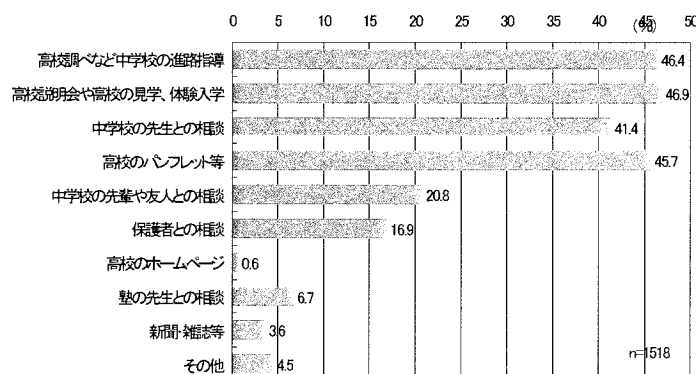
#### ア 全体



#### イ 公立全日制学校



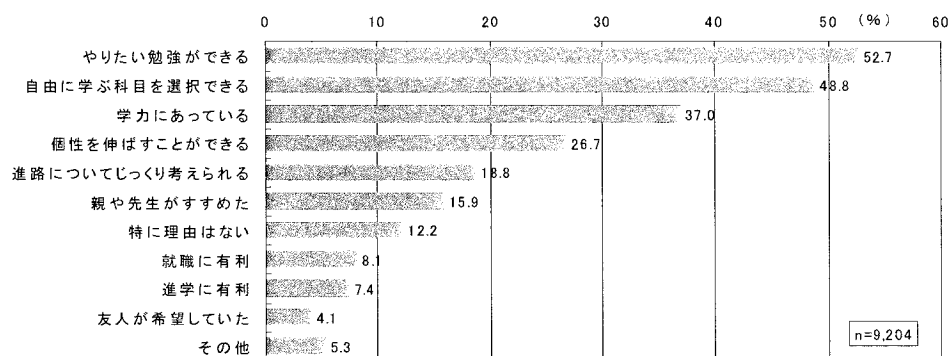
#### ウ 平成11年調査（公立全日制学校）



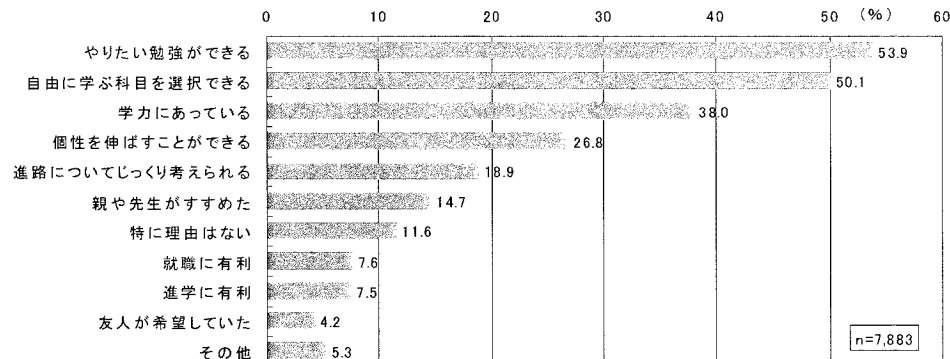
#### (4) 総合学科を選んだ理由〈複数回答可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）のそれぞれの項目の順位には違いは見られなかった。ただ、平成19年調査の結果を平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）と比べると、平成11年調査では1位であった「自由に学ぶ科目を選択できる」という項目（66.3%）は、平成19年調査では2位（全体48.8%、公立全日制学校50.1%）に順位を下げ、その割合も15%ポイント以上の減少が見られる。また「やりたい勉強ができる」という項目についても、平成11年調査の割合（64.4%）と比べ、平成19年調査の割合（全体52.7%、公立全日制学校53.9%）では10%ポイント以上の減少が見られる。

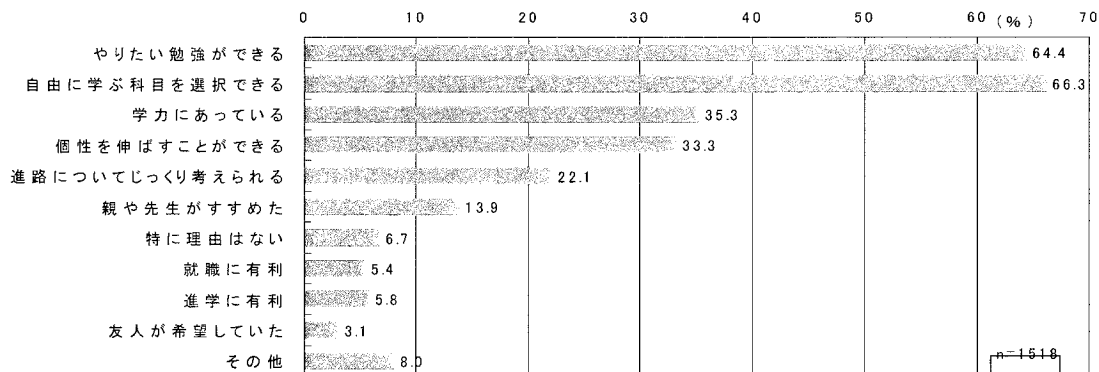
##### ア 全体



##### イ 公立全日制学校



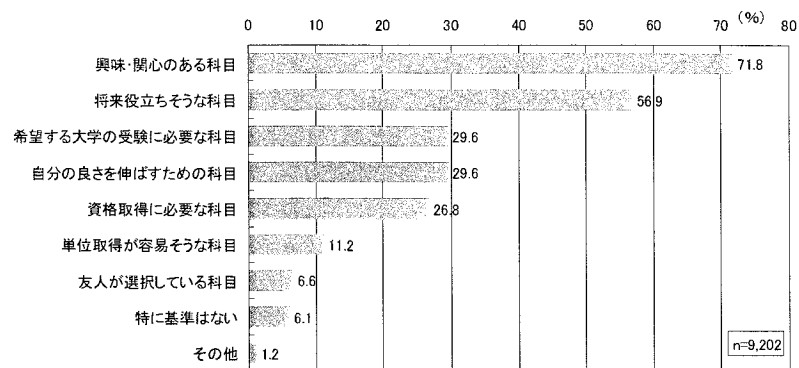
##### ウ 平成11年調査（公立全日制学校）



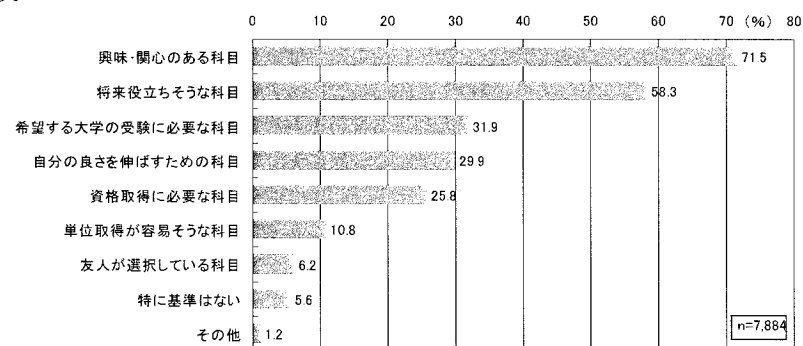
# (5) 自分の選択する科目を決める基準〈複数回答可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、それぞれの項目の順位に大きな違いは見られなかった。

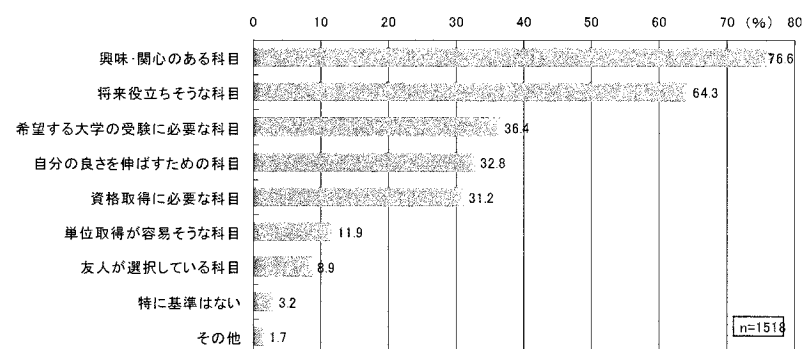
## ア 全体



## イ 公立全日制学校



## ウ 平成11年調査（公立全日制学校）

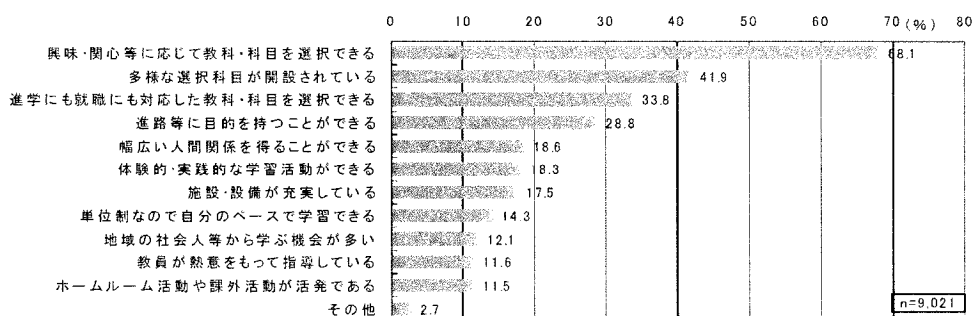


## (6) 総合学科について満足している点〈複数回答可〉

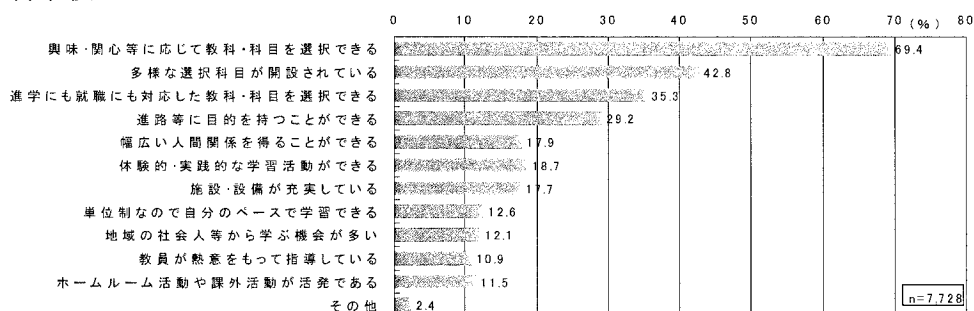
平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）では、1位の「興味・関心等に応じて教科・科目を選択できる」、2位の「多様な選択科目が開設されている」、3位の「進路にも就職にも対応した教科・科目を選択できる」、4位の「進路等に目的を持つことができる」といった項目については順位は同じである。特に1位の「興味・関心等に応じて教科・科目を選択できる」は他の項目に比べ高く評価されている。5位以下の項目についても、「幅広い人間関係を得ることができる」と「体験的・実践的な学習活動ができる」、および「教員が熱意をもって指導している」と「ホームルーム活動や課外活動が活発である」といった項目で順位の入れ替わりが見られるものの、全体としての傾向は変わらない。

平成19年調査の結果と平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）を比べると、1位から3位までの順位は変わらない。平成11年調査においても1位の「興味・関心等に応じて教科・科目を選択できる」は他の項目に比べ高く評価されている。ただ、平成11年調査では4位（24.8%）であった「施設・設備が充実している」という項目が、平成19年調査では7位（全体17.5%、公立全日制学校17.7%）に低下している。

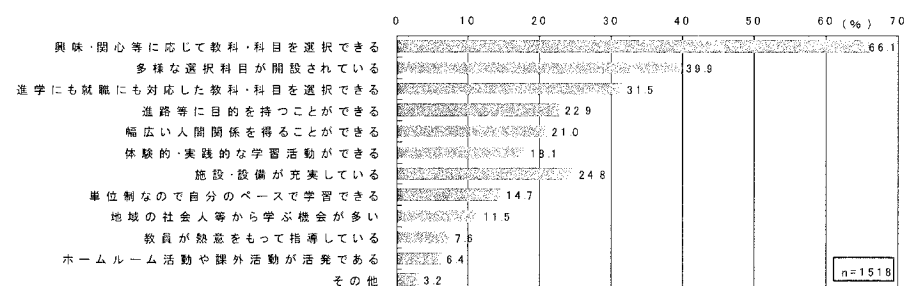
### ア 全体



### イ 公立全日制学校



### ウ 平成11年調査（公立全日制学校）

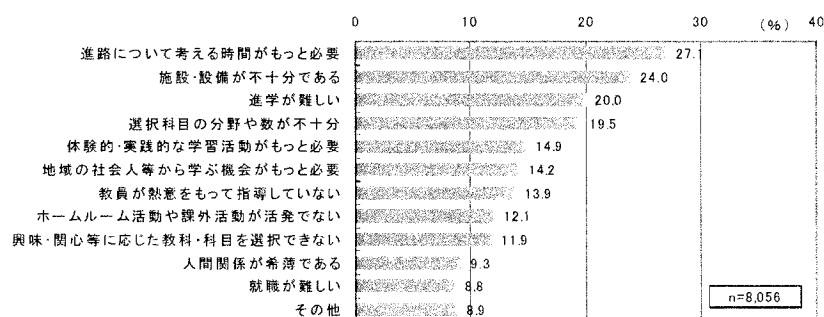


## (7) 総合学科について不満足な点〈複数回答可〉

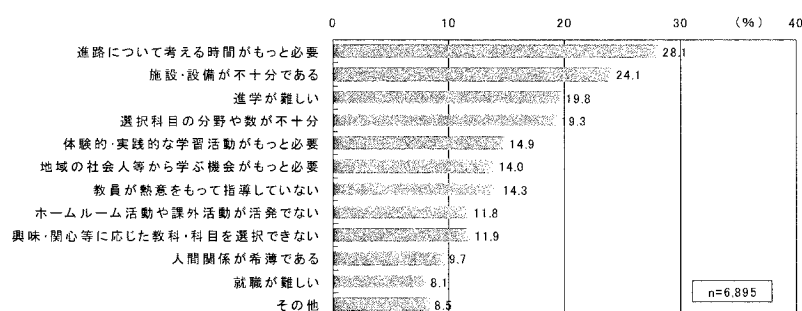
平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）では、1位の「進路について考える時間がもっと必要」、2位の「施設・設備が不十分である」、3位の「進学が難しい」、4位の「科目選択の分野や数が不十分」、5位の「体験的・実践的な学習活動がもっと必要」といった項目については順位は同じである。6位以下の項目については、「地域の社会人等から学ぶ機会がもっと必要」と「教員が熱意を持って指導していない」、および「ホームルーム活動や課外活動が活発でない」と「興味・関心等に応じた教科・科目を選択できない」といった項目で順位の入替わりが見られるものの、全体としての傾向は変わらない。

平成19年調査の結果と平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）を比べると、「進路について考える時間がもっと必要」が1位であることは変わらないが、平成11年調査で4位（16.4%）だった「施設・設備が不十分である」は平成19年調査では2位（全体24.0%、公立全日制学校24.1%）に、7位（12.2%）であった「体験的・実践的な学習活動がもっと必要」は5位（全体14.9%、公立全日制学校14.9%）にそれぞれ上昇している。また平成11年調査で2位（21.3%）であった「科目選択の分野や数が不十分」は平成19年調査では4位（全体19.5%、公立全日制学校19.3%）に低下している。

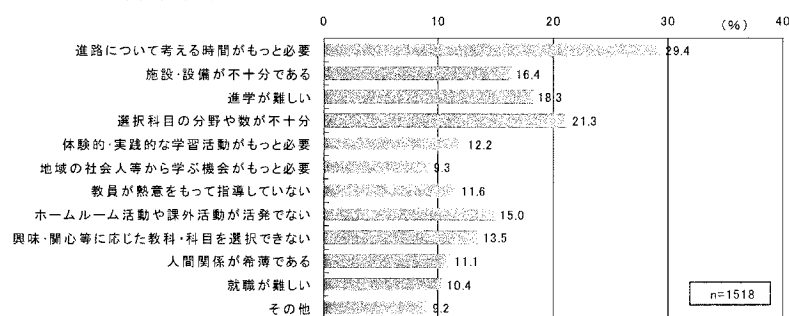
### ア 全体



### イ 公立全日制学校



### ウ 平成11年調査（公立全日制学校）

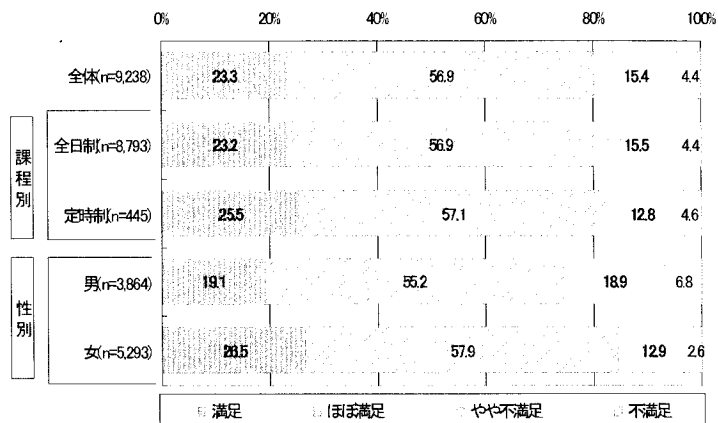




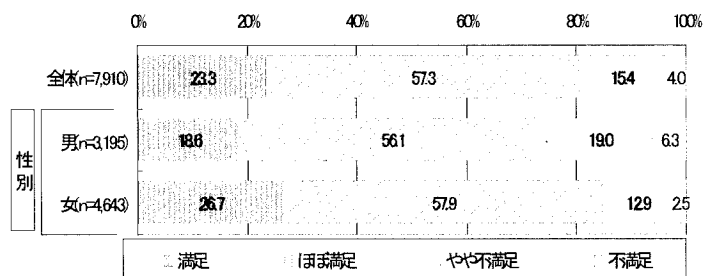
(8) 総合学科で学ぶことへの満足度〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）、平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）について、いずれにおいても「満足」「ほぼ満足」といった肯定的な回答が、8割前後であり、概ね高い結果となっている。

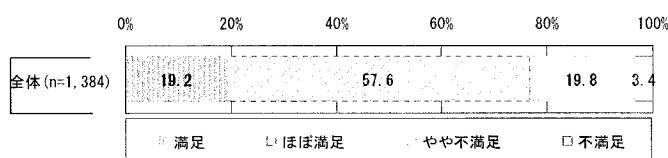
ア 全体



イ 公立全日制学校



ウ 平成11年調査（公立全日制学校）

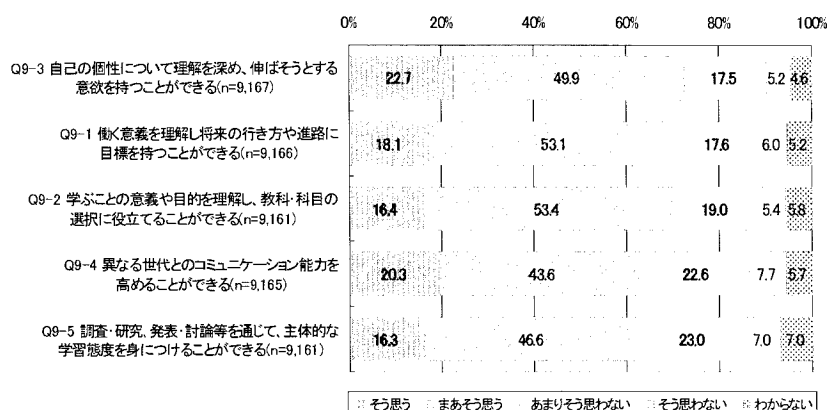


# (9) 総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」を学ぶ意義〈複数回答不可〉

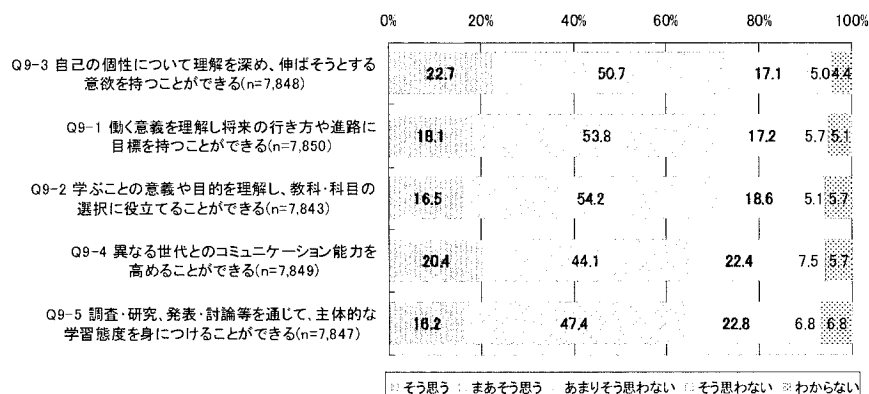
平成19年調査の全体の結果（ア）と公立全日制学校の結果（イ）について、いずれの項目においても「そう思う」「まあそう思う」といった肯定的な回答が7割前後であり、概ね高い結果となっている。

また、平成19年調査の結果と平成11年調査（公立全日制学校）の結果（ウ）を比べると、いずれの項目においても、平成19年調査の結果の方が肯定的回答の割合が高くなっている。

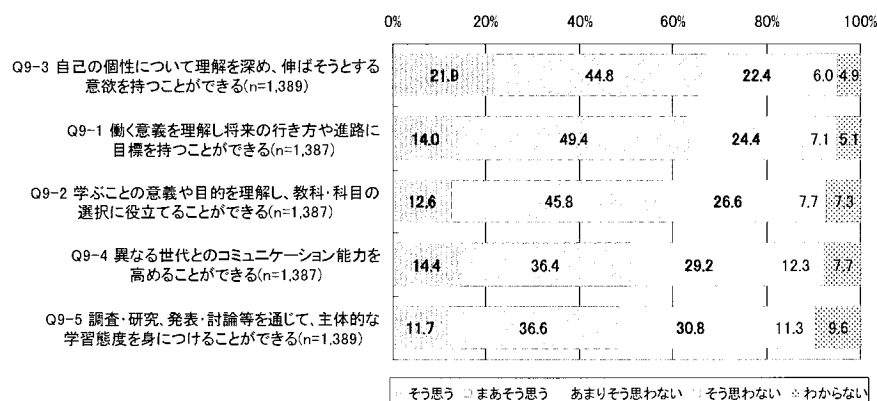
## ア 全体



## イ 公立全日制学校



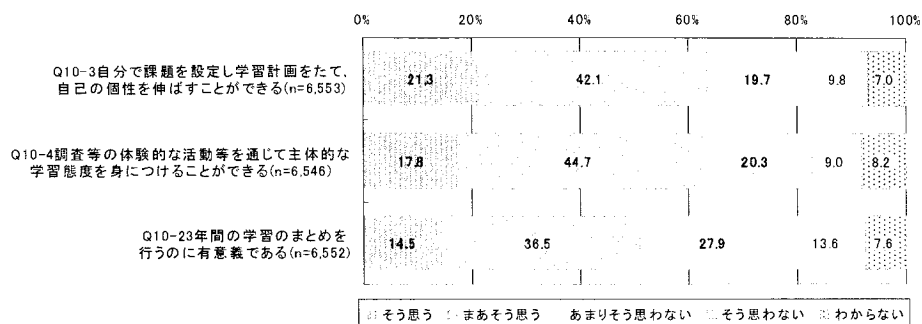
## ウ 平成11年調査（公立全日制学校）



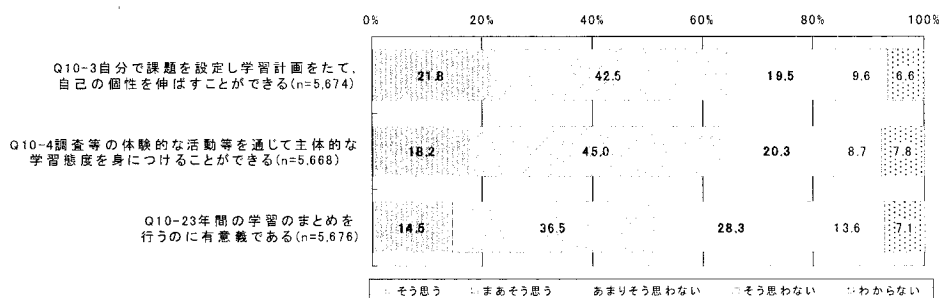
(10) 「課題研究」を行う意義 (「課題研究」の履修者のみ回答)〈複数回答不可〉

平成19年調査の全体の結果(ア)と公立全日制学校の結果(イ)、平成11年調査(公立全日制学校)の結果(ウ)について、いずれの項目においても「そう思う」「まあそう思う」といった肯定的な回答が5割以上となっている。

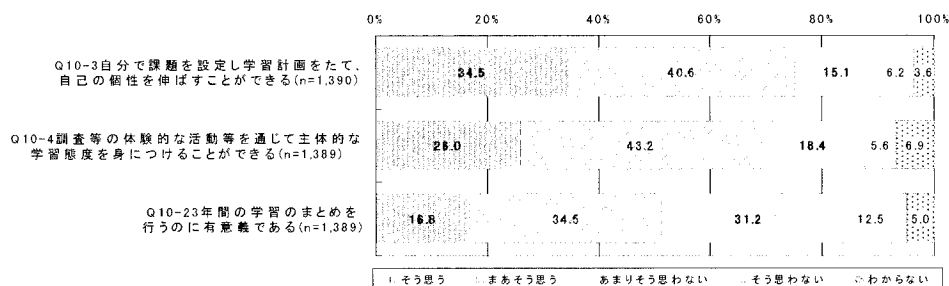
ア 全体



イ 公立全日制学校



ウ 平成11年調査(公立全日制学校)



【注】

(1)総合学科の今後の在り方に関する調査研究協力者会議『総合学科の今後の在り方について～個性と想像の時代に応える総合学科の充実方策～(報告)』平成12年1月20日

## 第2章 総合学科に関する調査の集計結果

# 1. 学校調査

ア. [ 国立・公立・私立      全日制・定時制 ]

<回答校について>

(1) 設置者

	学校数	%
国立	2	0.9
県立	200	85.1
市立	10	4.3
私立	23	9.8
計	235	100.0

(2) 全日制/定時制

	学校数	%
全日制	223	94.9
定時制	12	5.1
計	235	100.0

## 問1 学校の状況

(1) 学校の在籍生徒数等(平成 19 年5月1日現在)

定員

	1 年次生		2 年次生		3 年次生		4 年次生	
定員数	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
80 人以下	17	7.3	17	7.3	17	7.3	3	42.9
81～120 人	41	17.7	37	15.9	29	12.5	0	0.0
121～160 人	53	22.8	53	22.8	54	23.3	4	57.1
161～200 人	42	18.1	42	18.1	46	19.8	0	0.0
201～240 人	51	22.0	55	23.7	52	22.4	0	0.0
241～280 人	12	5.2	13	5.6	18	7.8	0	0.0
281～320 人	15	6.5	14	6.0	15	6.5	0	0.0
321 人以上	1	0.4	1	0.4	1	0.4	0	0.0
計	232	100.0	232	100.0	232	100.0	7	100.0

在籍者数

	1 年次生		2 年次生		3 年次生		4 年次生	
在籍者数	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
80 人以下	16	6.8	19	8.1	21	9.0	42	93.3
81～120 人	38	16.2	42	17.9	38	16.2	0	0.0
121～160 人	46	19.7	55	23.5	54	23.1	3	6.7
161～200 人	37	15.8	36	15.4	40	17.1	0	0.0
201～240 人	50	21.4	50	21.4	45	19.2	0	0.0
241～280 人	29	12.4	19	8.1	24	10.3	0	0.0
281～320 人	16	6.8	12	5.1	12	5.1	0	0.0
321 人以上	2	0.9	1	0.4	0	0.0	0	0.0
計	234	100.0	234	100.0	234	100.0	45	100.0

学級数

	1 年次生		2 年次生		3 年次生		4 年次生	
学級数	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
1 学級	5	2.1	5	2.1	5	2.1	26	76.5
2 学級	9	3.8	10	4.3	11	4.7	2	5.9
3 学級	41	17.4	32	13.6	25	10.7	0	0.0
4 学級	54	23.0	61	26.0	55	23.5	2	5.9
5 学級	43	18.3	43	18.3	49	20.9	2	5.9
6 学級	49	20.9	53	22.6	50	21.4	2	5.9
7 学級	19	8.1	20	8.5	23	9.8	0	0.0
8 学級	12	5.1	10	4.3	14	6.0	0	0.0
9 学級	2	0.9	1	0.4	2	0.9	0	0.0
10 学級	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	235	100.0	235	100.0	234	100.0	34	100.0

## (2) 教職員数

教職員数	学校数	%
10人以下	2	1.1
11～20人	0	0.0
21～30人	2	1.1
31～40人	5	2.7
41～50人	17	9.2
51～60人	33	17.9
61～70人	39	21.2
71～80人	32	17.4
81～90人	31	16.8
91～100人	12	6.5
101～110人	8	4.3
111～120人	2	1.1
121～130人	1	0.5
計	184	100.0

## (3) 総合学科が開設される以前の、いわゆる母体校に開設されていた学科 (複数回答)

開設学科	学校数	%
普通科	175	74.5
農業科	60	25.5
工業科	47	20.0
商業科	72	30.6
水産科	2	0.9
家庭科	38	16.2
看護科	3	1.3
情報科	13	5.5
福祉科	3	1.3
その他の学科	35	14.9
全くの新設校	7	3.0
全体	235	100.0

## 問2 総合学科において、生徒が科目を選択する際の指導

## (1) 生徒に対する選択科目の内容の紹介方法

(複数回答)

紹介方法	学校数	%
ガイドブック等を作成・配布	227	96.6
説明会の開催	223	94.9
科目選択や進路についての個別相談	221	94.0
授業見学	45	19.1
その他	26	11.1
全体	235	100.0

## (2) 生徒の科目選択の方法

科目選択の方法	学校数	%
1年次に2・3(・4)年次の科目をすべて選択	70	29.9
1年次に2年次、2年次に3年次の科目を選択	154	65.8
その他	10	4.3
計	234	100.0

## (3) 生徒に科目を選ばせる際の分野(系列)の役割

役割	学校数	%
分野にとらわれず選択できる	127	54.7
分野を1つ選び、その分野で定めた科目の中から選択	85	36.6
分野を複数選び、それらの分野で定めた科目の中から選択	1	0.4
その他	19	8.2
計	232	100.0

## (4) 分野(系列)や科目を選択する際の指導体制

指導体制	学校数	%
ホームルーム担任のみ	31	13.3
進路指導担当教員のみ	0	0.0
「産業社会と人間」の担当教員	3	1.3
ホームルーム担任と進路指導担当教員	5	2.1
ホームルーム担任と「産業社会と人間」担当教員	60	25.8
進路指導担当教員と「産業社会と人間」担当教員	1	0.4
ホームルーム担任、進路指導担当教員、「産業社会と人間」担当教員	55	23.6
その他	78	33.5
計	233	100.0

問3 総合学科における開設科目

(1) 原則履修科目、必修科目、HR活動の履修単位数

(省略)

(2) 開設分野

① 開設分野(系列)数

分野(系列)数	学校数	%
1	0	0.0%
2	3	1.3%
3	17	7.4%
4	35	15.2%
5	67	29.0%
6	59	25.5%
7	34	14.7%
8	12	5.2%
9	4	1.7%
計	231	100.0

② 開設されている分野(系列) (n=231)

分野(系列)	学校数	%
人文	152	65.8
国際	72	31.2
自然	126	54.5
情報	111	48.1
福祉	109	47.2
生活	60	26.0
スポーツ・健康	68	29.4
ビジネス	114	49.4
環境	32	13.9
食品	36	15.6
生命	9	3.9
工業	60	26.0
芸術	67	29.0
地域	11	4.8
その他	96	41.6

(3) 選択科目の開講に必要な最低の履修人数

① 開講に必要な最低履修人数の設定

設定の有無	学校数	%
定めていない	46	19.8
定めている	186	80.2
計	232	100.0

② 定めている場合の開講に必要な最低履修人数

人数	学校数	%
4人以下	8	4.5
5～9人	85	48.0
10～14人	78	44.1
15～19人	4	2.3
20～24人	2	1.1
計	177	100.0

(4) 総合学科の設置以降の分野(系列)の新設・変更・廃止等の状況

(自由記述)

(省略)

問4 総合学科における原則履修科目「産業社会と人間」

(1) 「産業社会と人間」の年間指導計画における活動 (複数回答)

活動名	学校数	%
社会人講師による講話	221	94.0
職場見学・体験等	189	80.4
上級学校の見学	161	68.5
ボランティア活動	54	23.0
職業適性検査等	153	65.1
ライフプラン発表会	158	67.2
調査研究	82	34.9
討論会	40	17.0
その他	62	26.4
全体	235	100.0

## (2) 「産業社会と人間」の指導体制

指導体制	学校数	%
ホームルーム担任のみ(副担任を含む)	66	28.2
ホームルーム担任と他の1名の教員によるチーム・ティーチング	73	31.2
進路指導担当教員	1	0.4
「産業社会と人間」担当教員を別に決めている	40	17.1
その他	54	23.1
計	234	100.0

## (3) 総合学科の授業に協力を得た社会人講師の数(実数)＜平成18年度＞

講師の人数	産業社会と人間		その他の教科科目等	
	学校数	%	学校数	%
0～9人	152	66.4	78	33.9
10～19人	43	18.8	62	27.0
20～29人	19	8.3	47	20.4
30～39人	9	3.9	16	7.0
40～49人	4	1.7	9	3.9
50～59人	2	0.9	9	3.9
60人以上	0	0	9	3.9
計	229	100.0	230	100.0

## 問5 総合学科における「課題研究」

## (1) 「課題研究」の実施方法

実施方法	学校数	%
必修科目として実施	38	16.2
選択科目として実施	14	6.0
「総合的な学習の時間」を活用し「課題研究」の趣旨を生かした指導	145	62.0
実施していない	32	13.7
その他	5	2.1
計	234	100.0

## (2) 必修科目や選択科目として実施している場合の取り組み方法

取組方法	学校数	%
生徒が個人で取り組む	26	50.0
生徒がグループを作り取り組む	6	11.5
生徒が個人で取り組む場合もグループの場合もある	19	36.5
その他	1	1.9
計	52	100.0

## (3) 必修科目や選択科目として実施している場合の「課題研究」における課題の決定方法

課題の決め方	学校数	%
生徒の自由	39	79.6
学校が提示したテーマの中から選択する	8	16.3
学校が決めて生徒に割り当てたテーマを選択させる	2	4.1
その他	0	0.0
計	49	100.0

## (4) 必修科目や選択科目として実施している場合の「課題研究」の指導体制

指導体制	学校数	%
ホームルーム担当が指導	3	6.1
課題別に担当教員を決めている	38	77.6
その他	8	16.3
計	49	100.0



問6 総合学科における進路指導

(1) 選択科目や進路についての相談を担当する専任のカウンセラーの配置

専任カウンセラーの有無	学校数	%
置いている	25	10.8
置いていない	202	87.1
その他	5	2.2
計	232	100.0

(2) 分野(系列)や科目の選択についてのガイダンスの工夫

(自由記述)

(省略)

(3) 「産業社会と人間」の学習成果を生かした進路指導(キャリア教育等)の取り組み

(自由記述)

(省略)

問7 総合学科における単位制の活用状況

(1) 卒業に必要な修得単位数

卒業に必要な修得単位数	学校数	%
74 単位以下	146	62.9
75～79 単位	15	6.5
80～84 単位	58	25.0
85～89 単位	5	2.2
90～94 単位	6	2.6
95 単位以上	2	0.9
計	232	100.0

(2) 生徒が時間割を作成する際の、空き時間の設定

空き時間の設定	学校数	%
認めている	29	12.4
認めていない	205	87.6
計	234	100.0

(3) 履修年次を特定の年次に指定している科目

履修年次をしている科目の有無	学校数	%
必修科目のみ年次を指定	21	9.1
必修科目+年次ごとに選択できる科目を指定	199	85.8
年次を指定している科目はない	1	0.4
その他	11	4.7
計	232	100.0

(4) 複数の年次の生徒と一緒に受ける授業の有無

一緒に受ける授業の有無	学校数	%
ある	145	61.7
ない	78	33.2
可能だが実態としてはない	12	5.1
計	235	100.0

(5) 学期ごとの単位認定の実施

学期ごとの単位認定の実施	学校数	%
している	59	25.2
していない	175	74.8
計	234	100.0

## (6) 学期ごとの卒業認定の実施

学期ごとの卒業認定の実施	学校数	%
している	43	18.3
していない	192	81.7
計	235	100.0

## 問8 総合学科におけるホームルーム

## (1) ホームルームの編成方法

(%)

年次	選択科目別	分野(系列)	進路希望別	ミックスホームル	その他
1 年次 (n=232)	6.5	2.2	3.0	77.6	10.8
2 年次 (n=229)	4.4	10.9	8.3	65.9	10.5
3 年次 (n=230)	2.2	9.1	14.3	63.5	10.9
4 年次 (n=54)	0.0	1.9	1.9	74.1	22.2

\* ミックスホームルーム: 分野(系列)や進路希望等の異なる生徒が1つのホームルームに混在するような編成

## (2) 年次が変わる際のホームルーム編成の変更

ホームルーム編成の変更	学校数	%
在学中は同じ	17	7.3
年次毎に変える	130	55.8
2 年次に移る際変え、2・3(・4) 年次は同じ	77	33.0
1・2 年次は同じで、3 年次に移る際変える	0	0.0
1・2・3 年次は同じで、4 年次に移る際変える	3	1.3
その他	6	2.6
計	233	100.0

## (3) ショートホームルームの実施状

(%)

	始業時 終業時	始業時のみ	終業時のみ	授業と授業 の間	全く行っていない	その他
1 年次 (n=228)	78.9	8.8	2.2	4.4	1.3	4.4
2 年次 (n=227)	77.5	9.3	2.2	4.4	1.3	5.3
3 年次 (n=227)	77.1	8.8	2.2	4.4	1.8	5.7
4 年次 (n=57)	21.1	10.5	1.8	14.0	28.1	24.6

## 問9 総合学科における学校間連携

## (1) 学修の単位認定を伴う学校間連携の実施

	学校数	%
実施している	27	11.5
以前は実施していた	3	1.3
実施した事はない	205	87.2
計	235	100.0

## (2) 学校間連携の具体的な内容(実施している学校)

(自由記述)

(省略)

## (3) 廃止した具体的な理由(以前実施していた学校)

(自由記述)

(省略)

問 10 総合学科における学校外での学修の単位認定

(1) 学校外での学修の単位認定を実施

単位認定の実施	学校数	%
実施している	147	62.6
以前は実施していた	2	0.9
実施した事はない	86	36.6
計	235	100.0

(2) 単位認定の対象としている学修の内容(単位認定を実施している学校) (複数回答)

単位認定の対象学修	学校数	%
大学・高等専門学校における科目等履修生としての学修	32	21.9
専修学校における科目等履修生としての学修	13	8.9
専修学校の行う付帯的教育事業	14	9.6
大学の公開講座、公民館等の講座における学修	17	11.6
技能審査等の合格に係る学修	130	89.0
ボランティア活動、就業体験等に係る学修	57	39.0
スポーツ又は文化活動で顕著な成績をあげたものに係る学修	7	4.8
高等学校卒業程度認定試験における合格科目	36	24.7
別科において修得した科目に係る学修	1	0.7
その他	6	4.1
全体	146	100.0

(3) 単位認定する際の単位数

① 単位認定の上限(単位認定を実施している学校)

単位認定の上限	学校数	%
上限を設けている	94	67.6
上限を設けていない	35	25.2
その他	10	7.2
計	139	100.0

② 上限を設けている場合の単位数

上限単位数	学校数	%
0～9 単位	13	13.8
10～19 単位	7	7.4
20～29 単位	53	56.4
30～39 単位	20	21.3
40 単位以上	1	1.1
計	94	100.0

(4) 平成 18 年度の学校外での学修による単位認定(単位認定を実施している学校)

① 単位認定した生徒ののべ数

人数	学校数	%
49 人以下	97	72.9
50～99 人	18	13.5
100～149 人	7	5.3
150～199 人	5	3.8
200～249 人	4	3.0
250 人以上	2	1.5
計	133	100.0

② 単位認定した単位ののべ数

単位	学校数	%
49 単位以下	74	55.6
50～99 単位	30	22.6
100～149 単位	11	8.3
150～199 単位	9	6.8
200～249 単位	3	2.3
250～299 単位	2	1.5
300 単位以上	4	3.0
計	133	100

(5) 廃止した具体的な理由(以前は実施していた学校)

(自由記述)

(省略)

問 11 総合学科の入学者及び卒業生

(1) ① 定員に対する入学者の割合 (%)

年度(学校数)	平均値
H15 (n=204)	96.4
H16 (n=233)	95.8
H17 (n=233)	96.4
H18 (n=233)	95.2
H19 (n=233)	95.2

②入学者に対する卒業生の割合

(省略)

(2) 平成 18 年度卒業生の進路の状況

(%)

	10%未満	10%以上 20%未満	20%以上 30%未満	30%以上 40%未満	40%以上 50%未満	50%以上 60%未満	60%以上 70%未満	70%以上 80%未満	80%以上 90%未満	90%以上 100%未満	100%以上
(大学+短大)/卒業生 (n=223) <平均 31.3%>	17 (7.6)	39 (17.5)	76 (34.1)	34 (15.2)	16 (7.2)	21 (9.4)	12 (5.4)	4 (1.8)	3 (1.3)	1 (0.4)	0 (0.0)
進学者/卒業生 (n=223) <平均 62.4%>	0 (0.0)	1 (0.4)	6 (2.7)	22 (9.9)	31 (13.9)	40 (17.9)	45 (20.2)	36 (16.1)	21 (9.4)	20 (9.0)	1 (0.4)
就職者/卒業生 (n=223) <平均 30.6%>	36 (16.1)	30 (13.5)	43 (19.3)	45 (20.2)	33 (14.8)	25 (11.2)	8 (3.6)	3 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

\* 進学者:大学・短大及び専攻科、専修学校一般課程、各種学校(予備校等)、公共職業訓練校等に入学した者

(3) 平成 13 年度卒業生の進路の状況

(%)

	10%未満	10%以上 20%未満	20%以上 30%未満	30%以上 40%未満	40%以上 50%未満	50%以上 60%未満	60%以上 70%未満	70%以上 80%未満	80%以上 90%未満	90%以上 100%未満	100%以上
(大学+短大)/卒業生 (n=142) <平均 28.6%>	10 (7.0)	32 (22.5)	43 (30.3)	28 (19.7)	14 (9.9)	11 (7.7)	1 (0.7)	2 (1.4)	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
進学者/卒業生 (n=142) <平均 59.9%>	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (4.9)	13 (9.2)	18 (12.7)	33 (23.2)	33 (23.2)	18 (12.7)	14 (9.9)	6 (4.2)	0 (0.0)
就職者/卒業生 (n=142) <平均 29.3%>	15 (10.6)	24 (16.9)	39 (27.5)	26 (18.3)	27 (19.0)	7 (4.9)	2 (1.4)	2 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

\* 進学者:大学・短大及び専攻科、専修学校一般課程、各種学校(予備校等)、公共職業訓練校等に入学した者

問 12 総合学科の成果と課題

(1) 教育課程の成果と課題

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

(2) 学校運営の成果と課題

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

(3) 各教科・科目等の授業, 生徒指導, 進路指導の成果と課題

《各教科・科目等の授業》

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

《生徒指導》

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

《進路指導》

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

# 学校調査

## イ. [ 公立 全日制 ]

### <回答校について>

#### (1) 設置者

	学校数	%
県立	194	97.0
市立	6	3.0
計	200	100.0

### 問1 学校の状況

#### (1) 学校の在籍生徒数等(平成 19 年5月1日現在)

##### 定員

定員数	1 年次生		2 年次生		3 年次生		4 年次生	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
80 人以下	12	6.0	12	6.0	12	6.0	1	100.0
81～120 人	35	17.6	31	15.6	23	11.6	0	0.0
121～160 人	44	22.1	45	22.6	46	23.1	0	0.0
161～200 人	36	18.1	36	18.1	41	20.6	0	0.0
201～240 人	48	24.1	51	25.6	48	24.1	0	0.0
241～280 人	11	5.5	12	6.0	17	8.5	0	0.0
281～320 人	13	6.5	12	6.0	12	6.0	0	0.0
321 人以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	199	100.0	199	100.0	199	100.0	1	100.0

##### 在籍者数

在籍者数	1 年次生		2 年次生		3 年次生		4 年次生	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
80 人以下	10	5.0	12	6.0	14	7.0	28	100.0
81～120 人	33	16.6	36	18.1	27	13.6	0	0.0
121～160 人	36	18.1	41	20.6	46	23.1	0	0.0
161～200 人	31	15.6	31	15.6	35	17.6	0	0.0
201～240 人	46	23.1	49	24.6	45	22.6	0	0.0
241～280 人	27	13.6	18	9.0	21	10.6	0	0.0
281～320 人	14	7.0	11	5.5	11	5.5	0	0.0
321 人以上	2	1.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0
計	199	100.0	199	100.0	199	100.0	28	100.0

##### 学級数

学級数	1 年次生		2 年次生		3 年次生		4 年次生	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
1 学級	3	1.5	3	1.5	3	1.5	20	100.0
2 学級	6	3.0	6	3.0	7	3.5	0	0.0
3 学級	36	18.0	29	14.5	20	10.1	0	0.0
4 学級	44	22.0	49	24.5	47	23.6	0	0.0
5 学級	36	18.0	37	18.5	40	20.1	0	0.0
6 学級	47	23.5	47	23.5	47	23.6	0	0.0
7 学級	16	8.0	19	9.5	22	11.1	0	0.0
8 学級	10	5.0	10	5.0	12	6.0	0	0.0
9 学級	1	0.5	0	0.0	1	0.5	0	0.0
10 学級	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	200	100.0	200	100.0	199	100.0	20	100.0

## (2) 教職員数

教職員数	学校数	%
10人以下	1	0.6
11～20人	0	0.0
21～30人	0	0.0
31～40人	3	1.8
41～50人	16	9.8
51～60人	31	18.9
61～70人	34	20.7
71～80人	28	17.1
81～90人	30	18.3
91～100人	11	6.7
101～110人	7	4.3
111～120人	2	1.2
121～130人	1	0.6
計	164	100.0

## (3) 総合学科が開設される以前の、いわゆる母体校に開設されていた学科 (複数回答)

開設学科	学校数	%
普通科	155	77.5
農業科	58	29.0
工業科	32	16.0
商業科	60	30.0
水産科	2	1.0
家庭科	35	17.5
看護科	2	1.0
情報科	7	3.5
福祉科	3	1.5
その他の学科	25	12.5
全くの新設校	3	1.5
全体	200	100.0

## 問2 総合学科において、生徒が科目を選択する際の指導

## (1) 生徒に対する選択科目の内容の紹介方法 (複数回答)

紹介方法	学校数	%
ガイドブック等を作成・配布	196	98.0
説明会の開催	196	98.0
科目選択や進路についての個別相談	192	96.0
授業見学	39	19.5
その他	21	10.5
全体	200	100.0

## (2) 生徒の科目選択の方法

科目選択の方法	学校数	%
1年次に2・3(・4)年次の科目をすべて選択	61	30.7
1年次に2年次、2年次に3年次の科目を選択	129	64.8
その他	9	4.5
計	199	100.0

## (3) 生徒に科目を選ばせる際の分野(系列)の役割

役割	学校数	%
分野にとらわれず選択できる	114	57.3
分野を1つ選び、その分野で定めた科目の中から選択	69	34.7
分野を複数選び、それらの分野で定めた科目の中から選択	1	0.5
その他	15	7.5
計	199	100.0

## (4) 分野(系列)や科目を選択する際の指導体制

指導体制	学校数	%
ホームルーム担任のみ	26	13.1
進路指導担当教員のみ	0	0.0
「産業社会と人間」の担当教員	2	1.0
ホームルーム担任と進路指導担当教員	4	2.0
ホームルーム担任と「産業社会と人間」担当教員	53	26.8
進路指導担当教員と「産業社会と人間」担当教員	1	0.5
ホームルーム担任、進路指導担当教員、「産業社会と人間」担当教員	49	24.7
その他	63	31.8
計	198	100.0

### 問3 総合学科における開設科目

#### (1) 原則履修科目、必修科目、HR活動の履修単位数

		「産社と人間」	必修科目	HR活動
1年次	最少	1	16～18	1
	最大	3	32	1
2年次	最少	0	3	1
	最大	2	25～29	2
3年次	最少	0	1	1
	最大	1	15	3

#### (2) 開設分野

##### ① 開設分野(系列)数

分野(系列)数	学校数	%
2	2	1.0
3	7	3.6
4	28	14.3
5	61	31.1
6	52	26.5
7	30	15.3
8	13	6.6
9	3	1.5
計	196	100.0

##### ② 開設されている分野(系列) (n=196)

分野(系列)	学校数	%
人文	137	69.9
国際	64	32.7
自然	121	61.7
情報	100	51.0
福祉	90	45.9
生活	48	24.5
スポーツ・健康	62	31.6
ビジネス	96	49.0
環境	31	15.8
食品	29	14.8
生命	9	4.6
工業	44	22.4
芸術	59	30.1
地域	11	5.6
その他	85	43.4

#### (3) 選択科目の開講に必要な最低の履修人数

##### ① 開講に必要な最低履修人数の設定

設定の有無	学校数	%
定めていない	41	20.7
定めている	157	79.3
計	198	100.0

##### ② 定めている場合の開講に必要な最低履修人数

人数	学校数	%
4人以下	5	3.4
5～9人	73	49.0
10～14人	69	46.3
15～19人	2	1.3
計	149	100.0

#### (4) 総合学科の設置以降の分野(系列)の新設・変更・廃止等の状況

(自由記述)

(省略)

### 問4 総合学科における原則履修科目「産業社会と人間」

#### (1) 「産業社会と人間」の年間指導計画における活動 (複数回答)

活動名	学校数	%
社会人講師による講話	189	94.5
職場見学・体験等	157	78.5
上級学校の見学	142	71.0
ボランティア活動	44	22.0
職業適性検査等	133	66.5
ライフプラン発表会	135	67.5
調査研究	73	36.5
討論会	39	19.5
その他	53	26.5
全体	200	100.0



## (2) 「産業社会と人間」の指導体制

指導体制	学校数	%
ホームルーム担任のみ(副担任を含む)	57	28.6
ホームルーム担任と他の1名の教員によるチーム・ティーチング	63	31.7
進路指導担当教員	1	0.5
「産業社会と人間」担当教員を別に決めている	31	15.6
その他	47	23.6
計	199	100.0

## (3) 総合学科の授業に協力を得た社会人講師の数(実数)＜平成18年度＞

講師の人数	産業社会と人間		その他の教科科目等	
	学校数	%	学校数	%
0～9人	129	65.8	62	31.5
10～19人	36	18.4	55	27.9
20～29人	17	8.7	41	20.8
30～39人	8	4.1	14	7.1
40～49人	4	2.0	8	4.1
50～59人	2	1.0	9	4.6
60人以上	0	0.0	8	4.1
計	196	100.0	197	100.0

## 問5 総合学科における「課題研究」

## (1) 「課題研究」の実施方法

実施方法	学校数	%
必修科目として実施	28	14.1
選択科目として実施	10	5.0
「総合的な学習の時間」を活用し「課題研究」の趣旨を生かした指導	128	64.3
実施していない	28	14.1
その他	5	2.5
計	199	100.0

## (2) 必修科目や選択科目として実施している場合の取り組み方法

取組方法	学校数	%
生徒が個人で取り組む	21	55.3
生徒がグループを作り取り組む	3	7.9
生徒が個人で取り組む場合もグループの場合もある	14	36.8
その他	0	0.0
計	38	100.0

## (3) 必修科目や選択科目として実施している場合の「課題研究」における課題の決定方法

課題の決め方	学校数	%
生徒の自由	30	83.3
学校が提示したテーマの中から選択する	4	11.1
学校が決めて生徒に割り当てたテーマを選択させる	2	5.6
その他	0	0.0
計	36	100.0

## (4) 必修科目や選択科目として実施している場合の「課題研究」の指導体制

指導体制	学校数	%
ホームルーム担当が指導	2	5.6
課題別に担当教員を決めている	29	80.6
その他	5	13.9
計	36	100.0

問6 総合学科における進路指導

(1) 選択科目や進路についての相談を担当する専任のカウンセラーの配置

専任カウンセラーの有無	学校数	%
置いている	22	11.2
置いていない	171	86.8
その他	4	2.0
計	197	100.0

(2) 分野(系列)や科目の選択についてのガイダンスの工夫

(自由記述)

(省略)

(3) 「産業社会と人間」の学習成果を生かした進路指導(キャリア教育等)の取り組み

(自由記述)

(省略)

問7 総合学科における単位制の活用状況

(1) 卒業に必要な修得単位数

卒業に必要な修得単位数	学校数	%
74 単位以下	127	64.1
75～79 単位	15	7.6
80～84 単位	49	24.7
85～89 単位	4	2.0
90～94 単位	1	0.5
95 単位以上	2	1.0
計	198	100.0

(2) 生徒が時間割を作成する際の、空き時間の設定

空き時間の設定	学校数	%
認めている	17	8.5
認めていない	182	91.5
計	199	100.0

(3) 履修年次を特定の年次に指定している科目

履修年次をしている科目の有無	学校数	%
必修科目のみ年次を指定	17	8.6
必修科目+年次ごとに選択できる科目を指定	174	88.3
年次を指定している科目はない	1	0.5
その他	5	2.5
計	197	100.0

(4) 複数の年次の生徒と一緒に受ける授業の有無

一緒に受ける授業の有無	学校数	%
ある	123	61.5
ない	68	34.0
可能だが実態としてはない	9	4.5
計	200	100.0

(5) 学期ごとの単位認定の実施

学期ごとの単位認定の実施	学校数	%
している	45	22.6
していない	154	77.4
計	199	100.0

## (6) 学期ごとの卒業認定の実施

学期ごとの卒業認定の実施	学校数	%
している	32	16.0
していない	168	84.0
計	200	100.0

## 問8 総合学科におけるホームルーム

## (1) ホームルームの編成方法

(%)

年次	選択科目別	分野(系列)	進路希望別	ミックスホームルーム	その他
1 年次 (n=197)	7.6	0.5	3.0	79.7	9.1
2 年次 (n=194)	5.2	9.3	9.3	67.5	8.8
3 年次 (n=195)	2.6	7.7	16.4	64.1	9.2
4 年次 (n=38)	0.0	0.0	2.6	76.3	21.1

\* ミックスホームルーム：分野(系列)や進路希望等の異なる生徒が1つのホームルームに混在するような編成

## (2) 年次が変わる際のホームルーム編成の変更

ホームルーム編成の変更	学校数	%
在学中は同じ	10	5.0
年次毎に変える	113	56.8
2 年次に移る際変え、2・3(・4) 年次は同じ	71	35.7
1・2 年次は同じで、3 年次に移る際変える	0	0.0
1・2・3 年次は同じで、4 年次に移る際変える	1	0.5
その他	4	2.0
計	199	100.0

## (3) ショートホームルームの実施状況

(%)

	始業時 終業時	始業時のみ	終業時のみ	授業と授業 の間	全く行っていない	その他
1 年次 (n=194)	82.5	8.2	1.5	3.1	0.0	4.6
2 年次 (n=193)	80.8	8.8	1.6	3.1	0.0	5.7
3 年次 (n=193)	80.3	8.3	1.6	3.1	0.5	6.2
4 年次 (n=40)	27.5	5.0	2.5	10.0	27.5	27.5

## 問9 総合学科における学校間連携

## (1) 学修の単位認定を伴う学校間連携の実施

	学校数	%
実施している	20	10.0
以前は実施していた	2	1.0
実施した事はない	178	89.0
計	200	100.0

## (2) 学校間連携の具体的な内容(実施している学校)

(自由記述)

(省略)

## (3) 廃止した具体的な理由(以前実施していた学校)

(自由記述)

(省略)

問 10 総合学科における学校外での学修の単位認定

(1) 学校外での学修の単位認定を実施

単位認定の実施	学校数	%
実施している	127	63.5
以前は実施していた	1	0.5
実施した事はない	72	36.0
計	200	100.0

(2) 単位認定の対象としている学修の内容(単位認定を実施している学校) (複数回答)

単位認定の対象学修	学校数	%
大学・高等専門学校における科目等履修生としての学修	31	24.6
専修学校における科目等履修生としての学修	11	8.7
専修学校の行う付帯的教育事業	13	10.3
大学の公開講座、公民館等の講座における学修	15	11.9
技能審査等の合格に係る学修	112	88.9
ボランティア活動、就業体験等に係る学修	48	38.1
スポーツ又は文化活動で顕著な成績をあげたものに係る学修	7	5.6
高等学校卒業程度認定試験における合格科目	25	19.8
別科において修得した科目に係る学修	0	0.0
その他	4	3.2
全体	126	100.0

(3) 単位認定する際の単位数

① 単位認定の上限(単位認定を実施している学校)

単位認定の上限	学校数	%
上限を設けている	82	67.8
上限を設けていない	30	24.8
その他	9	7.4
計	121	100.0

② 上限を設けている場合の単位数

上限単位数	学校数	%
0～9 単位	12	14.6
10～19 単位	5	6.1
20～29 単位	47	57.3
30～39 単位	17	20.7
40 単位以上	1	1.2
計	82	100.0

(4) 平成 18 年度の学校外での学修による単位認定(単位認定を実施している学校)

① 単位認定した生徒ののべ数

人数	学校数	%
49 人以下	88	76.5
50～99 人	13	11.3
100～149 人	5	4.3
150～199 人	4	3.5
200～249 人	4	3.5
250 人以上	1	0.9
計	115	100.0

② 単位認定した単位ののべ数

単位	学校数	%
49 単位以下	67	58.3
50～99 単位	25	21.7
100～149 単位	9	7.8
150～199 単位	7	6.1
200～249 単位	2	1.7
250～299 単位	2	1.7
300 単位以上	3	2.6
計	115	100.0

(5) 廃止した具体的な理由(以前は実施していた学校)

(自由記述)

(省略)

問 11 総合学科の入学者及び卒業生

(1) ① 定員に対する入学者の割合 (%)

年度(学校数)	平均値
H15 (n=175)	97.8
H16 (n=199)	97.0
H17 (n=199)	97.5
H18 (n=199)	96.8
H19 (n=199)	96.6

② 入学者に対する卒業生の割合

	H17 卒業生/H15 入学者		H18 卒業生/H16 入学者	
	学校数	%	学校数	%
50%未満	0	0.0	0	0.0
50%以上～60%未満	1	0.6	1	0.5
60%以上～70%未満	0	0.0	2	1.0
70%以上～80%未満	7	4.2	8	4.2
80%以上～90%未満	28	16.8	24	12.6
90%以上～100%未満	125	74.9	152	79.6
100%以上	6	3.6	4	2.1
計	167	100.0	191	100.0

(2) 平成 18 年度卒業生の進路の状況

(%)

	10%未満	10%以上 20%未満	20%以上 30%未満	30%以上 40%未満	40%以上 50%未満	50%以上 60%未満	60%以上 70%未満	70%以上 80%未満	80%以上 90%未満	90%以上 100%未満	100%以上
(大学+短大)/卒業生 (n=190) <平均 32.0%>	13 (6.8)	30 (15.8)	64 (33.7)	31 (16.3)	16 (8.4)	19 (10.0)	10 (5.3)	4 (2.1)	2 (1.1)	1 (0.5)	0 (0.0)
進学者/卒業生 (n=190) <平均 64.0%>	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.6)	14 (7.4)	25 (13.2)	36 (18.9)	40 (21.1)	36 (18.9)	20 (10.5)	15 (7.9)	1 (0.5)
就職者/卒業生 (n=190) <平均 29.5%>	30 (15.8)	27 (14.2)	39 (20.5)	37 (19.5)	30 (15.8)	19 (10.0)	6 (3.2)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

\* 進学者: 大学・短大及び専攻科、専修学校一般課程、各種学校(予備校等)、公共職業訓練校等に入学した者

(3) 平成 13 年度卒業生の進路の状況

(%)

	10%未満	10%以上 20%未満	20%以上 30%未満	30%以上 40%未満	40%以上 50%未満	50%以上 60%未満	60%以上 70%未満	70%以上 80%未満	80%以上 90%未満	90%以上 100%未満	100%以上
(大学+短大)/卒業生 (n=125) <平均 28.9%>	7 (5.6)	28 (22.4)	40 (32.0)	24 (19.2)	13 (10.4)	10 (8.0)	1 (0.8)	1 (0.8)	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
進学者/卒業生 (n=125) <平均 60.7%>	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (3.2)	10 (8.0)	16 (12.8)	31 (24.8)	30 (24.0)	18 (14.4)	10 (8.0)	6 (4.8)	0 (0.0)
就職者/卒業生 (n=125) <平均 28.8%>	14 (11.2)	20 (16.0)	35 (28.0)	25 (20.0)	23 (18.4)	6 (4.8)	1 (0.8)	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

\* 進学者: 大学・短大及び専攻科、専修学校一般課程、各種学校(予備校等)、公共職業訓練校等に入学した者

問 12 総合学科の成果と課題

(1) 教育課程の成果と課題

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

(2) 学校運営の成果と課題

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

(3) 各教科・科目等の授業, 生徒指導, 進路指導の成果と課題

《各教科・科目等の授業》

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

《生徒指導》

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

《進路指導》

(自由記述)

成果 (後掲)

課題 (後掲)

## 2. 生徒調査

ア. [ 国立・公立・私立 全日制・定時制 ]

※最終年次生対象

<回答者について>

### (1) 学校の設置者

設置者	生徒数	%
国立	79	0.9
県立	7,906	85.6
市立	383	4.1
私立	870	9.4
計	9,238	100.0

### (2) 全日制/定時制

全日制/定時制	生徒数	%
全日制	8,793	95.2
定時制	445	4.8
計	9,238	100.0

### (3) 性別

性別	生徒数	%
男	3,864	42.2
女	5,293	57.8
計	9,157	100.0

### (4) 選択している科目(系列)分野

科目(系列)	生徒数	%
人文	2,305	25.5
国際	737	8.2
自然	940	10.4
情報	1,321	14.6
福祉	976	10.8
生活	455	5.0
スポーツ・健康	670	7.4
ビジネス	808	9.0
環境	196	2.2
食品	620	6.9
生命	141	1.6
工業	573	6.3
芸術	711	7.9
地域	70	0.8
その他	911	10.1
計	9,025	100.0

### (5) 進路希望

(%)

性別	大学・短大に進学	専門学校に進学	就職	その他
男 (n=3,864)	42.6	23.0	32.6	1.7
女 (n=5,293)	39.5	31.9	25.9	2.7
全体 (n=9,238)	40.8	28.2	28.7	2.3

問1 総合学科への進学(進学してよかったか)

(%)

性別	そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない
男 (n=3,864)	32.7	44.2	11.6	6.2	5.4
女 (n=5,293)	42.7	43.8	7.9	2.6	3.1
全体 (n=9,238)	38.6	43.9	9.4	4.1	4.1

問2 総合学科の特色

(%)

特色	そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからな い
自分の興味・関心等に応じて自由に科目を選択し学習できる (n=9,209)	48.2	38.8	8.0	3.5	1.5
自分の進路について学び、じっくり考えることができる (n=9,202)	29.7	46.2	15.9	5.0	3.2
地域と連携した学習や行事等が重視されている (n=9,203)	10.0	32.3	35.5	14.6	7.6
進学にも就職にも柔軟に対応できる (n=9,201)	28.4	44.9	15.6	6.8	4.3
校則が緩やかで自由な雰囲気である (n=9,201)	13.0	23.7	28.0	31.2	4.1
生徒がいきいきと学習や諸活動に取り組んでいる (n=9,200)	16.2	44.9	23.8	9.4	5.7

問3 中学生のときの、総合学科についての情報入手先(複数回答)

入手先	生徒数	%
高校調べなど中学校の進路指導	4,719	51.4
中学校の先生との相談	3,475	37.8
高校説明会や高校の見学、体験入学	4,159	45.3
高校のパンフレット等	3,336	36.3
高校のホームページ	1,424	15.5
保護者との相談	1,766	19.2
中学校の先輩や友人との相談	1,976	21.5
塾の先生との相談	678	7.4
新聞・雑誌等	107	1.2
その他	377	4.1
全体	9,185	100.0

問4 総合学科を選んだ理由

(複数回答)

理由	生徒数	%
学力にあっている	3,401	37.0
個性を伸ばすことができる	2,460	26.7
やりたい勉強ができる	4,852	52.7
進学に有利	683	7.4
就職に有利	745	8.1
親や先生がすすめた	1,463	15.9
友人が希望していた	378	4.1
自由に学ぶ科目を選択できる	4,489	48.8
進路についてじっくり考えられる	1,726	18.8
特に理由はない	1,125	12.2
その他	491	5.3
全体	9,204	100.0



問5 自分の選択する科目を決める基準 (複数回答)

基準	生徒数	%
興味・関心のある科目	6,607	71.8
将来役立ちそうな科目	5,237	56.9
資格取得に必要な科目	2,464	26.8
希望する大学の受験に必要な科目	2,726	29.6
自分の良さを伸ばすための科目	2,720	29.6
単位取得が容易そうな科目	1,031	11.2
友人が選択している科目	610	6.6
特に基準はない	559	6.1
その他	109	1.2
全体	9,202	100.0

問6 総合学科について満足している点 (複数回答)

満足している点	生徒数	%
興味・関心等に応じて選択できる	6,142	68.1
多様な選択科目が開設されている	3,784	41.9
進路等に目的を持つことができる	2,599	28.8
地域の社会人等から学ぶ機会が多い	1,088	12.1
体験的・実践的な学習活動ができる	1,648	18.3
単位制なので自分のペースで学習できる	1,286	14.3
進路にも就職にも対応した教科等を選択できる	3,047	33.8
教員が熱意をもって指導している	1,042	11.6
施設・設備が充実している	1,583	17.5
幅広い人間関係を得ることができる	1,681	18.6
ホームルーム活動や課外活動が活発である	1,034	11.5
その他	248	2.7
全体	9,021	100.0

問7 総合学科について不満足な点 (複数回答)

不満足な点	生徒数	%
興味・関心等に応じた選択ができない	956	11.9
選択科目の分野や数が不十分	1,572	19.5
進路について考える時間が必要	2,185	27.1
地域の社会人等から学ぶ機会が必要	1,147	14.2
体験的・実践的な学習活動が必要	1,198	14.9
進学が難しい	1,611	20.0
就職が難しい	707	8.8
教員が熱意をもって指導していない	1,119	13.9
施設・設備が不十分である	1,936	24.0
人間関係が希薄である	747	9.3
ホームルーム活動や課外活動が活発でない	976	12.1
その他	717	8.9
全体	8,056	100.0

問8 総合学科で学ぶことへの満足 (%)

性別	満足	ほぼ満足	やや不満足	不満足
男 (n=3,864)	738 (19.1)	2,133 (55.2)	730 (18.9)	263 (6.8)
女 (n=5,293)	1,404 (26.5)	3,666 (57.9)	684 (12.9)	138 (2.6)
全体 (n=9,238)	2,152 (23.3)	5,256 (56.9)	1,423 (15.4)	407 (4.4)

問9 総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」を学ぶ意義

(%)

学ぶ意義	そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからな い
働く意義を理解し将来の生き方や進路に目標を持つことができる (n=9,166)	18.1	53.1	17.6	6.0	5.2
学ぶことの意義や目的を理解し、総合学科における教科・科目の適切な選択に役立てることができる (n=9,161)	16.4	53.4	19.0	5.4	5.8
自己の興味・関心、能力・適性等、自己の個性について理解を深め、伸ばそうとする意欲を持つことができる (n=9,167)	22.7	49.9	17.5	5.2	4.6
社会人の講話や職場体験をとおして異なる世代とのコミュニケーション能力を高めることができる (n=9,165)	20.3	43.6	22.6	7.7	5.7
調査・研究、それに基づく発表・討論・職場体験等を通じて、主体的な学習態度を身に付けることができる (n=9,161)	16.3	46.6	23.0	7.0	7.0

問10 「課題研究」について(「研究課題」を学んでいる生徒のみ回答)

(1) 「研究課題」で取組んだ内容

(自由記述)

(省略)
------

「課題研究」を行う意義

(%)

行う意義	そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わから ない
(2) 3年間の学習のまとめを行うのに有意義である (n=6,552)	14.5	36.5	27.9	13.6	7.6
(3) 「課題研究」は自分で課題を設定し、学習計画をたて、自己の個性を伸ばすことができる (n=6,553)	21.3	42.1	19.7	9.8	7.0
(4) 「研究課題」は調査・実験・研究、作品製作、体験的な活動等を通じて主体的な学習態度を身につけることができる (n=6,546)	17.8	44.7	20.3	9.0	8.2

問11 総合学科をよりよいものとするための提言、要望等

(自由記述)

(省略)
------

## 生徒調査

### イ. [ 公立 全日制 ]

※最終年次生対象

#### <回答者について>

##### (1) 学校の設置者

設置者	生徒数	%
県立	7,677	97.1
市立	233	2.9
計	7,910	100.0

##### (2) 性別

性別	生徒数	%
男	3,195	40.8
女	4,643	59.2
計	7,838	100.0

##### (3) 選択している科目(系列)分野

科目(系列)	生徒数	%
人文	2,118	27.4
国際	676	8.8
自然	911	11.8
情報	1,086	14.1
福祉	783	10.1
生活	361	4.7
スポーツ・健康	581	7.5
ビジネス	647	8.4
環境	171	2.2
食品	477	6.2
生命	123	1.6
工業	460	6.0
芸術	626	8.1
地域	65	0.8
その他	740	9.6
計	7,722	100.0

##### (4) 進路希望

(%)

性別	大学・短大に進学	専門学校に進学	就職	その他
男 (n=3,195)	43.9	23.2	31.3	1.7
女 (n=4,643)	40.8	32.6	24.4	2.1
全体 (n=7,910)	42.0	28.8	27.2	1.9

## 問1 総合学科への進学(進学してよかったか)

(%)

性別	そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない
男 (n=3,195)	32.1	44.3	12.1	6.2	5.3
女 (n=4,643)	42.5	44.0	7.9	2.6	3.0
全体 (n=7,910)	38.4	44.0	9.6	4.1	3.9

## 問2 総合学科の特色

(%)

特色	そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからな い
自分の興味・関心等に応じて自由に科目を選択し学習できる (n=7,886)	48.8	38.7	8.0	3.3	1.3
自分の進路について学び、じっくり考えることができる (n=7,881)	30.1	46.1	15.8	5.0	2.9
地域と連携した学習や行事等が重視されている (n=7,879)	10.1	32.4	35.9	14.2	7.5
進学にも就職にも柔軟に対応できる (n=7,879)	29.2	45.1	15.3	6.5	3.9
校則が緩やかで自由な雰囲気である (n=7,880)	11.6	23.3	29.3	31.8	4.0
生徒がいきいきと学習や諸活動に取り組んでいる (n=7,877)	16.0	45.4	23.9	9.2	5.5

## 問3 中学生のときの、総合学科についての情報入手先(複数回答)

入手先	生徒数	%
高校調べなど中学校の進路指導	4,294	54.5
中学校の先生との相談	2,961	37.6
高校説明会や高校の見学、体験入学	3,721	47.3
高校のパンフレット等	2,782	35.3
高校のホームページ	1,251	15.9
保護者との相談	1,497	19.0
中学校の先輩や友人との相談	1,782	22.6
塾の先生との相談	629	8.0
新聞・雑誌等	81	1.0
その他	288	3.7
計	7,873	100.0

## 問4 総合学科を選んだ理由

(複数回答)

理由	生徒数	%
学力にあっている	2,995	38.0
個性を伸ばすことができる	2,114	26.8
やりたい勉強ができる	4,249	53.9
進学に有利	590	7.5
就職に有利	598	7.6
親や先生がすすめた	1,156	14.7
友人が希望していた	333	4.2
自由に学ぶ科目を選択できる	3,953	50.1
進路についてじっくり考えられる	1,492	18.9
特に理由はない	914	11.6
その他	417	5.3
計	7,883	100.0

問5 自分の選択する科目を決める基準 (複数回答)

基準	生徒数	%
興味・関心のある科目	5,639	71.5
将来役立ちそうな科目	4,593	58.3
資格取得に必要な科目	2,031	25.8
希望する大学の受験に必要な科目	2,515	31.9
自分の良さを伸ばすための科目	2,354	29.9
単位取得が容易そうな科目	854	10.8
友人が選択している科目	489	6.2
特に基準はない	439	5.6
その他	92	1.2
計	7,884	100.0

問6 総合学科について満足している点 (複数回答)

満足している点	生徒数	%
興味・関心等に応じて選択できる	5,360	69.4
多様な選択科目が開設されている	3,310	42.8
進路等に目的を持つことができる	2,256	29.2
地域の社会人等から学ぶ機会が多い	936	12.1
体験的・実践的な学習活動ができる	1,445	18.7
単位制なので自分のペースで学習できる	975	12.6
進路にも就職にも対応した教科等を選択できる	2,730	35.3
教員が熱意をもって指導している	846	10.9
施設・設備が充実している	1,371	17.7
幅広い人間関係を得ることができる	1,387	17.9
ホームルーム活動や課外活動が活発である	888	11.5
その他	189	2.4
計	7,728	100.0

問7 総合学科について不満足な点 (複数回答)

不満足な点	生徒数	%
興味・関心等に応じた選択ができない	822	11.9
選択科目の分野や数が不十分	1,331	19.3
進路について考える時間が必要	1,939	28.1
地域の社会人等から学ぶ機会が必要	964	14.0
体験的・実践的な学習活動が必要	1,026	14.9
進学が難しい	1,364	19.8
就職が難しい	559	8.1
教員が熱意をもって指導していない	985	14.3
施設・設備が不十分である	1,662	24.1
人間関係が希薄である	667	9.7
ホームルーム活動や課外活動が活発でない	814	11.8
その他	585	8.5
計	6,895	100.0

問8 総合学科で学ぶことへの満足 (%)

性別	満足	ほぼ満足	やや不満足	不満足
男 (n=3,195)	594 (18.6)	1,793 (56.1)	607 (19.0)	201 (6.3)
女 (n=4,643)	1,240 (26.7)	2,688 (57.9)	599 (12.9)	116 (2.5)
全体 (n=7,910)	1,843 (23.3)	4,533 (57.3)	1,218 (15.4)	316 (4.0)

問9 総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」を学ぶ意義

(%)

学ぶ意義	そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからな い
働く意義を理解し将来の生き方や進路に目標を持つことができる (n=7,850)	18.1	53.8	17.2	5.7	5.1
学ぶことの意義や目的を理解し、総合学科における教科・科目の適切な選択に役立てることができる (n=7,843)	16.5	54.2	18.6	5.1	5.7
自己の興味・関心、能力・適性等、自己の個性について理解を深め、伸ばそうとする意欲を持つことができる (n=7,848)	22.7	50.7	17.1	5.0	4.4
社会人の講話や職場体験をとおして異なる世代とのコミュニケーション能力を高めることができる (n=7,849)	20.4	44.1	22.4	7.5	5.7
調査・研究、それに基づく発表・討論・職場体験等を通じて、主体的な学習態度を身に付けることができる (n=7,847)	16.2	47.4	22.8	6.8	6.8

問10 「課題研究」について(「研究課題」を学んでいる生徒のみ回答)

(1)「研究課題」で取組んだ内容

(自由記述)

(省略)
------

「課題研究」を行う意義

(%)

行う意義	そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わから ない
(2) 3年間の学習のまとめを行うのに有意義である (n=5,676)	14.5	36.5	28.3	13.6	7.1
(3) 「課題研究」は自分で課題を設定し、学習計画をたて、自己の個性を伸ばすことができる (n=5,674)	21.8	42.5	19.5	9.6	6.6
(4) 「研究課題」は調査・実験・研究、作品製作、体験的な活動等を通じて主体的な学習態度を身につけることができる	18.2	45.0	20.3	8.7	7.8

問11 総合学科をよりよいものとするための提言、要望等

(自由記述)

(省略)
------

### 第3章 総合学科における成果と課題の自由記述

# 1. 教育課程について

(番号:資料整理の為の学校番号 全:全日制 定:定時制)

番号	全・定	問12(1)a 教育課程についての成果をご記入ください。
1	全	本校は平成7年に普通科から総合学科に改編したが、改編前は入学志願者の減少、中退者の増加が大きな課題であった。その対策としてとりくまれた総合学科への改編により、それらの課題が大きく改善された。
3	全	生徒の進路や興味・関心に応じて多様な科目が設置されており、生徒はそこから自分の時間割をつくることができる。現在、5つの系列が設置されている。普通教科の科目や商業・工業などの専門科目とともに、中国語や手話などの学校設定科目も設定している。学級編成にも進路指導上の工夫を行い、進路先についても、国公立大学から就職まで幅広い。
4	全	設置当初には系列に関係なく科目選択ができていたが、安易な科目選択により、学力が身に付かず、資格取得等の実績が上がっていなかったが、系列毎に「科目選択の縛り」を設けて、成果が上がってきた。(例)情報ビジネス系列で3種目1級取得者が出るようになった。
5	全	全年次に国語、数学、英語の科目を1科目以上選択するように義務づけており、総合学科として基礎学力向上に取り組んできた。地域振興系列では、「地域の歴史と文化」、「地域の産業と経済」、「地域の自然と観光」などの独自の教科書を使用している。健康福祉系列では、訪問介護員養成研修2級を取得させている。学校設定科目は21科目あり、生徒の希望進路、興味関心に応じて、幅広く開設している。少人数の授業も多く、生徒1人ひとりの個性・興味・関心・適性などを発見し、最大限伸ばして、将来の生き方に結びつけることのできる能力を育成してきた。
6	全	4年生大学をめざす生徒に対しては、進路希望にあわせた教育課程を作成し、学力を向上させ、多くの生徒が進路希望を達成することができた。外国語・体育・家庭・情報・芸術を専門に学びたい生徒に対して、多くの専門科目を選べるようになっており、教養を広げ進路に役立てることができた。学校設定科目を多数設け、「能力・適性」、「進路目標」、「興味・関心」にあわせて選択できるようになっている。
7	全	2、3年次の科目選択において選択できる科目数を確保することで、生徒の興味関心に応じた科目選択ができています。
9	全	・生徒個人の希望に応じた科目選択を可能にしている。・学校設定科目など、生徒に合わせた科目を多く備えている。・本校の特色を中学生にアピールできている。・総合学科として、調べる・まとめる・発表する・聞くなどの力が身につけている。・受験に必要な科目や、総合学科の特色となる科目は少人数でも開講し、多様な生徒に対応できている。
10	全	総合学科の主旨を生かし、生徒がどんな職業に就き、どのように生きてゆきたいかを考えさせ、科目選択をさせるよう自由度の大きな科目選択を行ってきたが、科目の系統性、専門性等を考慮し、総合選択ではあるが、科目毎の履修条件等にしばりを入れて今日に至っている。科目を選択する事、その事が、キャリア教育の第一歩となり職業を意識した将来の夢を探す取組が出来ている。
11	全	普通科の時には設定されていなかった科目が設定でき、生徒の実態に応じた選択が可能となった。資格取得に対する取り組みが増えたことで、学習目標にチャレンジする意欲の向上が見られ、上級級取得にもつながった。
12	全	7校時授業で多くの科目を履修させ、大学進学においては、推薦だけでなく、センター試験による国公立大学進学者が数人出るに至った。
13	全	多くの選択科目を設置することで、生徒の幅広い能力や適正、興味や関心に対応できる授業を展開できるようになった。その結果、生徒の授業に対する意欲が高まり、多様な進路選択が可能となっただけでなく、生徒の個性の伸長も深めることができたと思われる。
15	全	芸術に関する科目が多く設定されており、興味・関心を持つ生徒、進路に直結している生徒等にとっては他校には見られない成果を上げている。
16	全	開設当初は、系列の専門性を深めるために数多くの系列専門科目を開講していた。しかし、すべての系列において継続性の強い科目が多いために基礎学力を身につけるための普通教科の履修が困難であった。本校では、一つの系列の指定科目を履修させるため、系建の指定科目の中に基礎学力養成のための普通教科を配置した。また、系列を問わず履修可能な科目も配置し科目選択の自由度を高めた。地域に関連の深い自由選択科目を配置し履修させている。(中国語入門、郷土芸能、論語の世界等)
17	全	生徒個々の進路指導に応じた教育課程編成が出来ていると思われる。
19	全	・本校の実情に応じた教育課程、および科目群をほぼ確保できた。 ・生徒の興味・関心と地元で大手自動車メーカーを有するため、平成18年度に導入した「自動車工学」が人気を得ている。
20	全	本校の教育課程は、普通教科から農業・商業・福祉などの専門教科まで7系列116科目で設定しており、科目選択群により若干の縛りはあるものの、原則として系列を越えた科目選択を広く認めている。生徒は自己の進路希望に応じた科目選択をしており、4年制大学進学から就職まで幅広い進路に対応することができている。教育課程の見直しを通して、特に専門教科では、多種多様な資格取得を可能にするとともに、4年制大学専門学科の推薦入試へも対応できるような科目揃えを行った。本校は農業・商業・普通科の3校が統廃合されて設立された学校であり、地域的なニーズに応える教育課程となっている。
21	全	総合学科になり自由選択の科目が多くなり、多種多様な進路に合わせたカリキュラムが一人一人実現できるようになった。クラス単位(40人)の枠に無理矢理することによっての不本意な科目履修がなくなり、意欲的な生徒が多くなった。
22	全	・自由選択科目をなくし、生徒の進路希望に対応したコース(選択必修科目群)をつくったこと。
23	全	総合学科設置当初(H12)は、選択科目のほとんどが自由選択科目であったが、外部向けにはユニークな学校と謳っていたが、生徒の80%以上が進学を希望していたが、大学受験に対応できる教育課程に改訂した。新しい教育課程では、系列の縛りを強くし、総合選択科目を多くした。これにより、国公立大学受験にも対応できるようになった。また、授業もクラス単位のものが増加し、生徒のホームルームへの帰属意識も向上し、生活に落ちつきが出てきた。
24	全	・1年次「立志学」(産業社会と人間)、2年次「進取学」(総合的な学習の時間)、3年次「耕道学」(総合的な学習の時間・卒業研究)の授業を通して自分の将来の進路や生き方を様々な体験的学習を通して考えることができ、また、進路実現を目指して2年次以降の科目選択を自ら行う事ができる等、3年間を通してのキャリア教育が体系的にできている。 ・生徒のカリキュラム検討会を充実させる事により、より効果的な科目選択の指導を実施できた。 ・専門科目の履修を通して自分の進路実現への見通しを立てることができ、卒業後の進学先・就職先とのミスマッチを防ぐことができる。
25	全	生徒一人ひとりの適性や、進路実現に向けての科目選択を行っている。評定が「1」の生徒が減少し、中途退学者も減少している。
26	全	幅広い選択肢の中から生徒一人一人の進路・興味に適合した時間割をつくることできる。
27	全	生徒の選択希望を最大限実現すべく教育課程を組み当初は2・3年混合の講座も開講していた、平成15年度から進路実現に向けての基礎学力の充実を目的として、選択できる単位数を減らし、国語・数学・英語科目を全員履修とした。現在国語は「現代文」を2・3年の2年間で6単位履修させ、3年次には学校設定科目の「数学課題研究」「英語課題研究」を履修させるようにしている。また3年次の選択科目に理科科目を増やすなど幅広い選択ができるように工夫を続けている。



29	全	・科目選択のシステムとタイアップした教育課程により、生徒の多様な進路に対応できるようになった。・特色ある教育課程が編成でき、中学生・保護者へのアピールがしやすくなった。その結果、本校志望の生徒が多くなった。・多くの専門科目を設定でき、より深い専門知識を身につけた、即戦力として社会で活躍できる生徒が育っている。・総合学科として、選択科目の中に、時代のニーズに対応した学校設定科目を設定しやすく、魅力ある教育課程が編成できる。
30	全	系列を大きくグループ分けし、それぞれのグループに進路につながる性格を持たせることにより、進路意識を持たせることができた。
31	全	平成18年度入学生より、定員160人(4クラス)から120人(3クラス)となり、教員も減ることが予想されたので、教育課程を大きく変えて、総合選択科目の精選を行った。来年度で各年次3クラスの学校が完成するが、全体的にはスッキリしたカリキュラムが出来たと思う。
32	全	2年次、3年次では選択科目として外国語科目、農業科目、工業科目、商業科目、情報科目、福祉科目等の非常に幅広い分野の科目を設定しているため、生徒の多様なニーズに応えることができた。
33	全	・科目の選択幅を広く設定し、生徒の多様な進路に応じているため、進路への意識など生徒の主体性が確立されてきた。
34	全	・現在2年次で16単位、3年次で22単位の選択科目を設けている。年2回の履修検討会議を通して、進路に適した時間割であるか検討し、指導・助言を行っているが、基本的には生徒一人ひとりが主体的に時間割を構築しているため、従来と比較して学習や資格取得に対して前向きな生徒が増えたと考えている。・進学と就職においては、それぞれ対応する講座を5教科で設置しているため、特に3年次の就職希望者においては、目的に合った学習を行うことができています。
35	全	生徒は、進路や興味・関心に応じて編成できる「自分だけの時間割」で学習を進めていける総合学科のシステムに対し、概ね好意的に受けとめている。
37	全	多くの普通科目、専門科目から一人一人の進路に応じた科目選択が可能となった。
38	全	・多彩な科目を設定することで、生徒の幅広いニーズに対応することができた。・「産業社会と人間」の展開をとおして、生徒の目的意識及び進路目標が早い時期に設定され、各自の将来の人生設計に基づく進路に応じた科目選択ができ、学習意欲の向上が見られた。
39	全	生徒の希望を重視した様々な進路に対応できる教育課程である。学校設定科目は特に、実技系で多く、専門性の高い授業を受けることができるようになっている。また、少人数で実施でき、いきとどいた授業ができる。
40	全	幅広く自由度を高めた科目選択に魅力を感じ入学してくる生徒も多く、入学者選抜においては、毎年高倍率が続いている。
41	全	興味・関心や進路希望に応じた柔軟な科目選択ができるので、学習意欲の向上や目標設定の明確化につながっている生徒の数が改編前よりも多くなったとともに、中途退学や進路変更をする生徒の数も減った。生徒減による教員定数減には、各系列が開設する科目の内容や数の見直しによって、ほぼ系列数を減らさずに、選択の幅を保っている。
42	全	島にある唯一の高校という環境から通学する生徒には多様な進路希望があり、国立大学進学から、就職と、広範囲に対応できる教育課程が実施できている。
44	全	・多くの学校設定科目を設置することにより、生徒の多様な興味・関心、進路に対応してきた。・1年次の「産業社会と人間」と2年次からの総合的な学習を通して生徒の進路目標を明確にしてきた。
45	全	職業観、勤労観が普通科高校より身につく。
47	全	生徒の幅広い進路に対応した科目選択をおこなっている為、少人数の授業も開講でき、きめ細やかな指導ができる。
48	全	高い能力と強い意欲を持つ生徒を対象とするオプションの選択科目群を設置し開講している。また生徒の進路実現においてこの科目が有効に機能している。
49	全	・各系列ごとにも科目選択ができるように将来の進路について考える時間を設けている。1年次生では「産業社会と人間」2年次では、「リサーチⅠ」の中で、職業意識や勤労観を培い、科目選択に結びつけている。
50	全	生徒の進路希望や興味・関心に沿った科目選択が可能で、できるだけ自由度の高い教育課程をつくってきた。
51	全	大学等への進路選択に必要な教科・科目を効率的に学習することができるとともに、興味・関心のある分野の科目を重点的に学習することができる。
52	全	生徒に個性化・多様な意識をもつ者が増えた。
53	全	進路希望、興味・関心から科目選択ができる。
54	全	いろいろな選択科目の授業を開講し、生徒の多様な進路希望、興味・関心に応じることができている。
55	全	福祉系列の科目の効果的な配置により、訪問介護員はもとより、介護福祉士の資格を取得できている。総合技術系列では、実習科目を、内容毎に独立させることにより、技能士3級や溶接技術者の資格を多数取得し、県下の工業高校に引けをとらない実力を身につけている。また、国公立大学対応の講座を設置することで、センター試験に向けた学習ができ、チャレンジする生徒が増えてきた。
56	定	多様な選択科目を用意することで、生徒の目的に応じた履習が可能となっている。また、1講座あたりの選択者が少数になりやすく、きめ細かい指導ができる。
57	定	入学時に系列選択とコース的な学習による教育課程を選択しているため、3年間の学習内容がはっきりしていて、計画的に学習でき、また進路意識も高めることが可能である。反面、総合学科として、将来の職業とできる専門性の高い学習に至らない欠点がある。ただ進路を変更したい場合でも、転学や転科の必要がないので、柔軟に対応ができる。
58	全	・平成8年度に普通科から総合学科に改編以来、「生徒一人一人の時間割」を前面に出し、2年次からは多種多様な科目から自分の進路に沿った自由な科目選択をさせてきた。(当時の文部省が描いていた、理想的なものに沿っている)・改編当時は、「産業社会と人間」の観点からも自分の将来のことを考えながら積極的な科目選択ができていた。(卒業生は各分野において、リーダーシップを発揮しながら積極的に取り組むとの評価を得ている)
59	全	多様な科目選択をするため、生徒の進路意識が高まった。
60	全	・多くの選択科目を設定することで、ある程度生徒の興味・関心に応えることができた。・少人数での授業が多く、生徒へのきめ細かな指導ができる。・生徒が自ら科目を選択することで、授業に対する意欲が向上した。・学校設定科目の導入により、授業の幅が広がった。
61	全	・生徒の進路や興味関心に応じ、幅広い内容の教科や特色ある学校設定科目を設定するよう努めている。・系列選択は2年次からとし、1年次に「産業社会と人間」などの授業を通してじっくりと自分の将来や適性について考える時間がとれる。
62	全	系列の学習内容を生かした進路選択ができている。
64	全	・「産社Ⅱ」による進路意識がある程度上がっていること。・生徒の希望する科目の選択により、意欲がある程度上がっていること。
65	全	2年次からは各自の自己責任において、100科目近い科目の中から自由選択させていたが、進路保障を充実させるため、国語、英語などの共通履習科目を増やした。また、7限を全年次に設定するなどし、基礎学力の定着を図っており、特色のある学校設定科目も多く、人気もある。

66	全	・100を超える選択科目の中から、生徒が自分の進路実現のための科目選択ができる。・1年次の「産業社会と人間」、2年次の「総合的な学習」、3年次の「テーマ学習」などを通じ、各自の興味関心に応じて、進路について調査研究ができるようになった。
67	全	・福祉系列等を設けることにより、目的をはっきり持った生徒が多くなった。・朝の読書指導や特進クラスの設定など、特色のある学習環境が生まれた。
68	全	・系列積み上げ型(各系列の専門科目を年次を追って積み上げて学習していく。)や、系列横断型(複数の系列の科目を選択し、卒業単位取得を目指す。)など、各生徒が自分のニーズに合わせて科目選択し、自らの進路開拓や卒業資格取得が可能である。・進路変更が起きた場合、柔軟に対応できるシステムになっている。・少人数による授業展開ができている。・資格取得や増加単位の制度がある。
69	全	自分の興味・関心のある科目を選択でき、進路実現のための必要な学習を深めることが出来る。
70	全	各系列に関する科目数が多く、個々の進路希望に対応した指導ができた。また科目数が多いので少人数制の授業が行えた。
71	全	・科目選択の幅が広がったことにより、学びたい事が学べる学校に近づいた。・理科や地歴・公民などで選択必修科目が履修できなくても、次年度に配列されている別の科目を履修すれば必修条件が整う等、従来より柔軟な履修体型となり、原級留置を嫌って退学する等の生徒が減少した。・進路目標に応じた教科・科目の選択が可能となりそれぞれの目標達成に効果を与えている。
72	全	多様な選択科目の中から、生徒の興味関心や進路希望に応じて生徒自身に科目を選ばせていることから、各自の能力・適性を伸ばし、それぞれの生徒の進路希望を実現させている。また多くの体験活動を通じて表現力や問題解決能力等確かな学力を身につけさせている。
73	全	改編当初の教育課程は、多様な選択科目をできるだけ自由に選択させることになっていたため、時間割編成・クラス編成に問題があった。改編して3年目から、多様な選択科目は生かしながら、時間割編成、クラス編成に考慮した教育課程に改正した。この結果多様な選択科目とHR活動の両立が可能になった。
74	全	・多様な選択科目の配置により生徒の科目選択に関する満足度が7割を超えたとともに、学習意欲も高まった。・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を通じたキャリア教育の推進により生徒の進路への意欲が高まり進路実績(進学・就職)の向上につながった。
75	全	従来、自由に選択させていた科目を、選択困難であるとの生徒の声も取り入れ、6系列15タイプに整理して、生徒の選択しやすようにした。
76	全	・生徒の多様な進路・適性に対応した教育課程の編成。・1年次の「産業社会と人間」をベースに、2年次・3年次の「総合学習」「課題研究」を通して、生徒の興味・関心・個性を育て、将来の進路への自覚をうながす。・生徒個々の科目選択に対応した時間割の作成。
77	全	・大学受験に必要な科目を配置した。・必修科目を最少限におさえ、多様な科目を配置することにより苦手科目を履修しなくて済み、単位制とも併せて、進級への不安が減少した。このことが心の安定を招き、学校が落ち着いてきた。
79	全	平成9年度の開設当初は、系列をあくまで科目選択の目安として運用していたが、他の総合学科と同じ様に、生徒は、テストのない科目等を選択し、「ぬるま湯」学科と言われるような状況となった。学校として、ある程度の系統だてた学習をさせるために、拘束力の強い新しい系列を導入した。
80	全	総合学科の理念に従いつつ、生徒の進路保障も念頭に置いたカリキュラム編成を行なっている。他校に先がけての「総合的な学習の時間」の設置等、先進的な取り組みをこれまで行なってきた。キャリア教育を重視し、「産業社会と人間」から「卒業研究」への3年間の流れを確立している。
81	全	学年進行に伴ない学習の積み上げ型の教育課程を組んでいる。自由選択科目以外の科目については系列のしほりが大きい系列の特色を最大限に生かした学習ができている。(系列が学科やコース並みの扱いになっている)
82	全	生徒のニーズに対応したきめ細かい指導が、可能で様々なパターンの時間割が実現する。
83	全	本校はそれまでの普通科、総合学科を再編する形で開校した。開校にあたって、地域の小中学校の児童、生徒、その保護者にアンケートを実施し、その希望を叶えるには総合学科を設置し要望の多かった教科、科目を系列としてまとめることとし、国際・情報・環境科学、食・花・交流、人間・福祉を設置した。連携型中高一貫校として生徒の様々なニーズに応え、小人数のクラス編成を実施し、きめの細い指導を行なうことで地域の信頼を回復した。
84	全	生徒の多くが、自らの在学中の選択科目に則した分野への進路決定をしている。本校の教育課程やその内容が生徒に受け入れられ、興味を持って授業に参加されていることの証しである。
85	全	多様な選択科目を5系列の設定趣旨にそって設定し、生徒の学習意欲にきめ細かく応えることができている。
86	全	学校設定科目の上限がないので、進路や興味・関心に応じた多くの科目を工夫し、増設することができた。
87	全	・多くの選択科目を設置できたことにより、生徒の進路希望や興味関心に即した多様な授業展開を行うことが可能となった。・専門知識を有する外部講師を登用できたことにより、普通科では学べない特色ある授業編成を行うことが可能となった。・選択科目の単位数を最大限に広げ、共通履修科目を極力少なくすることで、生徒個人個人が実態に即した時間割を組むことが可能となり、効率よい学習を行うことができた。特に、学力レベル(難易度段階)ごとの少人数講座を開設することで、学力の低い生徒も高い生徒もそれぞれに自己の力を伸ばすことが可能となった。
88	全	実業(農業、工業、情報)を伴う総合学科のため、1年次前期に、それらの授業内容を体験学習させている。1年次後期より、選択科目を設置。
89	全	2003年度から2学期制を導入し、実授業時数が確保され、行事日程も組みやすくなった。1年次「産業社会と人間」、3年次「課題研究」、総合的な学習の時間と連動させながら、教育内容に特色を出している。
91	全	2学期制を取り入れ、2年後期・3年前期・3年後期の3度、選択科目の変更を可能とし、進路により適応した科目選択をさせている。・進路変更に対応できる。
92	全	多くの選択科目と学校設定科目を置いたことによって一人一人の生徒の進路と興味関心に応じた科目選択が出来た。生徒の学習意欲も高く、教員も意欲的に授業が進められた。特色ある授業が、特に学校設定科目で実施できた。
93	全	大学受験、資格取得など明確な目的をもって、教育課程を編成しており、多様な生徒に対して、幅広く進路保障をすることが出来た。
94	全	以前の商業科・普通科の資源、情報教育の蓄積、地元の中学生とその保護者へのアンケートの結果をもとに、ビジネス・マルチメディア・福祉健康・総合教養の4系列を設け、時代の要請と地域の期待に応える教育課程を編成することができた。
95	全	本校は普通科と総合学科(工業・商業・情報など6系列)の併置校であり、生徒の学力差、進路志望なども多様である。そのため教育課程に生徒の多様な興味関心、適性などに対応した科目を選べるように多くの科目を配置して、生徒の希望に答えている。
97	全	本校の教育課程は『商業・工業の専門を生かした多様な進路を保障する「総合学科」を構築する』ことを目標とし、そのための方法論として『進路を考慮して編成された「科目のセット」を生徒に選択させる』ように編成している。つまり1科目ごとに選択するかしないかを選ばせるのではなく、3～4科目をセットにした「科目のセット」を複数、生徒に提示をし、どの「科目セット」を選択するかを生徒に決めさせることとした。そのため科目の系統性・発展性について担保ができたと考えられる。

98	全	分野(系列)を選択し、その後に分野で定めた科目を選択させるため、目的意識を比較的明確に持たせたいという指導ができる。このため、それぞれの分野を中途半端に学習することがなく、それぞれの分野(系列)目標が達成しやすい。
99	全	生徒の多様な興味・関心・進路希望に対応できるよう、6系列を設定し、2年次以降に(24～32単位)教育課程において多様な選択を可能にしている。このシステムにより、生徒の進路希望実現に成果をあげてきたと考える。
100	全	・国公立大学への入学者が増えた。・資格取得にチャレンジする生徒数が増えた。・国家試験受験資格が得られる。
101	全	・生徒の多様な進路希望に対応する学習内容が保障できる。・キャリア関係科目の設置により成果が上がっている。・プレゼンテーションの機会が豊富で、課題を「発見し、調べ、まとめ、発表する」能力が身に付いてきている。
102	全	制約が少ないので、自由に科目を選べるので、総合学科のメリットを生かしている。
103	定	必修科目を含め、ほとんどの科目が年次を定めない自由選択科目であるため、生徒の進路志望状況や生活状況等に応じた弾力的な科目選択が行える。
105	全	自由選択科目をなくし、英・数・国を三年間通じて必修としたことで、基礎学力の充実と、進路に応じた力をつけさせ、生徒が楽な科目に流れないようにすることができた。
106	全	「自分の時間割を自分で作る」ということで中学生の入学希望者が多く集まる。
107	全	生徒の希望をできるだけ尊重し、講座を開講してきた。生徒の夢の実現という進路指導を第一義として考え、県教委のバックアップもあり、本校の指導体制として確立したと思う。
108	全	約150の選択科目を準備し、また選択科目の中に約40の学校設定科目を準備するなど、多くの生徒の興味・関心・適性・進路希望にできるだけ高い次元で応えられるよう工夫している。情報機器を利用した教育や専門学科以上の教育内容に配慮している。
109	全	2、3年生が一緒に受ける授業を開講することにより、選択できる科目の幅が広がった。
110	全	本校の教育課程での選択制は総合学科の前提となる総合選択科目群と自由選択科目群から当然成り立っている。選択の状況によっては、時間割や教員スタッフに多大な影響を与えることになる。そこで本校では学科改編以来、生徒の進路の方向に沿った科目選択ができるようにする特色ある教育課程編成と生徒の主体的な選択に影響を与えない範囲内での科目選択の方法に取り組んできた。具体的には、進路に応じた選択モデルを生徒に提示し、生徒が自分の進路と関係した科目の選択ができるよう配慮している。このことにより、総合選択科目群のねらいである進路選択に主眼をおく科目選択の在り方をより確実なものとしていくことができる。
111	全	総合学科の理念を生かす学校としてずっとその理念を持続している。具体的には系列のしぼりがなく、自由に科目選択が可能となっている。
112	全	生徒の進路適性・興味関心等に応じて各系列ごとに系統性を持った多くの科目を開設し、選択することができている。ただし、生徒は安易な考え方で消極的な科目選択を実践する傾向があるので、きめ細かい指導を行っている。
113	全	1年次の「産業社会と人間」において、将来を見据えた系列選択の指導時間が十分確保されている。シラバス等を使つての科目選択もしっかりされており、どの系列からでも進学、就職のどちらにも対応できるカリキュラムである。
114	全	・系列による科目選択の制限をなくし、幅広い選択履習を可能にした。・自分の進路希望に沿った選択科目による学習が2年次より可能になる。専門性のある科目の学習や体験的な学習により進路意識を更に豊かにし、決定した進路について進学後あるいは就職後に不適合となることは少ない。・幅広い科目の履習により自分のさまざまな可能性をさぐることで生涯学習の基礎を築くことにつながる。
115	全	・生徒の進路希望の実態を踏まえて、教育課程編成の見直しを毎年行うことができた。
116	全	学年の区別によらない教育課程の編成や実施を図り、各系列の特色を生かした教科、科目の開設をして、生徒一人ひとりが、自己の進路目標、興味・関心に応じた科目選択が、できるようにした。
118	全	「生きる力」を育むために、進路にあった専門的な知識を身に付けさせることを目標におき、教育課程を編成している。そのため、生徒は系列に所属し、目的意識をもって学習に取り組んでいる。
120	全	・国社数理英と専門教科を柔軟に選択できるカリキュラムになって来た。・基礎力を重視し、国数英に単位数を上積みして実施している。特にオールラウンドな国語力の養成に力を入れ、就職や推薦入試に成果が上がっている。
121	全	・系列の特徴を生かした教育課程の編成が進んでいる。
122	定	生徒の選択の幅が広がったと思われる。
123	全	興味・関心に応じて、また、自分の進路志望に応じて、かなり幅広く自由に科目選択をすることができる。そのため、授業に対する満足度は高い。
124	全	介護福祉系列では、福祉系の単位数を大幅に増やすことにより、ここ数年就職希望者の大半が福祉関係の仕事に就いている。また介護福祉士国家試験の合格率も60～80%を保っている。情報系列の生徒も、情報処理検定やワープロ検定に積極的にチャレンジして良い成果を上げている。
125	全	・系列を重視した科目選択により、安定した進路指導ができるようになった。・少人数による授業を増やせる。
126	全	・総合学科の特徴である「産業社会と人間」において企業体験などを通じて自己の進路に対しての自覚を深める契機となっている。・郷土芸能などの科目を学ぶことによりふるさとの伝統と地域の人々とふれあうことができる。
127	全	・生徒の興味・関心・実態にあった学校設定科目の開設。・地域の産業である陶芸や、芸術科目のみならず、総合的な学習の時間やLHR、産業社会と人間においても取り入れている。・可能な限り自由度の高い選択ができている。
128	全	将来の進路計画を立てるための学習「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」をとおして、適正な勤労観・職業観が培われている。生徒一人一人の興味・関心や進路希望等に応じて幅広い科目の選択が可能である。また、生徒は進学にも就職にも柔軟に対応が可能である。
129	全	学校設定科目(平成19年度は20科目)を数多く設け、生徒の多様な興味・関心や進路希望に対応している。
130	全	進学希望者が大多数であるため、2年次に学校必修科目(現代文・古典・数学Ⅱ・英語Ⅱ)を設定し、基礎学力の定着を図っている。3年次には進路実現に必要な大学受験科目と専門科目を多く配置している。成果の1つに、一般入試での大学合格者の増加が、あげられる。
131	全	・多様な科目の設定が可能になり、生徒の興味・関心や進路希望等に配慮した授業科目の開設が可能になった。・必然的に少人数学習の展開となり、温かくアットホームな雰囲気での授業を実現している。・また、主体性を重視した固有の時間割(カリキュラム)が、意欲的な授業への取り組みを促している。
132	全	大学との連携を積極的に進め、校外学修を拡大、発展させた。系列の所属感を高めるという目的で、系列の柱となる科目群を設け、体系的に学ぶことができるようにした。キャリア教育を進める中で、1年次の職場体験学習、2年次の県外進路研修が大きな役割を果たしている。
133	全	・大学進学希望者に対する選択科目を設けており、国立大学合格者につながった。・幅広い系列で選択科目を設けているため、生徒の進路選択の助けとなっている。
135	全	未定で卒業する生徒は減少した。
136	全	・就職希望者にも進学希望者にも柔軟に対応可能な教育課程。・5系列による多様な総合選択科目の設定。・習熟度授業の実施。・1年次、全生徒の就業体験実施。・学校外における学修の単位認定の実施。
138	全	本校では地域のニーズに応じて6系列である。各教科とも基礎学力の向上のため、きめの細かい指導を目指している。アンケートによると生徒の満足度は8割を超える生徒が満足・やや満足となっている。

139	全	系列の特色化・生徒が系列を意識して選択できる環境作り・系列に係る教科の重点的学習の推進
140	全	大学進学にも十分対応でき、生徒の興味関心や進路希望に沿った選択ができる。
141	全	多数の系列を用意し自由選択を原則とし、運用してきたため、生徒の選択希望を実現することが出来た。
142	全	・総合選択科目の設置に係る成果…自己の進路・興味に応じた科目選択が実現されたことで学習に意欲的に取り組む生徒が多く見られるようになった。・学校外の学修の単位認定に係る成果…意欲的に取り組む生徒が増えており、自己を高めようとする意識が目立つようになった。・教育課程全般に係る成果…豊かな学び方が可能となり、生徒の多様な可能性を引き出す教育課程となっている。
143	全	・実践的、体験的な選択科目の設置により、生徒の興味、関心を引きだすことができた。・上記の科目選択、及び個に応じたいい進路指導により進路決定率が普通科時代に比較して急上昇し、AO入試でも成果をあげた。
144	全	・学校設定科目を含め151科目を教育課程上に配し、117科目(普通教科科目63、専門科目16、系列科目35、原則履修科目3)を開講して生徒の主体的な科目選択を可能とするとともに、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」をキャリア教育育成の基幹とし、生徒の多様な進路希望の実現や興味関心に対応できる教育課程を編成している。
145	全	・幅広い選択科目を開発・設置し、講座群の充実を図ることができた。また、専門学校等と連携し、類似科目を設置してもらい、生徒を受け入れてもらっている。 ・多彩な教育活動を展開するため、高校間、高大間、高専間の連携充実を図ることができた。 ・開校当初は科目開発の促進の見地から、TTや少人数、習熟度別授業など積極的に取り組んだ。 ・「産業社会と人間」の履修内容が生徒個々の将来の進路実現や科目選択といった具体的な取り組みにより、直結するようになった。
146	全	・1年次より系列科目を選択できるようにしており、生徒の科目選択・授業への意識が高まっている。・生徒の興味・関心に基づいた選択ができ、多様な科目の学習ができる。また、自分の個性・適性・進路にあわせて主体的に学習することができている。
147	定	生徒に従来にない科目数の総合選択科目を選択させているが、科目の興味・関心や進路に応じて選択しているのが多いが、定時制では人間関係でも選択している生徒もいるが柔軟な選択が可能で良い成果を上げていると思われる。学習意欲の向上も認められる。
148	全	商業、工業、普通科からの統合改編校であったので多くの分野の教員の財産を生かし、9系列約150科目の選択科目をおくことができました。
149	全	・多様な選択科目があることでいろいろな価値観を持つ生徒が育っている。・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を柱にして3年間のキャリア教育を実践してきたが、3年次の生徒の進路決定率はほぼ100%で、希望進路先へ進むことができた。・希望進路分野が途中で変更になってもそれに対応できるシステムなので生徒の希望に十分対応できる。
150	定	開校6年目を迎え、4系列の専門科目の整備と生徒の実状に応じた学校設定科目の設置。
151	全	生徒の興味、関心をはじめ進路等から選んだ選択等を生徒個人個人に対応できる教育課程である。
154	全	・様々な選択科目により生徒は自分の将来に合わせた選択をし、生き生きと授業に参加している。・全体として進路選択時に自分がやりたいことを中心に考えることが多く、大学の名前に捕らわれていない。
155	全	・5系列教育がそのまま進路実現につながる面があった。(特に芸術系の系列→国立・私立美大への進学・スポーツ・福祉系列→体育大学、福祉系大学への進学等)・「総合的な学習の時間」「産業社会と人間」の授業により、調べ学習力の向上と課題解決力の向上がみられた。また、職業観を養い、その上に立った進路意識の醸成をはかることができた。以上のことにより、進学的にはAO入試の合格者が徐々に増えつつある。
156	定	・平成19年度より、受講登録は、年次進行の枠を撤廃し、オール・フリー化した。(ただし、保健体育を除く)・他部履修を年間10単位まで、学校外の学修を卒業までに20単位まで認めている。・学ぶ時間帯・学ぶ科目・学ぶペースを自分で選べる。
157	定	本校はチャレンジスクールとして、生徒の努力を卒業に生かす様々な制度がある。①半期認定 ②資格取得、高校卒業程度認定試験の合格、専修学校との連携等、また実務代替も取り入れ、増加単位として認定している。また、クレジットバンキングと呼ばれる2年間の単位積み立て制度もある。
158	全	140講座の選択科目を設置して、生徒の多様な進路希望に対応できている。
159	全	1年次に「産業社会と人間」を2単位、「基礎選択」(農業科学基礎、環境科学基礎、測量)を2単位設置し、勤労観・職業観を身につけ、自己の適性を知り将来の目標をしっかりと持たせるとともに、2年次以降の系列で学ぶ専門分野の知識技能の一端を体験できるようにしている。これらによって生徒個々の進路希望に即した系列選択を可能にしている。さらに、系列では各種の資格取得、検定合格を目指して指導している。
160	全	・多くの講座を開講できるので生徒の選択の幅を広くできる。・卒業後の進路や資格取得等、目的意識もてる生徒は、自分に適した時間割を作成できる。また、目的意識の低い生徒でも、自分の好きな科目を多く履修可能なので、比較的充実した学校生活を送れる。
161	全	・選択科目が多くあることで、生徒が自己の希望に応じて選択できることは、生徒にとってとても良い。
162	全	生徒の多種多様な進路希望に対応した教育課程が編成できた。
163	全	生徒の進路希望や興味・関心に合わせた学習ができる。
164	全	・本校は、四年制大学希望者が圧倒的に多いので、昨年度からユニット制の科目選択に移向し、将来の進学に対応できるよう工夫している。・平成20年度入学生からは、国公立大学への進学の系列と、資格取得によるAO入試に対応する系列を新設することがすでに決っている。
165	全	普通科系の進学型総合学科という方向を目指して、教育課程を編成して来た。
166	全	平成18年度に大幅な改訂を実施し、系列の特色を生かした科目選択を行えるようにした。選択を系列をもとにパターン化した。
167	全	・多種多様な科目を設置できており、生徒のニーズに応えている。そのため、幅広い進路選択を実現している。・「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」の中で、キャリア教育の充実が図れている。
169	全	類型によるコース制ではないので、生徒の多様な進路に合った科目選択をさせることができる。
170	全	・自由度の高い選択方式で生徒の様々な進路に対応することが可能。・学校設定科目の設置により学校の特色を出すことができた。
171	全	・科目選択に於いて、2度の予備調査を経て決定するので、生徒の希望を集約した教育課程になっている。・生徒が進路に必要な科目をとらず、進路を狭めてしまうことが多々あったので、ガイドラインを策定し、進路に沿った科目選択をしやすくした。・大学入試センター試験における国立大学の5教科7科目に対応しようとすると週の授業時間が不足するため、2日ほど7時間までの授業を実施している。(一部生徒)
172	全	・H18から統合により新校になった。・昨年10月末のいわゆる「未履習問題」後、グレーゾーンを一掃。上記2点を契機として、教育課程が全校的な力を結集して「みんなで関わる、誰でもわかる」ものになった。
174	全	生徒が興味・関心のある科目を多く選択履修できるようになった。充実した授業を展開できることが多くなった。進路に応じた科目選択ができるようになった。

175	全	進路に結びつく特色ある教育課程が編成できる。また、学校のビジョン、目標の設定が教育課程に反映できる。
176	全	“個性をみがき夢をかたちに”をキャッチフレーズに生徒の興味・関心・適性、進路により、生徒が自由に時間割を作れることを重視し、進学・就職・資格取得等の実現を図ることができた。
177	全	生徒の現状に合った科目設定ができるようになった。
178	全	・自分の進路に合わせて科目選択ができるので、進路実現に焦点化した学習ができる。・少人数授業で、きめ細かい個別指導を行うことができる。
179	全	6系列を設定し、100を超える選択科目の中から自分の進路や興味・関心に応じた科目選択を行っている。普通科に比べ選択の幅が広いので、進路に合わせた学習ができる。資格取得にも十分対応できる。
180	全	生徒の進路希望に十分対応できる様に、多種多様な特色ある科目を用意し、選択できるようにした。特に就職に対応できるよう簿記も情報教科も増やしたため就職の実績及び各種資格試験の合格率も向上した。
181	全	・系列によるしぼりがない選択科目により、生徒の興味・関心が高く、進路に必要な科目選択ができたため、授業に対する意欲が高い。
182	全	様々な学力を持った生徒に対応する講座を設定した。具体的には演習科目が多かったが、生徒の興味関心に応じた科目も増やした。
184	全	4年生大学進学、センター試験対応、就職、生徒の興味関心等に応じた様々な進路実現に対応できる教育課程の編成を目指し、多様な科目を設けてきた。その結果、生徒の多様な進路希望に応じることができている。また、多くの専門科目、学校設定科目を配置することにより生徒の個性や興味を伸ばす教育ができたとともに、特色ある学校づくりをすることができた。
185	全	系列にとらわれず自由に科目を選択できる点が、本校総合学科の大きな特徴である。
186	全	生徒個々の興味・関心に応じた科目選択が可能となった。
187	全	平成16年度以降、特色ある教育課程の改編により、系列を選択し、系統的・発展的に学習を積み上げることににより、学習の深化・発展が図られている。上級資格、検定の取得につながり、生徒の学習意欲も高まっている。また、このような資格や学習の成果を推薦入試、AO入試に生かし、就職試験においても面接の力となっている。
188	全	普通科時代では、実現できなかった専門科目や普通科科目においても多様な科目を学ぶことが可能になった。職員定数が増え、学校が活性化した。普通科から改編された全国初(平成17年)のケースであるが、本校のような学校でも総合学科が成立することを証明した。
189	全	系列の特色を生かした科目の配列にしている。自分の進路や興味や関心により系列の枠を超えた、選択も可能である。進学を希望する生徒は、志望校の受験科目にあわせて選択ができる。
190	全	平成19年度入学生より、各系列でその特色を生かした大学進学ができるように教育課程を改善した。例1. 国立理系を希望する場合に、3年次に理科Ⅱ3単位を2科目選択できる。例2. 専門系列で、国公立推薦入学を志望できる科目を配置した。
191	全	・系列の特色化…特色ある教科・科目の開設。・少人数学習。
192	全	本校では、単位制・総合学科として“総合選択制”を採用している。生徒一人一人の興味・関心に合った科目や、生徒の多様な進路希望達成のためには、どのような科目が必要かを研究し、学校の実態や地域の要望、教育体制に即した教育課程の改善に努めてきた。総合学科が本来の意義において、多様な生徒が共に学ぶ中で、それぞれの進路希望の実現や知の統合化を通して、生きる力を育める場となるように様々な工夫をしている。
193	全	平成18年度入学生から新しいカリキュラムに移行し、現在、2年次まで移行中である。新しいカリキュラムの2・3年次の選択科目は、系列から選択する部分と自由選択の部分に大別される。2・3年次で同じ系列を選択するため、以前のカリキュラムよりも系統性のある選択ができるようになった。
194	全	総合学科の特性を生かし、生徒の多様な進路希望に対応した、選択科目を用意し、6系列のコースを準備している。各系列では系列目標達成のため、特に資格取得に力を入れ、多くの生徒が合格している。
195	全	・各系列とも特色を活かした授業が展開でき、進路決定や資格取得でも効果が上がっていると感じる。
196	全	平成18年度入学生から、4つの系列を整備。それぞれ系列の特色を生かし、必要な科目を充実させた。上級学校への進学を希望する生徒に適切な教科科目の履習が行われるよう、言語・自然科学系列では5教科(国、社、数、理、英)の内容を整えた。介護福祉系列、自動車系列は資格取得に必要な科目が多いため、従来以上に単位数を増やした。商業実践系列では就職に必要な簿記、情報等の科目を充実させている。系列間で選択科目を用意したので、系列ごとの時間割を組めることとなる。
197	全	進学型の総合学科として各自の進路希望に応じた科目選択に対応させる教育課程が編成されている。そのことにより進学実績を順調に伸ばすことができた。
198	全	開設科目・講座をできるだけ増やすことにより生徒ひとりひとりに合わせた科目選択を実現している。
200	全	・11からなる系列総合科目群を生徒に選択させる教育課程を編成した。その結果、次の成果があった。ア 系列ごとに弾力的な時間割編成が可能になった。イ 系列の特色を活かした科目がバランスよく履修できる。ウ 時間割が簡素化された。・専門性を失うことのない教育課程である。
201	全	生徒の多様な進路希望に応えられるように、各系列の選択科目を充実させた。AO入試など、各大学等の受験に対応できるように教育課程を編成し、成果をあげた。
202	全	・生徒の進路に、ほぼ対応した科目選択を実施することができた。・3年次においては、7クラス編成とし、コース別クラスにより充実かつ効果的な指導をしている。
203	全	本校は進学を目指す総合学科として普通科科目の学校設定科目を多く開設し、進学するために必要な学力の向上を目標に取り組んでいる。総合学科としての卒業生はまだ2回しか出していないが進学率は年々上昇している。
204	全	・多様な普通科科目と専門科目の中から、生徒が自分の興味・関心にあわせて選択できるようになったので、以前より意欲的に取り組むようになった。・目標(系列)に沿った科目選択ができるようになり、大学進学率も向上した。
205	全	系列化や選択科目増により、少人数化や生徒の興味・関心を引きながらの授業を展開できるようになった。
206	全	・多数の選択科目、少人数による授業展開。・学校間連携による科目選択の拡大。・7校時を活用した講習と資格取得の奨励。
207	全	・系列を編成し強化するとともに、各系列ごとのモデル時間割を提示することで、安易な選択がなくなってきた。・選択人数が少数でも生徒の進路選択によっては、開講するようにしている。
208	全	多様な選択科目を設置することで、幅広い生徒の学力や進路希望に応えることができる。数学や理科では全国模試での偏差値が5～10ポイント上昇した。また、低学力層の生徒に対して数学と英語で基礎科目を設置し、基礎基本の定着を図っている。約70%の生徒が基礎科目を希望しており成果が見られる。
209	全	本校では、総合学科への学科転換に向け、系列設定のために広く町民やPTA、中学生等にアンケート調査を実施し、予想以上に広範囲の分野の要望があったが、施設・設備や近隣高校の専門性も考慮し、5系列を設定した。それぞれの系列の特色を生かすとともに、生徒の多様な進路希望と地域の要望に少しでも応えるため、一般教科・科目の他に多くの学校設定科目を準備した。特に、本校独自の学校設定科目として「羊と織物」、「伝統音楽」、「ハングル」、「社会福祉実習」、「発展体育」、「ダンス」、「器楽」、「声楽」等においても地域の人材を活用したT・Tの授業を実施し、効果を上げている。



211	全	・「産業社会と人間」の実施に伴うキャリア教育の充実により進路意識の向上が図られ、生徒自らが意図した科目選択が可能となり、学習意欲の向上が見られた。・多様な選択科目の設置により、少人数教育など個に応じたきめ細かな学習指導の実践が可能となった。・各教科の個性に溢れた学校設定科目の配置に柔軟に対応できるなど、単位制の利点を生かした魅力ある教育課程の編成が可能となった。
212	全	生徒や地域の実態に応じた教育課程の編成につとめている総合学科の趣旨を生かし進路実現に結びつけた選択科目の設置。「産業社会と人間」「自己探求」「課題研究」の学習を通じたキャリア教育の充実。
213	全	・教員数の増加により、多様な選択科目を数多く設置できるようになった。また、地域民間講師の活用によって、特色ある内容の科目を設置することができるようになった。
214	全	・生活福祉系列科目履修者が「介護福祉士」国家試験を受験し、平成18年度は受験者全員合格するなど、高い合格率を維持している。・少人数での授業展開により、生徒一人ひとりの興味・関心に応じたきめの細かな指導を実施することができる。
215	全	生徒の適性・能力・進路等に応じた多様な選択科目を設定することにより、目的意識をしっかりと持って授業に参加する生徒が増えている。/選択科目を絞ることにより、進路に応じた科目の選択が適格に行われている。
216	全	資格に対応しながら、進学に必要な科目もカバーできるようになった。
217	全	目安としての系列は設けているが系列にとらわれずに選択できるようにしている。
218	全	選択教科科目が以前より多くなり生徒の興味関心が授業の成果としてあらわれてきたと感ずる。(授業への取り組み方が積極的になった)
219	全	・テクノロジー系の選択科目を順序だてて履習していくと工業学校長協会主催のジュニアマイスターシルバークラウド賞を受賞することができます。・系列にとらわれることなく選択科目を選べます。・いろいろな分野の資格取得が可能です。
220	全	それぞれのコースに応じて必要な科目をバランスよく配置するように工夫した。系列ごとに履修可能な科目群を配置することによって、科目間の連携も可能となってきており、3か年を通じた教科指導などにも少しずつではあるが、成果を挙げてきている。
221	全	以前に比べ、生徒各人の進路に合わせた科目選択が可能となった。
223	定	本校の生徒は中学校時代不登校・学力不足・特別支援教育を必要とする生徒の割合が高いため、それらの生徒が本校における3年間の高校生活を通して基礎学力を身につけさせると共に自信を持たせるようにしているが、その結果、かなりの高い割合いで中学校時代の諸問題が改善され、大学・短大・専門学校への進学や就職へと卒業生は活躍している。
224	全	総合学科になり生徒に積極性が出た。
225	全	生徒の学力向上に直結する内容を中心とした授業にしているため、進学実績に反映している。
226	全	・個性の発・伸張・特技の伸張)自己への自信とつながっている。・楽しく学べる→学習への意欲が強まっている。・希望進路達成に向けて又意欲を持った学習態度姿勢が身に付いている。・中学校まで不登校だった生徒が意欲的に登校する様になっている。・人間関係が広まり友達作りの場が増えている。
227	全	多様な開講科目の中から学ぶ科目を自分で決定できるシステムにより、自己の進路を考える機会を多く持つことができるようになった。(進路意識の向上)
228	全	・生徒が一人一人進路を考えた教育課程を作るので、自らの進路に対する意識や、学習意欲も高くなる。・進路の変更にも柔軟に対応できる教育課程が可能であり、生徒が最後まで意欲をもって学習できる。
229	全	生徒の興味関心に基づいた選択授業が可能。
230	全	2年次より、生徒の興味や関心に応じた科目選択がある程度までは可能になった。
231	定	幅広く選択科目が開講されることになり、低学力の生徒に対応するため数多くの基礎的科目を開講することが出来た。 ・例えば「ゆったり国語」「ゆったり数学」「ゆったり英語」である。 上記科目の開講により中学校からの総復習となり、生徒の多様な興味と関心に対応することが出来た。 ・例えば「職業研究」「運転基礎技術」「音楽技術基礎」「演劇演技基礎」など。 多様な科目の開講により、中学校にほとんど行っていなかった生徒を含めた不登校経験者や高等学校を中途退学した生徒など、多様な生徒を受け入れることが可能になった。
233	全	・生徒の進路希望が未定のまま入学してくる現状において各系列毎に生徒に様々なニーズにこたえるべく選択科目を用意できた。・3単位の基礎実習という科目を1年次に設けて、各系列の紹介や内容等の把握をさせた。
235	全	総合・自由選択の時間を9単位～12単位にとどめ残りは学級でできるようにしている。なるべくホームルームをくずさない様している。情報を各学年2単位実施、ワードからエクセル、パワーポイントまで基礎をマスターできるようにしている。1年1学期より各系列ローテーションを行ない、各系列を選択する。1年時より系列を選択できるようにしている。本校では系列が決まると科目も決まるようになっている。さらに各学年毎に系列変更も可能である。これにより生徒の多くのニーズに答えている。
236	全	自動車エンジニア系列は国土交通省「3級自動車整備士」を、製菓系列は厚生労働省「製菓衛生師」養成施設指定、健康スポーツ系列はスポーツ実習(ゴルフ・水泳実習)があり、ITビジネス系列と総合実務系列では就職に有利な資格を取得している。
238	全	進路対策のための学校設定科目「小論文」「時事問題」「基礎教養」などを開講したので就職希望者、推薦入試で受験する生徒のニーズに応えることができた。2年次からの選択科目による授業で、自ら選んだからか、全体的には成績が向上したように思える。
240	全	・科目選択による主体性の育成。・1年次の「産社・産理」。2年次からの選択学習、3年次「卒業研究」での主体的な課題への取り組み等による学習目的意識の育成。
241	全	本校では、総合学科設立当初より科目選択の自由度を高めることを、教育課程作成の第一義としてきた。当然、系列の主幹科目の体系的な履修計画をも可能にしなければならない。生徒の夢の実現のために、教員がしっかりと汗をかくことを優先することで、総合学科の教育課程としては、理想に近づくことができたのではないかと考えている。このようにして作成した教育課程の元で、生徒達は真剣に職業や産業について学び、その上で自らの将来の在り方を考え、それに基づいて高校における科目選択を決定するという理想的な進路選択・科目選択を実施することができている。

番号	全・定	問12(1)b 教育課程についての課題をご記入ください。
1	全	ここ数年は、進路指導やキャリア教育の充実が本校の課題であり生徒のさまざまな進路に対応するため、平成18年入学より国公立大学進学にも対応できるように教育課程を改編したところである教育課程編成上の課題としては、①時間割編成の複雑化とそれに伴う教師の持ち科目、持ち時数の負担感。②特殊な科目の非常勤講師の確保。③生徒一人ひとりの進路に応じた科目履習ガイダンスの充実。④「産社」と「総合学習」の系統付け。
3	全	・生徒の受講希望状況やそれに伴う開講可能な科目数や教員の配置等を総合的に進めていかなければならない。・生徒の受講希望に偏りがあったり、教員の確保が難しい場合は計画通りに実施できない状況も出てきている。・受講人数に制限を設けなければならない科目もある。・系列についても必ずしも生徒の進路希望に直結したものになっていないものがあるので見直しが必要である。
4	全	生徒の系列選択にばらつきが生じ、調整がうまくいかずに授業がやりにくい教科・科目があること。教職員数の削減により、開設科目を減らしたり、授業内容を工夫したりしているが、施設・設備等が十分でない場合、教育効果が上がりにくい。(例)農業は施設が少なく職員も少ない。理科は教諭2名。
5	全	・弾力的な教育課程とガイダンスの充実。・基礎・基本の定着。(基礎学力の向上)・自主性の育成と実習や体験的な学習の積極的導入。
6	全	センター試験及び2次試験に対応し、さらに学校設定科目等学びたい科目を選択するための教育課程を組むとどうしても総単位数が多くなってしまい、放課後の時間の確保が難しく、面接・会議・特別活動などの時間が十分に取れない。
7	全	毎年、授業時間数が減っており科目選択の幅が狭くなってきている。科目数を維持することは1人1人の仕事量が増えることになり多忙感が増している。
9	全	・科目選択が本人の進路希望と確実に関連していない場合がある。・1年生の1学期から科目選択がはじまるため、十分に考える時間がない。・生徒の選択した科目だけでは、基礎学力の充実が図れていない場合がある。・全授業時間数が総合学科発足当時より、2/3に減少されている現状があり、これ以上の削減があった場合、時間割を組むのが難しい。
10	全	教師側の負担は年々増しており、せっかく専門の先生がいるのに生徒が科目選択しないため、専門の力を発揮できなかったり、不得手な分野でも担当しなければならない等課題が多い。生徒の科目選択を可能な限りかなえようと努力すればする程持ち時間等が増え、時間割が複雑で入れ替えがきかず、教師の出張等でも自習が多く発生する。また共通の会議の時間を作ることができず、いきおい放課後の会議が多くなるため、生徒との触れ合いの時間が少なくなる等の課題がある。
11	全	地域の生徒数減により、次年度より募集定員が1クラス分減少する。教員配置数も年度毎に減少するため、カリキュラムの精選が急務となっている。地理的条件により、非常勤講師の確保やキャリア教育に関する取り組みなど、やりたいこととできることを学校の実態をふまえて判断しなければならない。
12	全	科目の自由選択が、生徒の安易な方向への流れに繋がっている。進路別カリキュラムなどを検討したい。
13	全	多様な科目の設置は、教職員の負担増加(多種類の教材研究・テスト作問など)や施設設備の拡充・各種物品の準備等の煩雑さを招き、教育的に効果がある授業を行うために多大な労力を要する場合が多い。そのためには人的・物的・予算的な支援の充実が望まれる。また、総合学科は単位制という原則のため2学期制を導入している場合が多いが、学期が長期休業により分断されるなど、日本の風土に馴染まないとの指摘もある。
15	全	基礎学力を充実させるための教育課程、あるいは履習方法の工夫。
16	全	・大学入試等に対応できる科目配置の見直し。・専門系列が進学する生徒に対応できる履修科目の見直し。・就職希望者において、各種資格取得に対応できる科目配置。
17	全	・科目選択シートについて、2年次にA～H群、3年次にG～N群から選択するが、この各群に、どの科目を入れるかが、例年、課題になる。・「産業社会と人間」2単位、と「総合的な学習」3単位の計5単位が他教科を圧迫している面がある。目標が違うことは、十分認識しているのですが、一部代替は無理でしょうか。
19	全	・求人状況を反映して、工業技術系列選択者が多く、農業環境系列やビジネス系列選択者が少ないこと。・訪問介護員(ホームヘルパー2級)の資格についての法改正に対する措置として、福祉サービス系列の位置づけを介護・医療・看護系の進学に移行し、そのための新たな科目の導入を検討すること。
20	全	本校の教育課程は、本校が開校する以前に、統廃合された3校の職員によってその大筋が決定されたという経緯がある。したがって、開校後数年間は入学してくる生徒の実態や進路希望に必ずしも十分に対応できる教育課程ではなかった。そこで、開校4年目の平成18年度より教育課程の抜本的な見直しに着手し、本校のビジョンに沿った教育課程再編が2年がかりで一応の決着をみた。しかし、本校に入学してくる生徒の実態は年々変化しており、平成20年度からの学級数削減も目前にして、生徒・地域社会のニーズや学校規模に応じた教育課程にさらにバージョンアップしていく必要に迫られている。
21	全	科目選択の自由度を増すことによって、教務関係の仕事が煩雑になり、定期考査の時間割作成にも多大な時間がかかるようになった。また、生徒に十分なガイダンスをしないと、必要な科目よりも楽な(好きな)科目だけを選んでしまい、進路実現が遠ざかってしまう。
22	全	・生徒の実態に対応したコース内容の充実。
23	全	系列を強化した為、自由選択科目が減少した為、総合学科らしさが、多少失われた感があるので、平成18年度生が3年次生となる来年度くらいから、さらに教育課程の変更を検討していく必要がある。
24	全	・開設当時と比較すると、学級減の影響で、人的配置・予算上の措置が十分とは言えず、生徒の多岐にわたる選択希望や進路希望に応えようとしても、教員への過剰負担を避けるような時間割編成がむづかしい。・新転任教師の総合学科のシステムや「産業社会と人間」への理解に時間がかかる。・「カリキュラムガイダンスが総合学科の生命線である」という大命題に対する教師の意識が希薄になってきている。・カリキュラム決定のために科目選択のモデルを教員や生徒に提示すれば、科目選択はスムーズに行われるが、生徒はモデルを参考にカリキュラムを決定するので、選択の理由や自ら選択したという意識が薄くなる傾向がある。系列による学習の深化が損なわれ、モデルに示されていない科目の選択者が少なくなり、教科間での受講人数にばらつきが出たりする等の弊害が生じる。
25	全	科目選択が興味・関心の方向に流れ、易きものを選択する傾向が見られる。このため、難度の高い科目を選択する生徒が減少し、進学実績を残せない状態である。
26	全	選択肢が多すぎて、混乱する生徒がみられる。3年次での系列の変更が困難である。
27	全	スポーツ、フードデザイン、芸術系などの実習中心の科目に人気が集まり、数学Ⅱ、物理Ⅱ、世界史Bなどを選択し大学進学を目指す生徒の少ないことが課題となっている。
29	全	・科目選択群に入れる科目のバランスが難しく、その影響で、教育課程の編成がより複雑になった。
30	全	少子化の影響や介護福祉士国家試験の法制上の変更により、教育課程の見直しが急務となっている。

31	全	福祉サービス系列は、介護福祉士の国家試験受験資格の取得を目指し、それぞれに応じたカリキュラムを編成している。現在、厚労省の方針で高校だけではその受験資格が得られないような法改正が進められており、今後、福祉希望者にどのような教育を提供できるか大きな課題である。
32	全	生徒は将来の進路及び自分の興味・関心等の理由で履修したい科目を選択するのだが、設備、各教科の教員数等に制約があるため、全ての生徒が希望通りの科目を全て履修することは不可能である。そういう状況の中で、生徒のためにもなり、かつ本人が納得できるように履修科目を決定していくことは非常に難しい。
33	全	・大学入試の科目数が増える傾向にあり、科目選択の幅が狭くなってきている。・卒業生の進路実績が固まってくるにつれ、生徒も教師もそれをモデルにして、選択の幅を狭めている。
34	全	・教員数・教室数に限りがあるため、生徒の希望を全て叶えることができず開講できない科目が毎年数講座ある。・本校では「産業社会と人間」を1年次で2単位「総合的な学習の時間」を2・3年次で3単位実施している。普通科とは異なる教育課程のため進学における近年の多様は入試形態に教育課程が対応しきれない。
35	全	本校は総合学科としては、小規模で、3系列しかなく、生徒の多様な希望には、必ずしも対応できていない。
36	全	資格取得指導への対応。
37	全	生徒や保護者のニーズに合った教育課程の編成をすることが大切である。
38	全	・基礎基本の定着をより高めるための必修科目の増加と、総合学科の特色である科目選択のバランス。・講座選択者が少人数の場合、どこまで希望に応えるか。・易きに流れる生徒への指導(対応)・2年次以降に進路目標を変更した生徒への対応。
39	全	各教科とも科目数が多く教員の負担が大きい。生徒が安易な選択に流れないように指導していくことも多く、すべての生徒が意欲的に授業に臨める教育課程を組むことの難しさがある。必修科目を増やすと大学等の進路の選択肢は広がるが、生徒の自由選択は減る。
40	全	生徒減にともなう教員定数の減少は、選択科目の削減に繋がり学校の特色とは言いにくくなってきた。
41	全	時間割作成・調整、科目選択指導やその調整などが煩雑になったので、コンピュータを使い作業をしているが、労力が必要である。また、各教科の教員数が少ないので、時間割がとてつもないくらいに難しく、選択の幅をできるだけ維持しながら総合学科としての教育を施すことが不可能になりつつある。
42	全	自由に科目選択ができるため、安易な科目選択に流れる生徒がおり、個別面接などを通じ進路指導を行うなど一年生から進路指導に多くの時間を必要とする。また非常勤講師数が多くなり、講師の確保、生徒への指導面でのバラつきが嫌念される。
44	全	・2単位科目が多く、科目の内容をじっくり教えられないため十分な学力がついていない。・キャリア教育の視点をふまえて教科・科目や総合的な学習の時間及び特別活動の相互関連を図り「生きる力」を育てていく必要がある。
45	全	・教員が少人数の為幅広い選択科目が用意できない。・年次で系列によるコース制に近い状態にせざるを得ない。・進路目標が明確でない生徒も多く安易に選択する。・年度により選択人数の変動が大きい。・専門教科(工業)からするとものたりない、中途半端。
46	全	ここ2・3年で生徒数減により開講できない授業がある。中学生の数が全体的に減少しているためクラス減になった。講座を担当する教員も非常勤講師が担当する数も増えてきた。
47	全	より生徒の進路希望に沿った教育課程の創造。
48	全	生徒が実際に選択する科目が特定の科目に偏る傾向があり、実際に開講する科目が少なくなっている。
49	全	・学力の向上が強く求められている中、時代のニーズを合う、総合学科とはどんなものか、検討していく必要がある。・少人数の学校であるので、個に応じた、キメ細かな教科指導がおこなえるように、その都度、教育課程を検討していく必要がある。
50	全	入学定員の減少によって、生徒数、教員数が減少していきなかつた、多数の選択科目を維持していくことが困難になってきている。規模の小さい学校での新たな総合学科の姿を求めていく必要がある。
51	全	進路希望によっては、どの系列にも属さない場合があり、系列の選択を柔軟に扱うか、系列の見直しを行う必要がある。
52	全	多様な進路志望に対して、十分な開講が難しい。
53	全	テストがないなど、安易な科目選択や、何を選択していいかわからないなど選択が重荷な生徒が目立った。
54	全	看護や福祉の科目について、指導者の確保が年々困難になってきている。
55	全	生徒のニーズと学力、進路の保障をするために、多くの選択科目を開講しているが、それを時間割として組み合わせると非常に複雑なものになる。その結果、同一教科の複数科目講座を同時開講しなければならないなどの状況から、教員数がどの教科においても不足する傾向にある。また、工業や福祉などの実習を伴う講座は、施設、設備による受講可能人数に制限があり生徒の希望に添えないケースが出てくる。教員数の増加を希望し、内容の縮減ではない対応をしたいと考えている。
56	定	講座数が多くなり、教員の負担が増す。系列の科目が増える一方で、教養科目の選択が減り、生徒の基礎学力保障の点で課題が残る。
57	定	本校では、「総合学科」に加えて、「単位制・定時制」という観点でとらえる必要もあり、卒業要件を最低限で満たせばよいという、安易な生徒が比較的多い。このような状況の生徒には、希望と現実の差が大きい。系列やコース的な学習としての、ポリシーやマインド教育が難しい。
58	全	・改編当時は積極的な科目選択ができていたが、最近は単位の取得のみで、「易きに流れる」科目選択の傾向が危惧される。・校内での教育課程を柔軟に変更できていないことで、総合学科の魅力を中学生にアピールできていない。(平成19年度入試の一般入試において、志願者が0.9倍という結果になった)・日頃から人間として必要な素養を身につけるための、新しい学校設定科目等が今後必要である。(マナー講座的なもの)
59	全	時間割が組みにくく、学級編成が難しい。
60	全	・モザイク授業が多く、時間割の作成と日常の変更が困難になった。・生徒の興味・関心に応えられるような教育課程の模索。
61	全	・単位制のため学年ごとの落第がなく、成績不振の生徒が学習意欲を持たないまま進級し結局は中途退学するケースが見られる。・単位制というものの大学のような自由度の大きな教育課程は教員数の上から組むことができない。自由選択科目や異学年講座の数もクラス減にともなう教員数減で維持が難しい状況にある。
64	全	・幅広く科目選択が可能であるため、系統だった学習が難しく、選択科目間の関連が薄くなる傾向が見られる部分もあり、専門性の深化・発展性がはかりにくい。・生徒数の関係もあり、もっと多くの科目の開講を行いたいのが難しいこと。
65	全	科目数が多く、科目によっては希望生徒少数(10人未満)のため開講できない科目も毎年ある。また、非常勤講師の毎年の確保が難しく、科目の統廃合を検討する必要がある。
66	全	・総合学科導入から10年が経過し、系列の新設、統廃合を含めた改革の必要がある。・音楽科目の新設など生徒のニーズに応じた魅力ある科目を提供していく。
67	全	・よりよいカリキュラムの作成のため、毎年検討が必要であるが、科目数が多いことから困難な点が多い。・多くの科目設定が教員の持ち科目数の増加、打ち合わせ時間の増加など、多忙に繋がっている。



68	全	・単位制総合学科の弱点であると思われるが、自分の将来の進路を見通して科目選択を行うことより、目先の単位取得に走り、安易な科目選択で済ませてしまう傾向にある。・基礎的な学力の定着、及び専門的知識の深化が難しい。
69	全	・科目選択には条件があり、途中で進路が変わった場合、対応が難しい。・安易な選択に流れる場合がある。
70	全	科目数が多いため教師の負担が大きかった。たとえば専門教科以外の教科を教えたり、時間割で5時間連続授業など。専門教科に関しては非常勤講師が必要となるものが多く、専門教科の非常勤講師を探すのに手間取ったり、時割変更などができない状況である。
71	全	・全ての生徒が満足する選択群ばかりを作ることは、教師・教室等の制約もあり難しい。このため仕方なく選択する科目もあり、意欲がみられないものもある。・嫌いだから、苦手だから、必要ないから選択しないで卒業できるシステムで良いのかという疑問を抱えながら教育課程を毎年検討している。・全ての選択教科に専門の教員を配置することは難しい。非常勤講師のみで賄う教科(福祉・農業等)も転勤に伴い出来し、教育課程運営上の課題である。
72	全	入学直後から、様々なプログラムで自己目標の設定を促しているが、明確な目標が持てずに安易な選択を行うケースが見られる。全生徒に対して基礎学力の充実をはかることが課題である。
73	全	教育課程改正により、進路に応じて適切な科目選択ができ、生徒指導、学年経営の基盤となるHRの再生が完了した。今後は、多様な選択科目など総合学科の長所を生かしながら、学力の伸長に取り組んでいきたい。
74	全	・多様な選択科目の配置により時間割編成に困難が伴っている。・進路につながる科目と興味関心を満たす科目とのバランスのとり方が難しい。
75	全	上述の結果の反応をみまもらたい。
76	全	・専門教科・科目における専門性の高い指導者(講師)の確保。・教育効果のあがる時間割の作成。
77	全	・年次により進学成果のバラツキが大。・科目間の評価のバラツキが大きく、安易な科目選択を行う生徒がいる。・選択科目の中に「学びたい科目」がないという生徒がいる。進路意識も含めた学習意欲育成が大きな問題である。
79	全	この新系列で今春、はじめての卒業生をだすが、現在のところ順調に経過している。課題としては、各科目の充実に尽きる。各系列毎に核となる魅力ある科目をどのようにして充実していくかが課題である。
80	全	カリキュラムの複雑化により、時間割がいびつになりやすく、職員の負担が年々増大している。職業科目を履修する生徒が年々減少している。
81	全	個々の生徒にとっては系列選択後に科目選択の自由度がそれ程大きくなくなっているため満足度の低下の原因ともなっている。
82	全	系列を軽視した選択では、系列立てた学習ができず、系列の強化が課題である。
83	全	開校にあたって園芸科の教員が9名いる状況で講座を設定したが、改編により教員数が5名となり当初予定していた講座を維持することが困難となっている。本校の特色である広大な農場を活用した体験的な授業を提供しつづけることが必要である。生徒の変化により、農業関連の科目を受講しない生徒が増加していることも、講座の維持をむずかしくしている。
84	全	常に生徒達の進路希望の動向を把握し、その上で生徒のニーズに合った選択科目を開講していかなければならない。
85	全	生徒の関心の変化に対応した選択科目の新設、改廃をいかに円滑に行うことができるかが課題である。
86	全	多くなってきた選択科目をどのように整理していくのか。
87	全	教員の時間数の増加 生徒の選択希望を優先するには少人数の講座を多数開講する必要が出てくる。講師時数が保障されていないと教員の持ち時数が途絶えなく増大する。多様な選択科目を開講していくと、教員1人が担当する科目の種類が増加する。教材研究等の時間が確保できていないと科目の内容が低下する。科目選択の時期が前年の9月と早期のため、進路が確定していない者や、それ以降に進路変更した生徒は、その後の科目選択の変更が行いにくい。
88	全	教員数及び施設の関係で、全員第一希望にならない。
89	全	多様な選択科目を準備するため、教員の1人あたりの授業の持ち種類が非常に多い、そのため、教材研究や考査問題の作成に多くの時間が必要とされる。
91	全	3学期制を前提とした、休業条令となっているので、2期制が完全な形で実施できない。
92	全	少人数の授業が多くなり、教員数の確保に困難がある。1人の教員の持つ科目の種類が多く、また学校設定科目の教材研究には多くの時間と労力を要するため、教員の負担が大きい。大学受験で問われる普通科目の知識・理解が不足しがちである。(科目を自由に選べるため、継続しにくい)
93	全	年々登録生徒数が減少している選択科目の整理。福祉系列の存続。
94	全	総合学科開設時、1学年5クラス200名の生徒を想定した選択科目の構成となっているが、現在は1学年4クラス160名となっている。今年3月に総合学科第1期生が卒業した現時点では、学校規模に応じた選択科目の精選を含めた教育課程の見直し課題である。 また、福祉健康系列においては、訪問介護員制度の改革に関わって、将来の展望も含めた系列のあり方の検討を迫られている。
95	全	選択科目が多いため、また普通科との併置校のため、時間割編成が毎年困難を極めている。
97	全	上記のような特色を持つ教育課程であるため、「科目のセット」内の科目の入れ替えを含む微修正を年度ごとに行っている現状があり、常に進路の最新情報及び傾向には敏感であることが求められる。 また、「科目セット」の持つ進路上の位置づけについて生徒にきめ細かく指導する必要がある、担任面談やすべての教員がかかわる系列ごとの個別面談(系列ガイダンス)の重要性が高まっている。
98	全	分野(系列)別に定めた科目を選択させるため、それぞれの分野(系列)の選択科目の幅が狭くなる傾向にある。また、講座の編成も系列単位となることが多く、生徒の学習環境(人間関係)が固定される傾向が強い。
99	全	多様な選択科目を開講するため、正規の教員だけでは運営できなくなり、外部からの特別非常勤講師に頼らざるを得ない。
100	全	・沢山の科目があるが、数年開講されていない科目がある。・持っている力を伸ばしてあげられない生徒と授業についていけない生徒が現在の授業選択指導では出てしまう。
101	全	・生徒の7割以上が、2年次以降、英・数を履修する時間が極めて少なくなる。・従来の意味での「基礎・基本の学力」について十分に保障することができていない。
102	全	科目選択において、安易な方向に流れやすく、基礎学力の定着が難しい。
103	定	・資格に関わる系列(福祉関係)生徒の履修状況の把握と卒業までの計画的な履修の指導について。(縛りがきつい為、安易な選択に対する適格な指導の必要性) ・系列の帰属意識の欠如、単位修得率の向上等。
105	全	総合的学習の時間と、産業社会と人間の内容はかさなる部分が多く、できたら統合して活用したい。
106	全	・教員数不足 選択を多くすると実施単位数が増加し、非常勤講師を多く配置しなければならない。(本年は20名155単位) ・進学者向けの単位数不足 難関30単位で行うと進学者にとっては単位数が足りない状況になり苦慮している。
107	全	生徒の進路実現を考えるあまり、講座数が多くなり非常勤講師に頼らざるを得ない面が発生している。ある程度数はやむを得ないが、あまりにも多くなることは避けたい。

108	全	現行の教育課程が社会の急速な変化の中で時代遅れとならないよう、常に見直しが必要であるが、さまざまな制約がある中で、見直しには膨大な時間を要する。それをどう実現するかが課題である。産振設備の更新がかなわず陳腐化した機器により授業等を行っている。定期的更新をお願いしたい。
109	全	生徒の希望する系列や選択科目に極端な偏りが生じることにより、人数調整が必要になり、生徒の希望がかなわないケースが出ている。
110	全	学科改編から5年を経て、長期的な展望に立った教育課程の検討をする必要がある。各系列を軸として、これまでの本校の教育を検証することにより、あるべき姿を明確化しようとしている。その上でそれらを克服するための教育課程をいかに構築すべきかが課題となっている。その際に、特色ある科目をどのように配置するかが問題となっている。
111	全	定員減による教員数の減少で体制の維持がたいへん。
112	全	・多様な生徒の学習ニーズに対応するため、地域の教育力を利用することも考え、ユニークな科目を設置しながら地域との連携を図る。・1年次に共通履修科目を学び、2年次から専門科目を学んでいるため、高度な専門性を高めることが2年間でできない。そのため、1年次から各系列の専門性を高めるための科目履修が必要である。
113	全	系列を選択することが科目選択につながっている。とうぜん選択科目の数はしぼっている。これは、単位制総合学科の特徴であるところの選択科目を多く設定し、選択幅を広げることとは反している。どちらがよいのかは議論をよぶところである。
114	全	・職業観の形成や具体的な進路目標の設定など進路意識の確立、向上が科目選択の成果につながる前提である。科目選択が単なる個人の興味関心の反映に終わってしまうと、総合学科の特色が生かされないまま高校生活をデザインすることになる。まとまりのない科目選択を避けるために、総合学科の特色を十分に理解させることと進路意識の高揚が必要である。
115	全	・情報システム系列の履修希望者が年々減少している。・進学希望者が多く、選択科目群における普通科目と専門科目の配置に苦労している。
116	全	科目の内容、実習の有無、試験の難易などによって、選択をするという傾向や、時間割の編成上や、施設、設備の容量による選択の制限など、科目を自由に選択する上での困難な問題がある。
117	全	進路目的や興味、関心に応じた講座編成の工夫。効率的、組織的な科目選択指導。
118	全	所属する系列の選択がとても重要となり、そのためのガイダンスやカウンセリングをより充実させる必要がある。
120	全	・生徒の希望に柔軟に対応しているため、景気の動向、時代の流れなどによって、科目の希望者数が変動し、各教科の教員数とマッチしない場合がある。・加配をあてにして、開講している現状である。・基礎力の強化をさらに強力に進める必要がある。
121	全	・教育課程の中に、系列の特徴や独自性を多く盛り込んだり、また、科目間の交流や科目選択の幅を広げたりすることで、時間割の編成が窮屈になってきている。
122	定	系列にしぼりがたいため、統一的でない選択科目を選んでいる生徒も見られる。
123	全	大学進学者に対して、一般受験に耐えうるだけの学力をつけることが難しい。(進学後に必要な学力をつけることが難しい)
124	全	四年生大学をはじめ、進学希望者に対し開講されている科目がたくさんあるが、実際に四大希望者はきわめて少なく、カリキュラムが実情に合っていないので見直しが必要である。
125	全	・大半が選択科目となる2年次、3年次のクラス運営が難しい。・科目選択の際、安易な方向へ流れ易い。・時間割変更は不可能に近い。自習が増える。
126	全	自分の進路を見据えたうえで必要な科目選択をする姿勢と目先だけの興味・関心だけで選択する安易さをどのように指導するかが問題。
127	全	・時代や社会の要望に答えられる科目の用意。・学校全体として、また、個々の教員の指導力を含めた、ガイダンス機能のさらなる強化とその伝承。・自由度の高い選択であっても、必要最低限の読み・書き・計算の力をつけるための科目の履修の工夫。
128	全	普通高校や専門高校と比べて中途半端であるとの声もあり、総合学科の特色について、より周知する必要がある。生徒の主体的な科目選択・進路選択を促すためには、基礎学力の定着を図るとともに、自発的に学習に取り組む態度を育む必要がある。
129	全	少人数授業を開講するのが難しい。最近になり教育委員会の指導で10人未満は開講できなくなった(問3の(3))。特に理科・数学などの一部科目で希望者が少数で開講できず、進路にも影響がおよぶ。
130	全	・大学進学を希望しない生徒が意欲的に学習に取り組む3年間の成果を確認できる指導体制の確立。・2単位の授業が多く大単位での編成を望む声もある。
131	全	・取りたいものだけ好きなだけという自由な科目選択(バイキング方式)から、学んだ科目の系統性を重視した規制力のある分野選択(コア・カリキュラム)へと変更したが、規制の度合いが強すぎ、総合学科の看板である「自分だけの時間割」に反していないか検討してみる必要がある。・生徒数の減少により、クラス減となったときの現行のカリキュラム(6分野)の見直しが必要である。
132	全	1年次に入門、3年次に課題研究を置き、3年間の学びの集大成という形を目指してきたが、入学してくる生徒の質的変化(何をするかを考えずに入学してくる生徒の増加)により、課題研究の位置づけが難しくなっていること。
133	全	・講座数が多くなり、中には4～5人の生徒を対象としたものもあり、施設、教員数からの負担が大きくなっている。・ややもすると、楽な選択群へいく生徒が多くなるため、将来的な進路選択と合わせて、指導が必要となる。
135	全	系列にしばられる教育課程であり自由度がない。
136	全	・多様化する生徒の進路希望に対応可能な教育課程。・生徒の希望に対応可能な総合選択科目の開設。・普通科目の基礎基本の定着。・多様で魅力ある科目開設の推進として、社会人講師の活用、地域の大学との連携等。・学校外における学修の単位認定の推進。・単位半期認定の実施。
138	全	系列は6系列であるが自由選択であり易きに流れる傾向が見られる。
139	全	進学のできる総合学科を目指した、教育課程とその運用方法の検討。
140	全	より大学進学に十分対応できるよう受験科目を強化できるようにすること。多様すぎる科目の整理。
141	全	多数の講座が出来すぎ、時間板編成に苦慮している。
142	全	・総合選択科目担当者の、転勤等に伴うスムーズな引き継ぎ。・総合選択科目を登録する生徒の減少傾向に対する課題。・環境科学系列の科目や、数学・理科の科目を登録する生徒の減少。・教育課程の長所を引き出すガイダンス機能の充実。・「総合学科でどのように教育するか」という意識の職員の共有。
143	全	・定期試験のない科目を選んだり、座学を軽視する傾向の生徒がいる。・系列内での専門科目の系統性が低く、特色科目が羅列されているともいえる。
144	全	・基礎学力不足が国・数・英などの主要科目で目立っている。・科目選択の柔軟性が逆に安易な選択に流れる方向がある。1～2年次では共通履修にする科目をもう少し増やすことが肝要である。・空き時間の生徒の時間の使い方の問題も考えなければならない。・生徒の多様なニーズに対応して専門科目、系列科目について新たな科目の設置あるいは既存科目の見直しが必要とされている。

145	全	・時間割や人数制限の関係で選択したくても選択できない生徒が出る。 ・協力機関の開発や交渉は教員にとって不慣れな事務であり、積極性が求められる。また渉外活動が増えるに従って旅費の確保も課題である。
146	全	・非常勤講師、時間に減少等により、これまでのような柔軟かつきめ細やかな指導体制がとれなくなりつつある。 ・プログラム開発により積極的な教員と消極的な教員との間に協働関係が構築し難くなっている。
147	定	・順序性のある科目や必修科目の履修もれに伴う課題がある。・時間割編成作業の困難さ。・単位制であるための、年度途中の履修放棄。
148	全	可能な限り選択科目を増やしたいが、教員の持ち時間や講師担当時間には限りがあり、何とか増やしたいと考えている。
149	全	今後の教員減(今は過員状態です)又、女子生徒が増える中での工学系の科目のゆく末など整理すべき課題は大きいです。
149	全	・観点別評価を全科目において実施しているが膨大な評価・点検作業が必要で、本来生徒への指導のための時間が削られている。・進学希望者の増加に伴い、普通科科目を選択する生徒が増え、系列科目の講座が成立しにくくなった。
150	定	3部制による開設講座数の部ごとの偏り。単位制による年度途中での履修放棄。(未履修)
154	全	・特色ある選択科目の履修希望者が少ない。・外国語系Ⅰ・Ⅱについて、Ⅰを履修後Ⅱを履修するがⅡの選択希望者が少なく閉講の恐れがある。・科目選択は慎重に指導しているが選択後に問題が発生する。
155	全	・科目選択において昨今の生徒の4大、短大の受験志向による産験教科、科目偏重が目立ち、総合学科としての特色ある科目の選択が軽視されている。・生徒の選択性を重視するがゆえにまんべんない基礎教科の学力が定着しない面がある。
156	定	・Ⅰ部～Ⅲ部(午前・午後・夜間)までであるが、必修履修科目は、自部でしか登録できないため、組み合わせが制限される。・履修率約70%で常留生徒も多く存在する。・学校設定科目が多く、一人で5～6科目担当その為教員の負担が大きい。多数の市民講師と非常勤講師をかかえている。
157	定	単位制なので講座制を取っている。講座によっては受講者数についてアンバランスが見られ、科目登録の履修指導が課題である。
158	全	教員定数の削減、学習指導要領の改訂等を視野に入れ、教育課程の再編成の時期を迎えている。
159	全	・「産業社会と人間」について ①運用面をさらに工夫改善し、学年運営と連携を強化しながら、物習・見学・講話等を効率よく配置する。 ②各行事ごとに事前指導・事後指導の時間をとり、実習・見学・講話の意味を生徒一人一人に理解させる必要がある。・基礎選択の運用について ①2年次以降の系列の授業内容を十分理解させること。 ②各系列の「おもしろさ」を生徒に伝えるためのさらなる工夫・努力。・2年次以降の状況把握について ①2年次以降授業のほとんどがクラスを超えた、移動授業となるため、HR担任と教科担当者間の情報のやりとりが難しい。その為、生徒の出席状況の把握や授業態度等が担任に伝わり難く、きめ細かな生徒指導がやり難い。
160	全	・国語や数学等の基礎的な科目の必修履修単位数が少ないため、基礎学力の定着が難しい場合がある。・系統立てた科目の選択が望ましいが、現状では「つまみ食い」になっている。・科目選択が、単位が簡単に取れそうな「基礎～」に集まってしまう傾向にある。
161	全	・本校の場合、郷土・環境系列が弱い。・今後、廃止あるいは変更も視野に入れて検討する必要がある。・生徒の希望、ニーズに合わない科目、内容の設定があり、直す必要がある。・生徒の選択科目希望の偏りが生ずる。
162	全	進学希望者に対するより充実した教育課程の整備・編成。
163	全	安易な科目選択をする生徒や選択科目の履修を放棄してしまう生徒への対応。
164	全	進学への対応を過剰に重視すると、芸術、家庭科といった教科を選択する生徒が減少してくる傾向が見えはじめている。これらの教養科目とのバランスを考慮していく必要がある。
165	全	地域・保護者の進学希望の声と総合学科の理念との調整。
166	全	選択を系列でパターン化することで選択に制限が生じてしまうため、その制限をいかに解消できるかが課題となるが、職員数や設備面から考えて難しい。
167	全	・設置科目数が多いため、科目担当者への負担の大きさや、指導の難しさがある。・さらなる生徒のニーズに応える上で、様々な制限のあるなかでの教育課程の再編成。特に学年制を越えた科目設定の難しさ。
168	全	「産社」についての理解がなされていない。総合学科について、公的機関での研修が必要ではないか？
169	全	募集定員減少に伴う教員定数減により、少人数による科目の開講が難しくなっている。開講のための最小人数の見直しが必要である。実技科目を多く選択したり、2年次での進路選択の幅を狭くしすぎないように十分な個別指導が必要である。
170	全	施設、設備上、生徒が選択した科目を十分に履修することが出来ない。
171	全	・生徒が変われば選択も異なるので、毎年のように科目選択の変更を行わねばならず、煩雑である。・生徒の科目選択を優先させて、クラス分けや時間割作成を行うので、3学期から新年度にかけての時間割係は多忙である。・開講に必要な人数を5名以上としているが、5名集まらずに開講されない科目が毎年のように出ている。生徒の意にも添えなくて残念である。
172	全	総合学科の宿命なのだろうが、毎年科目選択を実施し(本校では9月から3回にわたる)、その上でようやく次年度のカリキュラム・時間割のベースが確定する。これを見届けるまで教員の持ち時数、非常勤のニーズが決らず、屋台骨がなかなか定まらない。昨秋の「未履修問題」後、一層窮屈になったのが実情である。
174	全	・生徒が希望する科目を必ず開講できるとは限らないので、不本意な科目を選択せざるを得ないこともある。 ・教室移動等に伴い授業時間にロスが出ることがある。
175	全	毎年、科目(講座)を選択する生徒の人数が変動する。科目数も多く、全体的に教員の持ち時間が増えている。教員の加配が必要である。習熟度別の授業を展開している教科は、さらに持ち時間が増えている状態である。
176	全	・平成20年度の学校支援システム(コンピュータ)の更新に伴い、これまでの時間割作成ソフトが使えなくなり、系列を中心とした時間割作成への移行について検討する。・介護福祉士養成の認定規準の変更に伴う指定時間への対応について検討する。
177	全	特色ある科目の設定や少人数授業を展開したいが、講師の確保や持ち時数の関係ですべてを満たすのは難しい。
178	全	・設定科目が多いため、講師の確保が困難である。・生徒一人ひとりの科目選択について十分な指導が必要である。
179	全	科目選択を1年次に行うため、進路変更等に対応できないところがある。今後、学級減等に備えた系列数の見直し、科目数の見直しが必要である。
180	全	当初設定した系列が、その後の入学生徒の実態や地域の状況と合わなくなっているので早期の検討を要している。
181	全	・基礎学力の定着の必要性があること。
182	全	部分的な対応を行ったために、時間割を作る時に無理が生じている。

## 2. 学校運営について

(番号:資料整理の為の学校番号 全:全日制 定:定時制)

番号	全・定	問12(2)a 学校運営についての成果をご記入ください。
1	全	県の学校編成整備計画で平成7年に普通科から総合学科に改編した。さらに平成12年には介護福祉科が追加され現在に至っている。学科改編される以前は地域でも教育困難校の一つであった。現在は改編前に比べて目的意識の高い生徒が多く入学してくるようになり生徒の勤怠状況基本的生活態度等が改善され、中途退学率も減少し地域からも学校はいい方向に変わったとの評価を受け校風も落ち着いてきた。このことは進路決定率が平成7年度の52.0%から平成18年度には80.1%まで向上していること、介護福祉科の平成18年度介護福祉士国家試験の合格率が78.9%(全国の高校平均50.4%)の高水準にあることや部活動加入率が平成11年度から平成16年度までの平均が51.9%であるのに対し平成17年度と平成18年度の平均60.6%まで向上していること等からも推測される。
3	全	・生徒の関心や進路を見据えて、主体的な科目選択が可能である。・職場体験や課題研究等、社会との関わりの中から自己の進路を考える機会を多く設定してあるため、目標や意欲を持つことができる。・1年時の「産業社会と人間」が進路選択に大きな役割を果たし、将来の生活設計に関する意識の向上が望める。・少人数指導、習熟度別指導等きめ細かな指導ができる。・総合学科への再編後、進学実績の向上、離職率の低下等の実績がある。
4	全	・総合学科ができて6年が経過。創設当時の「総合学科をつくっていい」「学校をよくしていい」とする職員の意識が今も色濃く残り、若手や転入職員に意識面でよい影響を与えている。・系列を設けることで、年々その方向性(履習科目・進路ガイダンス等)がしっかりしてきた。・地域との接触が活発化してきた。
5	全	県最初の総合学科設置校として1年次の「産業社会と人間」、2年次の「キャリアプランニング」、3年次の「課題研究」をリンクさせたキャリア教育の実践は、保護者や地域に信頼されている。生徒の興味・関心・進路希望に対応した多くの選択科目や自己の進路への自覚を深めさせる学習や生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習ができるようになった。
7	全	総合学科高校として8年目になり、保護者や地域の方から理解や信頼感も出てきた。これは、毎年1月に総合学科実践研究発表会を市内の文化会館で実施し、多くの参加を頂いていることにも起因する。また本校では、入学後より「見る力」「聞く力」「調べる力」「発表する力」を育成し、1年次では「産業社会と人間」2年・3年次では、豊南夢紀行Ⅰ・Ⅱ(総合的な学習の時間)で、それぞれのテーマに向けて生き方・在り方を主眼においた発表を行い、成果を上げている。学校生活全般においては、選択科目が多いので基礎学力の定着を図るために、漢字テスト・一般教養テスト等を定期的に行っている。いくつかの系列では資格取得を目標に国語・英語・家庭・商業関係の検定試験に合格をしている。その他、外部からの来校者には、学校見学で、授業参観も実施している。その中で、少人数による授業で生徒の真摯な取り組みに対して賞賛の言葉を頂いている。教職員は比較的若く、熱心に生徒指導や学習指導に取り組んでいる。行事も多く、特に1学期は総合学科に関する会議が多い。勤務時間を超過することもあるが、教職員はその時間をやりくりして生徒の指導を行っている。校内のシステム化については、総合学科設立時に当時の職員が、時間割・出欠管理・一括徴収金・科目選択・成績処理等の一元化したソフトウェアを開発し、かなり便利になっている。
9	全	・総合学科として本校が、地域に浸透している。・総合学科として本来の目的を十分に果たすことができている。・多種多様な進路保障が行なわれている。
10	全	総合学科高校として、生徒個々の進路希望や適性に応じた科目選択、ガイダンスを充実させながら、3年間のそれぞれの発達段階に応じたキャリア教育が推進できている。また、初めて総合学科を経験する職員に対して、総合学科の目的や意義を、組織的に説明するシステムが作られている。
11	全	総合学科の運営については、特定の部署に担当させず、全職員が担当者という意識で取り組んでいる。他校では、担当職員の異動により校務に支障が出るという事例を聞くが、本校では通常の校務の中で、引き継ぎが行われている。
12	全	総合学科となり、部活動も充実し、本校志願者が激増した。
15	全	総合学科が設置されてから、キャリア教育の一環として地域交流を深めたことにより、総合学科に対する認知度が高まった。また、各校務分掌の連携により、生徒一人ひとりの進路支援体制ができてつづける。
16	全	総合学科としての学校の態勢づくりを進めていった。生徒や地域の実態、そして職員の意識を考えた場合、以下の観点をふまえた学校づくりを進めていった。①系列とコースのとらえ方 ②系列主導による指導体制の強化。③学年、全体で職員全員が学校を見ていく。④職員共有の基盤を作る。⑤職員のやる気の向上。⑥学びの共有基盤の育成と確かな系列選択。 そして本校の教育活動をビジュアル化し、全職員が本校の教育目標を共通認識し、広報活動を行っている。また、職員研修等を開き、本校のめざす総合学科について共通認識を図り一丸となって教育活動を行っている。
17	全	入試の学力検査の点数が上がった。
19	全	・【「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」】を効果的に活用し、本校なりのキャリア教育の基盤が構築できた。 ・総合学科としての時間割と定期考査実施システムが完成した。 ・インターシップ、ボランティア活動、地元企業家を招聘しての講演会や面接指導など地域との連携を深める教育活動が展開できている。 ・以上のことから、総合学科高校としてのスクールアイデンティティを実現し得た。
20	全	進学一辺倒の教育から、主体的に学ぶ新しい学校として地域で定着し、中学生の高校選択の幅を広げることができた。体験を通して考えさせるキャリア教育により、それまで消極的であった生徒が見違えるように積極的な態度に変わっている。高校を単なる大学への通過点としてではなく、青春の大事な時期として、思い出深い高校生活を送る生徒が増えた。
21	全	教員一人一人のガイダンス機能を高めなければ、生徒の指導が出来なくなるので、以前よりも、各教員が教務的な内容、進路指導的な内容、すべてを理解してガイダンス指導が出来る教員が増えた。
22	全	コースを設定したことで、ガイダンスにかんする教員の時間が減少し、その分教科指導に時間をかけることができた。
23	全	総合学科になったことで、職員の仕事量が、かなり増加した、その為、各種打ち合わせや会議の時間を確保するのが困難で、その調整に苦慮している。今回教育課程を変更した事により空時間内での打ち合わせの時間がとれるようになりつつある。
24	全	・総合学科高校として新たな出発をして10年が経ち、地域に対して文化祭・体育祭等の行事や部活動をととしてその存在をアピールすることができるようになったこと。 ・「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」における様々な体験的な学習や道徳教育に関する研究推進事業の成果等をととして、3年間を通じてのキャリア教育ができるようになったこと。 ・様々な学校行事やキャリア教育に係る行事の準備・運営等あるいはカリキュラム作成についての生徒への指導を行うなかで、教員が普通科高校や専門高校では体験できない総合学科高校ならではの指導の在り方について学んだこと。
25	全	細かな科目設定の為、講座数が増え、教員数の確保につながっている。このマンパワーは、本校の教育力のよりどころとなっている。
26	全	教育課程に対する生徒・保護者の多様な要求に対応できる。
27	全	総合学科がスタートして入試倍率は常に1倍を超え、中学生からは一定の評価を得ている。また中途退学者が大幅に減少した。

29	全	普通科・専門学科とちがい、生徒一人一人が自分の将来を見すえて科目選択し、自分で敷いたレールをしっかりと進んでゆくことで、つまらない優越感や劣等感を抱くことがない。つまり、すべての生徒が主役になることができる。教員についても、普通科や専門学科においては、主力組と控え組というふうに、力を入れる教科と、やや控え目になる教科に分かれてしまうことも多いように思うが、総合学科においては、教員すべてが主力である。ということで学校全体にやる気がみなぎっている。これは総合学科ならではの成果である。
30	全	「なりたい自分を発見し、今の自分を鍛えよう」を努力目標に、進路実現に向けた教育課程を組むことにより、生徒が目的意識を持って学校生活を送る生徒が多く、学校に全体として「勢い」があるように思われる。運動部、文化部とも素晴らしい成果を残している。
31	全	・「朝の読書」の徹底、部活動指導の充実等により学校全体が大変に落ち着いてきた。・地域の中で、総合学科たる本校が認められ入学してくる生徒の質が向上してきた。
32	全	地域の社会人講師によりフラワーアレンジメント部の指導をいただき、以下のような成果を得た。・2、3級フラワー装飾技能資格の取得。・第44回技能五輪全国大会県大会(H18. 10. 21)にて全国で高校生としてただ一人敢闘賞を受賞。・第6回全国産業フェア埼玉大会(H18. 11. 1)における第5回フラワーアレンジメントコンテストで金賞(全国1位)を受賞。
33	全	・総合学科という新しいシステムに取りくむための全教員が学校全体のことを考え、共通意識を持って、学校運営を活性化させてきた。
34	全	現在総合学科として地域に定着しつつある。さらに「地域に信頼され支持される学校・魅力ある学校」を目指して教職員一丸となって取り組んでいる。
35	全	「産業社会と人間」の取り組みや学校設定科目の導入など、教員は既定の枠にとらわれず、意欲な取り組みが見られるようになった。
37	全	普通科時代と比べて、入学志願者が増えている少人数の授業が多いため、個別対応が十分に行える。
38	全	・新しい学科の導入により、制度上工夫できることが多くなり全教職員が積極的に課題に取り組んでいく姿勢につながってきた。・異校種間との連携を積極的にとる雰囲気が生まれた。
39	全	・明確な教育目標のもと、総合学科の特長の一つである「キャリア教育」を3年間に渡り、計画的・系統的に「全職員」で実施している。・生徒や地域の実態に合った本校独自の教育課程を実施している。・進路を見据えたガイダンス機能の充実が強く認識され、教員から生徒への積極的なコミュニケーションが図られている。・「キャリア教育」を柱とした「生き方指導」を通じて生徒のコミュニケーション能力の向上や、自尊意識が高まっている。
40	全	総合学科設立当初は「産業社会と人間」などの取り組みは生徒にも教員にも新鮮で学習効果も十分に感じられ学校の活性化に繋がった
41	全	当初は、総合学科としてわからないことが多かったので、全体として常に共通理解を図り、教員が一致団結して熱心に業務や指導に当たることができた。コンピュータやペーパーレス化できるものは極力その方向で行い、業務を迅速化し、重複をなくし、負担を減らした。
42	全	統合という激しいうねりが少し収まり、生徒が落ち着いてきた。
44	全	・年度当初に学校経営計画を全教職員に周知し、それに基づき各分掌・教科で取り組みを行っている。・校務運営委員会を毎週行うことにより、学校運営を円滑にしている。
45	全	工業高校時代定員確保が難かしい状況であったが、総合学科になり女子生徒の割合も増え受験者数は増加した。
47	全	総合学科加配により、分掌等に手厚く配置できる。
48	全	教員の加配により、校務運営や授業展開の自由度が増し、より機能的な校務運営組織の構築が可能となった。
49	全	・各学年、教務部、進路指導部が一体となって指導体制を構築できていること。
50	全	普通科から総合学科に改編を行ってから、学校内の生徒の状況も安定するようになり、中退する生徒も減少してきた。多様な進路希望に対応できるようになってきた。
51	全	特色ある学校づくりとして、総合学科は、普通科では、まねの出来ない教育課程を実施し、また、教員の配置(人数)においても優遇されている。進学においても実績を上げクラブ活動の活性化にも大いに影響している。
54	全	総合学科高校としての実践を重ね、リーディングスクールとしての実績をあげている。
55	全	校務分掌において、進路に関すること、生徒の生活に関すること、校務全搬を3本柱に進路課、生活課、総務課を置き、1人1分掌を基本に責任を持って運営している。新しい学校であることから、固定した観念を持たず、色々なことに取り組むことが、できている。前身の工業高校の設備を活かし、系列の中に工業の部分設けることで、地域の産業社会に送り出す人材が育成できていると思う。
56	定	単位制、総合学科の定時制(昼夜間二部制)高校として、開校時から多様な生徒のニーズに応えられるような柔軟な教育システムと、計画的なキャリア教育を重点化した。5年目を迎えて、中学校や地域の理解も進み、毎年多くの入学希望者を獲得できている。
57	定	自主自立の精神を尊重する「自分で創る学校生活」をモットーに生徒達はのびのびと主体的かつ意欲的に学校生活を送っており、高校で最も大切な進路についても国公立大学から就職まで、幅広く対応ができています。今年の入試倍率が3倍といったことから、総合学科としての本校の特色が評価されていると判断される。
58	全	・生徒一人一人の夢実現のため、総合学科として、これまで以上に魅力ある学校づくりをしてきた。・各教科において、指導内容を厳選し基礎・基本の充実に努めることで、興味・関心をもてる授業を構築し、進学や就職に耐えうる社会人を養成することができた。
59	全	インターンシップや地域の方を招いてお話を聞かせていただくことにより、地元との関係が深まり、さまざまな支援を受けている。
60	全	・平成9年度に、1学年農業4学級から農業2学級と総合学科2学級に再編した。以来、総合学科の競争倍率が高いこともあり、学校全体にその効果が波及して、他の農業学科の倍率も高まって、以前のような定員割れもなくなり、県内でもトップクラスの競争倍率である。・意欲をもった生徒が多く、退学者が少ない。落ち着きのある安定した環境で学習に取り組んでいる。・実習やボランティア等地域へ出ていくこともあって、地域での評価も高まっている。
61	全	少子化による学級減がきた場合、専門高校よりは対応がスムーズにできる。
62	全	専門学科4クラスと総合学科1クラスのため、総合学科単独で学校運営に携らないため解答できません。
63	定	・「産業社会と人間」の履修 ①さまざまな職業や生き方に触れることにより、視野を拓け、将来の生き方を考える上での手助けとなる。②職場や学校を実際に見学することにより、それらに関する理解をより深めることができる。・系列の設置と多様な選択科目 ①興味・関心・得手・進路希望等に応じた系列の選択や科目選択が可能となる。②系列は縛りがゆるやかなため(ほとんどないため)、選択ミスによる学習への不適応が少ない。③科目選択数の多さから、一講座あたりの人数が少ないものもあり、多人数での受講が苦痛な生徒にとって学習しやすい形態となっている。④科目選択数の多さにより、中学校までの学習が不十分でも学習に困難をきたさずにすむ科目が選択でき、単位修得が可能となっている。・単位制 ①在籍年数に関係なく、単位を積み上げることで、卒業できる。②単位制および、2学期制を取り入れることにより、単位の分割認定も可能となる。



64	全	・多様な科目での交流活動を通して、本校の取り組みを理解していただき、支援や協力をいただいている。
65	全	総合学科の特色を生かしたカリキュラム編成と系列を生かした学校行事により学校の特色づくりが行われている。総合学科の教職員配置により、少人数指導や個別指導が実施でき、きめ細かな生徒指導ができる。
66	全	・学校をあげて、キャリア教育を推進していったという意識が高まった。・教師自身のカリキュラムに対する理解が深まるにつれて、生徒の進路を実現させてやろうという気運が高まった。
67	全	・本校の地方での専門学科別の輪切りの進路指導がなくなった。・地域の、学校への関心と期待が生まれ、地域あげての進路指導に繋がった。・日頃からの進路指導、キャリア教育が適切に行えるようになった。
68	全	・分掌の統合と業務の合理化により、ホームルーム担任の強化や生徒指導の強化を図る。・校門当番・校内巡視等生徒指導の強化により、学習活動の沈着に努めた。
69	全	総合学科を設置して以来、それ以前にかかえていた様々な困難性を克服し、学校としての落ち着きを取り戻すとともに学習面や進路指導の面でも相当の成果をあげている。
70	全	開設時には施設の充実など環境が良くなった。また非常勤講師の枠も他の学校より多くなった。
71	全	・統合前の普通科校と比較しても、学校運営上は大きな差異はない。しかし、5つの専門学科が2つの専門学科と総合学科になった学校から見れば、科を中心として回っていた学校運営が、1つの学校、学年中心の運営となりつつあり、とまどいもあったが、次第に学校としてのまとまりが出てきたように思われる。
72	全	創立5年目をむかえ、総合学科高校としての基盤は固まった。教職員の意識も高く、情熱をもって魅力ある学校づくり、「確かな学力」と「生きる力」を持った生徒の育成に取り組んでいる。
73	全	・教員数が増し、個々の生徒に応じた、細やかな指導ができた。・体験的な学習が増し、生徒の興味・関心に応じた指導・地域に根ざした指導ができ、特色ある地域に開かれた学校づくりができた。
74	全	・飽くなき教員の努力の結果、平成18年度はキャリア教育で文部科学大臣賞を頂いた。キャリア教育は「産業社会と人間」「フレ課題研究」「課題研究」を中心にして積み重ねている。・地域オープン講座として「スペイン語」「中国語」を開催しているが、人気が高い。・本校提案の「にこにこファミリー運動会」(市の継続行事になった)等を通して、地域に大きく貢献している。・近隣大学と独自の高大連携をし、大学の講義受講、大学図書館利用、大学ゼミ指導を連携の中で、実施している。・オープンハイスクールは生徒を全面に出して、運営している。そのことに対する高い評価を得ている。
76	全	・総合学科に改編後、校内に活力を感じるようになった。一つの目標にむかって同一歩調で教職員が頑張れるようになったためか忙しいけれど生き生きと校務を果たしている。またそれにとまって生徒も年々質が向上し、学校運営もスムーズにいている。・特色ある学校づくり、地域から信頼される学校づくりができたように思う。
77	全	商業高校から総合学科の高校になったことで、商業科の教員が減り、普通教科の教員の数が増えることで、教員が多様化し、今まで以上に様々な教育活動・取り組みができるようになり、学校が活性化してきた。そのような状況下で、教員に前向きな姿勢が見られるようになり、学校運営がスムーズに出来るようになってきた。
80	全	「学習歴」を問う総合学科の理念に基づいた教育活動が展開されてきたとの自負の念は強い。特に卒業生の卒業後の活動内容等をもとみると、自分の「夢」の達成に向けて地道に実践しており、本校の教育方針、総合学科の在り方が、より良い方向へと進んでいる事の証明であると考えている。
81	全	商業高校の末期(～H12)には定員割れをしばしば起こすようになっていたが、総合高校への改編後には定員割れはなく、又男子生徒の割合が増加した。
82	全	より専門性の高い授業を展開しようと、教員の意識が高まった。
83	全	開校以来、生徒を褒めることを主眼にして生徒指導を実施した。生徒の自尊感情を高め自信を持たせることができた。それに伴い自分達の学校を大切に思う気持ちが生徒に芽生え退学者の減少、懲戒件数の減少が実現し、非常に落ち着いた学校となっている。地域の信頼も回復している。地域の行事などにもリーダーとして参加し、良い評価を受けている。
84	全	総合学科への改編に伴い学校全体が活性化し、特に自らの進路に対する意欲の高い生徒が多く入学するようになり、学習面やクラブ活動においても積極的に活動している。
85	全	全体的には意欲をもって学習や学校行事に取り組む生徒が増えてきている。
86	全	・種々の教育課題について校内研修を行う機会が多く持てた。・キャリア教育を分掌主導で行える体制ができた。・教育課程やシラバスを作る中で、授業への工夫を考える機会が多くなった。
87	全	民間入校長の強いリーダーシップのもと民間の経営手法を取り入れ、次の成果をあげた。・「上級学校への進学」をビジョンとし、職員のベクトルをそろえた。・主任・担任などの校内人事を校長任命とし、経営体制を確立した。・授業評価などの授業改善のための取り組みを行った。・意欲ある生徒を確保するため、中学・塾に対して強力な広報活動を行った。・生徒の進路実現のため講習を充実し、チューターによる個別指導を行った。・校内のLANを構築、一人パソコン1台をつくり、その活用を進めた。
88	全	生徒のニーズにあった教育課程の見直し。
89	全	色々な取組が、他校に比べて自由におこなわれている。
91	全	・教職員間の生徒情報交換が活発になった。
92	全	設置前とくらべ、教科間の連絡・協力が盛んになり学校としての一体感を教職員が感じられるようになった。学科の設置に伴い新設した分掌、総務企画部も他の分掌と協力、調整しながら、計画的に総合学科の運営が行なっている。
93	全	・好い教員同士の信頼関係に基づく統一した指導。2.各系列毎の個別指導とその成果。
94	全	担当教科や従来の校務分掌とは別に、総合学科に係る委員会組織(総合学科推進委員会および四つの系列小委員会と産社・総ゼミ小委員会〔産業社会と人間と総合的な学習の時間を扱う〕)を設け、全教員が総合学科の運営に関わるようにした。「地域に根ざした総合学科」というコンセプトのもとで、地域の人的・物的資源の活用を積極的に行うようになった。
95	全	各系列の目標に資格や検定取得を設定し、目的意識を植え付け、生徒の学習意欲を高めている。そのことで学校が活性化している。
96	全	学校全体が活性化し、男女共学といいながら実質女子校であったのが、男子の入学が定着している。また、進路先、部活動の活性化などがある。
97	全	学級減に伴う教員定数の削減により、従来の5課(教務・生徒指導、進路指導、総務、保健厚生)から4課(教務・生徒、進路指導、総務)に再編を行った。業務内容的には以前より増加傾向にあるが、人的資源の有効活用により、支障は余りみられない。
98	全	平成9年度より県下初の「総合学科」に改編して10年が経過、各種検定・資格の面で顕著な成果をあげ文部科学省の研究指定SELHi(H15～17)等に取り組むなど特色ある教育活動を展開しており、進学率も高く進路面においてもそれにふさわしい成果が上がりつつある。
99	全	総合学科に改編してから、入学してくる生徒の質が変化し、学校に活気が見られるようになった。
100	全	「自主・自律」をモットーに生徒自身が主体的に考え、行動するよう指導しているので、徐々にその成果が現れてきた。自ら学ぶ姿勢が身につくよう努めている。
101	全	・地域との連携が進み、生徒の学びが活発化することで、学校が活性化してきた。・教職員が、様々な分野に積極的に挑戦するようになった。
102	全	本校は、小規模校であるため、全生徒を全教職員が理解して対応できる。

103	定	・生徒の興味・関心に応じた沢山の科目が設定され、生徒の自主的な選択が大巾に認められている為、毎年、入試倍率が高い状況となっている。
106	全	やる気のある普通教科の教員が増え、かつて専門高校であった頃に比べ活性化している。生徒も意識のしっかりした生徒が増え、生徒指導が楽になった。選択が多く生徒の所在が心配されたが、さぼる生徒もなく、授業が展開されている。
107	全	総合学科以前の学校の雰囲気と大幅に変わり、地域からの信頼も芽ばえてきた。学校を変革するのに、総合学科という改編は大きな転機となった。
108	全	社会人講師を積極的に活用し、また、地域との連携を深めることによって生徒の社会性を高めるとともに地域の総合学科理解を深めることができた。地域も高校との連携生徒の励みとなる連携に尽力をしてくれ支援をもらっている。
109	全	総合学科であることに魅力を感じる中学生が多く、入試の際にも定員を大幅に上回る受験者がいる。
110	全	幅広く系列選択できる機会があることが、本校を志望する動機となり入学希望者が多くなっている。
111	全	学習ガイダンス課、情報管理課、総合学科推進課など、独自の分掌を作って対応してきた。
112	全	・今春、初めての卒業生を出したが、一人一人の進路の実現に結びつけることができた。・総合学科に対する中学生の人気は高く、毎年入試における倍率は高い。
113	全	学校の教育目標を、生徒の目線に立ち総合学科の教育理念をより一層具現できる項目に改訂し、生徒及び地域社会に示すとともに、様々な教育活動を通して、生徒の指導に供した。地域の小中学校との多様な合同体験交流活動の実施により、生徒の成長がみられた。また、地域の公民館での発表会の実施や、支援委員会を開催し地域の人達からの意見を聞く機会を設けることにより、家庭や地域との連携を一層深めることができた。
114	全	・説明会・体験入学等の広報活動により他地区や遠方からの入学志望者が増加し、学校の活性化につながった。・社会人講師による講話、学校・企業見学、企業や施設における体験学習などを実施し外部との連携により教育活動を充実させた。・学校設定科目を25科目設け、外部講師を中心とした体制で専門性の高い指導内容により学校の特色化・活性化につながった。
115	全	・学科設置11年目を迎え、運営方針が固まってきた。
116	全	系列の学習目標に沿って、生徒一人ひとりが主体的に科目を選択し、興味・関心を持って学習ができる学校を目標とした結果、落ちつきのある授業態度など良好な状況である。学習面だけでなく、部活動にあって意欲を持って取り組む姿勢は、県内屈指の部活動の盛んな学校となった。
118	全	必要に応じて小委員会を立ちあげ、課題の検討をし、提案することで、職員への理解が図られ、改善することができた。
120	全	・総合学科が世間に理解され、中学生の進学希望者が増加し、安定してきた。・施設、設備がより充実されつつある。・選択科目が多く、自己実現を手助けすることになっているので、卒業時には多くの生徒が本校に対して満足したという評価を残している。
121	全	・総合学科単独校となって4年目を迎え、総合学科としてのスタイルが定着してきた。
122	定	午前部希望生徒の入試倍率が1倍を越えるようになった。
123	全	いろいろな角度から学校をアピールすることができ、地域の中学校の生徒・保護者からの関心を集めている。
124	全	全身である農業高校の特色を生かし、全員農業クラブ員となり、意見発表、リーダー研修等を通じ、自ら主体的に考え、行動できるようになってきた。また3分の1弱を占める寮生の存在も他の生徒の模範となる場合も多い。
125	全	・もともと園芸科が設置されていたが、志願者の減少から学科として維持できなくなってきた。総合学科の中に「花と緑」系列として設けることで本校の伝統を守ることができた。地域同窓生の要望に応えることができたと考えている。
126	全	・基礎学力の向上 ・基本的な生活習慣やマナー向上 ・部活動の活性化 ・心豊かで安心感のある集団作りを柱に学校運営を行っている。①基礎学力向上に向けては小人数指導、習熟度、TTIによる指導で分かりやすい指導の展開で一定の成果を上げている。②進路意識向上に向けての個人面談やガイダンス・職業体験に力をいれて生徒の進路決定時期は早まっている。
127	全	・校長のビジョンを的確にとらえ、全ての教職員が同じベクトルで学校運営に参画。・それぞれの授業はもちろん、部活動や学校行事の活性化とともに、学校の枠をこえ、地域社会の様々な行事、イベントにも参加する積極的な取り組みが、地域の方々から高い評価を得られるようになっている。・生徒の遅刻、欠席の数がここ数年で激減。
128	全	「学校公開」や「体験入学」、また地域商業施設における学校紹介事業でのPR活動により、総合学科に対する認知度が次第に高まっている。自己の興味や関心、将来の進路志望に応じて幅広い選択科目が開設され、生徒は自分だけの時間割を作ることが可能である。ボランティア活動や多様な体験学習など、学校独自の諸活動がもうけられており、社会性を身につけることが出来る。
129	全	「産業社会と人間」や総合的な学習の時間で体験学習を取り入れるなどキャリア教育の実施に力を入れ、生徒の多様な進路希望に対応してきた。
130	全	学科改編によって総合学科となって6年目であるが、毎年多くの志願者があり、以前より活気があり、学校の雰囲気が落ち着いたものになっている。
131	全	・総合学科単独校になったことにより、教職員のつながりや意思統一が図られやすくなったと思われる。・担任2人制の導入により、生徒への手厚い対応が可能になった。
132	全	「一人一人の進路希望に対応した6つの系列(文科、理工、国際、体育、武道、バイオ、美術)」を特色とし、「少人数授業による効果的な学習指導」を通して、大学を中心に進学者を増やしてきた。一人一人の個性の輝きを引き出す学校として、多様な学びの場づくりを行っていることも特色であり、柔道部をはじめとして、県の内外で活躍する部活動も多い。
133	全	・校務運営委員会を定期的に行い、学校運営に関する諸問題に対する意見交換をしている。又、メンバーが各主任となっている為、校長の意見が反映され、学校運営がやり易くなっている。
135	全	主任等が活用されるようになった。
136	全	・自律的な学校運営 自主性・自律性を高め校長のリーダーシップ、学校の組織運営体制、学校評価などの在り方として ①主任・主事等による企画運営委員会の設置 ②学校評価制度の実施 ③教員評価制度の実施 ・開かれた学校づくり 保護者や地域との連携協力することが求められ、学校評議員による学校運営面での開かれた学校づくりと学校評価システムの確立として ①学校評議員制度の実施 ②学校評価制度の実施 ③学校のホームページ作成とその活用
138	全	地域における本校の役割を学校評議員会や地域の声を聞く会等で理解し、職員が一丸となって生徒への学習指導・生活指導にあたっている。
139	全	学校運営改善委員会による基本問題の検討により、時代に相応した校務運営と教員の意識改革が図られた。
140	全	生徒の希望を尊重し、育てていく雰囲気が定着している。
141	全	校長をリーダーとした学校運営が実現している。
142	全	・新たな学校運営組織(企画会議)の機能向上 学校をより良くするための原動力として企画会議が十分に機能している。月2回の定例の会議の協議題も整理され職員会議の時間短縮につながっている。また、迅速性を確保するため回覧による回議システムも行われ実効性が高まっている。・新たな学校運営組織(総括教諭)の活躍 現在、総括教諭が5名配置されているがその努力により、各グループを掌握し学校運営を円滑に進めている。役割を自覚し学校をより良くしようとする意識が高い。
143	全	・新校準備委員会が中心となっていたため、平成18年度からの企画会議に比較的スムーズに移行できた。・学校の広報活動を生徒主体で行うなど渉外部門の運営に生徒が大きく関わっている。

144	全	・校長を中心として多彩な教育活動の展開、柔軟な学びのシステム、開かれた学校づくり等活力があり魅力、特色ある学校づくりに向け職員がまとまって日々努力している。・総合学科としての学校の特色を十分発揮できるシステムづくりに努力している。
145	全	学校運営の中核を担う「企画会議」には、管理職や統括教諭はもちろん各年次団の取りまとめ役も構成メンバーに入っており、教職員の意識や状況も踏まえた上で校長が大学高所から判断できる組織になっている。
146	全	・新校として総合学科で開校し、系列等の取り組みから職員集団にまとまりがあった。・「産業社会と人間」や系列科目の準備等職員の多忙感が改善できない。
147	定	新しい学科ということで、新たに組み込むことが多くあるが、教員は学科が変わったという考えで積極的に取り組んでいる。やらざるをえない状況で従来通りで解決できないので活気が職場にある。
148	全	地域から、この半島の中で、進学への期待が大きく、地域方も含め保護者、生徒の大学への思いが熱いです。今のところ、県内他の総合学科高校に比べ、進学率も高く、それなりの成果を出しています。「総合学科」では進学できないという声を否定しています。
149	全	平成15年総合学科に単独再編されて以来、「総合学科で自分を探そう」を合言葉に生徒・保護者・教員ともに、そして地域を巻き込んで教育活動を行ってきた。第3の学科「総合学科」が世間に認知され始め、本校も「自分探し」の学校として地位が定着してきた。その一因は保護者や地域の協力を得ながら「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を成功させてきたところにあると思う。同時にこれらの科目は組織的な学習計画の立案・実行がなければうまくいかないものであり、この点については昨年度より導入された、総括教諭制の効果も見落とすことはできない。総合学科として5年目を迎え、学校運営についても教科指導についても、職員が組織的な対応に慣れ始めた。
154	全	・総合学科として開校4年目を迎えた学校であるが、開校3年目に2次募集を実施せざるを得なかった状況を踏まえて、開校以来の教育活動の見直しをおこなった。・開校以来、上級学校進学対応型中心の教育活動を行ってきたが、総合学科高校としての選択を旨とする進路指導の充実を図り、その方針をより明確にした学校運営に向けて教科定数の改編、教育課程の変更、施設設備の整備ができた。・キャリアカウンセラーの配置、ガイダンスルームの新設、産業社会と人間の内容の変更等により、キャリア教育の充実が図れた。
155	全	・学校管理システムの新システム導入により、成績処理および欠管理等の円滑化が進んだ。・企画調整会議での決議事項が伝達方法の工夫により昨年度に比べ円滑に教職員に伝わるようになった。
156	定	・普通科目と専門科目の両方を学べるため、生徒の興味関心が深まる。幅広く多くの科目が学べる。・今まで不登校であった生徒が、総合的に学ぶことによって学習意欲も高まり、自分の進路を見い出すこともできるようになった。
157	定	企画調整会議や主幹3名と管理職3名を加えた主幹会議が時間割に組み込まれ、学校の課題解決に大きな役割を果たしている。
158	全	県第1号の総合学科高校としてその使命を果たすべく地域との連携を強め学校運営を行ってきた。
159	全	魅力ある高等学校づくりチャレンジ支援事業の取組では、「心のふれあいと学ぶ喜びを目指した地元小・中学校及び地域との連携」をテーマとして地域との連携強化をはかっている。また、生徒会を中心としたボランティア活動は、一般の職員・生徒に広がり始め、学校全体の運動へと拡大しつつある。等々、特色ある総合学科の創造に向けて動き出している。校内の各分掌との連携をはかりながら安心して授業に集中できる環境作りや進路を見据えた科目選択が定着しつつある。
160	全	・生徒各自が自分の進路をじっくりと考えるという明確な目標を掲げられる。
161	全	・学校全体が活性化した。・地域に期待される学校となった。・生徒は落ち着いて学校生活を送るようになった。
162	全	学校広報活動を通じ、地域に開かれた信頼される学校づくりが推進できた。学校の公開週間、学校説明会等。
163	全	農業科から総合学科に転換して、入学志願者が増加し、不本意入学者が減少した。単位制で、卒業に必要な単位数と履修単位数に差を設けているため、中途退学者が少ない。
164	全	本年度より3年間、県から、「進学指導推進校」の委嘱を受けた。先進的な県内外の学校を視察し、今後の指針とする予定である。
165	全	「広がる夢、君が挑戦するステージ！」のスローガンのもと学習と部活動の両立の良き伝統を守って来た。
166	全	生徒個々に応じた指導を展開する機会が多く、よりきめ細かな指導を行える。
167	全	・教務部と進路指導部に対し、横断的立場の校務分掌として、総合学科推進部を設置し、3年目となる。このことで、総合学科独特の関連業務の一本化を図ることができた。
169	全	総合学科のメリットを活かし多様な学習指導を展開した。「産人」「総合的な学習の時間」を中心とした進路指導が充実した。習熟度別授業、少人数授業、7時限授業(週2回)。学科再編に伴って教職員の意識改革が進んだ。学年を核として教師集団に充実した指導体制が形成された。土曜学校開放・補習・放課後課外長期休業時の学習合宿を実践した。
170	全	・総合学科に改編したことにより、生徒の目的意識が以前より高くなり意欲がでた。
171	全	・教師の数が多いため習熟度別学習が可能。英語と数学で実施している。・科目選択を通して、進路意識の高揚や担任、生徒、保護者間のコミュニケーションが促進される。
172	全	評価制度が導入されて3年、自己評価、外部評価(生徒、保護者、学校評議員)、が板についてきた。それ以前の網羅的な反省より、先を見通して対策がとり易くなった。生徒の出身中学校に、本校全職員が手分けして年2回訪問している。直接、顔を合わせ意見・感想を伺えるのはよい。
174	全	・多様な生徒を受け入れる、態勢が整っているため、生徒個々の適性を伸ばせるようになった。・進学から就職まで、多岐にわたる進路実現が可能になった。
175	全	校務分掌、教科、年次間の連携、協力体制が整い、学校の教育目標達成の方向に全教員が向っている。
176	全	医師、看護師、自動車整備士等の資格を持つ社会人講師の確保が可能となった。
177	全	現在のところまだそこまで至っていないのでメリットを生かせるように指導、研究していきたいと考えています。
178	全	・少人数授業で、きめ細かい個別指導を行うことができる。・特異な才能を持った生徒を伸ばすことができる。
179	全	市内唯一の総合学科高校として情報発信につとめ、地域に浸透してきた。校内で教員研修会を実施し、教員の指導力の向上をはかっている。
180	全	・学科改編により、指導困難校より脱した。・福祉系、ビジネス系の地域の期待が大きく就職率が良い。
181	全	・成績・学業不振に伴う中途退学者が減少したこと。(特に総合学科に改編期)
182	全	学年の指導における重層構造。副担任制をなくし、学年支援体制をとったため、フレキシブルに動ける。学年主任も自分のクラスにとらわれることなく学年のことに集中できる。
184	全	全体的評価としては、近年入学してくる生徒の質・学力が向上している。具体的には入試における最低合格点の上昇や運動部の全国大会の活躍、文化部での県や全国レベルでの入賞が目立ってきた。各系列においては、情報ビジネス・人間科学等での資格試験の合格者の増大、福祉介護系列での介護福祉士の国家試験合格者の増加等があり、テクノアート系列においては意欲的な作品の制作、地域文化への貢献等が目立っている。かつての生徒と比較し総合学科になったからは、生徒の積極性や学習意欲が格段に向上した。
185	全	・短大における授業聴講等の高大連携。・短期留学制度の確立。
186	全	総合学科への改編によって学校の活性化が図られた。



187	全	総合学科運営委員会が組織され、進路指導、学習指導の方向性は明確になっている。また、系列教科を中心として、年次・担任、進路指導課と連携を図っている。総合学科の特殊ある学びについての理解が深まり、学校経営の観点からは、系列教科を中心として教育活動を展開しようとする意識が高い。
188	全	地域の中でも人気がなく、定員割れや中退・問題行動に悩まされ、学校の存続が危ぶまれる状況から、大きな変化を見せた。地域から評価される学校となり、県の高校改革の中でも最も成果をあげ、他の学校にも大きな影響を与えた。
189	全	総合学科が新設となった頃は、生徒数・職員数とも多く、学年ごとに職員室が置かれていた。そのため職員間の意思疎通がやや希薄であった。その後職員室をひとつにまとめたところ、系列間の情報の共有化や、他学年の動きがみえるなど、コミュニケーションがうまくとれるようになった。
190	全	「活力ある学校の創造」と「活力ある生徒の育成」を目標に2年目であるが、部活動に対する生徒の取り組みが活発で、全県大会での優勝(個人含む)が現在21である。
191	全	地域社会との連携 ・伝統工芸師等の社会人講師。 ・福祉施設との交流 ・保育園との交流 ・中学校教員との連携。 ・インターンシップ等企業との連携
192	全	本校は総合学科ということで、生徒の進路希望は多様である。主に普通教科を学習し大学進学を目指す生徒から、介護福祉や自動車整備、商業関係の資格を取得し就職を希望する生徒まで存在する。そのため、教員は、それぞれの分野(本校では6つの大きな系列を提示している)で、個別の進路希望を持った生徒それぞれに計画的で適切な指導と助言のもとに、授業や進路指導を行ってきた。最近になってその成果が現れはじめ、進路実績や資格取得等の実績が地域などでも評価されてきている。
193	全	平成16年度に、学校全体を見直すための作業部会をカリキュラム・教務内規・生徒指導・入試の分野で立ち上げ、それぞれの分野で問題点の整理や対応策を検討した。学校全体で方向性が共通理解された後、平成17年度以降、改善に向けて取り組んだことで、徐々に学校全体に落ち着いた雰囲気になり、良好な教育環境が作られつつある。
194	全	各分掌の連携と協力を大切にして、以下の4つの学校目標、「楽しみを持って学習する。積極的に物事に取り組む。自律的に社会生活をおくる。前向きで責任ある人生を設計する」を実現する人材の育成に努力している。
195	全	・生徒が前向きに授業や学校生活に取り組んでおり、卒業時の「満足度」が、毎年9割を超えている。・学校不適応等による中途退学者がほとんどなく、進路達成率も毎年9割後半である。
196	全	総合学科の分掌は多岐に渡り、雑である。各部の統合などを行い、それぞれの仕事が機能的に、連携して行なえるよう毎年改善をはかってきた。総合学科改編後、10年以上が経過し、教員の出入りも多く、何の事に当って、一丸となって指導に向う教員力が弱っているが、各部を中心に仕事内容は整理されており、円滑に運営されるようになっている。
197	全	学校評価・授業評価、シラバスなどの取り組みを積極的に取り入れることによって、授業内容の改善、充実をはかっていくことができた。
198	全	総合学科の特性をいかす運営を行っている。
200	全	母体であった3つの学校の施設・設備、職員、教育課程を活かした運営を行った。このことは、卒業生の進路実績が大学進学者の増加、専門性を活かした就職先等に成果が現われた。また部活動の活躍や地域行動への参加は、学校の活性化になっている。
201	全	「産業社会と人間」の授業の一環として、地域の事業に参加し、社会や地域の活動に貢献するとともに、総合学科の認識を高めることができた。
202	全	・出口指導に重点を置いた指導をし、ほぼ生徒の希望通りの進路を達成させた。・地域との連携を大切にして学校運営にあたっている。特に「産業社会と人間」の授業では、地元の講師による講演会や、地元企業の見学会を行っている。又、地域に密着したボランティア活動にも力を入れている。・部活動、生徒会活動が活発になり、生徒の自主的・積極的な活躍の機会が多い。
203	全	総合学科開設の年から生徒の家庭学習時間の確保を目的に週末課題・日課題を実施してきた。生徒の学習時間はなかなか増加してこないものの進学に対する意欲は向上してきており、国公立大学合格者の増加、進学率の上昇がみられる。
204	全	・生徒一人ひとりを伸ばす学校運営が可能になり、学習や部活動での成果が上がった。・生徒指導上の問題(遅刻・欠席、服装、容儀等)が減少し、授業に専念できる環境になった。
205	全	社会の変化、保護者・生徒・地域の要望に対応した教育活動の展開が、強く意識されるようになった。
206	全	・全教員による「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の実施。 ・ジョブシャドウ、インターンシップ等のキャリア教育への取り組み
207	全	・1年次に二人担任制を導入し、教育相談や進路選択などに対して多角的な生徒理解を早期に実践している。・地域に開かれた学校づくりとして、授業の公開、公開講座、ボランティア活動、秋祭りへの全校生徒・教職員の参加など積極的に参画・実施している。このことが、生徒・地域からの信頼につながってきた。
208	全	授業等で外部と折衝する機会が増え、教員の経営参画意識が高まった。幅広い学力層や多様な進路希望の生徒の要求に応えようとして学校の活力が高まった。
209	全	本校は、平成15年度に普通科から学科転換し、県内7番目の総合学科高校として設置され今日を迎えている。この間、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習や、学ぶことの確しさと成就感を体験させる学習を重視する考えを基本に、試行錯誤の連続ではあるが、各種の教育活動に取り組んできた。
210	全	今日的な課題に対する計画的な校内研修を実施し、教職員の理解を深めるとともに、意識の向上や自己課題、学校課題の発見などがみられ、学校を活性化させるきっかけになっている。
211	全	・総合学科への転換を契機に基本的生活習慣の定着が図られ、頭髪・服装や礼儀作法などマナーの向上も見られ、生徒の自律性も高まった。・朝読書の習慣化につれ、遅刻・欠席が減少し、中途退学者も減少した。・特色ある教育活動を様々に展開し、継続・発展している。ア. 異文化理解(・見学旅行は韓国で親善訪問実施 ・「中国語」や「ロシア語」の開設) イ. 学校開放講座の実施やPTA活動の活性化による地域・家庭との連携強化 ウ. 多くの大学との高大連携を推進。特に〇〇女子大は通年にわたり授業をいただいている。
212	全	地域の要請に応じた農業後継者の育成。地域に開かれた学校づくり。(行事への参加、ボランティア活動等) 環境教育の先進的とりくみ、とくに産官学との連携。
213	全	・特色ある授業・活動を数多くアピールできる機会が増加した。(学校のPRがやりやすくなった。・)生徒の興味関心のある科目を選択することで、学習に積極的な生徒が増加した。(学校生活への適応度の高まり)
214	全	地域の本校生に対する評価が高まり、地域の理解と協力が得られるようになった。
215	全	・定例の企画調整会議を行い、分掌・学年間の連携を図り、教職員の学校経営参加意欲が高まっている。・定期考査期間を活用し計画的に校内研修を実施 ・学校開放講座や総合学科通信等の発行などによる情報提供に基づいた開かれた学校づくりが進んでいる。
216	全	・進学者への対応可(普通科科目の選択可能なカリキュラム)。・産業社会と人間(原則履修科目)等の科目で体験的学習(講話、インターンシップ等)の増。
217	全	多くの選択科目を設けて、自分で考え、決めて、実行することができるようにその他のことも選択できるような仕組み(工夫)をしている。
218	全	地域に総合学科の高校がなく、開設当初は、中学校の進路指導担当の関心をかい、ある程度の生徒を確保できた。

220	全	目標や進路に応じて、「特別選抜」「特別進学」「総合進学」「総合調理」の4コースを開設している。それぞれのコースの特徴を最大限に活かせるようにカリキュラムの編成には工夫を凝らしている。また、部活動についても少しずつ成果を挙げてきている。
221	全	全日型通信制総合学科とし、併設の全日制普通科の生徒と、学校行事や部活動など、一緒に学校生活を楽しんでいる。
223	定	本校では中学校時代の不登校・学力不足・特別支援教育を必要とする生徒の割合が高いため、それらの問題を抱える生徒に対応していくために教員の各種研修参加を実施しており、全ての教員が連携プレイのもと諸問題と取り組み、その結果非常に高い確立で、生徒達の抱えている諸問題を改善し、県内外の中学校より高い信頼を得ている。
224	全	中学生に対し総合学科の特徴を話し学校のカラーを出しやすくなった。
225	全	生徒は学習内容に意欲を持って取りくんでいる。
226	全	・元気で意欲的な生徒が増えている。・受験生も増えている。・経営の合理化。
227	全	・各部署の関連が深くなり、互いに協力する姿勢が強まったこと。・科目や授業の内容について生徒に対し説明責任を果たす必要性の認識が高まった。
228	全	・生徒が1年次・時間割作成(ドリカムプラン)、2年次・インターンシップ、3年次・課題研究を通じて、自己の教科選択力の向上と進路の関係が密接化してきた。・各学年でグループ発表能力が向上してきた。・進学・就職に活用できる商業・工業の技術、技能検定の上位層が多く輩出するようになった。・教師が各系列の枠をこえて一体化してきた。
229	全	専門学科での募集たと年によって入学者数に差があったが、総合学科はくり募集的にできる。不本意入学生の退学者減少。
230	全	総合学科における施設・設備の充実・科目の厳選に力点をおいて努力したが、全国的な少子化で生徒数は減少した。ただ、各種検定にチャレンジする生徒が増え、難しい資格を取得することが出来ることが10年目を迎えた成果である。
231	定	総合学科の設置は、特色ある個性的な教育を可能にし、単位制の活用と併せて、特色ある学校を可能にした。本校では、これらの制度を十分に活用することで、県内唯一の単位制、総合学科の昼間定時制及び通信制の学校として貴重な役割をになっている。
233	全	系列を科やコースと違ってかなり生徒のニーズに合わせて作る自由が学校にある。
235	全	自分の希望進路、興味関心に応じて科目を選べる総合学科は中学生の関心を引き人気が高く、希望者も多い。将来を考えると学科の多い本校は必要があれば総合学科と一つにすることもできる。
236	全	企業との連携をすることにより、実習等の受け入れや講師の派遣等を依頼し、実施することが出来た。
238	全	総合学科を設置して以来、地域のボランティアへの積極参加や国際交流などを担うことができています。具体的には、全国ボランティアフェスティバル参加、〇〇市防災訓練参加、違法駐輪整理などの各種ボランティアや、中国との相互交流など。
240	全	・生徒一人ひとりが目標を持ち、その目標に向かって頑張る生徒が多くなり、それによって進学実績等も向上している。 ・地域の中学生、保護者の本校に対する総合的な評価が高くなり、学校見学の希望者が増加している。・総合学科の開設(平成6年)と第2次改革(平成15年)に取り組んだことにより、教員個々の力量が向上し、新たな研究テーマ等に挑戦しようとするようになってきている。
241	全	・総合学科導入により、受験者数も増え、生徒もいきいきとし、伸々とした学校生活を送ることができるようになった。 ・主体的な学習や課題解決学習を通して「生きる力」の育成に成果を挙げている。

番号	全・定	問12(2)b 学校運営についての課題をご記入ください。
1	全	・生徒の実態等を精査し、教育課程の一層の創意工夫が必要である。・「ガイダンス機能の充実」や「産業社会と人間」の指導内容、進め方等を改善し生徒の将来の生き方や進路を考える学習の更なる強化が必要である。・本校の生徒は7～8割は進学希望である。出口指導の質的な向上(いけるところからいきたいところへの進路保障)を図る必要がある。・個々の生徒によって時間割が異なるため、その日の動怠状況が把握しにくい。迅速確実な把握をするためのチェック体制、方法の改善を図る必要がある。・総合学科の特色である普通科目と専門科目にわたる「幅広い選択科目」に対応できる教職員定数や人員の等を図る必要がある。県の財政悪化の影響で年々先細りになっている。・進学型を意識した総合学科のあり方を研究していく。
3	全	・「産業社会と人間」に伴う社会人講師や体験学習を行う地元企業の確保が難しい。・生徒個々の時間割となるため、学級への所属感が薄れる。・専門教科の系列学習が徹底しない面がある。1年時の科目選択を含めたよりきめ細かな指導が必要である。
4	全	・市近郊の平農村地域にあることで、地元の中学生はともかく市中心部から入学してくる中学生のほとんどは「総合学科の内容」を知らないままで、その後の高校生活に影を落とす。・選択科目群と職員数に難。(財政上)・生徒の意欲・学力面での二極化それに対する対応。
5	全	今後予測される意欲な中卒生の減少を前に、総合学校設置校として「魅力ある学校づくり」を如何にして進めていくか。総合学科開設から10年を経過した今、これまでの実践を振り返り今後のあり方を具体化する必要がある。
7	全	県の財政状態の悪化や高校再編整備等が進むなか、学校予算や年間授業時間数及び教員定数の削減が行われ、総合学科の将来像が見えにくくなってきた。教職員の間にも焦燥感が広がっている。総合学科の根幹ともいえる系列の存続の危機や科目選択や授業内容の検討も余儀なくされ、改めて総合学科の趨勢を考える時がきたようだ。本校は、今年度の入試で奇しくも定員割れを起こし、保護者や地域に対し再度認識を変えていかなければならない局面に出くわした。中学校や保護者に対し情報が不足している、もっとアピールをする必要がある。それで、今年度は中学校校区を8つに分けて、説明会を実施した(夜間に「校長と語る会」ということで実施)。県においても総合学科の高校は、新設する動きはない。人員と施設・設備で財政を圧迫する総合学科より、総合選択制へと時代が変化しているように感ずる。このような波・風の中で総合学科の内なる改善は何か、地域の信頼を取り戻すための施策は何かを今後考えていく必要がある。総合学科の特徴ともいえる科目選択等について共通理解を行う会議の数が多く、時間外になることは日常的ともいえる。教員定数が削減されて、授業時間内に会議を行うことが不可能な状況にある。教職員の健康管理が非常に気になるのが本音である。ネットワークシステムの面については、本校独自で開発したプログラムのため内容が高度でしかも、システムについての知識を持っていないと引き継ぎができない状態にある。つまり、ソフトウェアのプログラムやデータベースを操作することが特定の職員にしかできないということである。そのために、誰にでも操作できメンテナンスが整っている市販のソフトウェアの導入を県に数年来要求しているところである。
9	全	・社会や県の教育意向の変化が著しく、総合学科としての特色をもっとアピールしていかなければいけない。・本校の基本方針を再度検討し、全職員の共通認識を図る。
10	全	職員の持ち時間や持ち教科が増加することによる負担増への対応に限界がある。生徒に、進路希望に応じた多くの選択科目を提供すると、それだけ教師の負担が増えることになる。総合学科は県内公立高校で唯一のものであるので、職員の共通理解を得るために研修が必要となり、そのために時間を取られ生徒に対応する時間が削られてしまっている。
11	全	生徒数・職員数の減少は、本校において大きな変化となる。教育課程以外にも、クラス数、部活動数、係分担、学校行事など検討する課題が多い。また、平均年齢34.5歳の比較的若い職員構成で、経験不足の部分が多々ある。しかし、意欲にあふれる職員が多いので、校務の引き継ぎや資料の共有・保存を再度確認する必要がある。
12	全	7校時授業・補習や、総合学科としての多くの会議や、活発な部活動による放課後の時間(先生方の)の忙しさの問題がある。
13	全	多様な科目を開設し、時間割変更が不可能な状況から、各種の会議を放課後にしか実施し得ない点が、大きな問題点といえる。学校運営の中心となる運営委員会・職員会議のほか、分掌会・学年会・担任会・教科会・各種の委員会の殆どが放課後開催となるため、授業外での生徒とのコミュニケーションの場や部活動指導に支障をきたす事が多い。教職員のモチベーションも下がるだけではなく、分掌・学年等の横断的連携が困難になっている現状がある。
15	全	総合学科開設時に導入した「出欠管理」「成績処理」システムにより、スムーズな処理ができていますが、システムを管理する教員への負担は大きく、また、異動により、システムが稼働しなくなることを懸念する。
16	全	今後は、1年次は学年主導、2年次以降は系列主導を本校教育の柱とし、教師一人ひとりが、より深い生徒理解のもと、系列の意識強化(職員・生徒)と図りながら、学年、系列、校務分掌が相互に連携し、教育活動に取り組んでいく必要がある。
17	全	生徒の科目選択人数に伴う、施設設備の充実。また、教職員の定数と配置。
19	全	・根強い普通科志向や私学への流出といった現状の中で、特色ある教育活動とその成果を地域に粘り強く示し、特に地元の学区からの志願者数を増加させる。 ・様々な教育活動とその成果により、生徒のセルフイメージを高め、学校への帰属意識や学習へのモチベーションを醸成する。 ・基礎学力の定着と学習習慣確立のために、校内学力検定システムを構築する。 ・総合学科の特性を活かし、生徒の多様な進路希望の実現を図る。そのために、教育課程の検討・改善を継続的に行う。
20	全	開校後、年を経るにつれ、総合学科の教育理念を理解しようとしにくい教師が増え、ベクトルを合わせるのが難しくなっている。キャリア教育の概念・指導方法やガイダンス機能の重要性等、総合学科の中心的教育活動に対する研修の体制の確立が急がれている。また、中学校が「進学実績での高校評価」から視点を変えないため、総合学科を薦める中学教師が少ないため、生徒募集が難しくなっている。
21	全	会議の時間が、すべて放課後になり、十分な話し合いが行なわれないまま進んでしまうことがある。転勤等で途中から来た教員が戸惑うことが多い。
22	全	・教育目標に対する教員(意識)のベクトルあわせ。
23	全	総合学科となった当初は、本校への期待感が高く、成績の優れた生徒の入学も多くあったが、大学入試の結果がさほど伸びていない事で、徐々に評価が低下している傾向がある。今回の教育課程の変更により、どれだけ成果が上げられるかが非常に重要な状況である。

24	全	・総合学科への改編を行って10年を経、更なるステップアップを図るために、これまでの教育活動の成果を丁寧に検証し、総合学科高校としての新しい骨組みを作ること。 ・自己の興味・関心、適正・能力および進路希望に応じて、生徒自らが履修科目を選択出来る総合学科のシステムを柔軟に利用して、より一層の生徒の自己実現を図ること。併せて、地域社会に貢献できる人材を育成し、その一員として、より確固たる規範意識を持った生徒を育成すること。 ・まじめさやひたむきさを軽視する風潮が社会に蔓延するなか、真摯に取り組む姿勢や努力する者が正当に評価される学校経営を更にすすめ、豊かな人間性・強い正義感・他者を思いやる心をもつ、より多くの生徒を育成すること。 ・人事異動により転入してきた教員に対して、総合学科高校についてのより有効なオリエンテーションを行うこと。
25	全	生徒数の減少により、現在の講座数の維持が困難になっている。
26	全	教育課程の設定が難しい。教職員の確保が困難な場合がある。少人数授業に施設設備(主に教室数)が対応できない。
27	全	当初は総合学科で勉強したいということで入学してくる生徒が多かったが、近年は学科とは関係なしに入学してくる生徒が増加する傾向がある。
29	全	・県下に3校しか設置されていないので、本校がカバーする区域が広く、地域にあるすべての中学校の進路指導の中で、選択肢の一つとして、きちんととり上げていただいているとはいいいない。 ・生徒減少に伴い、本校でも学級減が始まったが、他の学科と同じように、1学級減に対して、教職員3名減を学年進行で進めるという、総合学科の特性が全く理解されていない、情けない状況にある。
30	全	社会、介護福祉法の改正法案では、福祉系列の生徒は、介護福祉士の国家試験受験資格を得るための教育時間が1800時間程度必要になる。この法案が通れば、介護福祉士の受験資格を取得させることができなくなる。
31	全	・入試での競争率の上昇1倍以上(定員割れにならない)の倍率を維持していく。 ・少人数授のさらなる充実。
32	全	・「産業社会と人間」および「総合的な学習の時間」のマンネリ化による、進路目標への意識付けをどのように行うか。 ・生徒の希望進路に関連して、選択科目と講座数をどのように決定していくか。
33	全	・多様な進路や興味に対応する少人数講座を担当する教員の確保が難しくなっている。 ・福祉の資格取得の国の制度変更への対応に追われている。
34	全	総合学科としてのシステムは整備されているが、頻繁に職員が異動する中で、総合学科の当初のねらいやキャリア教育・進路指導についての認識に差が出やすいため、職員の研修を機会ある毎に行い、日常の教育活動が形骸化しないよう細心の注意が必要である。
35	全	総合学科のシステムを効果的に発揮させるには教員定数増が欠かせないが、現段階では不十分な状況となっている。
37	全	少人数の授業が多いため、特に2、3年生においては、クラスの人間関係が希薄になりがちである。
38	全	・生徒定数減による教員減により、総合学科の特色である多彩な講座が開講しにくい状況となることが懸念される。
39	全	・総合学科7年目を迎え、生徒、保護者、地域からのニーズが変容すると共に教育課程の研究・改善が求められている。 ・「キャリア教育」及び「多様な選択科目」による多忙感が蔓延している。 ・男女比率の不均衡は学校の活性化につながっていない。 ・次年度の科目選択におけるガイダンス機能を充実させるため、教員サイドのガイダンススキル向上が求められる。
40	全	教員定数の減少や設立初期の教員の転出により当初の目的目標の意識が薄れていき、多くの取り組みの効果より多忙感を感じる教員もいる。「産業社会と人間」等の内容の精選とより効果的な指導方法を考える必要がある。
41	全	指導する科目数だけでなく、担任業務や分掌業務も増え、多忙になってきている。また、目的意識のない生徒や学習意欲の乏しい生徒も増えてきているのでよい努力を要する。
42	全	・島内にあった2校を統合して生まれた学校であるので、両校の個性という形で継承し、発展させていくか、新しい学校としての特色をどう創出していくか、古くて、新しい課題である。 ・島外への生徒流出、少子化と合せ、定員確保が急務である。
44	全	・学校経営計画における、中間・年度末評価において十分に達成できていない部分も見受けられ、その部分の改善をしていかなければならない。
45	全	・教科・科目の教員数をいかにバランスよくするか。 ・教職員の意識として工業、教科、普通科教員の意識が強く総合学科の教員としての自覚が少なく意識統一がむずかしい。
46	全	低学力の生徒が多く入学している。生徒の実態に合った運営が必要である。基礎を押えて徐々に積み上げていくシステム作りとか。
48	全	単位制としてのたてまえと、学年制の現実との整合性に時として苦慮する場合がある。
49	全	・生徒、個々のニーズに合う科目を設置していくこと ・島内の中学校や地域の人に、総合学科のことを今以上に理解してもらうこと。
50	全	多様な科目を展開できる総合学科ということで運営を行ってきたが、普通科でも多くの選択科目を用意しているところが増えるなど、他校との差別化が難しくなっている。総合学科としての独自性をどういった形で打ち出していくかが課題である。
51	全	中学校の教員や中学生・保護者に、総合学科の利点を理解してもらい、生徒募集の段階からの取り組みが一層必要である。
52	全	専門教科担当教員の確保に苦慮することが多い。
54	全	総合学科高校での経験を積んだ教員の転出期を向え、次期を担うミドルリーダーの育成が急がれる。
55	全	普通科的な要素と専門高校的な要素の両方を併せ持つ学校であり、入試などの時期が広範に及ぶため、行事の配置に苦慮している。運営の様々な場面で、現時点でもまだ試行錯誤が続いている。
56	定	入学生徒の多様化とともに、個々に応じたよりきめ細かい指導や支援が必要になるが、教職員数は増員されるわけではない。また、多彩な教育活動を保証するための多くの非常勤講師や社会人講師の確保も大きな課題となっている。さらに、生徒把握が難しく、緊急対応に不安が残る。
57	定	総合学科は新しい学科なので、世間に対する認知度が低い。特色づくりをしっかりと行い、もっともっとアピールしていく必要がある。
58	全	・教職員の人事異動により、改編当初の総合学科の理念(基礎・基本)を継承していくことと、後継者の育成が大きな課題である。 ・受験してくる生徒や保護者に対して、進路指導(キャリア教育)面が具体的に理解しやすい内容にする必要がある。
59	全	学年間の諸行事が増え、調整に苦労する。研修旅行積立金など、保護者の経済的負担が大きい。
60	全	・教員定数の関係で、より多くの科目設定ができない。 ・本校には福祉サービス系列が開設されているが、県教委に要望しているにもかかわらず、一度も専門教員が配置されたことがない。 ・看護と家庭科の教員および非常勤講師でやりくりしているのが現状である。
61	全	生徒の系列ごとの希望者数は毎年変化するが、系列ごとの教員数を機敏に変更することはできないため、持ち時間数や受講者数にアンバランスが生じる年がある。

63	定	・生徒数との関係 生徒数の少ない中での総合学科の設置そのものに無理がある。特に本校の夜間部は定員20名であるが、在籍者はそれを下回っており、そのことが科目設置数の少なさ、さらには科目選択幅の狭さに関係し、生徒の希望を十分生かした科目選択になりにくくしている。昼間部においても同様の傾向である。さらに、希望者があっても少人数の場合開講できないため、生徒のニーズに十分対応できない原因となっている。これらのことが科目の不本意選択につながり、学習意欲へも影響している生徒が見られ、教師の指導もやりにくくしている。・「産業社会と人間」の履修①講師・見学先に確保の難しさ…特に夜間部はこれらに困難を生じている。②設置学年が1年次…入学後すぐということもあり、将来の進路について真剣に考えることが難しく、科目の目的を達成する上で困難が多い。・系列の設置と多様な選択科目 ①系列は縛りがゆるやかなため、系列に関わる学習の積み上げが難しい。②興味・関心等に応じた科目選択になりやすく、進路対応という点では不十分になりやすい。③多様な設置科目とは言ものの、教員定数の関係で開設できる口座数が制限される。④時間割の関係で希望する科目をすべて履修できるわけではない。⑤卒業までを見通した各人の時間割を組むため、教育課程の変更や時間割変更が難しく、柔軟な運営を困難にしている。
64	全	・2つの学校施設(約8kmの距離)を使用している授業や学校の運営は、校内分掌など様々なところに支障が生じており、教職員の負担増の原因にもなっている。
65	全	生徒の基礎学力の低下と生活習慣の乱れへの対応が近年問題となっている。少子化により、入学定員割れが起こっている。より一層の学校の特色づくりと地域へのPRが必要となっている。
66	全	・各学年や各分掌がより連携して、継続的に課題の解決に当たる必要がある。・外部評価委員会、学校評議委員会の提言を生かして、学校の改革に繋げていく。
67	全	・特色ある取り組みが、校内一斉指導や、行事の時間設定に支障をきたした。・安易な科目選択が生徒に起こってくる。・少子化により、より以上の学級減が予想され、科目設定に支障がでる。・教員の加配措置が継続されない。・専門学科設置時以来の学校の特色を維持できない。
68	全	・本校総合学科の理念に合った生徒の受け入れ方。・在校生の学校生活、各授業での取り組みの充実。・進路保障。
69	全	社会環境の変化や急速な教育改革の進行、その中に置かれている生徒達が、「総合学科の教育でどんな力を育てるか」という最も基本的な命題に回答するのが課題。
70	全	学校の立地条件が悪く、近隣の中学からの入学者は通学しやすいがそれ以外の中学からは登校時、下校時各1本のバス通学であり、バスの時刻に合わせた校時を考えなければいけないので通学バスの本数を増して欲しい。
71	全	・2科になったとはいえ、未だに半数近くの教員が工業科に属しており、2/3の生徒が所属する総合学科の教員数が少なく、併置校としての課題がある。・選択科目を多くすることは、職員にとっては一人で他種類の科目を分担せざるを得ず、平均して一人五科目程度を分担するため、日々の教材研究に膨大な時間とエネルギーを消費して努力している。そして、このことが人事交流を困難にしていることも事実である。
72	全	生徒も教職員も多忙である。目標を明確にし、安心して学べる、安心して働ける学校とするため、教育課程の見直し、行事の精選等が課題である。
73	全	・学校設定科目担当の外部講師の確保が難しい。・教員免許のない外部講師に関しては、TTを組む必要があり、本校教員の負担増になる。・個々の教員が多種の科目を担当せざるをえず、教材研究等の負担が大きい。
74	全	・総合学科として7期生を迎えたが、草創の教員の熱い思いが薄れつつある。第2の総合学科を作る思いで、改良・改善を加える必要があり、学校改革委員会を作って具体的に検討を始めている。・本校の生命線である「産業社会と人間」「プレ課題研究」「課題研究」は年々改良を加えているが、教員の自身の更なるスキルアップと教育力を高める必要がある。
75	全	毎年の異動により、総合学科への理解を先生方に得ていくことが困難である。総合学科になってから教員の多忙感が増えている。実際、20:00を超しても職員室に先生方の姿がまだまだみられる。
76	全	・「産業社会と人間」の準備、多種類の科目の教材研究、生徒へのきめ細かい指導など教職員は多忙な毎日を送っている。何とか余裕をもって校務ができないであろうか。・地域からより一層信頼される学校づくりの推進。・専部と年次(学年)との密接な連携。
77	全	総合学科としての特色を十分に発揮して、生徒たちの様々な進路希望に応えていくには、1学年3クラスは少なすぎる。総合学科本来の強みを活かすためにも、少なくとも1学年4クラスにはしていただきたい。
80	全	・教職員における総合学科開設当初の様な「熱気」と「迫力」は失われつつある。・初任者研修あけの教員は必ず、「総合学科」「専門学科」に配置するなどの人事面で積極的な施策が望まれる。(校長会の強力な申し入れが必要)・教職員の「総合学科体制」への認識の一本化。・新しい「総合学科としての文化の創造」を基礎とした特色づくり。・地域・中学校への一層の情報発信と広報活動の強化。
81	全	・教員の多忙感。(多くの科目を教えねばならない)・生徒側の進学要望への教員側の対応。(進学指導経験者の不足)・系列の適時性。
82	全	外部講師の積極的導入を計りたい。
83	全	連携校としての町立中学校の生徒の減少が予想される。10年後には現在の状況を維持できなくなるのは必至である。そのとき本校の運営をどのようにすればよいか大きな課題である。
84	全	改編以前から在職していた教員と改編後に新・転任により本校へ来た教員との間に、総合学科や校内における様々な部分の認識にズレが見られる。
85	全	授業の展開が多く、クラスを単位とした集団づくりが難しくなっている。クラスを超えた連帯感や仲間意識を授業や学校行事でどう形成していくかが課題である。
86	全	・授業の準備に時間がかかるようになった。・時間割が複雑で、時間割の中での会議の時間が取れず、放課後が会議の時間となり、生徒を指導する時間の確保が難しくなっている。
87	全	現体制は全教員が全力で取り組むことで実現しているが、各担当分野で見直しを行い、持続可能な体制に移行していく必要がある。
88	全	・教員が転勤すると、開講できない科目がある。・教員一人の持ち科目が多い。
89	全	様々な取組が、取組自体が多すぎて全体のものとして、認識されていない。取組が人について、組織的ではない。
91	全	・系列別会議が、開催しにくい。・非常勤講師との連絡が人数が増えた事により難しくなった。
92	全	以前の普通科と商業系学科にくらべて、総合学科は行事的な内容や、学校外と連携した授業等の取り組みが多く、学校全体の動きが複雑になってわかりにくい部分がある。
93	全	・生徒の意欲、展望の欠如。・福祉系列の今後の展望。・生徒数の減少に伴う開講々座の数
94	全	上記の総合学科に係る委員会を通じて総合学科の運営を行っているが、教員のより積極的な参画が望まれる。総合学科は学科の特性として多くの選択科目が設定されている。そのため、十分な数の教諭や非常勤講師の配置が望まれる。
95	全	・習熟度別授業や複数授業を多くの科目で取り入れたいが、教師の数と施設に限界がある。・コンピューターの更新。(学事ソフト問題)
97	全	7系列、8つの職員室を備え、教育活動を展開する中、教員相互の意志疎通の面において若干の課題をもつ。
98	全	総合学科に移行し多様な進路希望をもつ生徒が増加し、特色ある教育活動が取り組まれているが、その活動が入学前の中学生等に十分に理解されているとは言い難い。現在、県内に総合学科設置校が7校あり、県立高等学校の通学区域全県一区などの全県的な動向を踏まえ、さらに広報活動に努める必要がある。

99	全	・外部教育力に頼るところが多く、学校行事の日程調整等がむずかしい。・系列の内容の見直し。
100	全	生徒どうしのつながりがクラブ活動等を除いて稀薄であり、自身の位置を見出せない生徒がいる。
101	全	本校独自の諸事情もあるが、教職員の業務が多忙化しており、恒常的な超過勤務状況が深刻化している。
102	全	教職員に構成において、新任教員や講師の割合が多く、経験豊富な教員が少ない。
103	定	・幅広い科目に対応する為、多数の非常勤講師・社会人講師にお世話になっているが、余りにもその数が多くなり、情報の共有化・守秘義務の徹底の面で課題がある。
106	全	選択科目が多い関係で教員の出張の際に授業変更が困難で、課題で対応するしかなく、授業時間が不足して、教えたことが充分教えられないような場面がある。
107	全	ものめずらしさだけで終わってしまったら、総合学科に変えた意味がない。総合学科を充実発展することが本校の今後の浮沈にかかっている。
108	全	時間割が硬直化する中で、各種会議をどのように設定するかが課題となっている。また、講師をどう確保するか予算をどう確保するかも課題である。総合学科であるため、さまざまな依頼を受けることも多くそれらへの対応に時間を割かれることが大変である。
109	全	1人の教員が多くの科目を担当することにより、教科指導等の負担が増している。
110	全	年度により系列の希望者に偏りが生じる。人数に制限を設けないことを1つの条件としているので、希望者の多い系列では職員や施設・設備面で十分な対応ができない場合がある。
111	全	教員数減少により分掌を統廃合した。これまでどおり対応できるか不安。
112	全	・創立4年目を迎え、系列によって実筆と合わなくなってきたものもあるもので、早急に見直しを図っていききたい。・総合学科の職員として、共通意識を持って取り組んでいくことが必須である。本校の総合学科の求める生徒像を明らかにし、機会あるごとに確認しながら指導をしていかねばならない。
113	全	県内初の総合学科高校として設置されて11年目を迎えて、本校の抱えている課題としては次のような事項をあげ、全職員が一丸となって取り組んでいる。・学校目標及び教育活動等の保護者及び地域社会への広報の在り方について。・系列の見直しとそれに伴う各系列の目標及び教育課程の検討について。・『豊かな体験活動推進事業・推進校』としてのより一層の取り組みと、事業実施終了後の小中高校及び地域社会との連携の在り方について。〇〇地域の高校教育を担う本校への地域社会の期待は非常に大きいものがあり、今後も地域社会の本校への期待や要望の声に耳を傾け、あらゆる機会を捉えて生徒の成長により資する学校運営に心がけて行きたい。
114	全	・入学者選抜制度の変化、私学の積極的な姿勢などにより入学志望者が減少するとともに総合学科に対する理解不足のまま入学を志望する生徒が増加した。総合学科のシステムと特長に対する正しい理解へと導くために計画的で継続性のある広報活動が必要である。また地域との連携、中学校との関係強化のための取り組みが必要である。
115	全	・普通科・森林科学科・食品流通科との併置校であり、学年2クラスという小規模校であるがゆえに、個々の担当者に担うところが大きく、システム構築が困難である。
116	全	工業科や商業科などの専門高校と同じように専門教科の学習を深めたり、進学対策についての学習も普通科高校と同じように進めることは困難なので、入学志願者の減少傾向、特に男子の入学者が女子に比べて少ないのが課題である。
117	全	校務の効率化とゆとりの創出。
118	全	職員が問題意識を高め、改善していくための環境を整える。
120	全	・選択科目が多いため、HR担任及びHR生徒同士の「心のふれあい」が稀薄になりやすい。・教員の加配が少なくなり、学校運営が難しくなっている。非常勤講師では授業以外の学校運営ができない。・産業形態の将来的見通しが不透明のため、戦略が立てにくい。
121	全	・総合学科に対する理解をさらに深めるため、ホームページの充実や情報を発信する積極的な取り組み。・生活福祉系列において、介護福祉士国家試験受験資格の変更(平成21年度より)に対する対応。
122	定	昼間部の生徒の定着率が悪い。
123	全	中学生や保護者、また中学の先生には総合学科の中身が十分に理解されていない。そのため、入学後、戸惑う生徒も若干見られる。
124	全	県庁所在地方面からの生徒も多く、生徒の通学範囲も広域で、地元の学校という意識が希薄で本校に誇りを持てるにはどういう取り組みが必要なのか今後の検討課題である。
125	全	設置当時は加配もあって余裕のあるカリキュラム編成ができていたが加配がなくなり魅力ある選択科目を導入できない。
126	全	・中学校の内容がまったく定着していない生徒を多くかかえ分りやすい授業の展開をしているが、高校3年間では現行の状況の改善は難しい面もあり、進路決定に向けた基礎学力を付けてしっかり生徒を支えることが今後の課題である。
127	全	・個人としてはもちろん、学校全体としての授業力のさらなる向上。・自己評価や外部評価をいかに改善に生かしていくことができるか。
128	全	総合学科に変わって以来、進学者に比べて就職者が増加傾向にあるが、今後は進学者の増加に向けた取り組みも必要である。また、しっかりとした基礎学力の定着やより多様な資格検定取得が可能となるような、指導体制の充実が必要である。地域との連携をさらに深め、中学生・保護者へ学校の特色について周知を図る必要がある。
129	全	生徒や社会の実態に合わせ、さらに「産業社会と人間」を中心とするキャリア教育のカリキュラムを工夫していくことが課題である。
130	全	・中学校、生徒、保護者、地域社会に本校総合学科に関するより適切な情報提供を行うことが課題である。・スクールアイデンティティの明確化による教職員の一体化が必要。そのために多様な業務が存在する総合学科には、十分な人的配置が必要と考える。
131	全	・持ち科目数の多さ(平均6科目)が教員の負担になっており、教員数(講師時間数)の確保が望まれる。・進路研修の位置づけや「産業社会と人間」の主務者など、進路指導に関する部分の分掌整理が、まだ流動的であり、確立されていない。・目的意識や規範意識、基礎学力の低い生徒の入学も受け入れており、指導に手のかかる生徒への対応に苦慮している。
132	全	学校生活への意欲に乏しい生徒に対し、活力ある学校生活を引き出すため、基本的な生活習慣を身につけさせることが課題である。女子生徒が全体の7割を占める中で、進学希望者の多かった近隣の短期大学が大学に改編されたため、新たな進学先を模索している。
133	全	総合学科(高校)の将来的な展望。(設置意義を含めた今後の統廃合について)
135	全	進学に強い職員が少ない。
136	全	・「自律的な学校運営」及び「開かれた学校づくり」の評価を行い、改善するための取組みの工夫。・学校、家庭、地域等のネットワークの強化と充実。
138	全	昔からの本校像の殻を破ろうとする進取の面で課題あり。
139	全	・組織マネジメントの導入による学校の活性化。・適材適所による人材配置。
140	全	学力育成や、受験指導の知識・経験が乏しい教職員の研修。



142	全	・企画会議において協議課題をグループで整理し会議の時間短縮を図る必要があると思われる。また、さらに学校運営会議として機能向上をさらに図っていきたい。・現在グループは6グループである。その機能を十分に発揮させるには、現在の5名体制では負担が大きく、来年度は、6名の完全配置が望まれる。それによりさらに、学校全体の組織の活性化が期待できる。・現在あるグループが当初のねらいとおりに機能しているか検証し、その役割を十分に発揮できるよう組織としてのグループ編成の見直しを行うことにしている。
143	全	・会議の量が多く、総合学科に不可欠の教材開発の時間が十分にとれない。・多彩な教育活動を展開するのに、十分な予算がついているとはいえない状況がある。
144	全	・総合学科では全国的に各校とも男子生徒の入学が少ない傾向にある点を分析する必要がある。
145	全	企画会議が機能することによって物事の決定がスムーズになったが、方針やノウハウが教職員全てに徹底、浸透されることに若干の課題がある。企画会議や各分掌等や各担当等の情報や意見の交換に十分に意を用いる必要がある。
146	全	・職員の異動にともない、総合学科を理解していない教員が増加し、仕事にかたよりができている。・新タイプ校には新採用教諭や活気のある教員を配置していただきたい。
147	定	募集定員が1学級40名という状況が昨年あり、2学級募集であるが、定時制課程の学校運営には様々な課題を生じている。
148	全	市が多額のお金をかけ作ってくれた施設、設備ですが、これの維持、管理も含め、5年かけて信頼できる高校を作りをしてきたことが、この先10年、20年と発展させていくことに多くの課題があります。
149	全	「自分探し」のために、多様な選択科目が設置されている。そのため、専門性の高い科目も多く、必然的に社会人講師の採用も必要となる。単発のスポット講師の需要度は更に高く、多様で専門性の高い講師の確保が課題である。また、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」をはじめとして総合学科の教育活動のなかでは、講演会や発表会をすることも多いが、校内に講堂等の施設がないので小ホールの建設が不可欠である。
154	全	・総合学科高校に対する教職員の意識改革が課題である。（普通科しか経験していない教員には理解が難しい。）・キャリア教育について3年間を見据えた系統的な指導体制の確立が課題である。（産業社会と人間、総合的な学習の時間などを連携させた学校としてのトータルな指導計画の確立）・個々の生徒の能力や興味・関心、進路希望など応じて進路実現・自己実現につなげるための組織的・系統的な指導体制の確立が課題である。
155	全	一部システムの運用について、今後改良や工夫が必要である。各分掌を含め、各組織において校務が多岐にわたるため、分掌会議等で他の分掌に関わる事項については、十分協議するに至らない面がある。
156	定	・総合学科、単位制、定時制課程、チャレンジスクールという学校なので、システムが複雑である。教員の勤務体制も、A・B勤であり、共通の時間を持つのが困難。放課後がなく(1h～12hまである)、校務多忙、年次会等も時間割の中に組み。
157	定	毎年10人程度の教員異動があり、チャレンジスクールのコンセプトを踏まえた、人材の育成が大きな課題である。
158	全	本校勤務が3年未満の教員が教員全体の3分の2をしめており、開設当初の総合学科の理念を継承しながら、本校第2章などのような特色をもって運営していくが過渡期を迎えている。
159	全	・1年次から3年次を見通した進路を考える教育課程及び指導体制づくり ①「産業社会と人間」と「基礎選択科目」及びLHR等のきめ細かな連動 ②学校外の学修「就業体験」 ③「ボランティア活動」の積極的な拡大 ・総合学科ならではの教育を目指して ①魅力ある教育課程の編成[総合学科4学級の教員配当数を踏まえて] ②徹底した少人数授業と補習指導(放課後・長期休業中)の実施 ③設置系列の精選と充実 ・志願者確保に向けた積極的な取組 ①地元中学校との積極的な連携組織づくり ②長期休業中のサマースクール等公開授業
160	全	・単位制であり留年がないことから生徒の危機意識が薄く、早い時期に単位を落とし、3年間で卒業できない生徒がいる。・本校は2学期制であるが、3学期制と2学期制が県内に混在すること、及び社会の仕組みが3学期制を基本として動いていることで非常に苦労している。(例)調査書作成用に夏季休業前に仮評価を出さなければならない。前期末考査と就職試験が重なる事がある。定期考査期間中に部活動の試合が組まれることもある。本校の生徒は、生活指導に手のかかる生徒も多く、3学期制の方がけじめをつけて指導しやすい。
161	全	・総合学科についてまだ地域に理解されていない。・講師の確保に毎年苦労している。
162	全	・今年度より新設の「特進クラス」のサポート体制を確立する。・担任、学年主任段階での指導をきめ細かく行い、中途退学者を減少させること。・卒業生の進路未決定者を3%以下にすること。
163	全	単位制のため、4年次ができることがあり、学級担任を配置しなければならない。
164	全	「進学型総合学科」をめざすという方針が校長から提示されたが、従来の自由な校風を望む職員の声も多く、学校全体の方向性についてのコンセンサスが急務である。
165	全	生徒の変化(時代的なもの)に対応しつつ本校の伝統を発展させていくこと。
166	全	生徒個々の指導をいかにきめ細かく対応できる体制を整えることが課題。
167	全	・総合学科推進部と他の校務分掌とのさらなる連携による教育活動の推進と学校運営の充実。
168	全	「総合学科」の理解がすすんでいない。転動してきて初めて、「総合学科」を知る職員がほとんど。
169	全	学区内の中学生の少子化に伴い入学生の学力低下が著しく基礎学力の定着が必要不可欠になっている。「産業社会と人間」の指導を深化させることができる教員の育成、教員相互の共通理解を促進するシステム作り。
170	全	・時間割作成後の担任・係の仕事が集中する。・2年、3年次の選択科目の出欠管理の繁雑さの問題。
171	全	・非常勤講師が多く、授業変更がますますできにくい。・科目数が多いので教員の負担が大きい。・進路に応じた科目選択と興味、関心に基づく科目選択との調整が必要である。・多様な進路希望に応じた教育課程の編成が困難である。(教員、教室、施設設備)
172	全	{組織マネジメントを生かした運営 役割分担 コミュニケーション をいっそう研究し、実践すること。
174	全	・系列選択、科目選択そして時間割作成、授業展開にいたるまでの生徒指導、諸準備に、多くの時間が必要となり、教員の負担が多くなった。・幅広い選択科目がある反面、教室の数など施設面での充実が必要である。・生徒が常時自分のHR教室にいたることが少なくなったので、持ち物や貴重品については十分注意する必要がある。
175	全	授業外の校務の負担が大きくなっている。
176	全	本校の果たすべき使命と役割を適切な自己評価及び外部評価を実施し、積極的に学校改善に取り組む。
177	全	進路目標や目的を明確にしないと総合学科本来のメリットを生かせないが、生徒にどのように意識づけさせたいのか確立できていない。
178	全	・少人数による講義を行うためには、十分な施設・設備が必要である。・総授業時間数が多くなるため、十分な教員数の確保が必要である。
179	全	教員に多忙感があり、学校組織のスリム化、教職員の勤務の適正化が必要。
180	全	・地域の期待に応えられる特色ある総合学科づくり。(系列)・地域の教育力を活かした授業の展開。(特に財源確保)・高大連携の推進。
181	全	・現代社会のニーズに答えるべき姿の総合学科とは? ・ここ数年続いている入学者の定員割れ。
182	全	学年の副主任の立場があいまい。

184	全	第1の課題は、今後の本校の総合学科としての方向性の問題である。全国に総合学科がスタートし、十数年になるが総合学科の分化や特色化が進んでいる。首都圏や地方での相違また学校を囲む社会環境や自然環境の相違、学校と地域連携等を考慮し方向性を絞る必要がある。その際、学校に対する地域のニーズ把握や信頼関係の形成が重要である。第2に、基礎学力の養成と生徒や保護者の要求に応えるカリキュラムの編成である。スクールアイデンティティーを特色として打ち出していく必要がある。第3に、学力への評価の工夫・改善が必要である。生徒の学習意欲や元気を取り戻す積極的な評価方法を学校独自に開発すべきである。第4に課題学習の改善である。課題学習をいかにしてキャリア能力向上に結びつけていくかが課題である。そのための校内体制(指導プロセス)を確立すべきである。これに関連し系列のさらなる進化を図る必要がある。
185	全	・基礎・基本の習熟と応用力の育成。・新しいカタチの進学校としての多様な希望進路の実現。・キャリア教育の視点による諸活動の再構築。・学校外における学修の単位認定の推進。
186	全	教員の多忙化が課題である。
187	全	普通科との併設により、2学科の特色を地域に示すことが重要課題である。総合学科の学びの特色を広く地域に知らせていく広報活動と学習の成果が進路実績につながると思う。2学科を職員全員の共通理解のもと運営することは、業務の煩雑さを伴うことがある。
188	全	総合学科に伴う多忙な状況の解消、改善や定数減による業務の見直しが必要である。また、生徒減少期を迎え将来的な学校の存続のため努力する必要がある。
189	全	生徒の出欠管理には、多額の費用がかかっている。パソコンと、ソフトウェア、毎時の出欠を記録するカードなど経費がかかる。カードはリサイクルなどしているが、少なからず圧迫している。
190	全	進路達成のための学習として、大学進学率の向上を目標としているが、地元製造業の求人も多く、大学進学を希望する生徒が少ない。
191	全	総合学科の広報・キャリア教育の観点からの中学校との連携。・特色ある系列の学習成果の発表や地域への還元。個別の対応を容易にする学校体制としての系列や分野が、逆に各分野間の連絡調整(情報の共有)や連携を困難にしている部分も見えてきている。系列等の縦のラインは強く、それぞれがノウハウを持って指導しているが、系列、分掌、年次などの横のラインが弱い点が課題となっている。そこで、各分野間の連絡調整を密にし、組織として学習指導に当たる方策を研究し、それぞれの持つノウハウを教職員全員が共有できるようにしたい。寄せ集めの学科ではなく、真の“総合学科”として学校全体が一丸となって、生徒たちの確かな学力育成を目指したい。
193	全	カリキュラムや教務内規、生徒指導内規においては、新しいものに移行してから見えてきた改善すべき点もいくつかある。教科指導・生徒指導・進路指導等において、それぞれ細かな改善点は、全体の反省会等で確認しながら、よりよい方向を目指していくことが課題である。
194	全	今年度は特に文科省指定の研究「道徳教育研究」に取り組んで各種行事を行っている。
195	全	・教員の多忙さは改善されない。・科目選択の指導などは、教員の理解度が十分といえない。・産社・総合学習を運営・実行する分掌の必要性を感じる。
196	全	学級減に伴い、系列も6つから4つに見直したが、特に言語・自然科学系列をどのように充実させていくか、系列、年次、進路、他の分掌等とどのような関わり方をしていくかの整理が必要となっている。今年度は、管理職と年次主任、各部主任との会議を始めた。教員間の意思疎通がはかられ、皆で生徒一人ひとりを見ていくという本校の伝統的な面倒見の良さを今後とも引き継がれるような環境整備をしていきたい。
198	全	・保護者や地域住民の理解を深めるようなPR活動が必要。・福祉科目選択生が、介護福祉士の受験資格を得られなくなってしまうそう。
200	全	・学力の向上を図るため、教員の授業力の向上、生徒の家庭学習の定着。・部活動の活性化。・分掌間の連携。・学校評価への積極的な取り組み。
201	全	地域社会には、ある程度、総合学科の認識が深まりつつあるが、社会全体に対しては、まだ不十分だと感じられる。今後、さまざまな機会を通して、総合学科に対する理解を深める活動を行わなければならないだろう。
202	全	・統合によりますます進路の多様化が進むことが予想されるため、今後も、カリキュラムの検討が必要である。・地域との連携をますます強化していく必要がある。・少子化に伴い、広範囲からの生徒が入学し、学力差の開きがますます大きくなっていくことから、多くの課題が生まれることが予想される。
203	全	課題学習は生徒に根付いてきたものの実際の学習時間が伸びていない状況にある。また課題の量によっては部活動との両立が難しい生徒が現れてきている。
204	全	総合学科の特色である「産業社会と人間」「総学」、多様な学校設定科目等を生かしきれない状況にある。
205	全	伝統をふまえた新しい運営システムの構築。
206	全	・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の内容の充実。・選択科目の増加と担当科目数の増加による教員の負担増。・総合学科の特色を活かした教育課程の編成。・総合学科の中学校・地域へのアピール。
207	全	・社会のモラル・マナーの育成するために生徒の自覚を促す方法を模索している。・総合学科の特色を生かした教育の推進。
208	全	年々中卒者の数が減少する中でいかに総合学科の魅力を伝え生徒数を確保していくか課題である。
209	全	地域や中学生の総合学科理解が十分ではない。PR不足の面もあるが、社会的な認知度が低いと感じることが多い。学科転換直後の説明会などで特徴的な選択科目を前面に出し過ぎたこともあり、普通科のような科目が履修できないと判断されている面もある。そのため、体験入学や中学校説明会などでは、説明の仕方にも工夫をして誤解を解くよう努力している。
210	全	教員定数(減)による教育課程上の制限があり、総合学科としての特色を全面に出せない部分がある。
211	全	・総合学科そのものに対する中学生・保護者・中学校の教員などの理解や「認知度」は必ずしも高いとはいえない。さらに広報活動や説明会など情報発信の質を強化する必要がある。・進路指導に力を入れているが、「系列を生かした進路実績」という観点で物足りなさを感じる現状である。「出口」実績を大幅にアップしアピールしていく必要がある。
212	全	校舎施設設備の更新と先進的な農業経営の研究。生徒の自己実現を支援するキャリア教育の更なる充実。教員評価制度を生かした教職員の資質向上。
213	全	・講師の確保に多大な労力を必要とする。・施設・設備の管理に多大な労力を必要とするようになった。・生徒の移動等が多く、掌握に労力を要するようになった。
214	全	中卒者の減少により、入学希望者が減少している。
215	全	・教職員の一層の自主的、意欲的な経営参加意欲を高めるため、学校評価の改善・充実に努める。・課題解決に向け、より効果的・実践的な研修体制を確立し、教職員の資質向上を図る。・生徒・保護者・地域のニーズを的確に把握し、学校改善につなげる。
216	全	・学校設定科目に対する教員の指導力不足(教科書等)。・生徒の科目を選択する力の不足。・資格取得に対する教員の意識低下。・ガイダンスの充実。(時間をとられてしまう、多忙な学校日程のなか)
217	全	周知されていない現状を打破する。
218	全	小規模校の総合学科のため選択教科の数が少なく、生徒募集の際にも総合学科としての押しがあまり、できない。



220	全	科目選択の幅を多くするためには、多くの教員を同時に配置する必要があり、時間割の編成などを柔軟に行うことが非常に困難となっている。また、私学においては進路実績なども重要となっており、両面に配慮した学校運営が必要不可欠である。
221	全	経済的事情で退学する生徒が少数ではあるが、奨学金などのさらなる支援が必要である。
223	定	今年度より特別支援教育の生徒に対して、より専門的な指導が行なえるように研修を積み重ねており、全教員が対応できるようになること。
225	全	少人数の科目や複数教員の担当による経費の増加。
226	全	・専門教科教員確保。(有資格者) ・授業時間数の確保。
227	全	・出席及び成績処理にかかるエネルギーが大きい。・学事処理について専門知識をもつ職員が必要となる。・教員の担当する科目の種類が多い。
228	全	・中学校に対し、第3の学科としての総合学科の特徴・特性を理解させることがなかなかできない。・自動車系列は、3級自動車整備士養成のための専門実習時間が定められており、早期に専門教育が開始されるため、総合学科の原則を通し難い。・系列ごとに講座数を増やしたいが、教員定数法上の経過措置が不十分なので制約がある。・実習科目への対応に実習助手が相当必要であるが、定数法上最少に制約されている。・教務システムによる生徒の出欠入力など煩雑になったことや、生徒の教室移動も含め教員の仕事と生徒の把握が複雑になった。
229	全	実習授業は複数教員で実施するため人件費がかかる。
230	全	魅力ある総合学科の構築と安定した生徒数の確保を目指し、学校全体で取り組んでいきたい。
231	定	・公立高校の学校改革により類似の単位制・総合学科の高校が誕生してきており、今後競合するであろう。
233	全	・不登校経験の生徒の入学増により、カウンセリング体制の充実及び生徒指導、進路指導の充実が課題となっている。教員の免許科目以外の授業が多くなるし、また1教科当たりの受講生徒数が相対的に少なくなる等、教員の確保が厳しいし、人件費等のバランスもある。
235	全	系列選択、自由選択と生徒が選択する際人数のバラツキが出来る事。5名ぐらいでも開講したり非常勤を配置しなければならない。
236	全	企業・大学・専門学校との連携を強化し、多様な資格取得・スキルアップを図りたい。
237	全	私立高校では、多くの選択科目を設定する事は、経営的にも、大変である。
238	全	県内で総合学科の設置がされているのが、現在までまだ2校と少ないため、地域からまだまだ認知度が低いと思われる。その為か、年々入学者が減少傾向にある。また、他学科と併設のため、定期考査の実施など行事のたびに悩まされる。更に運営システムが完全に構築できていないので、表簿の作成が難しい。
239	全	本校だけではないと思うが、他学科の先生や自分のテリトリー以外のことに関心を持たない。総合学科について、担当にまかせておけばよいという考え方がある。中学校においても、先生方も深く知ろうという前向きなことを感じない。本校の先生方から直せたらと、方法を研究中である。
240	全	・総合学科の良さがまだまだ知られていないので、総合学科の特色を生かした教育を積極的に展開することで理解を進めていかなければならない。・総合学科を理解しないで入学してきている生徒への対応。・総合学科における教科教育に関する研究の取り組みの工夫。
241	全	・少子化にともなう生徒数減と教員定数減により、総合学科としての十分な役割を学校全体が果たすことができるかどうか不安である。

### 3. 各教科・科目等の授業について

(番号:資料整理の為の学校番号 全:全日制 定:定時制)

番号	全・定	問12(3)a 各教科・科目等の授業についての成果をご記入ください。
3	1	・少人数指導、習熟度別指導等きめ細かな指導ができる。・主体的な科目履修を通じて、生涯学習の基礎が培われている。
4	1	系列毎に主要科目選択において縛りをかけた為、系列の特徴を出した学習指導が可能になった。
5	1	「地域の歴史と文化」、「地域の産業と経済」、「地域の自然と観光」、「数学の不思議」、「ボランティア」、「ダンス」などの本校総合学科ならではの多くの教科・科目を開設し、生徒の進路希望や興味関心に応じて選択した独自の時間割を作成することに生徒は満足している。
7	1	生徒の興味関心に応じた科目設定が可能である。少人数での授業が設定でき、きめ細かい指導が可能。
9	1	多数の科目を設置しているため本校の特色の1つとして確立している。生徒の進路や興味に対応できる。
10	1	各教科(各系列)では、必修科目も含めて多くの科目を開講し授業を行っている。生徒が自ら希望した科目であるため、意欲は高く、授業は活発である。とくに専門系列においては、「ものづくり」や「外部講師招へい授業」など、実践的な取り組みを行って成果を上げている。また各種検定や資格取得にも積極的に取り組み、高い実績を上げている。
11	1	少人数・習熟度別授業が増えたことで、生徒の実態に応じた指導がこれまで以上に可能となった。
12	1	多くの選択肢があり、あらゆる進路選択への対応が出来る。
13	1	既存の学校にはない科目の開設により、生徒の学習意欲は高まっている。特に原則履修科目となっている「産業社会と人間」はキャリア教育の礎となっており、生徒の職業観や社会観の育成に大きな影響を与えている。また、科目によっては学年を超えた授業(他学年の生徒との合併授業)が実施され、学年横断的意識の形成に寄与する部分もある。
15	1	進路希望に応じた科目を設定することにより、学習意欲が高まり、積極的に学習に取り組む生徒が増えた。
16	1	「産業社会と人間」と、一年次系列選択科目の集中履修を実施した。従来の自己理解、講話、体験の学習に加えて各系列の体験学習を全ての生徒に学ばせることとした。前期に「産社」と系列選択(2単位)の合計4単位を使って「産社」を実施し、後期に系列選択科目を実施している。
17	1	選択生徒のその科目において、目的意識が明確である。
19	1	・国語・英語・情報・商業・工業・福祉の各教科で、資格取得を目標とした指導を取り入れることで、資格取得者が増加している。
20	1	本校は開校以来、「主体的な学びの育成」及び「自己表現力の育成」を授業改善の目標に掲げてきた。なかでも「自己表現力の育成」においては、国語科をはじめとする各教科や「産社」の授業において、自己の考えをまとめて、人前で原稿なしでスピーチするという取り組みを続けてきた。この取り組みにより、多くの生徒が自信を持って人前で堂々と自己表現することができるようになり、学校内外での発表の場だけでなく、大学入試や就職試験の面接時にも大変役に立っている。
21	1	選択した科目なので、不本意で受講している生徒がなく、科目に対する意欲が高い。
22	1	習熟度別クラス編成を行っているため指導が行いやすい。
23	1	総合学科へ変った頃より、授業改革に取り組んできており、特に少人数クラスや習熟度別授業では、成果を上げつつある。また、大学受験に対応するよう、学校全体でも学習に対して真剣に取り組んでいく雰囲気作りにも努力している所である。
24	1	学校設定科目が多く、特色のある科目が開設できている。
25	1	一講座あたりの人数が少ないので、きめ細かな指導が行える。
26	1	進路希望に応じて、少人数できめ細かな指導ができる。
27	1	少人数の授業や意欲的な生徒がそろった選択科目もあり、多くの生徒は自分で選択した授業に満足しているように思われる。
29	1	・2年次以降、自らの責任で科目を選んだという意識から、前向きに授業に取り組む生徒が多くなった。・少人数の授業が多くなり、生徒の授業に対する集中力がでてきた。その影響は大きく、すべての授業で授業態度が向上し、理解力も全体的にアップした。・個別指導が至るところで展開され、学力に応じた学習ができるようになった。
30	1	各科目において進路希望別の性格を持たせたり、基礎学力充実のための科目を置くことにより、生徒の学力向上に資することができた。
31	1	座学にとらわれない、体験的学習(見学、調査、発表等)の授業が増えてきた。チームティーチングなどの、一人ひとりを見つめる授業も増えている。
32	1	生徒が自発的に選択し、また比較的少人数の科目の場合は、生徒の姿勢も前向きのため、充実した授業となった。また、学校設定科目に関して、その内容が担当する教職員の専門分野に近い場合は、教職員の知識が豊富で、関心も高いので、それに伴って授業内容もよりよいものになった。
33	1	主体的に進路を考えて、学習に取り組むために特に専門、科目において、資格取得や国家試験で優秀な成績がおさめられている。
34	1	・進学・就職と進路に応じて各教科・科目の中から選択して学習できるので、どの授業に対しても生徒は、目的意識をもって取り組みやすい。・開講講座数が多く選択科目では1講座あたりの生徒数が少なく少人数体制での指導ができるため、生徒の授業への満足度も高い。
35	1	多種・多様な科目を展開することにより、生徒は、より個性に応じた学習を実現している。
37	1	各講座の受講者数が少人数である場合が多く個別指導等が充実している。
38	1	科目に興味・関心や意欲のある生徒が受講者の主体となることで、効果的な授業展開が行い易くなった。
39	1	授業を自由選択できるので、生徒の希望は十分に満たされている。特に、実技系の教科・科目では、専門性の高い授業が行われている。
40	1	・生徒自ら選択しているので比較的取り組みもよく授業はやりやすい。
41	1	当初は上位層が、成績進路、資格検定、各種大会等でそれまで以上の成果を挙げた。また、他の生徒もそれにつられて、いろいろな面で個性の伸長をしていた。
42	1	習熟度、少人数展開を利用し、基礎学力、学習効果の向上を図ることができている。
44	1	小人数指導・習熟度別指導・チームティーチングを取り入れることにより、基礎学力の定着とできる生徒の向上を図ってきた。
45	1	小人数の授業が多い為、生徒実態に合せやすい。
47	1	芸術系進学を考えている生徒にとって、2・3年次で実技系の科目を多く履修することができる。
48	1	あらかじめ設定された課題については解決する力が定着した。
49	1	個に応じた、きめ細かな指導の中で、生徒の個性を、引き出す、教育ができつつある。
50	1	福祉、農業等、普通科では展開できない授業を取り入れることができた。
51	1	総合学科の特色を生かし、習熟度別授業の強化や少人数授業を実施し、それぞれの生徒の進路に応じたきめ細い指導が可能である。
53	1	少人数の授業できめ細やかな指導ができた。

54	1	多様な選択科目の授業を展開し、教員の授業力を向上させ、生徒の学習意欲の喚起に効果をあげている。
55	1	・少人数による学習の実現・系列色を強め、進路目標の明確化をはかり、より深い内容を学べる。
56	2	・少人数の授業が多く、きめ細かい指導ができる。自らの意志で科目選択ができるため、学習意欲の向上につながる。
57	2	各教科で、多くの生徒に履修してもらえるように工夫がなされ、興味を持てる科目が多い。また教科「総合」の中でも設定科目として「表現」「地球の未来」「カウンセリング」等特色あるものを設けることができた。
58	1	・教材提示装置を準備することで、全ての教科において授業研究を行っている。また、実践を重ねることでアイディアも多く生まれ、生徒のニーズにあった授業への取組が積極的に行われている。・語学の授業を中心に、チームティーチングも多くあり、個に応じた指導に効果があがっている。
59	1	生徒の進路希望に応じた授業が行なえる。
60	1	生徒が進路希望に沿って科目を選択するため、学習したことが将来直接役立つケースが増えた。
61	1	・幅広い内容の教科や特色ある学校設定科目を履修させることができ、生徒の進路や興味関心に対応することができる。・少人数指導の実施。
62	1	少人数で目的意識を高くもった生徒が、選択するため学習効果が高い。
63	2	多様な選択科目を設置して、少人数クラスでの授業(数学・英語においては習熟度別授業)を実施しているが、これにより生徒の理解度に応じたきめ細かな対応が可能となっており、生徒の理解力の向上に役立っている。
64	1	概ね生徒の希望に沿った科目選択となっているので、比較的に意欲のある生徒の割合が多いこと。
65	1	生徒への教科別授業評価アンケートでは、概ね満足の回答を得ている。少人数授業がほとんどであり、教員・生徒間の関係もほぼ円満である。
66	1	・自分が調べたことや、講話や見学等で学んだことを的確にまとめ発表できるようになった。・基礎学力や専門科目に関する基本的な知識・技能が着実に身につけてきた。
67	1	多くの科目を設定することにより、生徒の興味・関心に応じた学習ができるようになった。
68	1	・多くの科目を設定することで、生徒の興味・関心に応じた科目を選択することができる。・それぞれの授業内容を工夫し、生徒へ提供することができる。
69	1	各教科とも小人数での授業を実施しており、きめの細かい指導ができ、成果を上げている。
70	1	少人数制の授業が行え、個々に対応した指導ができる。
71	1	・自ら選択した科目であり、興味・関心を持って授業に臨む生徒が増えた。・それぞれの科目選択者人数が少ないため、個々の生徒の達成度に応じた指導が従来よりしやすい。
72	1	福祉や芸術他専門性の高い科目を履修することで、専門的知識や技能を身につけることができ、卒業後の進路実現に大きく貢献している。
73	1	多様な学校設定科目を開設し、生徒の多様な進路に対応するとともに、習熟度別や小人数授業を活用して、学力の伸長を図ってきた。
74	1	少人数指導、習熟度別指導により基礎基本の徹底が図られるとともに進路希望の実現(達成率)が上昇している。
75	1	学力向上ステップアップ事業に取り組み、生徒による授業評価を実施、定着しつつある。
76	1	・習熟度別授業により到達度に応じた指導を実施(英・数)・少人数制の授業により、生徒個々にきめ細かな指導を実施・学習意欲を高める効果的な課題を与える(週末課題、長期休業中の課題等)
77	1	①生徒が自ら科目選択することにより、講座内で生徒が均質化できる。そのため焦点を合わせた授業がしやすい。②少人数の講座が多く、講座の生徒の顔を見ながら授業内容の深淺を図ることができる。
79	1	生徒の関心興味に応じた学校設定科目を出来るだけ多く設置していく方針の下で、この10年間で多くの科目を設定することができた。
80	1	総合学科独自の科目、専門科目、総合的な学習の時間を中心に体験的、実践的な授業を導入している。多くの選択科目で少人数講座を開講し、きめ細かな指導を行なっている。
81	1	従来なかった第2外国語(中国語、韓国語、朝鮮語、スペイン語)を選択できたり、系列を特徴づけているような科目(地域学、地域の文学、環境科学etc)を学ぶことができる。
82	1	少人数による授業で学習効率を高めている。
83	1	本校は国語、数学、英語について中学校と相互に教員が出向いて授業を行うNS授業を実施し、町内の小学校とも連携して12年間のシラバスを作成し、町が一体となって地域の生徒の学力向上を目指している。到達度別クラス編成を実施し学力の向上に努めている。
84	1	生徒の多様なニーズと希望に応えるため、実習を多く取り入れるなど、生徒主体の授業展開を心掛けている。
85	1	習熟度別講座や基礎科目から応用・発展科目と多様な講座設定により学習効率はよくなっている。
86	1	選択の資料としてのシラバスの必要性から、全教科でシラバスの作成が行われ、授業にも生かすことができるように
87	1	・産業社会と人間を開設することで、進路に対する意識が深まり、科目選択や将来の職業選択を的確に行う力を育むことが可能となった。
88	1	少人数展開、習熟度別の授業を行う。
89	1	授業技術の向上を目指し、授業公開や研究授業、授業評価アンケートなどに取組んでいる。
91	1	・教科間の連携が取られる機会が増加し、授業改善に繋がっている。・少人数授業展開、習熟度別展開の、授業が増え、細やかな生徒指導が可能になった。
92	1	小人数講座が多く、生徒の状況に合った授業ができている。生徒も自分で選択した科目を学習するため意欲が高い。
93	1	可能な限り、習熟度別講座、小人数講座を編成するとともにチームティーチングを導入し、生徒の学力実態、進路希望に即した指導を行っている。
94	1	生徒は自分の進路計画に基づいて授業を選択しており、以前に比べて目的意識を持って授業に臨んでいる。授業内容も座学にとどまらず、実習授業や校外施設での授業もあり、メリハリのある学習活動ができていると思われる。多くの選択科目があり、少人数で効果的な授業が数多くできるようになった。
95	1	数学科や各系列の授業で分割、小人数授業を実施し、きめの細かい指導ができている。
97	1	生徒の主体的な選択を生かすための工夫として、1年次はクラス単位の授業を行っているが、2・3年次は共通履習科目についてのみクラス単位での授業を実施し、総合選択科目・自由選択科目については学年全クラス同時展開で各系列に分かれた授業展開を実施している。
98	1	・講座の人数が少人数になることが多く、このため、指導がやりやすくなる傾向がある。・目的が比較的同じ集団で授業講座が編成されるため、学習の効果があがりやすい。
99	1	6日と11日にそれぞれ2週間の公開授業期間を設けている。また生徒による授業評価を行い授業改善に取り組んでいる。
100	1	・学校を活性化している(文化祭での発表)・資格取得に役立っている。・進路実現に役立っている。
101	1	①3年間を通じたキャリア教育に重点を置き成果をあげている。特に集大成として3年次に実施している「いいなんゼミ」での公開成果発表会が高い評価を受けている。②高大連携授業では大学レベルの学びに触れることで、生徒が強い刺激を受け、その後の学習や進路決定に良い影響を与えている。
102	1	習熟度別授業の展開により、「わかる授業」を実施できるようになった。

106	1	就職に関しては専門高校時代と同じだけの就職先が確保できているのに加え、4年制大学を中心に進学の実績を上げることができた。この中には国立大学4名も含まれている。
107	1	授業の集中力・態度は以前と比べて格段とよくなった。
108	1	生徒の興味関心によって科目選択するため、また、少人数授業となることが多いため、習熟効果が高い。情報処理等の各種検定、国家資格の合格者も増加している。
109	1	自分の興味・関心や進路を考えて自ら選択して受講しているため、生徒の学習意欲は高い。また、人数も少人数で実施している科目も多く指導しやすい。
110	1	・小人数制・習熟度別に授業を行っている科目が多いため、きめ細かな指導ができているように思う。・7限にも授業を設定しているため、意欲的な生徒のニーズに答えることができています。
112	1	職業系の授業や数学・英語などで複数の教員による少人数授業をし、生徒の実態に即した授業が展開できている。
113	1	一年次の数学・英語では習熟度別授業を行なっている。また、一科目の授業人数が少人数であることが多く、目のいき届いた指導がなされている。そのせいもあり、進学・就職・資格取得に成果を上げている。
114	1	授業の大部分を占める選択科目は少人数編成クラスによる授業が多く個別的な指導が可能である。生徒の学力や進路希望を把握して効果的な指導をすることができる。また教師と生徒、あるいは生徒間での相互のコミュニケーションが可能な人数によるクラス編成で、活気ある授業展開ができる。
115	1	生活福祉系の科目を中心に、校外実習等において地域との連携が図れてきている。
116	1	1年次の「産業社会と人間」の内容をさらに充実させるために、1年次で立てたライフプランの実現に向けて、2年次、3年次の総合学習においてさらに進路学習を発展させることができた。
117	1	個に応じた専門教育が展開されるようになった。各種検定の合格者が増加した。
118	1	2年次から系列に所属することで、系統的な授業展開ができ、専門性を高めることができた。
120	1	・県立大学との連携授業は大学の全面的な協力が得られ、福祉系の授業として軌道に乗ってきた。・韓国語、仏語、工芸などの教養的な授業も講師の確保、受講生の確保とも順調である。
121	1	系列の特徴を生かした特色ある開講科目が充実してきている。
122	2	特に変化なし。
123	1	小人数で個々の能力に応じた指導を行うことができる。
124	1	数Ⅰ、数A、英Ⅰ、国総、現代文で $\alpha$ 、 $\beta$ の習熟度クラスを実施している。その結果特に $\beta$ クラスの生徒の学習意欲喚起に役に立っている。
125	1	少人数授業により生徒の目的意識が高揚し、進路意識や学力が向上した。
126	1	「郷土芸能」などの学校設定科目はたいへん有効に運用できている。
127	1	・落ち着いた雰囲気の中で行われており、生徒の姿勢も真剣。・小人数での指導が多く、個に対する指導を含め、よりきめ細かな指導が可能であり、また、生徒の主体的な活動を中心とした授業運営ができている。
128	1	生徒の実情に即して多様な選択科目を開講することが出来、生徒一人一人は自分の進路や興味関心に応じた選択が可能となる。また、選択の幅が大きい分だけ一つ一つの講座人数は少ない(少人数指導)ので指導の密度は大きくなり、成果を得やすい。
129	1	少人数授業の特性を活かし、討論や体験などを取り入れている。
130	1	・選択科目では意欲的な生徒が多く、授業が充実し、改善の工夫も多い。
131	1	・多彩な科目の開講により、少人数学習が実現している。・画一的な授業から、生徒の興味・関心や進路希望等に応じた授業が展開でき、学ぶ楽しさを主体的に味わえるようになってきている。
132	1	各系列ごとに柱となる科目を設定し、系列の特色を出してきた。生徒のニーズに応じた科目を開講している。また、施設・設備等の問題で開設できない科目を、校外学修という形で、開設しているのも大きな特徴である。
133	1	大学進学志向が高まり、普通教科(特に国・数・英)の希望者が多くなり、国語と数学でそれぞれ1単位増単した。
136	1	①地域で唯一専門教育を実施し、就職希望者にも進学希望者にも柔軟に対応することができる ②「総合的な学習の時間」において、1年次は全生徒対象にインターンシップを実施し、2年次・3年次と学年が進むにつれ、進路について「自己の生き方を考えること」から「教科等の知識や技能を相互に関連付け総合的に働くこと」に主眼を置き、個性を生かした主体的な学習を実施し、生徒は学ぶことの楽しさや成就感を持ち、いきいきとした学校生活を送っている ③生徒は、5系列の系列の中で「やりたい勉強」をするために総合学科を選んでおり、高等学校間の序列意識の打破に一定の役割を果たしている。
138	1	各教科ともに基礎学力の向上をはかり全校漢字テストへの取り組みでは漢字検定の合格への道をつけている。
139	1	基礎学力の定着について習熟度別授業の展開により一定の成果がみられる。
140	1	小人数できめ細かくていねいな指導をしており、よくわかるまでめんどろを見ている。
142	1	・総合選択科目の授業において、参加型の授業内容を中心とした取り組みが行われ、生徒が意欲的に学習する場面が多く見られるようになった。・少人数授業の実践で、きめ細かな指導が可能となった。
143	1	福祉系・環境系などの科目において、地域のネットワークや自然の特性を生かした授業が展開できている。
144	1	・シラバスの開示、評価規準に基づいた観点別評価の完全実施、指導と評価の計画に基づく授業展開、さらに生徒による授業評価を生かした授業改善への取り組みが進んだ。・生徒の興味関心や多様な進路希望に応えるためさまざまな魅力・特色ある学校設定科目の開発、開講がなされた。
145	1	授業の向上は学科に係らず重要課題であるが、とりわけ総合学科においては同僚との授業展開の事前事後の調整も含めて、入念な準備が必要であるが、本校ではリーダー格の教員がより連絡調整に努め、質の維持が図られている。
146	1	・生徒が自ら選び主体的に学ぶことが出来ている。体験的学習を取り入れた授業が増え、積極的に授業に参加する場面が増えた。
147	2	原則履習科目の「産業社会と人間」は生徒が興味・関心を持つように担当が創意工夫しているが、生徒の出席率も他科目に比較して良く、望ましい職業観や勤労観の育成が図られている。授業を工夫しているという意識が根付き始めた。
148	1	系列等にも特にしほりをかけず、生徒一人ひとりの興味、関心、進路に応じて、科目を選択させ学習させています。本来の総合学科の姿であると思いますが、これは入学してくる生徒たちの質が高いからだだと思います。教科指導にもきちんと、学習する生徒たちの力は大きいです。
149	1	・生徒の空き時間に生徒・教員が慣れ、有効に時間を使い始めた。・生徒が自分の将来を考えて選択できる系列科目は非常に学習意欲が高く授業も活気がある。
151	1	生徒の多様なニーズに応えられる授業ができている
154	1	・生徒のニーズに合った多様な選択科目が開講できた。・習熟度別授業、展開授業(1クラス2展開、2クラス3展開)、選択授業等の少人数授業で一人一人の生徒への指導が行き届いた。・英検、簿記、ワープロ等で資格検定の受験者や合格者が増加した。
155	1	①生徒の学習意欲に通じる適正な科目選択について、教務部、進路部、研究部で連携し、その選択基準方法の見直しを行った。生徒の将来像を基に科目選択させる指導を全教員に提示し、その面では改善がはかれた。②生徒の学習習慣改善に教科や個人で持続的にとりくんだ。

156	2	英語、国語、数学を習熟度別、世史A、現社、保体、家庭基礎、情報、奉仕、生活実践を少人数編成授業で実施。生徒の能力、学習歴に伴った授業を展開している。
157	2	体験学習重視の基礎科目(国、数、英、理)や少人数指導を実施し、個別対応を徹底している。
158	1	多岐に渡る選択講座を展開することにより多様な生徒の進路希望に対応できるようになっている。
159	1	少人数指導が可能で生徒個々のレベルにあわせてきめ細かな指導が出来る。
160	1	2、3年次は選択科目が中心で講座毎の生徒数が少なくなるため、個々の生徒に目が届き、落ち着いた授業が展開できる。
161	1	生徒にとって魅力的な授業がふえ、生徒は生き生きと学んでいる。
162	1	授業改善推進委員会を中心として、授業公開等を行ない、指導力向上に役立てることができた。
163	1	選択科目は、本人の希望により選択しているため、授業への参加意欲が高くなっている。
164	1	国語科と英語科を中心に、ここ数年間朝のSHRで小テストを週1回ずつ実施している。教科から出てきた取組みなどに、完全に定着している。
165	1	授業内容改善のための体制づくり。
166	1	生徒の進路に応じて、科目を選択しているため、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。
167	1	・自分で時間割作成をし、科目選択をしているため、授業への取り組みが良い。
169	1	豊富な選択科目によって生徒は進路に合った科目の授業を受けることができるようになり生徒指導の幅が広がった。
170	1	・学校設定科目で生徒との興味、関心が高くなり、学習意欲が向上
171	1	・少人数での授業が多いので、目が届きやすく、指導も丁寧になっている。・芸術科目が充実しており、授業と部活の連動から、コンクール入賞し美大への進学を果たす生徒が出た。・「学校設定科目」で他校にはない科目を履習できる。
172	1	3桁にもなる科目(講座)を展開すること自体スタッフ、教室の整備・配置には労力がかかる。生徒・教員がチャイムからチャイムまで正味50分授業を行う体制は現在は問題ない。
174	1	・少人数による授業、習熟度別授業によるきめ細かな指導が可能になった。・幅広い科目選択、進路に応じた科目選択が可能になった。
175	1	・自分の学びたい分野・科目を選択した生徒が集った授業となるので、生徒も集中でき、意欲もある。また、教員も授業がやりやすくなった。
176	1	・系列の特色として、自動車整備士、介護福祉士等の資格取得が可能となった。・少人数講座の開講条件は、原則10名以上であるが、資格取得や受験に必要なであれば、5名以下でも開講し、木目細かな指導が実施されている。
177	1	・少人数で展開できる授業では、生徒の実態に応じた内容等で行えるため生徒が落ち着いて参加できるようになった。また、自分の興味・関心のある授業では、より積極的に参加するようになった。
178	1	・少人数授業により、きめ細かい指導が展開できる。
179	1	選択科目が多く、少人数授業が実施されている科目も多い。東北唯一の演劇科目が設定され、コミュニケーション能力の育成に役立っている。外部講師の活用が図られている。
180	1	・資格取得者が増え就職に有利に働いている。・外部講師の活用が円滑に行われている(家庭、福祉、美術等)
181	1	・選択科目が多い為、意欲的に授業に取り組んでいる生徒が多い。・2年次以降の選択科目では小人数授業(および習熟度授業)を実施しており、前述の意欲の高い生徒も多いことから、教育効果も高く各種検定でも実績を残すなど成果。
182	1	授業内の遅刻対策として遅刻5回で欠課1回とすることとした。安易な遅刻は減少している。
184	1	生徒の興味関心・個性を伸ばすための教科科目の設定は、その分野の力を伸ばすことに大きく寄与している。また授業と部活を連動させることにより、成果を上げている。ブロックで時間割を作成している関係上、2時間続きの授業が多く、実技系の授業は効果を上げている。
185	1	高大連携・学校間連携授業の実施
186	1	少人数授業が増えたため、よりきめ細かく、手厚い教科指導が可能となった。
187	1	選択科目の学習については、進路目標が明確であることから、意欲的である。また、評定も高い。プレゼンテーション能力の育成の観点から、課題解決型の学習の取り組みも多く、生徒のコミュニケーション能力の向上につながっている。
188	1	資格や検定などへの取り組み、学習意欲の向上など改編前に比べ大幅な改善が見られた。地域の人材の活用や、地域との関わりも新しい要素である。
189	1	一つの教材を多くの教科や科目で共有することができた。本校には学校農場があり、昨年度からひまわりを休耕田に作付しているが、ひまわり畑の見学と学校開放を農業科で、商業科ではひまわりをテーマにしたチャレンジショップ経営、家庭科では、ひまわり畑の来訪者にプレゼントするアプリの作成など、学校でのとり組みを教材として活用できた。
190	1	授業改善を行うため、昨年から、年2回生徒による授業評価アンケートを実施し、授業に取り入れている。
191	1	各系列において、特色ある授業に生徒が意欲的に参加している。
192	1	総合学科の特色の一つに科目選択が挙げられるが、一年次で科目選択をする際に、卒業後の進路や将来像を深く考えさせた上で進路希望に合った科目を極力選択するようにしており、特に専門教科においては目的意識が明確な生徒の多い中で授業を進めることができた。
193	1	教務内規の変更、および再確認により、単位認定の方向性が明確になった。生徒の授業への取り組みは、以前よりも緊張感のあるものになっている。
194	1	授業評価や研究授業を毎年行い、授業の改善に努力している。
195	1	・資格取得に結びつくものが多い。・授業の「理解度」は6～70%で、「授業評価」はA・Bが大半である。
196	1	授業を重視し、進学、就職いずれの進路希望も100%達成されるよう、教員の意識も向上している。生徒の家庭での学習が少ない分、授業内で理解を深められるよう、また習熟の度合いに差が大きい分、わかる授業の工夫改善が進められている。
197	1	選択科目では比較的少人数の生徒に授業を展開しており、きめ細かな指導が実施できている。
198	1	少人数の授業が多く、個々の生徒に行き届いた指導を実現させている。
200	1	・系列においては、専門的な資格取得に向け成果を上げた。・進学においても国公立大学への合格者を出した。
201	1	習熟度別学習を実施し、生徒個々の能力と発達段階に応じた指導を行い成果をあげている。
202	1	商業系・福祉介護系・農業工業系(連携授業)の科目の充実。特に福祉介護系の科目については、地元の福祉協議会との連携を取りながら充実した内容となっている。
203	1	商業や情報の科目では資格取得に力を入れており、実績をあげつつある。また商業の学校設定科目では、起業家になるための知識を得ることができるなど特色ある授業が開講されている。
204	1	授業に意欲的に取り組む生徒が増えた。
205	1	少人数授業を展開することができ、個に応じたきめ細やかな指導が可能になった。
206	1	年次に応じた学校設定科目の学習による興味・関心の増大。
207	1	2年次から2コマ続きの授業展開が実施されるため、実技・実習科目では有効効率的な授業が展開されている。
208	1	同じ目的を持った生徒が集まることで授業に集中する雰囲気が形成され、模試等の結果を見ても確実に上位層の学力が向上している。

209	1	1年次は国数英等の基礎科目と「産業社会と人間」の学習に重点を置いている。2・3年次では89の選択科目をA～Lの12ブロックに配置しており、合計36単位分を選択して学習することができる。特に「羊と織物」「トレーニング実習」「伝統音楽」「地域学」などの学校設定科目では、少人数での開講、民間講師の導入も行い、本校独自の科目として定着しつつある。
210	1	基礎基本の定着のもとに学力差のある生徒に対応した習熟度別指導の展開と資格取得などを目指した少人数指導により多くの生徒が資格を取得することができている。
211	1	・シラバスの作成提示などにより、授業そのものに対する教員の意識改革が見られる。・生徒の「授業評価」等により授業の改善・工夫がなされている。・TTや少人数指導が多く科目で実施され個に応じた教育が進められている。
212	1	・習熟度別学習など生徒ひとりひとりの能力に対応した個別指導の充実。・少人数指導、T、Tによるきめこまかな指導。・体験的学習活動の充実によるPISA型学力の定着
213	1	・自己の興味関心のある科目を選択することで、授業に積極的な生徒が増加した。・教員の得意分野を生かせる科目を数多く開設できるようになった。
214	1	生徒の学力に応じた少人数による指導
215	1	・少人数・TTなど多様な授業形態を実施することにより、ひとりひとりに目がとどき、学習効果も上っている。
216	1	資格優先で少なくなった必修科目の単位をカバーするために、フレキシブルに運用可能な学校設定科目を設定できた。
217	1	小人数や到達度別授業編成ができる。
218	1	習熟度別の授業も行っているので一部の科目を除き、少人数の学習(授業)を実践しており、生徒一人一人に目をかけ、手をかけられる。
219	1	・生徒全員がワープロソフトを使いこなせる。・生徒全員がパワーポイントソフトを使って、プレゼンテーションをすることができる。
220	1	数学や英語の授業の大半を習熟度別で編成することによって、より生徒の理解度に合わせた授業展開が可能となっている。また、実技中心の科目は連続時間で配置するなど工夫をしている。
221	1	基礎学力が不足している生徒に対し、平成20年度より、放課後補習を英語・数学・国語について実施し、基礎学力の向上がみられた。
223	2	学力の低い生徒が多いため、興味を持たせ、解る授業の推進を行っており、高い確立で生徒達は学習に対して自信を持ち、授業中も顔をあげて真面目に取り組んでいる。
224	1	社会人講師の活用により生徒により刺激となっている。
225	1	生徒は学習内容に意欲を持って取り組んでいる。
226	1	目的意識を持っている生徒が多いので良い授業が出来ている。(選択授業、特に専門科目)
228	1	・選択授業が多く、生徒の学習意欲は、高まる。・比較的小人数でも開講するので、そういう授業ではきめ細かい指導が可能である。
229	1	多数の資格取得が可能
230	1	主に、自分の興味のある教科・科目を選択できるので、意欲的な取り組みができる。
231	2	・「ゆったり国語」「ゆったり数学」「ゆったり英語」など基礎的科目の開講により生徒にわかる授業を実現できる。 ・生徒の多様な要求に対応できる。興味・関心に細かく対応できる。 ・少人数での授業となり、生徒の学力差にある程度応じた指導が出来る。 ・生徒とのコミュニケーションが増えた。
233	1	系列別にクラス編成を行い生徒の移動を出来るだけ少なくした事により、専門、一般教科を効率的に学習出来る様になった。
235	1	自分の進路、興味関心に応じた科目を選べるということで生徒の人気度も高く、ニーズに答えていると思う。総合学科の特色ある授業設定もそれぞれの学校の実態にあわせてできるのでよい。
236	1	「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」においてインターンシップ(1年生は1～3日間程度、2年生は1週間程度)を実施し、職業に対する意識向上に努めている。
237	1	以前は、科目を選択させていたが、選択の幅をせばめる事により、ホームルーム教室での授業がふえ、移動教室が減った。授業が落ち着いた。
238	1	比較的小人数の開講科目が多いので、授業に集中しやすい。他学科と比べると、自分の興味関心で科目を選択することができるので、成績不良者の数が少ない。
240	1	・全般的に主体的な取り組みが見られるようになってきた。・小人数によるきめ細やかな指導。
241	1	総合学科において各教科・科目の授業が充実したものになるかどうかについては、教員の力量もさることながら、生徒のしっかりとした進路目標、それに基づく科目選択の実現こそが、重要な要因となる。本校では前述したとおり、生徒の希望が優先されているため、各科目の授業に対する生徒のモチベーションが、十分に高い状態が維持されている。



番号	全・定	問12(3)b 各教科・科目等の授業についての課題をご記入ください。
1	全	一人の教諭でややもすると3～4科目の授業を担当しなければならず教材研究が充分でないまますすめている。教諭の持ち時数14～16を基本にすべき。
3	全	・2年次からの科目選択が安易な方向に流れることもある。・2年次から専門教科を学ぶため、より専門的資格の取得については専門学科より困難となる。
4	全	系列毎に進路希望や学力、学習意欲が均等ではないので、特に人文・自然科学系列においては、到達目標の違いでクラスを分けなければならないが、教職員数の減員により、うまくクラス分けができない。
5	全	選択科目により、少人数での授業が多くなっている。原則5名以上で開講という基準を設けているが、少人数授業の短所の部分も見えてきた。また、進路保障の部分で、いかに基礎学力をつけるかも課題となっている。
7	全	生徒の希望により開設できる科目が安定しない。新しい科目を立てても、よほど科目に関する説明を行わないと希望者が集まらない。
9	全	学校設定科目の精選を行う。難しい大学への進学力を向上するため学力保障体制を改善する。
10	全	選択制・単位制であるため、講座ごとに受講数が一定でなく、職員分担、授業展開、実習機材の準備等で支障をきたすことがある。また専門教科の科目選択において未履修科目があれば、科目間の連携が取れず系統だてた専門教育ができないなど問題点もある。また専門科目の履修が2年次からしかできないことで、以降の専門分野の学習に無理が生じていることから、いかに効率よく学習させていくかも課題となっている。
11	全	生徒数・職員数の減少により、教科・科目の見直しが必要である。
12	全	国公立大学受験の場合、社会など受験科目を制約しなければならない場合がある。
13	全	上述の学年を超えた授業(他学年の生徒との合併授業)の実施において、学年行事(例:修学旅行やインターンシップなど)が行われる際、特定の学年の生徒のみの履修が欠課する事となり、授業の成立が困難な場合がある。
15	全	進路に応じた多様な科目を設定したいが、物理的な課題(教員配置、実習施設の確保など)を解決できるか。
16	全	系列体験学習内容の精選と見直し。
17	全	・毎年、ある科目において、選択者数の増減が激しい。・開講する際の、最低人数(現在、1名でも開講している。)
19	全	・50分間、生徒を惹きつける授業を展開する。そのための教員の研修と工夫を充実させる。 ・文理科学系列において、大学進学を意識した教科指導法や推薦入試に向けた小論文指導法の充実が必要である。
20	全	本校は生徒が自分の進路希望に応じた科目を選択しているが、一部の生徒には主体的な学習習慣が身につけていない状況がみられる。キャリア教育を通して各科目を学ぶ目的を明確にさせるとともに、本当に必要な科目を選択させるためのガイダンスの充実が求められている。また、科目選択に加えて、各科目の到達目標を明記したシラバスを完成したが、シラバスは教師と生徒の契約内容であるとの認識に立ち、シラバスをもとにした生徒の到達度チェックとそれに応じた各教師の授業改善のPDCAサイクルづくりが課題である。
21	全	選択を重視している為、講座内での習熟度の違いが激しい。
22	全	授業規律の成立できない教師への対応。
23	全	推薦入試により入学してきている生徒の学力が低下の傾向がある。入試の際の中学校の成績が、相対評価から絶対評価へとかわり、次第に学力低下が生じているようだ。今後は、この低学力で入学してきた生徒に対する取り組みの工夫を検討していかなければならない。
24	全	6月～10月にかけて、次年度の選択科目を決定するが、生徒が希望進路を変更した場合や基礎科目が未履修となった場合には選択科目の変更を行わざるを得なくなるので、次年度の時間割編成や教科書購入の業務がかなり煩雑となる。
25	全	全体の生徒数減を受けて講座が成立しないものも出てきている。
26	全	各分野のスペシャリストを育成するような講座編成(学校設定科目)が必要である。
27	全	自分で選択した授業であるにもかかわらず意欲に乏しい生徒や、授業内容について行けない生徒が出てきている。
29	全	・出張等による授業変更が難しくなった。・選択科目群の中に、実習科目が入っているため、4単位群、3単位群はその中の2時間を連続にする必要がある。そのため、座学の科目において、教科指導に少なからず影響が出ており、課題の出し方についてもより一層の工夫が必要となっている。
30	全	各科目毎の授業の雰囲気や差が大きく、授業の規律の確立が求められる。
31	全	「学力の向上」と「体験的学習」をどう両立させるかが課題である。
32	全	自発的に選択しているとはいえない生徒が多くいる科目の授業では、意欲を持たせ続けるのが難しい。また、学校設定科目を担当する教職員がその専門分野でない場合、内容がより専門的になるため、生徒の期待に応えられるような授業にすることは難しい。
33	全	・自由選択科目のうち、入試に直接結びついていないために履修希望者が少なく開講されないものがある。
34	全	・希望生徒の少ない科目は開講できない場合があり、生徒の希望に添えないことがある。
35	全	一方、教員は複数科目を担当するとなり、教材研究や授業指導に多くの時間を必要としている。
36	全	産業社会と人間 内容のマンネリ化、評価方法。
37	全	教員数・学校の設備に限りがあるので、生徒の要望にそうすることができない場合がある。
38	全	普通科から総合学科に改編したことで、多様な開設科目に伴う施設・設備が不十分で、授業展開に工夫が必要である。
39	全	早いうちから自分の進路を見つめ科目選択しなくてはならない。途中で進路を変えたい生徒や目標を持っていない生徒等に、授業に対する意欲を持たせることが難しい。
40	全	・実習中心の科目を多く選択するなどあまり深く考えず安易な選択をする生徒がいる。・時間変更ができないため自習が多くなる授業もある。
41	全	近年は輪切りの指導に傾いているせいか、上位層の生徒が減っただけでなく、全体としての学力の低下がうかがわれる。また学習意欲や学習態度も以前と比べると劣っている。
42	全	教えと学びが別でせず、自助努力をしない生徒も多く、授業に興味、関心をいだかせるためより多くの手間と時間をかけ、授業計画、指導案の作成が必要である。
44	全	・小人数指導や習熟度別指導を取り入れているが、それでもクラスによっては学力差があり指導が難しい面がある。・実習を伴う科目では施設・設備面で希望者を全員受け入れることが難しい。
45	全	選択によって教科人数のバランスが悪くなる場合があり、年次によって変動が大きい。進路目標が明確でない生徒も多く安易に選択する。
46	全	各教科ごと、生徒に解かる確かな授業内容の創造が必要である。
47	全	生徒の進路を実現する為に、科目によっては少人数でも開講しなくてはならない。そのことにより、多数の講師が必要となる。
48	全	課題発見能力、自己評価力、自己表現力の育成に一層力を入れていくこと。
49	全	教員の教科指導力の一層の向上が課題である。
50	全	非常勤講師のみで展開せざるをえない教科があるため、授業外での指導が難しい面がある。

51	全	習熟別授業等の授業評価をどの様に行うのか、また、教科学力の向上のために、授業改善を行い、教科会を活性化させ、校内研修を充実させる必要がある。
54	全	基礎的な学力の育成を必要としている生徒もいるので、宅習課題や小テスト等による指導の継続が一層大切になっている。
55	全	講座受入人数の制限などから、必ずしも希望しない生徒が、積極的に選択した生徒と混在することにより、能力差ややる気の違いが出て、授業の展開に支障が生じる。より多くの講座を設けることと、教員数、設備の限界とのバランスが難しい。
56	定	講座数が多いため、時間割作成に多大な労力や時間を要する。教員数が限られているため、一人の教員が担当する科目数も多く、教材研究やテスト問題作成等の負担が大きい。
57	定	工業・商業・福祉等系列教科において、施設・設備面の充実が望まれる。職業選択に耐えうる専門性の向上の努力。
58	全	情報機器(教材提示装置)の準備は出来ても、積極的に使えない教師がまだおり、全教員へ普及させていく必要がある。
59	全	各類型における評価規準の整合性をとることが難しい。
60	全	1. 科目数や選択生徒数に比べ、教員数の少ない教科があり、指導が不十分になることが危惧される。2. 選択科目が多く、高校生として必要な学力を身につけさせるうえで障害になる。
61	全	・専門高校に比べ、専門教科にかかる時間が少ないため、学習や資格取得で十分に伸ばしきれないことがある。・選択科目の多い中で基礎学力をいかに伸ばすか。
62	全	1クラスのため、人数が少なすぎて開講できない科目がある場合がある。
63	定	総合学科は普通科も職業科も選べるということで、直感的には好意的に迎えられるが、科目選択においては系列による縛りもなく、生徒は自分の好きな(取りやすい)科目をつまみ食いの選択している傾向が強いため、結果的に専門性も十分に深められず、また普通教科としての学力も不十分のまま卒業していく生徒が少なからず見受けられる。
64	全	・生徒の希望に沿った形での履修(選択)となるので、専門性を深化させるような内容まで達しにくい科目がある。・生徒によって、科目に対する意欲に差が見られる。
65	全	自宅学習時間が少ない。教科科で課題の指示、回収、点検を行う他、勉強の仕方について丁寧なガイダンスが必要である。また、出張等の時間変更(振替)ができないため、課題が多い。
66	全	・クラスでの発表会や学習成果発表会は内容や形式の見直しをする時期に来ている。・進路実現のため、生徒の家庭学習を習慣化させるような指導を進める必要がある。
67	全	一人の教師が多くの科目を受け持つこととなり、また、教科書を使わない(教科書がない)授業も多いため、教材研究がたいへんである。
68	全	・多くの種類の科目を抱えることで、教材研究の時間確保が必要。・選択科目においては、それぞれの授業クラスのメンバーが異なるため、各教科間、教師間での生徒の情報の把握が難しい。・意欲の少ない生徒や受講途中での未履修生徒の対応が困難。
69	全	小児化、教員の定数法等で、これまでの小人数授業ができなくなるのが一番の課題。
70	全	ここ数年低学力の生徒が多くなり基礎学力の指導が中心になっている。
71	全	・自由選択科目においては、楽な科目、実技等で試験の少ない科目といった選択をする生徒も出ている。・「保健」など学年指定の必修科目が履修出来なかったときは、次年時で再履修させることになるが、そのことにより次年時の選択ができず、空き時間が生じるなら、履修できないといった矛盾が生ずる。
72	全	進路を決めかねている生徒にとっては、自分の能力・適性を見極めるために受講するには専門的内容が高く、取りづらい。基礎体験的講座など工夫が必要である。
73	全	生徒の学力を伸ばすための授業の工夫、および、成績評価のあり方について、改善をすすめている。
74	全	多様な選択科目の評価規準(基準)の作成。
75	全	選択生を集めた授業では学習集団として機能しにくいとの声をきく。
76	全	・評価・評定(観点別評価)についての研究。・授業別評価の研究。(研究授業の実施等による)
77	全	・体験的活動を中心とし、ペーパーテストの少ない教科・科目を選択しようとする生徒に対する指導。・学年が異なる生徒が混在する講座における授業のあり方。
80	全	普通科目も含め、授業の質の向上が課題である。
81	全	・定期考査の際に系列の違いによる受験科目数の差が大きい。・学校設定科目の設置を多くしたため、教授内容に重複を生じる部分も発生。
82	全	進路希望を変更した生徒への指導体制の整備。
83	全	開校以来3年が経過し、実施してきた様々な事柄について効果の検証が必要となっている。また教員が多忙を極めており、何を省いていくかを検討する必要がある。
84	全	受持ち科目の種類や授業数が増加したため、教材研究に十分な時間を取ることができない。
85	全	選択指導の段階でしっかり時間をかけないと選択ミスをおこしかねないという複雑さもある。
86	全	担当する科目が多くなり、授業の準備が十分にできないこともある。
87	全	特色ある特殊な授業は担当する教員が限られているので、転勤等でその科目を維持することが困難となる場合がある。
88	全	・授業時数の増加。・個々の生徒に応じた授業内容の研究。
89	全	特色ある選択科目を、人事異動があってもうまく引き継ぐ手段がみつからない。
91	全	一人の持ち科目数が増え、教材研究・準備に多大な時間を要する。
92	全	知識・理解を中心とする科目を避けたり、じつりと考え、粘り強く努力して憶えるという形の学習活動が減っている。
93	全	基礎学力が著しく欠如している生徒、目的意識のまったくない生徒の指導。
94	全	より適切な科目選択の指導を研究する必要がある。
95	全	特に商業系の授業で設備の陳腐化がひどい、情報機器の更新が課題である。
96	全	ひとりの教員が多種類の講座を担当するので教材研究や考査の作問などの負担が大きい、特に教科書のない学校設定科目では負担大。
97	全	生徒の選択により同時展開で授業を実施するため、1講座あたりは少人数で授業が展開できているが、教員側について・授業の持ち時間が長い・担当科目の種類が多い・時間割が硬直化しほとんど変更できないなどの問題点が生じている。
98	全	・教員の担当する科目数が増加する傾向が強い。一度の教材研究で一回の授業しかできず、教員の負担が大きくなる傾向がある。・出張・年休等の際の授業振替が困難である。
99	全	入学時の学力差が大きく、全ての生徒の学力に対応した教材作成がむずかしい。
100	全	・生徒の希望通りに科目が履修できない。・希望者が少ないと、開講できない。・科目選択の指導方針の見直し。
101	全	・予算的制約もあり、「多様な選択科目」については、開講数を縮小せざるを得なくなっている。・本校で取り組んでいる、「共同の学び」について、十分に展開できていない。
102	全	自分の進路実現に向けた、科目選択をするように、キャリア教育を充実させる。



103	定	・各系列の特性をさらに活かす為の取り組みが弱い系列もみられる。・福祉系列については、国の動き(資格取得)のこととあって、将来を見通すのが、大変難しい。
106	全	授業はやりやすくなったという声が多い。特に古くから本校にいる先生や、他校から来た先生はそうに感じているようだ。
107	全	これで良いという段階ではないし、まだまだ発展途上であると考え、一層の指導が必要である。
108	全	教員の持ち科目数が多く、授業準備、テスト作成、あるいは学校設定科目用の教科書づくり等が大変である。
109	全	系統立てて学習できるようにモデルを示しているが、モデルの通りに選択している生徒は少ない。専門性を高めるという点では不安が残る。
110	全	習熟度別に講座を展開している教科では、年度途中で担当教諭が変わる生徒がいる。担当教諭の変更が生徒の学習の定着に影響を与えていないかが不安である。講座変えの頻度がどの程度が適切か検討する必要があると感じている。
112	全	総合学科にありがちな、選択科目数が多いことに起因する一人当たりの系列過多が生じ、何系列ものテスト問題作りに追われ、その追試問題作りに追われ、授業研究に追われる。
113	全	選択科目の中には3～4名しか希望者がいない場合もあり、進路に直接関係する科目は、それでも開講しなければならない。
114	全	学校設定科目や実習中心の授業においては、授業規律や評価の規準について十分な検討と生徒への周知が必要である。また外部講師と本務教員との連携・協力、共通理解が必要である。
115	全	・国際文化系科目において、さらに専門性を高め、資格取得推進や地域との連携を図っていきたい。
116	全	2、3年次の総合学習の授業が、時間割編成上7限目になってしまい、授業時に、部活動の時間が重なる。
117	全	基礎学力の向上。
118	全	専門高校と同等の授業時数(専門科目)を設けていることで、必修科目の時間数が最底時数となり、基礎学力を身に付けさせることが課題となっている。
120	全	・数英の習熟度は2クラス2パートであり、3パートにするだけの配当の余裕がない。・同じ講座内でも、進路に直結した目的を持って意欲的に取り組む生徒と他に選択する科目がなかったからという消極的な理由で選択し、無気力な生徒が混在している状況であり、指導が難しい。
121	全	教職員の数が限られているため、カリキュラム上選択科目として設定している科目が開講できなくなっている。
122	定	教員の人員配置がまだまだ不足しており充分な選択科目を開講しているとは思われない。
123	全	自由選択科目を1科目あたり、2～3講座開講する必要性が生じ、1人あたりの持ち時間数が多くなっている。また、時間割に偏りが生じ、1日6時間という人が何人もいる。
124	全	$\beta$ で良い成績を取っても $\alpha$ に行きたがらなかったり、 $\alpha$ 、 $\beta$ の進度が違い、 $\alpha$ 、 $\beta$ の入れ替えに苦慮している。
125	全	習熟度別授業や少人数授業に適した授業方法の工夫が求められる。
126	全	発足当時開講していた科目で幾つかが実施教育課程上開講しているものがある。
127	全	・自らの進路希望の実現に向けた、授業中、及び、授業以外での学習を支援していく指導や、宿題を与えるなどの取り組みを学校全体のものとしていく。・生徒が自主的、主体的に取り組めるような多様なテーマ設定。
128	全	少子化に伴う生徒数の減少により、選択者が少ないために開講できない科目が少しずつ増え、以前に比べて選択科目数は減少してきている。一方基礎学力が不足している生徒の入学も増えており、基礎学力向上に向けた教科科目の割合がだんだん大きくなる傾向にある。
129	全	生徒の興味・関心と進路希望に対応した授業の工夫が課題である。
130	全	・各教科とも多くの学校設定科目を開講しているため教材研究に時間がかかる。・開設しても、選択者が少なく開講できるかどうか、年によって異ってくる。
131	全	・幅の広い多様な生徒を受け入れるため、学力差は大きい。・選択科目の難易度の違いがあるため、評価にばらつきが生じる。・持ち科目数の多さが、教員の負担になっている。・6つの分野に興味・関心のない生徒への対応。
132	全	系列科目であるバイオ希望者の減少で、十分な科目を開講できないこと。また、当初5クラスあったクラスが4クラスになり、保育・福祉を加えた7系列の生徒を無理に4クラスに編成しなければならないこと。教員の減少により、理科・社会の展開が制約されるなど課題は多い。
133	全	学習習慣の定着をはじめ、教科に対する継続的な学習する態度を身に付けさせることが必要。
135	全	多用な進路希望に対応できていない 学力向上に結びついていない。
136	全	・教科90単位内で専門科目を履修した場合、普通科目の履修単位数に制限ができ、例えば、センター試験など一般受験に対応できない面がある。・「産業社会と人間」の学習内容の改善 ・豊かな人間関係の構築や学習・生活の自己管理ができるよう、ホームルーム活動の工夫やきめ細かい相談活動・体制の充実、学習や生活の自律性を高める指導が必要である。・中学校からキャリア教育を導入する中高一貫的な連携により、総合学科のねらいをより一層達成することが期待できる。
138	全	専門科目が2年次以降になり専門性の深化が厳しい。
139	全	・分かる授業の推進 ・シラバスの効果的な活用 ・授業内容の改善と生徒の授業評価
140	全	基礎学力、さらには応用力を育てきれておらず、大学受験では苦戦している。
142	全	・課題解決型の授業はまだ少ない。・普通科目においても、生徒が主体的に授業に取り組むことができる工夫をもっとすべきである。
143	全	いわゆる普通教科において、総合選択科目の基礎科目としての役割を認識しているとはいえない教員がいる。
144	全	・基礎学力の向上に対する手だて、授業への生徒自身の学習への取り組みの向上に対する教員の魅力ある授業の提供。・学校設定科目の継続的な開発と人材育成。
145	全	学科の特質から日常の事務繁多という事情もあることから、今後は限られた時間の中で如何に効率的な授業準備等ができるか、教員のスキルアップ方法の追求が必要である。
146	全	・科目選択後、安易に授業放棄をする生徒がでてきてしまう。・授業の中に取り組み意識の高い生徒とそうでない生徒が混在することもあり、展開に難しい場合がある。
147	定	教科・科目の授業の工夫は今後も継続的に取り組んでいく必要がある。
149	全	・全く授業変更ができず教員の出張等の場合は自習になってしまう。・講座の設定時間により人数の幅が大きいので授業がやりにくい。
151	全	すべての生徒が希望どおりの授業を選択できているわけではないのでそこが課題であろう。
154	全	・多様なニーズに合わせた選択講座を設定しているが1講座の受講希望者が少ない。・多様な講座を数多く設定しているため1人の教員が担当する科目が多くなり負担が大きい。
155	全	・教員の中には総合学科の在り方に不理解な部分もあり受験志向の履修指導に偏る面も多々ある。・各教科で生徒の学習習慣改善の努力はしているものの家庭学習の習慣がなかなか定着していない状況が続いている。
156	定	不登校経験者が多く、学力差が大きい。軽度発達障害を持っている生徒(LD、ADHD、アスペルガー症候群)もおりメンタルな部分を含め、個々の生徒に対応した学習指導が必要となる。学校設定科目が多く、教材研究増、ゆとりがない。
157	定	総合的な学習の時間に当てる教員数の確保が十分ではなく、時間割編成での課題になっている。

158	全	教科を超えて教員同士が授業を見せ合い授業の質を高めていく必要がある。
159	全	総合選択科目は基本的に少人数指導となるが、1年生で多く履修する基礎科目については、40人を単位として行なわれており、十分な基礎学力を身につけさせられていない。
160	全	・学校設定科目等において、教科で十分に研究を重ねることができず、担当者任せになりがちである。・基礎的な科目でも1年次で履修していれば、選択の仕方により2、3年次にまったく触れないケースもある。
161	全	・教員自身が専門でない科目や授業に対する負担感、不安感を持ち、科目数増による多忙感を持つ教員が多くある。
162	全	授業公開を活発に行ない、さらなる指導力向上に役立てる。
163	全	単位制のため、修得が難しいと思うと安易に履修を放棄してしまう生徒がいる。
164	全	授業の確保をどのような方法で行っていくかを早急に検討しなければならない。
165	全	より一層の内容の充実。
166	全	進路意識と学習意欲の更なる向上を目指すことが課題である。
167	全	・同一授業に2・3年生がいる場合の授業計画の難しさ。(年間計画・シラバスと授業進度等において)
169	全	科目の種類が多く、単位数が少ないため、教科によっては教員の持つ科目数が多くなり教材研究の時間的負担が大きくなるので教育課程の見直し、教科内における工夫が必要である。
170	全	・選択した科目、時間割の関係から積極的な履修でないため一部に学習意欲がなくなる。
171	全	・生徒の学習時間が少ないので、理解が定着しにくい。学習時間調査を実施し生徒の状況を把握し、宿題や週末課題を課して家庭学習を促したりしているが、生徒の取り組みは今一歩である。・「学校設定科目」の指導や教材準備に時間がかかる。
172	全	生徒はとなく目先を見て安易な科目選択に走りがちである。教員は、1クラスに多様な進路を志望する生徒が混在するなか、教科・科目で生徒をひきつけ、家庭学習に結びつけるまでの授業には至っていない。
174	全	・授業のコマ数が多くなり、教員一人一人の負担が大きくなった。・教材研究等、授業準備が追いつかないこともある。・小規模校では人数不足で開講できない科目もある。
175	全	生徒の進路に応じた、教科間の連携を密にしていける形をつくっていくこと。
176	全	専門学科ではないので、中途半端となる。特に商業関係、自動車整備士、介護福祉士等の資格取得に大きな差がある。
177	全	空き時間を設定していないので、とりえず選択した授業では全くやる気のない生徒が授業の雰囲気悪くしているものもある。
178	全	・設定科目が多いために、一方では生徒の希望に添うように開講してあげたいが、もう一方では別な科目をとらせたいというジレンマがある。・本校では中高一貫教育が導入され、中学校と高校の両方の授業を受け持っている教師もあり、時間割作成が大変困難になっている。・教師が受け持つ科目が多い。教師の持ち時間が曜日によって偏っている。
179	全	科目選択においてはその時期、変更の可否等考えていかねばならない。生徒の希望を優先していくと、講座数、教員数に無理が生ずるので何らかの規制が必要と考える。
180	全	・科目選択希望者にバラつきが見られてきた。特に定期試験のない科目へ集中するなど安易に流れる傾向にある。
181	全	・小人数の授業も多く、教員側の授業数(コマ数)が多い。・本校は、系列による選択科目のしぼりが無い為、安易な選択をしてしまう生徒がわずかにいたり、選択群によって取りたい科目が取れない(またはない)場合がある。(現在、見直し改訂中)
182	全	自学時間の過ごし方について、目的意識を持っている者が減少している。
184	全	2時間続きの授業は、座学などでは生徒が飽きてしまうことがある。科目選択の際、器材の関係上、収容しきれず他講座に移動せざるを得なかった生徒で、一部学習意欲を欠いてしまう者がいる。
185	全	基礎基本の習熟と応用力の育成。
187	全	苦手意識がある科目(国語、英語、数学)については、意欲がやや低いようである。家庭学習時間が少なく、基礎力の定着が不十分である。
188	全	確かな学力と選択のあり方、カリキュラムの再編 老朽化した校舎の問題。
189	全	ひまわりの作付や、チャレンジジョブなど、担当もスタッフの力量に頼るところが大きい。継続していくためには、取り組みに関するマニュアルが必要なこともある。
190	全	平成15年度より、授業時数確保および行事日程の弾力運用の観点から、2学期制に移行した。このことに対する検証。
191	全	実践的学習内容と実験・実習的な授業形態を積極的に取り入れていくための研修。
192	全	本校では、一年次では必修科目を主に学習させている。したがって専門教科は二年次以降に履修となる。このことから、専門高校におけるカリキュラムより進度が遅れることになり、二年次からの学習で専門的な知識を深めさせられるかが課題となっている。
193	全	意欲的に取り組めない生徒がいることも事実である。総合学科であるため、教員の持ち科目数が多く、教材研究の時間の確保が課題である。
194	全	施設、設備が老朽化したものがあり、実習等で十分でない面がある。
195	全	・(国公立)大学進学に十分対応できるレベルではない。・家庭で自主的に学習する習慣がつかない。
196	全	生徒の自宅学習時間を増やす対策が求められている。大学への進学者が少い分、なかなか自宅学習の習慣化は深透しないが、就職についても基礎学力の充実の必要性を説明し、自律、他律の課題学習を1年は国、数、英、2年からは系列毎に押し進めたい。
197	全	希望生徒数が少なく開講されない科目が多い。
198	全	教員数の関係で、科目によっては大人数授業を余儀なくされている。
200	全	学校評価の中に生徒による「授業評価」を盛り込む。
201	全	選択科目が多いため、教科担任が出張等で不在の場合、授業変更が困難である。同教科の教諭が授業代行しようにも、同一時間に全ての教諭が授業にあたる場合が多く、対応できない部分もある。
202	全	総合学科草創期からの科目の見直し。新しい分野の講座の検討。
203	全	専門科目を選択する生徒が年々減少してきており、普通科目指向が高くなっている。今後開講できなくなる専門科目が増えてくると予想される。
204	全	基礎学力と家庭学習が身につけていない生徒も多いので、さらに指導が必要である。
205	全	一教員の担当する科目数が多く、授業の準備に多くの時間を費やしている。一科目を単独で担当することが多く、教員間での相談がしにくい。
206	全	・系列に関する専門科目と大学受験に必要な普通科目とのバランス。
207	全	座学中心の普通教科においては、2コマ100分の授業となり、学力の定着・向上や家庭学習時間の確保につながっていない。また授業の振替ができず、自習時間が増える傾向もみられる。
208	全	目的意識に欠けている生徒が安易な科目選択をすることによってそういった生徒が特定の科目に集中する。
209	全	選択科目を2時間連続の形で設定せざるを得ない状況のため、時間割が硬直化している。都市部の学校ではないため、講師の確保が困難である。長期間にわたり、講師をお願いできる人材の数が非常に限られている。定着しつつある学校設定科目を維持したくても、維持できない可能性が高く、不安を抱えている。

210	全	特に習熟度別指導での指導形態について必要性を実感しているが、教員定数の減により個に応じた指導形態に対して変更していかなくてはいけないこと。
211	全	生徒のニーズに応える多くの選択科目を設置しているため、教員側の負担が過重になってきている。
212	全	計画的、組織的な研修による教師の教育力の向上。
213	全	施設・設備の拡充により、多様な授業、特に、体験的な学習(実習を含む)が比較的導入しやすくなった。
214	全	学力差、目的意識について生徒により個人差が大きく、それが科目選択に顕著に現れている。
215	全	学力差に応じた習熟度別学習の検討。
216	全	最低限の基礎学力を支えるための学校設定科目だが、担当者によって運用に大きな差が生じた。
217	全	科目によっては集中し、授業編成がむずかしくなる。
218	全	生徒の学力が低いこともあるのだ。少人数での授業が、必ずしも成果をあげることにつながらない面もあり、より工夫が必要と思われる。
219	全	1年生から3年生が一緒に複式授業もあり、授業の進め方が難しいものもある。
220	全	習熟度別に同時展開、実技科目は2時間連続など、時間割作成に關しての制約が多いため、時間割の変更は実質的に不可能となっている。また、同一科目の進度など担当者間での調整が必要となっている。
221	全	基礎学力のよりいっそうの向上を図ること。
223	定	授業のなかで実社会に役立つ視野の広い物事に対するとらえ方、考え方をどう指導していくか。
226	全	選択科目の受講者数が年度年度でバラ付く。(教員の関係)
228	全	・選択授業では生活集団と学習集団が異なり、学習意欲の高い生徒にとっては問題はないが、そうでない生徒にとっては、指導がむずかしい。特に教室移動が多く、ホームルーム担任による生徒の出席状況把握に時間がかかり、迅速な指導がむずかしい場合が多い。
229	全	検定後のモチベーションの維持。
230	全	苦手な科目、しんどい科目をさけて、楽しくやりやすい科目の選択に流れがちになっていないか。
231	定	・生徒の学力差に応じた授業にするための創意工夫が必要。・多様な生徒の入学により、就学指導の充実が必要。
233	全	クラス編成に際し、一部少数系列を同一クラスにしているが、学習態度等比べると単一系列に比べ落ち着いた学習が出来ていない感じがするので今後の課題である。
235	全	年毎に変わる生徒のニーズに答えること。指導教師の配置が学校全体のバランスを考えるとむずかしい。生徒が自分の進路に応じて選択できていない。また、選択能力にも問題がある。
236	全	資格取得のための授業が大部分になるため、中途での進路変更等に対応出来ない。
238	全	多くの授業担当者が存在するので、担任との連携がなかなか取れない。各授業の出席状況の把握が難しい。
239	全	教育課程のところにも書いたように、格差のある生徒をどのように指導して行くのか、特別クラスにする方法で集団を分けても、成果は反面の部分があり、研究の必要がある。
240	全	・基礎学力の育成 ・授業放棄生徒への対応(3年次後半)
241	全	科目開設条件は、選択生徒5名以上としているため、実際に受講生徒が数名の授業もいくつかある。実験・実習においては、少人数では十分な成果が上がらないものもあるため、授業内容の変更をせざるを得ない場合もある。

#### 4. 生徒指導について

(番号:資料整理の為の学校番号 全:全日制 定:定時制)

番号	全・定	問12(3)c 生徒指導についての成果をご記入ください。
1	全	全職員協力して昼食等の立番指導等を行い生徒が校外に出なくなり、勤怠状況の改善が見られた。
3	全	・個性や進路志望に応じた学習が可能のため、生徒は学ぶことの楽しさや成就感を体験することができるので、生徒指導上の問題が少ない。
4	全	総合学科改編前の取り組みを踏襲しており、特に変わった点はない。服装容儀指導に力を入れているが、改善できない生徒も若干いる。問題行動についても、減少傾向にあるものの依然として発生件数は多い。
5	全	・教務部との連携による「遅刻服装容儀指導の徹底」計画、立案を図り上記を受けて、各学年団との連携による共通実践を推進している。・学年集会、全校集会時での一斉指導の充実(服装面、公衆マナー等)・職員3人体制による個別面談(生徒理解)の充実を推進している。
7	全	あいさつ、時間を守るという基本的生活習慣がかなり確立されてきた。それに伴い校則を守らない生徒も減少してきた。
9	全	・頭髪・服装検査を定期的に実施しており、生活態度等の乱れが改善しつつある。・登校指導・下校指導を実施しており、見られているという意識付けがついている。また教職員の共通認識のもと、指導ができています。
10	全	まず「挨拶」がとてもよくできていることである。バスや電車の乗り降りの時によく挨拶をしているようで、地域の方々からもほめていただいている。次ぎに、「優しさ」が育っていると思う。緑豊かな学習環境と、生き物を育てる学習の効果ではないかと思う。以上二つのことが、生徒指導において、成果として上げられる。
11	全	学科改編に伴い、制服を見直した。加工しにくいデザインと落ちついた色を取り入れた。生徒の行動にも落ち着きが見られる。
12	全	総合学科になり、部活動が活発となり、生徒指導上の問題がほとんどない。
13	全	特に本校においては、総合学科に改編することにより、前身の普通科高校の時代から比較して、生徒指導上の問題事例が減少したのは事実である。地域からの信頼も回復し、基本的生活習慣の修得に関してもある程度、効果を上げている。
15	全	選択授業が多く、生徒の把握が難しくなったため、全職員で実践する生徒指導を強調し、その体制作りの推進を図った結果、学校全体の落ち着き、問題行動の大幅減などの成果がみられた。
16	全	校内外におけるマナーの向上を目指し、年間を通して容儀指導を中心に登下校指導を全職員で行ない一定の成果をあげることができた。
17	全	将来の進路意識の高揚が図られた。
19	全	・生徒の将来を思いやった上での毅然とした生活指導が中学校にも理解され、その進路指導に影響を与え始めている。・生徒会活動や部活動が徐々に形を整えつつある。
20	全	文化発表会や体育大会等の学校行事は、生徒による行事の企画・運営をさせており、生徒の主体性や社会性を高めることができた。また、挨拶や服装といった基本的生活習慣も、開校以来の徹底した指導もあり、だいぶ定着してきたものと思われる。
21	全	総合学科だから、という生徒指導上の問題・成果は特になし。
23	全	教育課程の変更と共に、生徒の遅刻・欠席の減少と服装指導にも力を注ぎ、落ちついた学校生活の創造を目指してきた。その結果、5～6年前と比較してみると頭髪・服装の乱れがかなり改善されてきた。
24	全	フォーマルとカジュアルの2種類(夏・冬別)の制服を、自分で考え組み合わせ着用できるようにしているので、季節・気候・体調に合わせたコーディネートが学べ、対外的にも特色として認知されており、在校生、他校生、中学生等の評価も高い。
25	全	落ちこぼしや、伸びこぼしを作らない指導につながっている。
27	全	教員が多く、生徒指導においてきめ細かな指導ができる。
29	全	・生徒指導面の困難校とも言われた本校が、今や地域に信頼される学校に変わった。・少人数授業が多くなり、生徒と教員との人間関係が良好になった。その結果、授業での生徒指導が充実し、学校全体の生徒指導に良い影響を及ぼしている。・年次内の連携が強化され、年次担当の多くの教員がその年次の生徒を指導する体制が整った。(年次全体を一つの大きなクラスとしてとらえるようになった。)
30	全	毎朝の登校指導や身だしなみ指導など丁寧な指導を通して、落ち着いた学校生活を送ることができるようになった。また、外来者や教職員に対して元気な明るいあいさつが定着している。
31	全	系列授業では、教科の指導を通して生徒指導(身だしなみ、欠課・遅刻等)の場面を多くとることができる。担任以外に系列教科の教員が一人一人の生徒をより深く生徒理解することが可能である。
32	全	生徒一人一人に合ったきめ細かな指導が行なえるようになった。
33	全	・生徒の個性を認め、一斉指導ではなく、1人1人の生徒との対話を指導の基本としているため、教師と生徒との距離が近いと感じている生徒が多い。
34	全	・本校は総合学科になってから、履修や修得のための出席条件を厳しくしており、毎朝の遅刻や授業の遅刻・欠席が少なくなった。・自分の進路目標に向かって努力する生徒が多くなり、服装や頭髪を整えようとする雰囲気为学校全体に感じられるようになった。
35	全	他学科に比して、総合学科特有の成果や課題は見受けられない。
37	全	生徒の自主性を高めることができ、リーダーシップをとって、生徒会活動やボランティア活動に参加する生徒が多くなっている。
38	全	興味・関心のある場面や部活動で、積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。
39	全	授業が選択の為、教師と生徒間での対人関係でのトラブルがなくなった。
40	全	授業で多くの生徒を見ることができ生徒理解を深めることができるとともに指導をすることが容易である。
41	全	総合学科改編により、不本意入学者が減少した分問題行動が以前よりも減少した。
42	全	意に添った講座を選択させることにより、生徒が自己達成感や肯定感を学校の中で共有できる場面が増え、教員の指導も積極的な充実が図れるし達成しつつある部分もある。
44	全	服装指導においては違反カードを活用し徹底を図り、遅刻指導では、教職員と生徒が校門に立ち、遅刻への啓発活動を実施している。また、ホームルームにおいて、「生活指導だより」を発行し、生徒に自覚を促している。
45	全	学年、年次をまたがった授業はなく、また、空時間もなく総合学科ゆえに生徒指導上の問題や課題、成果等はない。
46	全	本校は生徒指導重点校として4年が立ち、教職員が一つになって取り組んできた。今、落ついて授業が授けられるようになった。今後も引き続き取り組むことが大切である。
47	全	教職員の人数が多い為、きめ細かい指導ができる。
48	全	教育活動の多くの場面で自己決定を迫る場合が増え、それにより意欲的に物事に取組む生徒が増えた。
49	全	少人数指導の中で生活習慣に関するマナー指導やあいさつ指導などがキメ細かく対応でき、多くの生徒に個別対応が基本的生活習慣の確立がある程度できるようになってきて、遅刻、欠席が減少してきた。授業も、おちついた状態で展開できるようになった。
50	全	

51	全	生徒の規範意識に対する価値尺度がさまざまであるため、基本的生活習慣の確立より「挨拶・時間厳守・身だしなみ」の3点を重点的に指導している。
52	全	地域の方々との交流が積極的になった。
54	全	生徒の自主活動等を重視している クラブ活動 生徒会活動等活発であり一人一役制と相まって生徒指導上の効果をあげている
55	全	今年度より、本校スタンダードに基づく、レベル指導システムを導入し、生徒、教員、保護者で、高校生としての生活を確認し、常に意識するようにした。生徒の意識が向上し、生活が格段に落ち着いている。
56	定	中学校や地域との情報交換、連携・協力を強化し、きめ細かい指導を行い、問題行動に対応するとともに未然防止に努めている。また年次を通して社会人としての身だしなみやマナーの指導に力を入れている。年次が上がるにしたがって指導の効果が現れ、社会性が身についている。
57	定	生徒に対して、「校則」で縛ることをしていないので、学校に対して不満をもっている生徒が極めて少い。特に自分で科目を選択し時間割を作成させているので、強制されている感覚がなく、生徒はのびのびとしている。また教師との距離が非常に近い。
59	全	インターンシップや研修旅行を体験したり、さまざまな講演会を聞いたりすることで、規範意識が高まる。
62	全	専門学科4クラスと総合学科1クラスのため、総合学科単独で学校運営に携らないため解答できません。
63	定	学校で学ぶ目的進路が多岐にわたるため、画一的でなくやりとりを持った指導が可能である。生徒も個性を認めあい排他的でない関係づくりを行なうことができる。
65	全	季節の変わり目に街頭や駅、列車内、校門内で挨拶、声かけ、服装指導などのマナーアップ運動を実施し、少しずつではあるが改善されつつある。また、全生徒対象に携帯電話のマナー・トラブルと対処の仕方の講演を実施した。
66	全	・部活動を中心とした地域貢献活動が活発になってきた。・生活委員によるふれあい運動(挨拶運動)への参加が定着してきた。
67	全	1年次4月当初、宿泊研修において挨拶や団体における集合、整列等の行動練習を実施。その後も月1回の服装・頭髪アセンブリーを学校全体、又は学年別に行う中で、アセンブリーを単なる服装点検の場とせず、集団としての集合、整列、態度、挨拶を含めた指導の場となっている。
68	全	・朝の校門指導で相互に挨拶を励行し、服装身だしなみをチェックしていく中で、生徒とのコミュニケーションを取りながら、落ち着いた授業の雰囲気を作る。・授業の構築・落ち着いた学校生活を営めるよう、職員全員で生徒指導にあたる。
69	全	生徒指導上の問題は減少してきている。
70	全	総合学科になっての生徒指導に関する成果はあまりない。
71	全	〇科による指導であったものが、学校全体の問題として捉えられるようになりつつある。
73	全	全校あげての校門指導、登下校指導等により、茶髪がなくなり、挨拶をよくなり、マナーが向上する等、地域から評価されるようになった。また、授業態度もよくなってきた。
74	全	発表会(プレゼンテーション)の機会が多く礼儀やマナーの指導がよりいねいに取り組める。
75	全	校内でおこなった指導事例をもとに全教員で、昨年、一昨年と研修会を校内でもした。
76	全	意欲や目的意識をもって入学する生徒が多く、それが学校全体の活性化にもつながっている。旺盛な学習意欲・態度、学校行事等への自主的参加・協力・部活動への入部率が95%という数値等がその現れである。また特別指導も殆んどなく、昨年は年間で2件であった。
77	全	比較的落ち着いた生徒が増えてきており、学校祭等の行事にも積極的に参加するようになった。地域の興味・関心が高まり、校外での目に見える形での指導を行うようになった。単位制になったので退学者が減り指導が入りやすくなった。
80	全	元来、生活面の指導に於いて問題の少ない学校であった。総合学科への改編以降も同様である。しかし、柔軟なシステムゆえに服装面等の乱れが生じてきたため、再び指導の側面を強化している。現在は落ち着いた学習環境が形成されている。
81	全	多様な考え方、多様な進路の生徒がミックスされたHRで他人の考え方を学ぶ機会がもてている。
82	全	遅刻等々の日々の指導の成果が見られる。
83	全	退学者・懲戒件数の減少など大きな成果が出ている。生徒の状況も非常に落ち着いている。生徒の自尊心も高まり、地域の信頼も回復している。部活動も活発となり現在70%の生徒が何らかの部に所属し活動している。
84	全	学習意欲の高まりから懲戒件数が激減した。
85	全	生徒は全体的に落ち着いた雰囲気に変化してきている。
86	全	クラスでの授業がないため、担任は生徒の把握を心がけるようになった。また把握できるように、朝のSHRを行うようになった。
87	全	日常的な指導(遅刻指導、服装指導、頭髪指導等)により、全般的には、落ち着いた学習環境が保たれている。また、補導事象等も少ない状態である。
88	全	頭髪、服装、遅刻指導の徹底。
89	全	まったく何でも自由というわけではないが、自由さが、積極性をうみ出している。
91	全	・コミュニケーション能力の向上がはかられた。・寛容の精神が養われている。・異年令集団での活動が活発になった。
92	全	総合学科設置後、中途退学者数が大きく減少した。また生徒指導件数も減少した。
93	全	教員と生徒の共感、信頼関係に基づいた綿密な個別指導の実現。
94	全	総合学科設置と同時に制服を変更したことにより、服装の乱れが少なくなった。また、運動部を中心にボランティア活動に積極的に取り組むようになった。目的意識を持って入学した生徒が多く、生活面において安定している。
95	全	生徒が明るく学校生活を送れるよう、行事に時間をさいている。その結果生徒は「やればできる」という自信をもつようになった。
97	全	学年が上がるにつれて選択授業が増え、クラス単位の授業が減るために、逆に文化祭や体育祭などの学校行事におけるクラス内での生徒のまとまりが強く見られるようになった。
98	全	生徒一人ひとりが各自の時間割で講座にあわせて教室を移動することが多く、人間関係が築きにくい生徒であっても大きなストレスなく過ごしている面もある。
99	全	学校に目的意識をもって入学してくる生徒が増え、問題行動が減少している。
100	全	・多くの生徒が気持ちよく挨拶を交わせるようになった。・登校指導などで頭髪服装の乱れが少なくなった。・駐輪場の割振り、学年一斉の自転車点検により、駐輪マナーが改善、自転車のチョイ乗りも皆無に等しくなった。
101	全	・ベル着等、授業規律の確立を第一に取り組んだ結果、一時期の「荒れ」た状況が沈静化した。・生徒の興味関心に基づく主体的な学習が行えるようになったため、授業態度が落ち着き、授業に集中できる環境が整ってきた。・先進的な学びを実施していることが浸透していくにつれて、生徒に自尊感情が芽生え、問題行動等についても減少してきた。
102	全	総合学科に改編してから、生徒も落ち着いた。
106	全	生徒指導に関しては、大変やりやすくなった。特別指導の生徒や、学校をやめる生徒が非常に少なくなった。
107	全	学校全体として落ち着きができたことは何よりである。
108	全	科目選択相談をとおして、教員と生徒の交流が深まる。また、少人数授業による交流の深まりもある。それらにより学校全体も落ち着いている。

109	全	総合学科というシステム上での利点はほとんど感じられないが、倍率上昇による入学生徒の学力向上により、生活態度も落ちついてきて、指導件数が減った。
110	全	非行件数が減少し、部活動や委員会が活発になってきている。教員間の指導のぶれが少なくなりつつある。
111	全	ゆるやかな指導から指導強化へ。
112	全	総合学科生がそろった今年度を契機に、授業規律、遅刻防止、身なり検査など、職員的意思統一を心がけ、実行している。その結果、前期の遅刻者数は前年度の1/4程度に収まり、学校全体が落ち着いてきている。
113	全	進学であれ、就職であれ、いつかは社会に出て働くことを念頭に置き、TPOを踏まえた、頭髪、服装、言葉づかい等について、特に指導してきた。「産業社会と人間」における、大学、企業見学やインターンシップ(総合学習)などで、社会の人たちとかかわることも多く、礼儀や身だしなみの大切さを痛感していると思われる。
114	全	ティームティーチングや少人数クラス編成、「産業社会と人間」授業レポートなど教師と生徒とが関わりあう機会や時間が多いことから生徒との信頼関係や生徒相互の好ましい関係が育ちやすく、指導も浸透しやすい。生徒会・部活動による地域行事へのボランティア参加は学校への理解の深まりとともに地域社会との連携強化に役立っている。
115	全	・生徒の気質において、寛大な生徒が多く、他を尊重する傾向が強いので、クラス運営はスムーズにしている。
116	全	・全職員が共通認識を持って指導する体制により、生徒の服装、頭髪などの身だしなみは良好な状態である。・遅刻の防止に努め、朝の点呼時のホームルームでの指導により遅刻が少なく。・学校内外での清掃活動など、ボランティア活動が盛んである。
117	全	中退率や生徒指導上の問題数が減少した。学校全体が明るく活性化した。
118	全	開校4年目であるため、職員が丸となって、生徒指導にあたり、問題に対して迅速に対応できる。
120	全	・声かけあいさつ運動」、「朝の読書」の実施により、遅刻者が激減した。・問題行動の件数が、一昨年度の4分の1に減少している。
121	全	・総合学科としての「生徒指導上の成果」という点では、特に見当たらない。
122	定	特に変化なし。
124	全	全校集会、学年別集会などで、自覚をうながした結果、生徒指導上の問題は減った。またここ数年喫煙の形跡が全く見られない。毎日全職員で昼食時間を利用して校内巡視を行っていることも良い結果につながっている。
125	全	登下校指導や服装点検等を定期的の実施した結果、生徒の規範意識が向上した。
126	全	毎朝の登校指導、遅刻者に対する業後の遅刻指導で、あいさつ・服装・容儀などのマナーの向上がみられ遅刻は激減している。
127	全	・計画的で地道に指導を行ってきた結果、遅刻者が大幅に減少し、服装容儀が良くなってきている。・自転車通学の生徒が多く、交通安全教育実践地域事業を行って、マナー向上。
128	全	授業中や休み時間の巡回指導の徹底などにより、授業開始のチャイム後に廊下にいる生徒はほとんどいなくなった。授業中の授業態度についても以前に比べて非常に改善されている。
129	全	朝の遅刻者が2年連続で20%程度減少した。特別指導の数が減少した。
130	全	「産業社会と人間」の中で行った地域職場見学や大学生による学部・学科ガイダンスなど学校外の人と接する機会に礼儀やマナーの指導を行い、一定の成果を得た。また、ディベートなどを通して社会が抱える問題に関心を持つようになり深く物事を考えるようになった。科目選択は個性を尊重し、違いを認め合う良い機会であるとともに、生徒自身が自立しようとする心をも育てている。
131	全	自ら選択した授業に対して自己責任を自覚させる場となっている。また、少人数での温かい雰囲気での授業は、生徒の主体的な学習を促す場となっている。
132	全	これまで学年を問わず、服装・頭髪の乱れが目立った。指導の結果、服装の乱れた(スカート丈の短い生徒)は一部、特定の生徒たちだけという状態にまで、減らすことができた。
133	全	年5回服装・頭髪指導を行っており、厳しく指導している。その為、服装・頭髪の指導を受ける者は減少してきている。
135	全	落ちついて行動できる生徒が増えている。
136	全	・校則に定める服装の改善(染髪やワイシャツ出しの減少)・全教職員による朝の服装指導・昼休みの巡回により、あいさつ運動の効果や無断外出等の減少・生活に落ち着きが見られ、問題行動の減少
138	全	ルール・マナーを守るという雰囲気が醸成されつつある。
139	全	教員の共通理解により、組織的・計画的な指導ができるようになった。
140	全	あいさつは元気よくする。大きな事故や問題行動は、ほとんどない。
142	全	怠学による授業欠課をしないよう、授業中の職員巡回を実施しており、効果が出ている。
143	全	生徒の主体性が増し、学校行事や広報活動において、普通科時代とは較べものにならない成果をあげている。またメンタル面で問題を抱えた生徒への対応も教員間で共通理解が持てる。
144	全	・生徒指導件数の減少。・カウンセリング体制が徐々に確立されつつある。・ホームルーム活動を通じた生徒と教員とのふれあいの増加。・退学者の数も年々減少している。
145	全	個性豊かな生徒の多い総合学科においては、生徒指導のあり方も個に応じた対応が求められる。実際、特別指導の際も都度、判断を迫られるようなケースも多発しているが、その都度、画一的でない、臨機応変な指導が行われている。
146	全	・HR単位での授業展開がない総合学科においては、日頃の声掛けなどによる生徒把握が重要であることの共通認識を開校より全職員が共有できている。また、生徒のニーズに対応できるよう、組織的な教育相談体制も構築されている。
147	定	統合前の学校では、生徒間暴力やバイク暴走など不法行為があったが、総合学科になってからは、自らの進路を考える指導により生徒の行動も落ち着き問題行動が減少した。
148	全	身だしなみチェックをはじめ、きめ細かい指導をしています。おおむね「茶髪」「乱れた服装」等がありません。規範意識のある大人に成長させたいと思っています。
149	全	単位制総合学科に移行したことにより自分に合った学びの場を見つけ、将来の目標に向かって努力する生徒が増えた。同時に授業だけでなく、日々の生活面においても規律を守り真摯に学校生活を送る生徒が多くなった。
151	全	生徒の自主的活動を促すことができている。
154	全	授業開始時間が守られた。
155	全	「産業社会と人間」「科目選択」を通じて「自主、自律」の考え方が浸透してきた。
156	定	特別指導においては、校内謹慎を実施し、個々の生徒の指導プログラムを作成し、一人一人教員が対応している。
157	定	本校は不登校を経験した生徒が多く在籍しており、教育相談機能が充実している。専門のスクールカウンセラーも配置している。
158	全	ノーチャイム、ノー放送が定着し、生徒の自主自律的生活習慣が身に付いている。
159	全	継続的に実施している取り組みとして、次の事項がある。・年5回の全校一斉頭髪服装検査・毎月始めの昇降口指導・年84回職員による校外指導・毎月2〜3回の柏友会(生徒会)による清掃ボランティア・出欠状況の改善を目指すゼロトラランス指導 上記の取り組みにより徐々にではあるが生徒の規範意識や学習意欲の向上、公共のマナー意識の正常化等改善の方向に進んでいる。
160	全	個々の生徒の興味関心をいかした学習ができることから、比較的落ち着いた学校生活が送れる。



161	全	・生徒が目的意識を持って取り組むようになり、落ち着いた学校生活を送っている。・中途退学者、生徒指導件数が激減した。
162	全	・遅刻者減少(遅刻指導の方法の工夫) 18年度1学期1,56人/40人(1月当たり)→19年度1学期1,06人。・身だしなみに対する意識の向上。頭髪・服装違反者の減少。・部活動の活性化。部活動加入率増加。65%→73%
163	全	2、3年生は、自由選択科目が多く、しかも実習的な科目が多いため、学習を苦痛に感じる生徒が少なく、学校生活を楽しんでいる。
164	全	ここ2年間、生徒指導部を中心に、服装、頭髪に関して全体的な組織的取り組みが行われ、一定の成果が上ってきている。
165	全	地域・保護者から安心して通わせられる学校として評価されている。
166	全	学習活動や、学校行事等の諸活動に積極的に取り組んでいる。
167	全	総合学科のシステム全体が生徒一人ひとりの自己管理能力や自己向上力の育成につながっている。
168	全	目的意識を持って入学する生徒が増えてきた。
169	全	問題行動による家庭謹慎等、指導の対象となった生徒は普通科・総合学科が混在していた平成16年度までと比べ数的には大きな変化が見られなかった。
170	全	・目的意識が高くなったことや、言動に自己責任を持たせたことにより、ルールマナーが良くなった。
171	全	・制服に関しては、有名デザイナーのデザインを導入したことで、好意的な評価を得ている。・犯罪にかかわるような生徒指導上の大きな問題は出ていない。
172	全	この2か年で生徒の遅刻が激減した。また問題行動も軽微なものが年間数えるほどとこれも大幅に減少した。
174	全	・総合学科と他学科に特段の差異は見られない。・問題行動の発生も極めて少なく、大変良好な状態である。
175	全	生徒指導案件が激減した。
176	全	総合学科改編以前から比べると、生徒指導の件数は、大幅に減少し、生徒は落ち着いた生活ができています。
177	全	少人数展開の分、生徒との距離が近づき信頼関係を築きやすくなったため、授業中に不満を爆発させる生徒はほとんどいなくなりました。
179	全	普通科時代に比べ、生徒の質が向上した。全教員の協力で勤務時間前から登校指導を実施している。(年3回ほど1週間単位で)
180	全	・総合学科の開校とともに学級数が減少、指導面で問題がある生徒が少なくなってきた。・HR単位の指導を多くすることで教師と生徒の信頼関係を深めている。
181	全	・「産業社会と人間」から社会性指導。(自己理解等と社会的自立の支援、職業観と勤労観を育む指導ができた。）・総合学科の特性を生かし、多種多様な講演会・講話等による指導から、人としての生き方なり方等の本質を見いだすヒントを与えることができた。
182	全	遅刻者の指導で5回ごとに農場での作業を実施したところ意識が変わった。更に節目で登下校指導を保護者にも参加してもらい実施した。朝の始まりに変化があった。
184	全	開校時より、生徒には制服を購入させると共に、私服での通学を許可した。その結果、毎年一割の生徒が私服での登校をし、天気や気温に合った服装を日々選び、その点での自主的な判断力を養成することができた。
185	全	カウンセリング体制の充実。
186	全	個々の興味・関心に応じた科目選択が可能となったため、学業への“不適応”を起こす生徒が比較的小さくなり、学校生活に前向きに取り組む生徒が多くなった。
187	全	インターシップ(就業体験学習)などにより、場に応じた服装・態度に対する意識は高い。素直な一面があり、ボランティア活動などにも意欲的に取り組む生徒も多い。
188	全	問題行動や中退の減少、部活動・生徒会活動の活性化など、生徒が自信をもって学校生活を送るようになった。
189	全	多くの選択科目があるため、一人の生徒に関わる教員数が多くなり、様々な角度から多数の教員による指導が可能である。生徒一人ひとりが自らの興味・関心・進路にもとづいて科目選択をしているため、比較的落ち着いた学校生活を送る生徒が多い。
190	全	部活動の入部者状況が、男子87.6%、女子81.7%と高く、生徒の問題行動も少ない。
191	全	・停学者・退学者及び遅刻者数の激減。・あいさつ運動の定着。
192	全	自分の進路に合わせた教科選択をすることにより授業への取組も良好であり、移動教室では意識的に時間厳守を心掛けている。また、教科により少人数の場合には生徒一人ひとりの指導も適に行うことができた。
193	全	学科改編以前に比べ著しい成果をあげているとは言いがたい。むしろ生徒指導上、負の面が顕著であり、ここ数年はその改善に追われてきたというのが正直なところである。
194	全	あいさつ(A)、身だしなみ(M)、お掃除(O)、ルール(R)、エコライフ(E)の5つの項目をまとめて、アモーレ(AMORE)運動として取り組んでいる。
195	全	・落ちついた学校生活を送っている生徒が大部分である。
196	全	平成18年度入学生から制服を一新、朝の遅刻指導、朝読書の実施、新入生HR合宿を始め、生徒指導についても、これまで以上にねばり強く行っている。遅刻者が激減し、落ち着いた学校内の雰囲気を作られている。
197	全	生徒の自主性を重んじる活動(サークルや行事)が充実しており、リーダーシップを発揮して積極的に企画・運営にたずさわる生徒が多い。
198	全	クラス単位の授業が少ないため、面談等を頻繁に実施することにより、生徒把握につとめている。
200	全	3校が統合してその指針体制をまとめることが出来た。「あいさつ」「朝読書」は定着した。
201	全	「産業社会と人間」の授業で、進路指導のみならず、社会人として必要な要素を身に付ける内容を盛り込んでおり、例えば、環境教育を通して、校舎や周辺地域の美化に努めようという機運も高まっている。
202	全	「総合的な学習の時間」「産業社会と人間」等の学習により、多面的な見方や考え方が育まれており、社会生活におけるマナーや、社会規範を遵守しようとする姿勢が見られる。校内外の生活においては、特に大きな問題は見られない。
203	全	元々特別指導を受けるような生徒は少なかったのであるが総合学科開設後は、より生徒指導上問題のある生徒は減ってきている。また最近部活動の活躍が目立つようになってきた。
204	全	・遅刻・欠席等が以前より減少した。・非行の処分回数が減少した。
206	全	空き時間をなくしたことと制服採用による規律ある学校生活の確立。
207	全	ホームルーム単位での活動が少なく、社会性に欠ける生徒が多かった。6年前より基本的生活習慣の定着に力を入れ、朝の登校指導に重点を置き生徒への声かけをしてきた。また、地元の秋祭りに全員参加することで教員や地元との一体感が生徒に生まれてきた。
208	全	総合学科に学科転換したことによる成果はなし。
209	全	総合学科に転換したことによる、生徒指導上の変化はあまりない。基本的生活習慣の定着や自律を促す指導を普通科時と同様に行っている。ただし、学科転換後、推薦入学者を中心に目的を持って入学してくる生徒が増えてきた関係で、指導事故などは多少の減少傾向にある。
210	全	交通安全講話、交通安全街頭啓発、生徒会との懇談会、学校祭、祭典巡視など、警察との情報交流や連携を深めるとともに、生徒の指導に活かされている。

211	全	・頭髪、服装、礼儀作法なども含めたマナーの向上等により本校生のイメージが大幅に良化した。・いわゆる不本意の学生の減少に伴い教育活動全体に活気が増し、部活動における好成績や学校行事の活性化などが増大した感がある。
212	全	・ボランティア活動の充実による社会性の涵養・各種行事を通して豊かな人間性社会性を育てる。・個に応じた教育相談活動・交通安全キャンペーン、ブルドライバーズセミナー等交通安全教育の展開
213	全	学習面での充実感が、生徒の学校生活を落ちつかせる要因にもなっている。
214	全	校内外の生活について落ち着いた行動をとれる校内規律の保持。
215	全	・次年度に向けた科目選択や生活状況、進路決定に向けた個人面談等を実施することにより、生徒の意識が向上している。・特別指導における細かな個に応じた事後指導で効果が上っている。・生徒会活動が充実し、生徒主体の積極的な活動が実践されている。
216	全	総合学科は、単位制高校教育であることを考慮して、・HRと教科担当教師との情報伝達・規程その他生徒心得などの見直し・生徒指導上必要な校内外の生活指導の計画化等を図ったら生徒指導の「統一性」や「教師間での協議」する場が、以前より得られるようになった。
217	全	自分達でしなければという意識がある。
218	全	授業毎に構成員が変わるので友人関係の構築にはプラスになることが多いようだ。
220	全	生徒個々のコースや選択科目、将来の進路目標や目的は異なるが、それぞれ目標とするところの良い点をできるだけ取り入れることで、全生徒に統一したより質の高い生徒指導が可能となった。
221	全	登下校指導・服装指導・遅刻指導を実施することで生徒が落ち着いてきた。
223	定	県内でもトップ生徒指導力を誇っている。登下校時の駅、校門指導、休み時間の校内巡回等、徹底した指導を行ない問題事象を未然にあるいは小規模段階で解決している。
225	全	生徒は学習内容に意欲を持って取り組んでいる。
228	全	基本的生活習慣の確立と学習環境の向上を最重点課題とし、生徒指導に取り組むとともに、総合学科の中でのキャリアガイダンスの一環として行われているインターンシップや、上級学校見学などを通して「自主性」や「生きる力」を身につけることができている。そういった経験を生かして生徒が主体的に物事に取り組み、生徒会行事や地域との連携によるボランティア活動などに以前にも増して目的意識を持って積極的に取り組むようになり、部活動等も盛んになり学校全体が活気づいてきた。
230	全	自分の将来をみつめた科・科目を選択できるということで、学校生活も意欲的になり、中途退学者が減少してきた。
231	定	・不登校経験者の多数入学により、また、高等学校中退者入学など、多様な生徒が学ぶ場になり、落ちついた学校となっている。
233	全	平成13年に総合学科を設置した年は系列に関係なく選択させていたが移動教室に時間がかかり始業時間に授業が出来ない事が多く、怠ける生徒が多数出て、生徒指導面で、他の学科にない問題点が出たが、系列別に編成する事により生徒の把握が出来る様になった。
235	全	自己責任ということでしっかり考えて行動するように指導しているが、自分の意志で行動できる。行事に積極的に参加する生徒が増えた。
236	全	分野(系列)別によるホームルーム編成のため、目的意識を持った生徒の集団であり、統一的に指導しやすい。また、選択科目での分散して移動もないので遅刻やさぼりもない。
238	全	社会福祉系列の影響からか、ボランティアに積極的に参加するなど、奉仕の心を持った生徒が増えてきたように思える。
240	全	・成績や生活などでは、自己責任を生徒に求めているので、極端に非行にはしる生徒がほとんどいない。



番号	全・定	問12(3)d 生徒指導についての課題をご記入ください
1	全	・一部の生徒が染髪等の指導を受けている・女子生徒のスカート丈が全体的に短い。
3	全	・生徒個々の時間割となるため、学級への所属感が薄れ学級経営が難しい。・規範意識の育成が必要である。
4	全	基本的な生活習慣の確立、生徒のリーダー育成、部活動への意識高揚が課題となっている。
5	全	・公衆マナー面等についてまだまだ一つ一つ改善して行かなくてはならない問題点を多く抱えている。特に校外(駅周辺、スーパー等)でのマナーの悪さが指摘されている。・個々の規範意識をどう向上させて行くかが課題である。
7	全	総合学科＝自由一校則に対しても「自由」(守らなくてよい)という考え、風潮。
9	全	・放課後など、校外の指導が必要である。・汽車通学生に対するモラル・マナー指導が必要である。
10	全	大きな課題としては容儀指導、特に女子生徒の指導が上げられる。学校外での服装の乱れは、かなりひどいようである。生徒指導部だけでなく、進路指導部や教務部からもキャンペーンを打ち出して、全体の意識改革とレベルアップを計っている。次に学校生活の中で体調不良を理由に、授業を欠課する生徒が非常に増えたことである。本校は単位制で授業の出席が重要である。自分の都合やわがままを優先して、本来の高校生の姿を見失っている者が増えて来たので、基本的な生活習慣の確立が必要である。
11	全	所属クラスの枠を越えて、様々な授業が展開されている。学校行事などで所属クラスによる取り組みを通じて、集団生活における指導や成果を分かち合う場面を作っていく必要がある。
12	全	精神的に弱い生徒の入学や、不登校ぎみ生徒も少数いて、毎日、注意を払っている。
13	全	様々な生徒指導上の諸問題は存在するものの、「総合学科特有の生徒指導上問題」とは認識し得ない。
15	全	社会が大きく変化するなか、いかにして生きる力を養わせるか、総合学科では何ができるのか等を、問い直してみる時期にきているのではないかと。
16	全	服装や挨拶などまだまだ改善すべき点が多い。日頃から問題点を、職員や生徒に連絡するなど共通理解の浸透を図り、教員側の指導の温度差をなくしていくことが必要である。
17	全	中学校とその保護者に対する、総合学科の説明不足がある。
19	全	・登下校中の服装や態度が、地元からの信頼を完全に得る状況に至っていない。生徒の自尊意識・規範意識、学校への帰属意識を高めるための粘り強い指導が必要。 ・生徒会活動や部活動について、役員・部員を行事の中核にした学校の活性化を継続し行っていくこと。
20	全	部活動の加入率の向上やボランティア活動の一層の推進等、生徒が社会性をより高める活動に取り組ませなければならない。また、教師による指導の温度差やさらなる効果的な指導を行うためのシステムづくりが急がれる。
21	全	2、3年次はほぼ全てが選択科目なので、クラス単位での指導が難しい。
22	全	基本的な生活習慣が身につけていない生徒や規範意識の低い生徒がみられる。
23	全	ここ3年程、生徒の中途退学・転学の生徒数が増加していることに問題を感じている。今後教育相談等の取り組みを強化していきその減少を目指さなければならない。
24	全	制服の衣替えの期間を設けていないのが特徴であるが、自由な着こなしの反面、夏季でもセーターを着るなど季節感を意識できない生徒もおり全体への着こなしの指導が必要である。また、教師の指導を素直に聞き入れる事ができない生徒の中にはおり、全職員が一致団結して指導していく必要がある。
25	全	高い意識を育てなければ、安易な科目を選択した集団になってしまうため、授業への集中力に欠けることになる。
27	全	総合学科に起因する生徒指導上の課題は特に認められない。ただ本校はホーム主任2人制をとっているため、人手不足を生じることがあり、一部のホーム主任に負担がかかることがある。
29	全	・科目選択のため、クラスごとの授業が少なくなり、ホームルームへの帰属意識が希薄になった。これにより、2年次以降のホームルーム単位での生徒指導が難しくなった。(その反面、年次を一つの大きな単位ととらえ、全体で指導するようになった。)・選択科目においては、出欠管理が難しい。
30	全	学校生活に消極的な生徒や進路変更をする生徒がなお存在している。目的意識を持って学校生活を送れるよう促していくことが必要である。
31	全	選択授業中心のため、苦手・不得意科目を履習しなくても卒業単位が習得できるため、困難なものから安易に逃がれよう、避けようとする傾向にある。合わせて、欠課・遅刻・早退等時間に関しても厳しい考え方ができず、ルーズな考え方に陥ることが心配である。
32	全	授業を大切にするために遅刻や授業遅刻をいかに少なくさせるか、また自覚を持った行動をいかに身につけるかが課題である。
33	全	一斉指導でないため、生徒の自律性が一層求められる。
34	全	・教室移動が多く、使用教室も多いため、生徒の持ち物管理を徹底させる。(机に私物を置かないなど)・4年次生の空き時間の指導をどうするか。
35	全	他学科に比して、総合学科特有の成果や課題は見受けられない。
37	全	生徒全員が、リーダーシップをとって活動できるよう指導していくことが必要である。
38	全	・クラス単位の授業が少ないため、クラスへの帰属感がやや希薄である。・興味や得意・不得意にかかわらず、すべての面で前向きな学校生活を過ごす生徒が減少するように感じる。
39	全	女子生徒が多く、女子だけのクラスもあり、言葉使いの悪さや立ち振る舞いの指導。
40	全	指導の統一性・基準をもって行うことが難しい。
41	全	選択科目が多いので教室移動が多くなり全体的に落ち着きがなくなる傾向が最近特に目立つようになった。クラスの間とまりも弱いため、コミュニケーションがうまくつけない生徒が増え、問題行動につながる傾向がある。
42	全	・意に反した講座を選ばざるを得ない場、困難な場面(怠学等)が生じる。・講師の数の多さや指導力のバラつきにより生徒指導の徹底が困難な部分がある。何年が講師を固定するか、研修の見直し(全体と教科内)が不可欠である。
44	全	上記の取り組みにより今年度は、服装の乱れた生徒もなく、遅刻においても、昨年の1/5に減少し成果が見られている。このまま取り組みを継続していく。
47	全	クラス別の授業が少なく、選択授業の為、出欠遅刻の把握が難しい。
48	全	オプション科目の導入により終業時刻が一斉でない日があり、部活動と授業が並行して行われる場面がある。部活動の充実という点では課題である。
49	全	様々な進路目的をもつ生徒が登校してくるので生徒個々の状況も、様々であり、生徒の課題も多様化している。
50	全	校内での生活はある程度安定してきているが、今後は校外での行動、活動についての改善が求められる。
51	全	生徒は、広範な中学校から集まっているので、指導において、保護者と一層、連携し、理解を深めていく必要がある。
54	全	個々の生徒についての今日的課題は本校においても題在する。
55	全	教員、保護者、生徒の共通理解がポイントで、同一基準、同一歩調の維持が課題である。
56	定	不登校経験者ほか特別支援を必要とする生徒の入学が増えており、教育相談との連携が必要となっているが、まだそのための組織や運用面での課題を検討中であり、対応を急いでいる。

57	定	総合学科という、何となくのんびりして、他科に比べしっかりした目的意識を継続しにくい。それが学校生活において、意欲のなさや軽い取り組みに終わってしまう。
58	全	服装や頭髪等に多くの課題を抱えているのが現状である。(科目選択の自由と服装等の自由をはき違えている)
59	全	心の問題等により、行事に積極的に参加できない生徒への対応。
60	全	系列・選択科目による小グループが多く発生し、クラス経営やクラスとしての指導が難しい。
63	定	指導の枠が設定しづらく、ルールマナーの認識が生徒により様々である。教員間でのルールマナーに関する共通理解を深める必要がある。
64	全	原級留置がないため、学校生活や授業に気分が乗らないなど、緊張感がない生徒が出て来る。
65	全	全教員の共通理解と根強い指導が必要である。また、保護者や地域との連携も必要である。
66	全	・生徒一人一人が米子高校の生徒として、自覚と誇りを持ち、高校生らしい言動・服装ができるようにする。・一部の生徒の遅刻や欠席がなかなか改善されない。
67	全	総合学科4年目を迎え、目的意識を持った生徒が増え、挨拶等もよくできるようになる。指導件数も減少し、落ち着いた学習状況になりつつあるが、看護科移設を来年に控えるなかで、更にルールやマナー、身だしなみ等の向上を図りたい。
68	全	生徒指導上、様々な取り組み(校門指導、校内巡視、巡回指導、服装身だしなみ指導等)を行ったが、授業を起点とした学校生活の改善にまで至っていない。
69	全	一部服装・頭髪に問題のある生徒もいるので継続的な指導が求められている。
70	全	基本的な生活習慣が乱れている生徒が多くなりその生徒への指導が重点課題となっている。
71	全	2年次より幾つかの共通履修とHRのみで、クラスによるまとまりが希薄となり、仲良し集団に流れていく傾向が見られる。
73	全	全員が挨拶をし、互いを思いやることができ、楽しく充実した学校生活が送れる環境づくりをする。
74	全	・興味・関心の多様な生徒が多く指導が徹底しにくい。・授業の特性により非常勤講師が多く教師の指導の統一が出来にくい。
75	全	しかし、全教員が同じ目線で指導にあたれていない難しさがある。
76	全	・この2年程若干ではあるが遅刻する生徒が増加傾向となり、基本的生活習慣の構築が必要である。また「心に悩みを持った生徒」も増加傾向にあり、学年・教育相談(キャンパスカウンセラー)・保健部・生徒部の連携の強化が益々必要となってくると危惧される。
77	全	総合学科の特色から女子の比率が高くなってきており、服装頭髪面のみならず、人間関係で悩む生徒が増えてきている。帰属意識が低いので行事等に積極的に参加させるようにしている。クラス減(3クラス)で教員数が減り、指導体制が確立しにくくなっている。
80	全	自分で判断し行動できる賢さの育成を目標にしている。善悪の判断等、生活面について自主判断できる生徒の育成、これが課題である。
81	全	・選択授業が多いので、2、3年次生ではHRへの帰属意識が希薄にならないような工夫を要する。・時間割を自分で創る自由さから学校生活全般においても自由に振舞えるのではないかという思い違いで中学から来る。
82	全	担任によるHR指導の機会が少ない。(選択授業が多く、HRとしての生徒の意識が希薄)
83	全	現在の状況を維持できるよう、教員が意識を持って生徒指導に当たることが必要である。
84	全	生徒達は自立心が高いが、その反面わがままな部分が見え、自己中心的な考えや行動として表れる場合が少くない。
85	全	生徒は個々人の関心を中心に動く傾向が強いため、周囲への配慮などではまだまだ課題は多い。
86	全	選択が多く、教員が気を緩めると遅刻が増えやすい。また科目が選択できる自由を、何でも自由にできると考えてしまう生徒が一部に出てくるようになった。
87	全	大多数の生徒は校則等、守っているが、一部生徒で、遅刻が多い、服装が乱れている、頭髪に手を加えるなど指導困難な生徒も見られ、今後の指導が課題である。
88	全	生徒のサインを見逃さず、早期発見。
89	全	地域密着型の学校である。地域の人たちに受け入れられるような頭髪、服装、通学マナー等を指導していかないといけない。
91	全	クラス集団への帰属意識を意図的に高める様々な工夫が必要である。
92	全	いわゆる不良行為は減ったが、不登校傾向の生徒は横バイまたは増加している。対人関係がうまくできなかったり、精神面での課題を持つ生徒が増えているように思われる。
93	全	規範意識の欠如。
94	全	生徒会活動および部活動の活性化が課題となっている。
95	全	大きな目標より、問題行動や、生徒の悩みの指導相談に追われているのが現状である。
97	全	成果であげた反面、クラス担任が自分のクラスの授業を受け持たないケースが多く見られるため、普段の生徒の状況把握が困難となり、教員同士の「横の連携」が必要となる。
98	全	・ホームルーム単位で行われる授業が少なく、授業選択の仕方によっては担任とクラス生徒の関わりが希薄になり、生徒の状況把握が十分できない場合がある。・教師間の情報交換が必要であるが、時間割上の制約や会議等で一貫した指導ができにくい場合がある。
99	全	自主・自律を醸成していくこと。
100	全	・登下校時のマナーをどのように改善するか(道いっぱいに広がって歩くなど)・リアルタイムでの生徒の出欠管理掌握をいかにするか(本校の授業システムとの関連による)
101	全	服装・頭髪や言葉使いについて、一般社会の規範から見れば、十分とは言えない状況がある。
102	全	選択授業が多いため、ホームルームとしての生徒の把握が難しい。
106	全	女子が増加し、服装指導がうまくできていない。
107	全	これで良いという段階ではないし、まだまだ発展途上であると考え、一層の指導が必要である。
108	全	ST後に遅刻して登校する生徒(数は少ないが)の把握がややむずかしいところがある。(入学許可証を利用するなどして、担任が把握できるように努めているが、連絡が徹底しないこともある。
109	全	改編以前の学科制の時は、専門学科ごとに専門教科の先生方を中心に粘り強い指導ができたが、現在は先生方の責任の所在が希薄で、組織的な指導がしにくくなった。
110	全	校内盗難、基本的生活習慣の確立、学校の中で一人ひとりが活躍できるようにする、携帯電話やインターネットでの誹謗中傷など、課題はたくさんある。「悪いことは悪い」という意識を生徒にしっかり持たせるように、教員が一丸となって生徒指導をする必要がある。
111	全	うまくいった。
112	全	2年次からはクラス単位の授業が原則的に存在しないので、クラス内の生徒同士の人間関係が希薄になっており、人間関係で悩みを抱える生徒が大変多くいる。また、担任も授業で関わりを持ってない生徒も存在することになり、生徒理解が十分に行き届かないため、複数の教師のサポートが必要になる。

113	全	入学後に、進路選択ができる、という、総合学科の特長を知って入学してくる生徒たちの中には、目的意識がなく、学習にも部活にも精一杯努力する姿が見られない生徒がいる。中には時間を持て余し、問題行動に走りかねない生徒もいるため、いかに充実した学校生活を送らせるかが、今後の課題である。
114	全	入学してきた生徒が自信をもって物事を判断し、行動できるようにするためには組織的に継続的な指導や支援が必要であり、ホームルーム担任、教科担任、部活動顧問など関係職員の連携が必要である。情報交換と共有から正しい生徒理解と指導・支援へ向かうものであり、生徒情報の早期の集約が重要である。
115	全	・他に流されやすい生徒が多いので、根気強い指導が必要である。
116	全	・校内のマナー指導が校外でのマナーにつながらない。・交通マナー指導を強化し、交通事故を減らす。・軽度発達障害の生徒についての職員の認識と、一般生徒の関わり方。
117	全	日常的マナーの向上。頭髮、服装指導。
118	全	生徒に問題点を理解させ、責任ある行動をとらせるための工夫と努力。
120	全	携帯電話を使用した個人への誹謗・中傷等に対する対応が必要。・服装の乱れへの対応が必要。
121	全	総合学科としての「生徒指導上の課題」という点では、特に見当たらない。
122	定	相変わらず、様々な問題をかかえた生徒がいる。
123	全	出席管理がなかなか徹底できず、怠学者を把握するのが難しい。
124	全	挨拶運動、グッドマナーキャンペーン、等、どちらかと言えば教師指導型なので、今後はできるだけ生徒が自主的に取り組めるような運動にしていきたい。
125	全	今後も、全職員が共通理解のもと、地域の方々の協力も得ながら、登下校指導や講話会を実施し、さらなる生徒の規範意識の向上に努めていかなければならない。
126	全	教師主導型の生徒指導から生徒みずから自己改善や行動を行って学校生活を充実できるように学校行事の充実、部活動のさらなる強化。
127	全	・様々な面において指導の方針、方法など、全ての教員の共通理解をはかるための工夫。・自らのキャリアアップのためにも、生徒指導は進路指導とともに車の両輪であることを、教員にも生徒にも意識してもらう。
128	全	遅刻撲滅に向け指導にかなり力を入れているが、生活習慣が改善されず遅刻を繰り返す一部の固定化された生徒がいて、遅刻数が減少していない。また携帯電話に関するトラブルも増加傾向が見られる。モラル向上のための教育を徹底する必要がある。
129	全	校外での座りこみやゴミの投げすてなど、モラル・マナーの低下が見られる。また、身だしなみ、言葉づかい、教員に対する態度の乱れが多くなっている。
130	全	個性の尊重と自由を履き違えて、いろいろな規則を守らない生徒もいる。
131	全	・総合学科であるがゆえ、多様な生徒が入学してくる。中には、基本的な生活習慣が確立されておらず、遅刻や欠席等が多い生徒、規範意識が希薄で服装や頭髮等に関心が高い生徒、またコミュニケーション能力に欠け、人間関係がうまく築けず孤立したりする生徒等、様々な生徒への対応に苦慮している。・クラス編成が選択科目や分野選択に縛られる場合は、同質の人間集団が形成され、時には差別感につながったり、時には緊張感を失い馴れ合い的な集団になる危険性がある。
132	全	女子生徒が多い中で、服装の乱れ、かかとの踏みつぶしを恥ずかしいことと受けとめない傾向が強い。この意識を改善していくことが課題である。携帯のブログ、プロフィールに個人情報や安易に載せる傾向がある。安全管理意識を高め、ネチケットを身につけさせることが課題である。
133	全	教師間における指導内容の差があり、意識の統一も含めた、指導する側の一貫性が問題である。
136	全	・服装指導(スカート丈、ズボンのはき方等)の徹底。・インターネットや掲示板の利用上の問題。・問題行動を繰り返す生徒への継続的指導方法。・全教職員間の取組み意識の向上と統一指導の確認。・バイク・自転車の交通安全指導。・携帯電話の利用方法の指導。
138	全	情報の高速化と価値の多様化がいろいろな面で影響を及ぼしており、保護者の価値観も統一されていない。
139	全	基本的な生活習慣の確立。情報モラル教育の推進。
140	全	服装が自由であるが、高校生として節度や清潔感のある服装にさせること。
142	全	・履修不可となった授業において欠課となる生徒と、怠学による授業欠課の生徒の判別がつきにくくなり、指導が徹底できなくなる。
143	全	一部ではあるが、科目選択面での自由度の高さを、放任と受けとって、マナーを守れない者がいる。
144	全	・生徒の空き時間の対応。・学校システムの近隣住民、地域への理解。・心に悩みを持つ生徒へのフォロー。
145	全	心の内面の相談で保健室を訪れる生徒も大変多く、養護教諭や担任、教育相談コーディネーターの教員だけでは、目の行き届かない場面もあり、スクールカウンセラーの常駐や活用が喫緊の課題となっている。
146	全	・生徒の校内での把握が困難で伝達事項や各種の指導がスムーズにいかない場合がある。生徒に関する情報の共有する機会の確保が課題になっている。・教育相談に関して、適切な外部相談機関との連携する判断も課題となっている。
147	定	タバコ喫煙はまだ多数見られる。根気強い指導と共通の教員間の指導意識を継続する必要がある。
149	全	・生徒一人ひとりが個別の時間割を持ったことにより、個々の生徒の校内における生活状況が把握しにくくなった。本校は2人担任制であるため、そういった面をいくぶんカバーできているが充分とはいえない。
151	全	生徒の甘えがでてきている部分もある。
154	全	・部活動加入率を向上させる。・下校時刻を徹底させる。
155	全	基本的な生活習慣(あいさつ、時間、身だしなみ、掃除や授業態度等)の改善、定着。校内美化や環境保全の改善に主体的に取り組む。
156	定	約8割の生徒が小・中学校時代に不登校経験がありまた、高校中途退学者など様々な生徒が混在している。その為、基本的な生活習慣が身についていない。人とのコミュニケーションをとるのが苦手な生徒が多い。これらが原因となる生活指導上の問題が多く発生している。
157	定	単位制であり、毎日H.R.が設定されていないので、生徒の状況を担任や生活指導部が把握することが難しい。
158	全	校外でのマナー等で多少改善すべき点が見られる。
159	全	生徒個々の自己指導能力の育成に、全職員の共通理解のもと全ての教育場で取り組むこと。
160	全	・移動教室が多いため遅刻が多くなり、授業の始まりにけじめがつきにくい。・HRはあるが、2、3年次生は全員がそろるのが朝と帰りのみの為、生徒のHRへの帰属意識が薄い。併せて、担任はクラス経営等に工夫がいる。
161	全	・生徒の出欠状況が把握しにくい。
162	全	・登下校時のルール・マナーの向上。・不登校生徒への対応。・学校行事の活性化。
163	全	学年制であれば、留年することがあるため、苦手な科目でも単位修得に向けて努力するが、単位制のため、苦しくなると単位修得を安易にあきらめてしまう生徒がいる。気持ちを鍛えられない。
164	全	中学生に対して、新しく変わりつつある本校のイメージを伝えてゆく必要がある。
165	全	毎日の授業の中での生活指導を徹底したい。
166	全	ホームルーム活動を積極的に行い、ホームルームへの所属意識を更に高めることが課題。

167	全	・2年次からHRでの授業がほとんど無く、クラス替え後の人間関係を築いていくのが難しい。・個々の生徒の個性は育つが、方向性が様々なため、学校としての的を絞った生徒像を示すことに多少の難しさがある。
169	全	多様な科目選択が実質的にスタートする2年次以降、教室移動に時間がかかりややルーズになっている傾向が見られる。「Foom chime to chime」をスローガンとして徹底する必要がある。
170	全	保護者の多様化により、生徒達もその影響がある。
171	全	・特に女子の服装が流行に流される傾向にあり、正しい着方の指導が必要。また、女子のズボンの制服化も検討している。・学校不適應の生徒が毎年2、3名出ている。教育相談体制の充実が課題。
172	全	上記と入れ替わるように、支援を必要な生徒が各学年2～3名現れるようになった。スクールカウンセラーが月1回来校なので、助言をいただいているが、残念ながら進路変更や退学する生徒は年に数名出ている。
174	全	・生活集団と学習集団が異なることによる帰属意識が薄れたことにより、益々生徒が存在感や所属感を実感しながら自己形成が図れるよう指導助言・援助に努める。・規範意識や公共マナーの向上を図るよう指導・助言・援助する。
175	全	・服装指導(スカートの長さ等)への比重が高まってきたが、表面に現れない所の指導を考えていかなければならない。
176	全	教員の共通理解のもと、服装指導の徹底を図る。
177	全	2、3年次生は自分の時間で動いているため、HRTが中抜けのチェックをするのが難しくなった。考査時の受験時間帯のずれによる自転車の盗難が増えた。(現在は自転車置き場に生徒指導部員が待機し、防止に努めている)
178	全	・2、3年生になると選択科目の授業が中心となり、HR教室での一斉指導がむずかしい。
179	全	基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が見られる。生徒だけでなく保護者への対応にも工夫が必要。
180	全	選択制をとる2年次・3年次に、単位未履習の生徒が多くなり、進路変更する傾向にある。
181	全	・総合学科で、選択科目があまりにも多すぎるので、HRTがクラスを把握するのが困難である。(2・3年次はクラス全体での講座がとて少ない)・学校行事が多く、教師・生徒ともそれをクリアするのに目一杯で落ち着いて生徒指導・相談に取り組むことが困難な現状がある。(ここでの学校行事には、総合学科特有の科目登録・産社・総学を含む)
182	全	ベナルティに対してそれがあから改善されるのでなく、社会に役立つ人間になるための内面を育てたい。
184	全	「制服と私服」自由に生徒に選択させたため、制服と私服を組み合せる生徒が多数出た。その指導に、時間と労力を掛けることになった。統一するかどうかは検討課題である。
185	全	携帯電話の制限や服装指導。
187	全	校内生活において、服装の乱れがあり、規範意識の低さが見られる。当り前のこととして気づき行動できる力がほしいと考える。
188	全	生徒数減による部活動の削減 発達障害等への対応。
189	全	毎時間、選択科目で教室移動するため、校内での生徒の所在がつかみにくい。
190	全	制服の正しい着用が定着してきたが、学校外では、まだ目の届かないところがある。
191	全	・特別支援教育に対する理解と推進組織の確立。・心の教育の全体計画の策定。
192	全	2年次から選択科目を中心となりクラス単位での授業が少なくなることにより、クラスへの帰属意識が希薄になる傾向がある。また、教科の関係で担任がクラス生徒の授業を担当できないことがあり、担任と生徒の関係も希薄傾向にある。
193	全	単位制総合学科の性質上、生徒個々人の関心はとくく個々の興味に偏りがちであり、クラスや集団といったものに対しては意識が低い。集団づくりや民主的リーダーの育成を通じ、学校に対する誇りを回復することが急務である。
194	全	非行や交通事故など特別指導のさらなる減少が課題である。
195	全	学級でのまとまり(協調)がなかなかつづられない。
196	全	HR合宿で学校生活のきまりや規則について徹底に指導するため、1、2年次生については集会の整列状況は大変良くなっている。生徒会活動、部活動も盛り上ってきているので、より生徒の自主的な取り組みを応援していきたい。
198	全	昼休みしか個別指導に費やせる時間がないため、巡回や会議が行えない。
200	全	今後は「担任・学年」の指導と「系列・教科」の指導のバランスを取る必要がある。
202	全	生徒個々の科目選択による講座制の授業が多いため、学級の一員としての意識が薄くなっている。ホームルーム活動、部活動・生徒会行事等によって、学校に対する帰属意識を高めることが必要である。
204	全	最近、遅刻など生活上の指導をよする生徒が目立つようになった。
205	全	移動教室が増えたため、時間に余裕を持った行動が求められるが、まだ徹底されていない。その他の生活習慣の見直しを含めた部分が課題となっている。
206	全	基本的な生活習慣の確立。
207	全	さまざまな試みを継続的に実施しているが、身だしなみや人の話を聞く態度など基本的な生活習慣が身につけていない生徒もまだまだ少なくない。
208	全	学科転換の結果あらゆる部分で仕事の量が増大している(特にHR担任)その中で生徒の実態把握等おろそかになることがある。
209	全	町内から通学する生徒よりも、町外生が増加してきたことで、地域との関わりに関心を持たない生徒が多くなっている。
210	全	地域や保護者とともに「学校行事」を検討し、一層の連携、連帯感を醸成していきたいと考えている。
211	全	・自主的、自律的に行動できる生徒の育成。・明るく活力のある生徒の育成。・社会から求められる生徒の育成。
212	全	特別支援教育の具体的計画づくり。
213	全	・HR単位の授業が少なくなり、クラス経営に多大な労力をかける必要が生じている。・講師が担当する授業で、生徒の掌握が難しい事態が生じることもある。
214	全	生徒の自主性・自立性の一層の育成が重要。
215	全	・教育相談的観点に立った生徒指導のあり方のための研修の充実 ・非行事故の未然防止のため、心にひびく指導の工夫・改善 ・自主的に生徒会運営ができるよう、リーダーの育成と指導する教師の力量をつける。
216	全	生徒指導が成果に直結しない原因もある。・教師間の事前指導に、レベル差がある。・生徒のための指導ではなく、規則遵守のための指導になっている。・問題行動の対応だけになっている場合がある。
217	全	反面、そこまで到達していない生徒達の意識改革をどうするか。
218	全	授業毎に教室を移動するケースが多く、物品の盗難があった場合には対処の仕方が難しい。
220	全	高校生として、集団生活を送る上での基本的なルールやマナーなど頭の中では理解しているものの、実行できていない生徒、違反を起こしてしまう生徒がいる。
221	全	引き続き、きめ細い生徒指導を実施すること。
223	定	特別にはなく、今の生徒指導体制を維持していく方針である。
228	全	自分が学びたい科目を自分で選択するため、HR単位での授業が少ないのでHRでの「まとまり」が希薄になりがちである。また、担任が自分のクラスの生徒と授業では全く関わらないこともあるので、種々のガイダンスや週一回のホームルームで生徒との関係を築く必要がある。
229	全	教室移動に時間がかかる。
230	全	クラス単位での活動(授業)が少なくなり、生徒の交遊関係等の把握がむずかしくなった。

231	定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学指導が最大の課題 (保護者との連携を重視しているが、不在、忙しい等、困難になっている)</li> <li>・保護者の経済的な理由で就学出来なくなる等、経済が生徒にも大きな影響を与える。</li> <li>・子どもに手をかけられない家庭の増加</li> </ul>
233	全	現在は1年次に系列に対する所属意識に欠け、それが結果的に学習、生徒指導面において多くの問題があるが、来年度より1年次から系列別に受験をさせる様に計画しており、良い結果が出るのでは？と思う。
235	全	積極的に参加する生徒も増えたが、担任とのかかわりの少ない生徒、意識の低い生徒も多い。移動教室も多く、非常勤講師の授業においての指導に問題を抱えている。
236	全	選択分野(系列)の人数調整をしていないので人数が不均等で、多人数の分野(系列)もあり、指導が行き届かない面もある。
238	全	総合学科新設に伴い、男女共学化(それまでは男子校)に踏み切ったので女子の生徒指導に職員全体として、頭を悩ませている。
239	全	校則や社会のルールについての、規範意識の希薄なものが最近多くなりつつある。打開策を研究中です。
240	全	移動教室等が多いため、盗難などの面で苦労している。
241	全	旧学科制では、生徒指導にも各学科の教員が関わって、担任と協力して指導していたが、総合学科では、その役割を学年部が担っている。学年では授業を担当していない場合もあり、ややうまくいっていないところがある。

## 5. 進路指導について

(番号:資料整理の為の学校番号 全:全日制 定:定時制)

番号	全・定	問12(3)e 進路指導についての成果をご記入ください。
1	全	多様な進路に対応するため、産社の授業で上級学校訪問職業講話、企業見学等を行っている。また就業体験を実施し、キャリア教育の充実を図っている。就職面では、これまでに就職支援相談員や支援教諭の配置がされている。その結果、過去5年間で進路未決定者が減少しており大学・短大進学者数も増加している。
3	全	・職場体験の課題研究等、社会との関わりの中から自己の進路を考える機会を多く設定してあるため、目標や意欲をもつことができ、進学実績の向上、離職率の低下等の実績を上げることができた。
4	全	・産社、総学の時間を活用し、面接・作文指導を年次所属職員で取り組めるようになった。・進路ガイダンスに時間をかけることができるようになった。・インターネット等の活用を生徒が自らできるようになり、情報収集ができるようになった。
5	全	1年次「産社」2年次「キャリア」3年次「課題研究」と系統的に進路学習を行っているので早期に進路目標を持つ生徒も増えた。
7	全	進路決定先の満足度では、満足と答えた生徒が90%になった。進学先については、学びたい学部学科に全員進学させることができた。就職では女子の事務職がとて増加した。
9	全	総合学科企画推進部との協同による早いうちからの進路学習ができていて、就職者の卒業後3年以内の早期離職が少ない。
10	全	ほとんどの生徒が自分の進路選択に積極的である。また進路先からも、新しい環境の中で意欲的に仕事や学業に携わっているとの評価をいただいている。「科目選択」の経験によって「選択決定能力」「自己責任能力」「将来設計能力」が育成されたことと、科目「産業社会と人間」をベースにしたキャリア教育が順調に行われていることが理由だと考える。
11	全	受験科目に応じた科目の選択や資格取得の奨励などにより、早い時期から将来の進路について考えるようになった。
12	全	部活動と学習の両立が出来る生徒も増加した。
13	全	キャリア教育実施の過程で、多くの生徒が進路や職業について真剣に考えることができ、進路未決定のまま卒業をしたり、安易にフリーターになるような生徒は激減した。
15	全	1年次からのキャリア教育により、早期に進路目標を設定できる生徒が増え、2・3年次進路に応じた科目選択を行い、進路実現を果たすことができた。
16	全	学年での系統つけた進路指導を行い、早い時期より進路意識を高めさせ、進路検討会等を実施している。また系列担当職員と連携し、どの系列からも進学、就職両方に対応した進路指導を行っている。
17	全	主体的な進路選択ができるように、進路ガイダンスをはじめ、1年次の「産業社会と人間」2年次の「総合的な学習」とタイアップしながら、進路指導を行うことができた。4大(国立)の進学者が増加した。
19	全	・1期生・2期生ともに学校紹介を希望する生徒の100%が就職を果たした。 ・地元の自動車関連企業に多くの生徒が就職した。 ・推薦入試において、福祉・農業・ビジネスの系列を活かし1・2期生で合計6名の生徒が国公立大学に合格した。
20	全	進路への興味関心を持たせることを目的とした「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を学習することによって、1年次より具体的な職業へのイメージを高めることができた。教科科目の選択が可能であることは、より教科科目への関心を高めることができた。
21	全	一人一人の進路に合わせた科目選択ができる。
22	全	・コース制、習熟度別、進路別クラス編成のため、進路指導が行いやすい。
23	全	社会の経済状況の向上に対応して、就職状況はかなり向上しており、50～60名の生徒は卒業年度内には全員就職を決定している。しかしながら、大学進学に関しては、まだ成果が発揮できてなく、特に国公立大への合格者が10名を越えてない。
24	全	進路希望に応じて、生徒を「大学」「短大」「看護系」「公務員」「専門学校」「就職」の6分野にグループ分けし、クラス編成・課外・ガイダンス・模試等を実施することで継続的に集中した指導が可能になり、高い進路決定率を保っている。
25	全	将来への方向性を明確に持った生徒にとっては、進路に直結した科目選択になる。
26	全	1年次で工夫すれば、進路決定に有効な「総合的な学習の時間」がつけれる。
27	全	意欲的な生徒による難関校合格者が増加した。多様な生徒が多様な進路先へ進むようになったため、未定者が少なくなった。
29	全	・「産社」、「総合学習Ⅰ」により、キャリア教育が充実した。・進路選択の幅が広がったため、希望通りの進路に進むことのできる生徒が大幅に増加した。・充実感を持って卒業するようになった。・生徒一人一人の進路指導に、多くの教師が関わるようになり、学校全体で生徒を育てる雰囲気が出てきた。
30	全	・平常補習、長期休業中の補習、土曜ゼミ・学習会の実施により、進学に対する意欲が高まった。難関校への合格者も出るようになった。・皆勤生徒が多く、ニート・フリーター志向の生徒はいない。学校紹介の就職率は100%である。・総合学科枠を利用した進学が定着してきた。
31	全	生徒の多様な進路希望に対して、6つの系列、多くの科目の中から生徒は最も適しているものを選択し、また、担任も進路実現に向けて選択科目等の指導をすることができる。専門科目を学習することによって、資格取得など生徒に目標を持たせることができる。
32	全	進学率が大きく伸びた。現在は進学が2/3から3/4、就職が1/3から1/4で、ちょうど進学と就職の数字が逆転したことになる。国公立大や有名私大の合格者も出るようになり、学習に取り組む雰囲気が定着して、周囲からの学校の評価も大きく変わりつつある。また、新しい実験的な取り組みも実践しやすい雰囲気が校内にある。
33	全	・「総合的な学習の時間」による進路に関する研究の成果や発表能力によって、特に推薦入試やAO入試で実績を上げている。
34	全	・進路決定率は、毎年ほぼ100%となっており、進学では国公立大学や理系大学への進学者が増え始めた。・フリーターを希望する生徒はほとんどおらず、前向きに自分の進路を考える生徒が多くなった。・介護福祉士など取得資格を生かし、就職する生徒も毎年出るようになった。
35	全	入学後、「産業社会と人間」等の学習活動を通じ、主体的に進路実現に取り組んでいる。また、時間割の組み合わせにより、進学、就職のいずれにも対応可能となっている。
37	全	自分の進路について、早くから調査等を行うことにより、進路に対する意識が高まった。また、論文を書いたり発表をする機会が多いため、面接等で自分の意見を述べる力が身についている生徒が多い。
38	全	・入学時に将来の進路目標を持っていない生徒も多く、「産業社会と人間」は進路目標を定める上で大きな成果を上げている。・多くの科目を選択履修できるようになり、多様な進路に応じた対応が可能となった。
39	全	ほとんどの生徒が進路に満足して卒業する。
40	全	1年次の「産社」の中で自分を知り、職業や上級学校について学び地域とのふれあいをすることにより自分のキャリアについて深く考えることができる。また、数多くの科目の中から学びたい科目を自分で選択することができたり講演会なども多くその記録をとったりすることにより自分でも考える力、コミュニケーション力、文章力もつくことが入試にも役立つ。



41	全	・夏季休業中に3～5日実施する就業体験(2年次生)は、就労意欲を高める上でよかった。・先輩の講演や大学・短大・専門学校から来ていただいた説明会は生徒の進路を考えさせる上でよい企画であった。
42	全	・「産業社会と人間」を活用することによって、キャリア教育を組み易い。・実技が必要な生徒だけが実技科目を選択し、大学受験等での必要科目が必要な生徒が受験科目を選択するので、授業の目標が絞りがいい。・生徒個々の進路希望に応じての指導体制が整いつつある。
44	全	進路指導部だけでなく関係各部との連携を強化し、3年間を見通した内容で取り組むことができるようになった。就職支援教員の配置により勤労観、職業観を育成するための取り組みを強化することができている。
45	全	・工業系の生徒就職は良い・職業観、勤労観は普通科学校の生徒よりは進んでいる。
47	全	進路研究が進み、意識が高くなった。結果として、大学進学者の数が増加した。
48	全	原則履修科目の指導を通して自己の在り方生き方を考えさせる営みが高い志を持たせることにつながっている。
49	全	多様な進路希望に対応できるカリキュラムになっている。
50	全	基礎学力が向上する傾向が近年、あらわれてきており、進路状況も改善のきざしが見えてきた。
51	全	クラブの活性化とともに、強力な学力向上対策を行ってきた結果、昨年度、地元国立大学の合格者を含み、41名(現・浪)の国公立大学の合格者を輩出し、さらに、関西難関私大にも合格した。
52	全	職業選択を考えた進路志望意識が高くなった。
53	全	進路希望に沿った科目選択ができ、目指す進路を実現した生徒もいる。
54	全	興味・関心・適性・能力等により自己の進路目標を早くから定める上で「産業社会と人間」は有効に機能している。
55	全	1期、2期しか卒業生を出していないので、まだ評価に致らない。
56	定	生徒の能力、家庭環境、卒業後の希望等を総合的に見ながら、毎年適切な進路指導ができている。3年次が一番落ちているというのは、学校における理想の形である。
57	定	生徒の多様な進路ニーズに対する、本校独自のシステムができてきた。一貫したキャリア教育を実践するシステムができつつある。
58	全	・原則履修科目「産業社会と人間」に取り組むことで、生徒一人一人の夢を実現するため、進路指導への実践は行えるようになった。・職場体験等により、生徒の職業に対する理解度はあがった。
59	全	「産業社会と人間」に組みこまれる行事や、研修旅行、課題研究を通して、進路への意識付けを早い段階から行える。調べ学習などから幅広い視野に立って進路選択ができる。
60	全	「産業社会と人間」などキャリアガイダンスに関する授業のためか、1年次の時から進路に対しての意識が比較的高い。
61	全	大学の専門高校推薦枠に総合学科を入れているところがあり、進学に有利な時がある。
62	全	1年次の産業社会と人間、2年次のインターンシップ、3年次の課題研究と3年間を通して体系づけて指導することにより、生徒の進路意識が高まっている。
63	定	自己探究や働く人との出会いなど「産業社会と人間」の学習によって、進路指導を効果的に進める素地が形成される。
64	全	・「産社」「総学」などの中で、農業体験をしたり、職場実習に行ったりして、将来、就きたい職業を体験することによって、具体的に仕事について考えることが出来た。・アグリライフ系列、情報・ビジネス系列などの系列に分かれており、将来自分が就きたい仕事に関する科目を選択することが出来て、各種の資格取得が可能。
65	全	進路実現のため、基礎的素養の充実や各種資格検定取得を奨励している。また補習や模試、小論文面接指導を行った。平成18年度末には93%の進路先が決定し、生徒・保護者へのアンケートでも概ね満足であった。
66	全	・進路ガイダンス・進路講演会などを通じて、保護者への十分な情報提供ができた。・面接指導などの進路に関する指導を、全職員で行うような態勢作りができた。
67	全	多種多様なガイダンスをおこなうことによって、生徒の進路決定に、細かく対応することができるようになった。
68	全	・4月当初、生徒・保護者対象の進路ガイダンスを実施。企業・大学・短大・専門学校などから講師を招き講演会を行う。また、本校のOBも来校し、現在就いている職業や在籍する学校について後輩達へ伝える。この取り組みを通して進路意識の高揚が見られる。・十数回に亘る面接指導により、各自の能力を養う。・就職内定者を対象に12月から「スキルアップ講座」を開設し、4月からの現場でスムーズに働ける力を養う。・ジョブサポートティーチャー(就職支援教員)による業務の活性化。
69	全	1年次の「産社」2・3年次の「総合」により、キャリア教育として系列的に学習できるようになっている。
70	全	総合学科指定校があり進学の生徒たちはよく活用している。1年次から進路指導に産業社会と人間でガイダンスをしているので各年次での意識は高くなってきている。
71	全	・選択の自由度が高まり、進学・就職ともに目標に向けた学習や、資格検定等への挑戦がしやすくなり、指導がしやすくなった。
72	全	キャリア教育を柱とした「産業社会と人間」の取り組みによって、進路目標が明確化している。1年次の自主就業体験、2年次のインターンシップの実施で「なりたい自分」になるための進路実現に向けての意欲・関心が高まっている。
73	全	1年の早い時期から進路を意識させているので、進路実現に向けての学習に早く取り組めだした。
74	全	・「総合的な学習の時間」(課題研究)の学習成果を生かしたAO、推薦入試で多様な進路先が決定している。・商業系の各種資格取得を活用した進路実現がみられる。
75	全	総合学科になって産業社会と人間などで将来を考える機会が増えたことはプラスに作用しているようだ。
76	全	・産社その他総合学科あるいは本校特有の教科や活動などを通して普通科生徒よりもはるかに高い進路意識を持つようになった。進学実績が急成長しただけでなく、ほとんどの者が進学後もきわめて前向きな学生生活を送っている。
77	全	「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を通して「自分探し」を行い、生徒の興味関心のある進路選択の実現が出来ている。
80	全	・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「卒業研究」と、3年間通したキャリア教育を行うことで、自分のやりたいことを追求するために進路選択する生徒が増えた。・総合学科で学んだことを進学後も継続して研究する生徒も多い。
81	全	取得資格や特徴ある学習の専門性を生かしてAO入試や推薦入試で大学合格を手にする者が増えた。
82	全	ガイダンス課・教務課と連携し、生徒の進路実現に貢献している。
83	全	1期生は、国公立大学に3名が進学するなど大きな成果を上げることが出来た。
84	全	進学を希望する生徒が増加し、大学・短大にかつてなかった人数の生徒が合格した。専門学校も看護学校をはじめ実学的な進路をめざす者が多い。
85	全	上級学校に進学してさらに専門性の高い学習を希望する生徒が増えてきている。
86	全	・科目を選ぶために、早い時期から進路について考えるようになった。・産社を通じて、教員にも生徒にも、キャリア教育がスムーズに導入できた。
87	全	1年次の「産業社会と人間」、2・3年次の「総合的な学習の時間」の中で、系統的なキャリア教育を行うことができる。早くから自分の将来について考え機会が多く、高い目的意識を持って進学・就職していく生徒が多い。自分の進路希望に応じた科目選択ができるので、進学(特に看護系・美術系)に必要な科目をたくさん選択し効率よく学習ができる。また生徒一人当たりの教員数が多いので、チューター制度などきめ細かい進路指導を行うことができる。そういう指導を通じて身に着けた学力やプレゼンテーション能力を生かし、AO入試に合格する生徒も多く、進学後もリーダーシップを発揮するなど、大学からの評価も高い。
88	全	3年担任団と進路指導とが協力しての進路指導。

89	全	生徒一人一人の状況に合わせた進路実現を恒常的にめざしている。その成果は毎年の進路実績に反映している。
91	全	・進路先において、モチベーションが高く、リーダー的存在であると評価されている。様々な学習機会を捉え、積極的に参加する者が多く、生涯教育に対する態度育成がはかられている。
92	全	大学進学の数が増加し、自身の進路目標に向かって努力しようという雰囲気が高まっている。産業社会と人間をはじめとするキャリア教育が、進路への意欲を高めている。
93	全	きめ細かな個別指導。希望進路の実現。
94	全	早い時期より系統的な進路学習を行い、将来の進路を見据えて各系列の専門科目を選択することによって、将来の目標を見つめつつ学習を進めていくようになった。また、各系列の専門科目を学習して、具体的に専門分野の進路を選択する生徒が多くなってきた。
95	全	一部の系列の生徒が三年間の高校生活で取得した検定等を生かした進学をするようになった。
97	全	・数多く行う進路ガイダンスや面接指導、職場見学により、生徒の就職に対する意識や意欲が高まった。・進学希望者に対しては個別相談の他に資料提供やインターネットを利用する場を提供して、生徒自らが進路を決める手助けをする。
98	全	・系列の特色を活かした進路選択ができる。
99	全	・各種検定試験や資格取得にむけて意欲のある生徒がでてきた。
100	全	・様々な希望にきめ細やかに対応。・大学入学100名、就職100名を同時に実現。・希望者の就職実現100%。
101	全	・自らの進路希望について、早期に決定し、それに向けて自分を高めていく生徒が多くなってきた。また様々な分野の体験を経て、それぞれを比較検討した上で、自らの進路希望を確定していく生徒も出てきた。・AO入試、推せん入試に対応する学力が付き、それらの入試形態を通じて、希望実現を果たす生徒が増えた。・就職希望者で、フリーター等を希望する者は、ほとんどいない状況である。
102	全	自分の進路選択に向けた科目選択など、早い時期から就職を見ずして、進路を考えることができていく。
103	定	本校は「昼間・定時制」という仕組みもあって、大変入試の倍率が高く、地域からも評価されている。又、不登校傾向の子どもとの比率が大変高いが、入学後は、大部分の生徒が、登校が回復し、保護者から評価されている。
106	全	生徒の進路に応じて、進学指導をするには普通科の常勤が不足し、一部の先生に負担が大きくなっている。
107	全	それぞれの進路実現が可能となり、進学においてはコンスタントに国公立大学への合格者が出ており、地域の中学校等からの信頼も出てきた。また就職においても充実してきており、進学も就職もできる学校として地域からの信頼も出てきた。また校内では、進学・就職への意識が十分に醸成されつつある。
108	全	希望する進路に応じた科目選択ができ、さまざまな指導も充実しているため、自分のそれぞれの進路を高いレベルで実現できる生徒が増えた。国公立大学への進学者もおり、就職希望者一次内定率は100%である。専門学校希望者も高進路の多様な傾向が続く中で、一・二年次より進路意識の向上を図るための手立てを数多く講じ、適正な職業観の育成の上に進路目標を早期に決定させ就職や進学指導を年々充実させている。
109	全	総合学科となり産業社会と人間の授業やいろいろな体験学習を通じて、自分の進路をしっかりと考える生徒が増えた。三期生の卒業時アンケートでは、進路先が第一希望だった生徒が73.2%、本校についての満足度は満足、大変満足をあわせて、80.4%であった。
111	全	自由放任的なものから徹底的な指導へ。
112	全	生徒の希望進路に関係する外部講師の進路講話や、マナー講座などでは生徒の反応も良く、進路意識を高めることができていく。また、複数の教員で連携しながら個人懇談を実施しており、HR担任だけでは把握できない進路情報を生徒に与えることに成功している。
113	全	キャリア教育に基づいた生徒一人一人の進路実現を目指し、「かなよう、夢を」をスローガンに取り組んでいる。一年次における「産業社会と人間」においては、社会人講話、企業・大学見学、地場産業体験学習、進路ガイダンス、インターンシップなどキャリア教育の充実を計っている。幅広い視野で将来の職業選択や学校・企業選びにつながる指導を心掛けている。その結果、国公立大学を含めた四大希望者の合格数も増え、大手企業から地元企業まで多くの求人を見ただけ、就職率も100%となった。
114	全	入学時から「産業社会と人間」の指導とも連携し、体験学習、科目選択へと進路目標設定と達成のための取り組みが、分掌、学年、教科による組織的な進路指導を3年次まで継続する。「総合的な学習の時間」における表現指導、課題解決学習の成果を進路目標達成のために生かすなど総合的な進路指導が可能である。
115	全	・進路先(卒業時)未定者がほとんどいない。・国公立大学進学者が毎年5名程度出ている。
116	全	「産業社会と人間」を通して、自己の将来について考え、その後、進路ガイダンス、総合的な学習の時間等でさらに進路学習を深めることにより、自主的、意欲的に自己の進路を選択し、その実現に向けて努力できるようになった。
117	全	第1希望の進路達成率が高まった。向上心の向上により進学率(4年制大学)が高まった。
118	全	全職員に、担当の生徒を割り振り、小論文や面接、AOなどの指導をすることで、生徒は、力と自信をつけて、試験に臨み、多くの生徒が進路実現を果たすことができた。
120	全	・課外・VOD講座の原則受講により、進学意識の向上と学習意欲の高まりが見られた。・四年制大学、特に国公立大学合格者の増加した。・専門学校の教育内容、就職実績などを調査させ、学校選びに慎重を期すよう指導した。・看護医療系などの実学志向の専門学校進学者が増加した。・課外・就職相談の取り組みにより、フリーターが著しく減少し、進路未定者の減少につながった。
121	全	系列と結びついた進路指導が充実してきている。
122	定	過去4年連続、国立大学進学者を1名以上出している。
123	全	90%以上の生徒が第1志望での進路実現を成り遂げた。(1期生のみ)
124	全	介護福祉系列の多くの生徒が福祉関係の仕事に就いたり、情報系列の生徒は情報関係の専門学校に進学している。
125	全	生徒それぞれの進路希望(進学・就職)に応じて科目を選択し、学習することが可能となった為、特に就職希望の生徒は資格取得の際、有利となっている。
126	全	「産業社会と人間」の時間を活用して長期職業体験にて、職業観の早期育成に成果を上げている。
127	全	・興味・関心によって幅広い授業選択が可能となり、生徒の進路選択に大いに役立っている。・産業社会と人間の授業や、LHR、総合的な学習の時間の指導を通して、進学や就職に対するモチベーションが向上。
128	全	1年次では「産業社会と人間」の中で、上級学校見学会や企業見学等を、2年次ではインターンシップ等を実施し、将来の進路を考える機会としている。3年次には最終的ほとんどの生徒が自分の進路を決定している。
129	全	AO入試、推薦入試などの利用により、大学進学者、特に国公立大学への進学者が増加した。企業からの求人票の増加により就職先が多様化した。
130	全	多様な目的を持った生徒と全く将来に対して展望がない者が入ってくる中で「産業社会と人間」を始め、各教科での様々な取り組みによって卒業時には、ある程度満足できる目標を達成できている。
131	全	・多様な進路希望の実現に向けて、社会人講話や企業施設訪問、県外研修やインターンシップなど、系統的な進路実現プログラムが確立されつつある。・進路に応じた時間割(カリキュラム)により、就職から国公立大学への進学まで、幅広い進路に対応できている。
132	全	キャリア教育などを通して、学校や社会について知ったうえで、生徒一人一人の適性や希望に応じて、進路を決めることができる。途中での進路変更が可能である。



133	全	国立大学合格者が出たことから、全体として、大学進学希望者が増えている。教員側も補習等を行うなど、生徒に対する指導体制も整備されてきている。
135	全	進路未定で卒業する生徒は少ない。
136	全	年間進路指導計画に従い、各学年との連携を蜜にすることにより、進路未定の生徒が減少した。・就業体験や各種適性検査等の実施、また進路の手引きや進路だよりにより情報提供を積極的に行い、進路に対する意識が高まった。
138	全	就職希望者が多く、達成率を100%に常におくという気概がある。
139	全	キャリア教育の充実により生徒の希望達成がほぼ100%実現できるようになった。
140	全	進路希望の達成率が90%以上で未定者がほとんどいない。
142	全	・自分の興味・関心と進路について早目に考え始める生徒は多いようで興味・関心と関連した科目を2・3年次で学習したり、その方面の進路へ進む生徒が多いように感じる。
143	全	個に応じた粘り強い進路指導により、未定者の急減、AO入試でのめざましい成果をあげた。生徒集団をデータでなく個の集合体と捉えるのに優れた教員が多い。
144	全	・キャリア教育の普及、啓発、推進を図ることにより、職業理解能力、情報収集活用能力等の伸長が見られる。また、インターンシップ等進路に関わる試行的体験への積極的参加が見られる。
145	全	「産業社会と人間」をはじめとするキャリアガイダンスや日常のキャリアカウンセリングが巧を奏し、19年3月卒業の総合学科1期生については進路未定者は4人と激減し、その内容もめざす職に就くための準備で実質進路未定者はゼロになっている。本校のめざす姿の1つである「個性に適した進路選択の実現」が達成されたものと考えられる。
146	全	入学時より、「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」での系統的な進路学習を積み重ねたことにより、担任や進路指導部が進路指導をするという従来の体制を脱し、年次全体の生徒の進路指導を年次スタッフ全員が行うという本校独自のやり方が定着した。
147	定	卒業後、新たに企業に就職する生徒や専門学校短大に進学する生徒が総合学科になってから増加した。従来はアルバイトを継続する生徒が多かった。
149	全	総合学科のため進路希望は多様であるが、80%以上の生徒が希望先の進路に進んでいる。進路先未定者(浪人も含め)も15名と、卒業生のうち7%程度と、低く、ニートやフリーター予備軍がほとんどいなかった。
150	定	進路(指定校推薦、就職)枠の拡大と進路指導による進学実績の増加。
154	全	生徒の進路希望に応じた科目選択が普通科高校や専門学科高校に比べて可能になるので、生徒の進路実現をサポートしやすい。また、生徒も進路実現に必要な科目選択をするため、1期生の進路結果を見ると、進路未定者が少ない。
155	全	生徒の進路選択を実現するため、キャリアカウンセラーを中心にして「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を活用して、生徒が主体的に進路選択できる力をつけていくよう指導している。その結果、国公立大学、私立大学、短大専門学校、就職など、幅広い進路をそれぞれが実現している。
156	定	進路体験学習において、一年次は産業見学、二年次は、上級学校訪問を行い、夏季休業中には希望生徒に、インターンシップを行った。
157	定	卒業生座談会や進路講話、キャリアガイダンス等の進路指導を重点的に実施している。
158	全	生徒個々の進路希望の実現に向けてきめ細やかな進路指導が行われている。
159	全	1年次の科目「産業社会と人間」での多くの体験的な学習をとおして、自らを見つめ「理解することや、学習したい教科・系列を選択するなど、将来のあるべき姿を模索しながらライフプランを作成することは、2年後の進路決定に大変役立っている。総合学科高校における進路指導重視の観点から職員の意識改革を進め、夏季休業中の各種進路講座やLHRにおける適性検査の実施、地元ハローワークとの連携による社会人講座・就職ガイダンスなど、多くの進路指導に関する学びを提供できる環境が整いつつある。
160	全	・「産業社会と人間」や「総合的な時間」等を活用して指導ができる。
161	全	「産業社会と人間」により、キャリア教育の視点に立った進路指導ができていたので、将来への目的意識を高められる。・卒業時、進路未定者数が減少した。
162	全	進学面では国公立、6大学クラスにいくむ実力を上位生徒がつけてきている。就職面では、地元金融機関をはじめ、各業界トップ企業からの求人を開拓してきている。
163	全	「産業社会と人間」「総合学習」等により、自分の適性や将来の進路を考える機会が多くあり、自分に必要な科目の選択などを通して、職業観が育成され、進路未定者の減少に役立っている。
164	全	生徒の進路希望に合わせた個々の進路指導がよく行われてきている。
165	全	ほぼ全員が進学を希望する中、それに応えられる体制を目指している。
166	全	自己の進路実現に向け、科目選択と合わせて、しっかりと考える生徒が多い。
167	全	キャリア教育の一環として、社会人講師・卒業生講話、進路体験発表、進路ガイダンス、職場見学等実施しており、これらが生徒一人ひとりの進路選択やキャリア育成につながっている。
168	全	「産社」の授業をとおして、将来の職業や生き方を学習することにより、高校3年間を充実させることができるようになってきた。
169	全	1年次における「産業社会と人間」で進路意識の涵養が図られ学習意欲が向上している。また、2年次からの進路実現に必要な科目の選択で学力が伸長し普通科時代に低下しつつあった国公立大の合格者が増加している。
170	全	・AO、推薦入学を希望する生徒への指導が充実した。
171	全	・普通科、定政科、商業科から総合学科に転換したことで、進学意識が高まり、進学者が増えた。国公立大への進学者も20名程度を維持している。科目選択の中で自己の進路を考えることが、意識を高めているものと思われる。
172	全	パノラマ状の進路を希望するのが総合学科であって、HRT+進路指導部だけではとても手が回らない。学校を挙げて組織的な取り組みがようやく機能し始めた。
173	全	福祉関係の企業への就職が大きく伸びた。(福祉関係選択生徒の影響あり)
174	全	・一般入試による大学進学者の人数が増えた。目的・目標を持った少人数クラスによる授業が生徒の学力を高める一因と思われる。
175	全	・大学進学者が増加し、国公立大学の合格者が増えてきた。・就職の内定率が向上している。
176	全	進路状況は、就職が約50%、進学50%程度である。総合的な学習の時間は2年次1単位、3年次2単位である。ここで進路指導を中心に行い、生徒の進路実現を支援している。
177	全	男女共学となり就職先の業種が増えた。「産社」の授業を通して進路意識は高まった。福祉の授業で介護福祉士の受験資格が取れるため、出口が確保されるので良かった。取得資格が就職に有利に働いた。
178	全	・「産業社会と人間」を通してキャリア教育が図られ、進路意識が高まる。・少人数授業により個に応じた指導がよりできるようになった。・私大を目指す場合、受験に必要な科目を選択できる。
179	全	総合学科になってから、生徒が自らの責任で科目選択を行い、また自己表現する機会も増え、コミュニケーション能力を身につけた生徒が増えた。就職・進学等でもそうした力を発揮して合格している者が多い。
180	全	・きめ細やかな指導を行うことで進路未決定者が少なくなった。・就職希望者の決定率が向上した。
181	全	・職業観の育成を主な目的とした科目により、能力・適性など自己理解を深めることができた。・様々な資格取得につながる科目設定のおかげで、就職・進学希望者ともにセールスポイントを得るうえで有利に働いた。

182	全	進路実現の為に、面接指導の充実をはかり、就職者・AO入試 推薦受験者等を別に機会をもうけることにより、進路別に指導し、成果が上がった。また就職者に対しては、外部による面接指導も行った。
184	全	生徒それぞれの進路希望を考慮したきめ細かい科目選択ができ、高校での学習を生かした就職・進学ができています。
185	全	・就職希望者の全員内定。・国公立大学への進学者の増加。
186	全	生徒の多様な進路希望に応えられる体制が整った。
187	全	生徒の進路希望に応えられる教育課程や進路指導の体制づくりができています。系列教科担当者と担任との連携が構築されている。授業などを通して、生徒に多くの教員が関わりを持って指導している。
188	全	大学進学等の増加や医療・看護及び福祉系の希望者増など、目的をもって、高校生活を過ごすようになった。総合学科のねらいである多様な進路を実現している。
189	全	「産業社会と人間」の中での社会人講師による講話や職場見学、職場体験、キャンパス見学等によって、他校よりも進路学習に使う時間が多くなり、生徒が進路について考える機会が多くなっている。
190	全	四年制大学への進学希望に応えるため、平成16年度から、文理系列で週2日7校時授業を実施し、17年度、18年度ともに、国公立合格が5名に達している。
191	全	キャリア学習・キャリアプランの学習を通して、大学進学者数(割合)が年々増加している。
192	全	自分の進路希望に合った科目を選択し、各系列ごとに課外講習等も積極的に行い、成果も表われている。1年次から進路を考えさせることにより、開校当初に見られた「未定」のまま卒業していく生徒がほとんどいなくなった。
193	全	昨年、3年次生は就職、進学ともに年度内にほぼ全員の進路が決定した。本校では3年間を通して体系的に進路学習を進めているが、毎年、少しずつ改善されている。
194	全	進路保証100%を目標に各種取り組みを行っている。
195	全	・四年制大学から就職まで、多様な進路に進んでおり、未決定のまま卒業する生徒はほとんどない。・産社・総合学習等により、1・2年次の進路意識は他学科より高い。
196	全	地元を中心に、就職達成状況はほぼ100%である。大学、短大への進学希望者は、推薦入試、AO入試合格者がほとんどである。
197	全	進学実績を順調に伸ばしている。
198	全	個別指導を多く取り入れることにより、生徒の幅広い進路に合わせた、きめ細やかな指導を実現している。
200	全	新設校においても、母体であった旧3校の体制を活用して停滞なく進路指導を実施できた。
201	全	「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」において、ハローワーク等と連携し、社会人講話などを実施して、望ましい職業観を育成している。
202	全	・生徒の進路希望をほぼ達成できた(98%)。・大学進学者数が最多(39名)であった。・公務員関係も、3名合格した。
203	全	4年制大学を志望する生徒が増え、希望進路を達成している割合も上がってきている。就職に関しても公務員や金融など難関を突破する生徒が増加している。
204	全	進学率が20%台で推移していたが、3年目で43%に伸びた。特に専門学校から大学・短大へのシフトが目立つ。
205	全	系列毎に生徒の興味・関心を探索する授業が展開されており、進路目標の早期設定、実現に大きく貢献している。総合学科で培われた教養豊かで、専門性に長けた人材が育成されていると感じる。そういった面は、AO入試や推薦入試で大いに発揮され、近年、その合格率が高まりつつある。
206	全	・進路に合わせた科目選択、個人別指導による国公立大学への合格、就職希望者の100%合格達成。・系列毎の資格試験合格者の増加。
207	全	系列の特色を生かした就職や進学がみられる。例えば、福祉系列の生徒が福祉施設へ就職したり、保育科目の選択者が保育学科の課程に入学するなど具体的進路に結びついている。
208	全	・これまで対応しきれなかった成績上位層の生徒の学力向上により4年制大学進学率が上昇(H16卒15%、H17卒20%、H18卒25%)。・進路希望の早期具体化がしやすい。
209	全	自己理解を深め、将来の生き方を考え、進路の目標と高校生活の設計を図る指導をしている。「産業社会と人間」、「総合的な学習」を通して、生徒の進路決定が従来よりも早く、明確になっている。
210	全	職場見学やインターンシップ、あるいは「産業社会と人間」の授業全体を通して早期に進路意識や職業観の育成がみられる。
211	全	・キャリア教育の充実により、進路目標を早期に決定できるようになった。・多様な資格・検定取得の機会が広がり、合格者も増加した。
212	全	・2年次における5日間のインターンシップを全員必修とし、職業観の育成に成果があった。・3年間を通したキャリア教育の充実による、個に応じた進路指導の展開
213	全	資格取得者が多くなり、就職試験に生かせることが多くなった。
214	全	就職希望者は、希望職種について比較的早期に目標設定する。
215	全	「産業社会と人間」の授業を通して、進路の意識付けがはかられている。「総合学習」で上級学校見学、インターンシップなどの体験活動を通して、勤労観、職業観が育成されている。・協働意識に基づき、個に応じたきめ細かな進路指導のシステム化がはかられた。
216	全	進路3ヶ年計画の早期立案(業者による進路ガイダンス・履歴書の記入指導・集団面接指導)と実施により、生徒個々の進路意識への関心と高揚が見られ進路指導に関して生徒自らが行動するようになった。
217	全	自分で選択した専門等を生かした進路決定が幅広く可能。
218	全	生徒の進路選択には総合学科は有効である。16～18年度は進路決定100%である。
219	全	・就職にも進学にも対応できる。
220	全	各コースに合わせた進路目標を実現すべく、進路指導部の活動をこれまでの3学年を中心とするものから、全校的、組織的なものにした。各学年の成長度に合わせたガイダンス、全学年の7時間目講習、長期休業中の講習、特選・特進コースの進学合宿等を取組んできた。生徒、父母の進学への強い要望に沿って一定の成果をあげた。
221	全	キャリア教育を通して生徒自身が将来の夢をしっかりと見極められる指導を行った。職適や企業見学、総合学習での基礎学力定着の取り組みを行った。
223	定	県内でもトップクラスの進路指導を誇り、県内外の中学校からは、めんどろ見のような学校で通っている。また卒業生に対する就職指導も行っており、今年3月にも県外の大学を卒業した卒業生の県内就職を実現させている。
224	全	系列を生かした進路を選択するようになった。
225	全	生徒は学習内容に意欲を持って取り組んでいる。
226	全	系列(専門)の授業・資格を生かした進路(進学も就職も)選択が出来ている。
227	全	科目選択を通して将来の進路への展望が早期にできた。総合選択科目の学習が上級学校進学の意欲へつながった。
228	全	個々の進路希望に応じた教科・科目の選択が可能であることから、希望学部等を目指したカリキュラムで学力を伸ばすことができる。大企業への就職者が増加した。
229	全	より具体的な進路選択ができる生徒が増えた。
230	全	進学・就職模試の回数を増やしたりしたこと進路に対して意欲的に取り組む姿勢が見られるようになった。

231	定	・1年次から「産社」の学習を通して、進路についての関心を持つようになった。 ・早い時期からアルバイト、体験授業(日)参加する生徒が多くなった。 ・専門学校への進学を希望する生徒が多くなった。
233	全	昨年より進学・就職共に好転し、特に北九州はトヨタ、日産自動車など自動車産業が進出し、工業系においては進路指導もしやすく生徒も意欲を持って進路について日頃より考え学習面に取り組む様になった。
235	全	いままで本校には少なかった分野へ進路選択が多くなった。いろいろな分野に希望を持って取り組む生徒の姿が多く見られた。
236	全	分野(系列)別によるホームルーム編成のため、進路においても目的意識を持っており、また資格等が就職に有利である。
238	全	進路部との協力連携のもと、1期生の就職、進学とも希望通り応えることができたと思える。
240	全	平成15年度入学生より教育課程を変更し、大学進学者数が増え、成果を上げている。
241	全	多様化した生徒の進路(就職・進学(産業・専門分野))に幅広く対応した指導により進路希望達成率は非常に高い。

番号	全・定	問12(3)f 進路指導についての課題をご記入ください。
1	全	進路未決者をさらに減らす必要がある。大学・短大進学者のほとんどがAO、推せん入試で合格しており、一般入試受験に対応できる生徒が少ないのが課題である。
3	全	・早期進路目標設定のためのプログラミングの作成の必要と指導の充実。
4	全	産社、総学の時間を進路指導に活用できるようになっても、意識の低い生徒には効果がない。進路に対する意識高揚の工夫が必要である。
5	全	・生徒の基礎学力が全般的に低いため、就職試験等で対応できない生徒も多い。・一部に進路意識の低い生徒がい
7	全	進学については合格後に「入学してついていける学力」をいかにして養成するのが課題となっている。
9	全	多種多様な入試制度に伴う生徒への充実した進学指導と難易度の高い進学先へ合格する向の学力向上対策。
10	全	まず1年次からのキャリア教育が系統的に実施されているかに留意することである。取組み状況の確認や体験学習等の検証など、頻繁に連絡を取り合うことが必要である。次に各年次主任との「科目選択」のガイダンス機能を充実させることである。「選択決定能力」「自己責任能力」「将来設計能力」等の能力育成を目的としたガイダンスが行われているかに留意しなければならない。
11	全	早い時期から取り組むほど、総合学科の良さが生かされる。地元中学校や地域に対して、総合学科の広報活動が必要である。
12	全	半数が家庭学習が不足、最終的に安易な進路選択をする傾向にある。
13	全	総合学科では、既存の学校以上に生徒が多様な進路を希望するため、それらに細かな対応を行うための組織体制作りが必要と思われる。特に同一学級内に様々な進路希望の生徒がいる場合、生徒の進路に対する考え方が雑多なものとなるため、個々の進路に対する意気込みの低下を招く恐れがある。十分な進路指導体制が必要。
15	全	多様な進路に応じた個別の進路指導の強化。
16	全	生徒情報の共有化を図り、全ての職員が、全ての生徒の状況を把握できるようにしていく。
17	全	・生徒の多様な進路目標の実現に応じた指導を強化するための指導体制づくり。・キャリアカウンセリングを行うための、職員研修
19	全	・進学指導に熟練した教員を一定数配置していただくことが必要。 ・進学指導の充実を目的として、選択科目とその補習を組み合わせる少人数による進学指導を徹底する。
20	全	教職員のガイダンス能力が多様化する進路に対応していない。そのため生徒も選択幅の広さを活用していない。講義型授業が多く、体験的学習への積極的参加が不足している。また、就職や四年制大学への進路指導に比較して、専門学校への進路指導が不足している。
21	全	クラス単位での進路実現に向けた指導がなかなか難しい。
22	全	・進級の過程で進路変更する生徒への対応。
23	全	就職希望の生徒への商業教育では、日商簿記2級合格者を20名以上目指している所で、次年度までその結果は得たねばならない。同様に国公立大への合格者20名以上も目標として掲げている所であり、それぞれの目標に向け、生徒・職員一丸となって努力している所である。
24	全	学年や教科内で教職員間の連携がなければ生徒に十分な指導が行えないが、人事異動の入れ替わりもあって、教師の総合学科についての理解や意識の差が大きくなり協力体制のほころびを感じる。
25	全	将来への方向性を持っていない生徒にとっては、進路と科目選択が結びつかない結果になっている。
26	全	上級学校進学の生徒で、科目選択が偏ってしまい、受験科目に不備の出ることがある。大学によっては「総合学科」という理由で、評定平均値を引き上げて、指定枠をつくり、不利なことがある。
27	全	難関校合格者の増加及び実力があるにもかかわらず安易な進路選択をする生徒や全く進路設計をしない生徒に対する指導が今後の課題である。
29	全	・多様な進路に対応するため、面接指導が大変であり、担任の進路指導の力量向上が必要不可欠である。
30	全	・補習等の欠席者に対する指導、安易に推薦入試に頼ろうとする生徒の指導。・早期離職者は減少しつつあるが、なお出ている。・総合学科らしい研究を活かした進学に向けての方途を探ることが必要である。
31	全	専門的な科目を多く選択している場合、諸事情によって進路を変更しなければならなくなった時に、入試・入社試験の対応が難しくなる。
32	全	産社や総合的な学習の時間など進路学習を十分に保障し、かつ学校行事などを含めて多様な体験を確保していかないと、進路を考えていくための総合学科というシステムが画餅になってしまう。加えて、生徒の進路が非常に多様になるため、学校側が一人ひとりにきめ細かい対応を迫られ、全体として激しい多忙化にさらされる。
33	全	・卒業生の大学進学や資格取得の実績が上がるにつれて、普通科型や専門学科型の進路指導に陥りがちである。
34	全	・国公立大学受験者のための進路指導体制を整える。・総合学科の知名度を上げ、多様な職場開拓を行う。
37	全	生徒の進路が多様化しているため、個別対応が多くなり、学校全体としての進路指導の方針が出しにくい。
38	全	・普通科に比べ、国公立大学、難関私立大学への対応が難しくなっている。
39	全	「行きたい所」ではなく「行ける所」で進路決定をする生徒が増加している。
40	全	それぞれがいろいろな進路希望のため一括しての進路指導がしにくくまた受験科目の受講者が少ないため模試や課外への取り組みが不足している。
41	全	・進学がすべてではないが進学率が年々下降している。日々の勉強・学習に対する意欲の欠如が感じられる。・自主性のない生徒が増え、進路を選択する能力が身になかなかつかず、一人ひとりの進路指導にとっても時間がかかる。
42	全	・「産業社会と人間」と「CITRUS」(総合的な学習の時間)の接続が十分に連携されていない。・4単位の授業が多く、3単位が基準の科目が教育課程に取り入れにくい。・特に3年生において、実技科目と座学が同じ選択群に有り、4単位が2時間連続で2日の展開になり、授業効率が悪く、内容が定着しにくい。
44	全	3年間の継続的取り組みの基本はできたが、他校の実践例や生徒の状況把握に努め、内容を深化させることが課題である。学習の取り組みに対応した動労観、職業観を見につけることができていない生徒にどのように取り組んでいくか課題である。
45	全	・進学希望者の希望をどう考えるか。
46	全	生徒の実態に合ったきめこまかい指導を今後も根気強く取り組むことが必要である。
47	全	・部活動や行事から学習への切り替えがうまくいかない生徒への取組。・文武一致したリーダー性のある人間づくり。
48	全	多くの生徒が国公立大への進学を希望しているため実際の選択科目が偏り、系列が実態として機能しなくなっている。
49	全	進学など、指導できる教員の層が薄い。
50	全	進路希望が多様化している状況に適切に対応する体制をつくること。
51	全	学力向上のために、中学校に向けて、「進学の総合学科」という特色を大きく、アピールすることが、重要である。また、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」をうまく活用し、生徒の「進路意識」の喚起や向上に役立てることが大切である。
54	全	多様な進路希望への対応、特に大学進学を希望する生徒への指導に課題が残る

56	定	夜間部の生徒が一人でも多く、正社員として就職してゆくこと、および上級学校へ進学してゆくこと。
57	定	ノウハウを共有化するための、会議の時間が確保できない。
58	全	・生徒一人一人の進路と自由な選択科目が一致しないことなどの弊害が出てきている。(教育課程をしっかりとした系列科目を選択できるように整備していくことで対応していきたい→キャリア教育につなげていく)・職場体験が出来ても、職場での実践が出来ていないので今後は内容を充実させていくことが大きな課題である。
59	全	早くから進路目標が定まってしまうぶん、柔軟性をもって、進路選択ができなくなってしまう。
60	全	総合学科の性質上、他学科に比べて専門性が浅くなってしまい、進学でも就職でも、アピールしにくい面がある。
62	全	進路目標の定まらない生徒への進路指導。
63	定	進路実現のための必要性をもった科目選択をしてほしいが、時間割の関係上とりたくてもとれない科目があるなどの制約がある。
64	全	・一部の生徒の中に自分の進路目標が決められず、様々な系列から、つまみ食いのような科目選択を行い、知識・技能の深化が見られない者がいること。・総合学科での学習活動は、生徒自身の興味・関心という主体性にかかっているが、目的意識が低い生徒が多く、活発な学習ができていない面も見られる。
65	全	「産業社会と人間」の総合学科での位置づけを再確認し、本校生徒の実態に応じたカリキュラムの再編と指導計画、方法を検討する必要あり。補習のあり方、模試の結果分析とその授業への活用の仕方の工夫の必要あり。
66	全	・3年次4月段階でも、自己の進路目標が未定の生徒が1割いる。・進学率を上げるため、進路に関する教職員研修が必要。・学校として求人開拓をする必要がある。
67	全	・企業回りした際、まだまだ総合学科について聞かれることが多い。・多様な希望・将来像を持った生徒の集まりであるため、規模の小さい、多種多様なガイダンスをおこなう必要がある。そのため、早い時期からの計画が必要だ。
68	全	・就職…年々希望者が増加(うち県内希望者が圧倒的多数を占める)してきているため更なる求人確保の必要性がある。また、基礎学力の定着や早期退社の克服もあげられる。・進学…四大・短大では、指定校、一般の推薦入試での入学でしかない現状である。専門学校希望者も含め、一般入試での合格可能な学力の習熟が必要。
69	全	全般的に進学は、就職に比べて安易になっている。
70	全	基礎・基本的な学力をつけさせることが現在課題となっている。
71	全	1年生の産社と人間等を通じて職業を考えさせ、キャリアガイダンスを行うが、結果的には多くの普通科高校と同様に、1年生の2学期に2・3年次の科目選択を通じて自らのコースを決定せざるを得ず、未消化なままの生徒が専門学校進学を選ぶケースが目立つ。
72	全	多数の多様な選択科目を進路目標の達成にどうつなげていくかの効果的なガイダンスのあり方。キャリア教育の充実に向けての体験活動の精選。
73	全	昨年より教育課程を抜本的に変え(現2年から)、学力補償・進路補償を教育目標にかかげ、地域にも、大きく様子がわりした本校をアピールしてきたが、まだまだ、総合学科は、大学進学には直結しないという、イメージを払拭できない。
74	全	・他の分掌との連携。・複雑化する入試制度をふまえたガイダンス体制の構築。・就職内定後の指導、職場への定着率アップに向けた指導体制の確率。
75	全	ごく一部にフリーター志向の生徒が毎年出ること、有効な対策がない。
76	全	・本校生は他校生に比べ非常に多忙である。通常の勉強のほか課題、部活などにも真剣に取り組んでいるからだが、その分どうしても学力向上面で立ち遅れてしまう。塾に行かなくても十分な学力をつける方策が課題である。
77	全	ややもすると「安易な選択」になってしまうため、進路ガイダンスのあり方等、3年間を見通した計画の見直しが必要である。
80	全	・上記3科目の継続について改善すべき点がある。・総合学科の学びの成果については個人差があり、3年次になっても具体的な進路先を見出せない生徒もいる。
81	全	就職希望者の校内選考の際に評定平均値を参考にしなければならぬ場面もあるが、系列毎に異なる学習をしていることとの矛盾がある。
82	全	保護者との連携を深める必要がある。
83	全	今後とも現在の状況を維持できるよう、教員が意識を持って学力保障につとめることが必要である。
84	全	生徒の希望に合致する進学先・就職先の確保や更なる開拓が必要。
85	全	進学意欲はあるが、受験勉強では科目の種類や学力面での対応が難しいこともある。総合選択科目と自由選択科目の配分を考えた選択が不可欠である。
86	全	進路を考えるあまり、希望する進路に「必要」「不必要」で学習の姿勢が大きくなってしまっている生徒が出るようになった。
87	全	特に進学希望の生徒に対して、入試科目に合わせた科目選択が間違いなくできるようによりわかりやすい科目選択のためのガイダンスを充実させる必要がある。
88	全	フリーターを望む生徒の指導。
89	全	最近の社会状況の変化を考えれば、生徒一人一人の状況に合わせた進路実現に向けてこれまで以上の努力が必要である。
91	全	・様々な事にチャレンジはしているが、卒業時点においても、進路決定できない生徒がいる。・進路選択におよぼす、経済的困難の課題。
92	全	入学時の成績、特に国数英の成績があまり高くなく、入学後も伸ばしにくいいため、難関私立大や国公立大への進学が難しい。
93	全	社会性、マナーの欠如。
94	全	高校で系列の基礎基本を学び、大学に進んで学問を深めるといった高い理想を掲げる生徒の育成が課題となってきた。
95	全	まだまだ各系列の目標とする資格、検定が取得できていない。自信をもって進学や就職ができる生徒に育てたい。
97	全	・進路に関しての意識付けを、早くからさせて行動をとらせる。・安易さに流れる生徒に対して、努力して進路実現をするための価値を理解させること。
98	全	・生徒の進路希望が多岐にわたるため、担任に多大の負担がかかる。進路が確定する時期もまちまちであるため、「クラス」「学年」といった生徒集団にまとまりを欠く。大学受験に必要な普通教科・科目の時間数が、授業時間内で十分に確保できない。
99	全	自らの目標をしっかりとせ、それに向けて計画的に学習させること。
100	全	・科目希望と進路希望のミスマッチが生じやすい。・科目選択に消極的・後ろ向きな生徒への指導。・総合学科に対する認知度の低さ。(推薦・出願基準等)・5教科7科目入試希望者への授業保障。
101	全	・進路決定に際して、学校・教師に過度に依存する生徒も、少なくない。・面接等への対応力は十分あるが、学力試験への対応能力が不足する生徒が少なくない。
102	全	自分の考える進路と求人内容が合わない。特に販売職や事務職の求人が少なく、やむなく製造業に志望を変更せざるを得ない。
103	定	上記のような状況の為、「出口」保障について、進学の面では、大学進学率が徐々に低下し始めている。就職についても、難しい面が見え始めている。
106	全	さらに生徒のニーズにあった授業を展開するための教材研究等が求められている。

107	全	これで良いという段階ではないし、まだまだ発展途上であると考え、一層の指導が必要である。
108	全	国公立大学へ進学を考える生徒の希望もより多く実現させるために、習熟度別授業展開等をいかに活用するかも課題となっている。
109	全	基礎学力の定着をさらに進めると同時に、難関校への進学をめざす生徒に対するきめ細かな指導と、事務販売系就職希望者に対する職場開拓の推進を工夫継続する必要がある。
110	全	三期生の卒業後の進路先について満足の割合は86.6%とかなり高いが、妥協している生徒もいるので基礎学力をもっとつけて、チャレンジさせたい。就職者、進学者別の、1年次から3年次までの進路指導の流れを確立させたい。
111	全	うまくいった。
112	全	最初から専門高校へ入ってくる生徒ではないため、商業系の系列は、その心構えや、1年次のカリキュラム形態から、専門的な知識や技能が専門学科に劣る傾向がある。また、資格取得という目標に対するモチベーションが低くなりがちである。普通系列の生徒にしても、受験により選択できる科目に限られるため、総合学科のメリットが少ない。また、同様に普通科の生徒よりも学習に向かう時期が遅くなるため到達レベルが低く、一般受験に間に合わない。
113	全	入学時において、将来の目標や夢を具体的に持っている生徒が少なく、自分自身に自信のない者が多い。一人一人に自信を持たせ、望ましい生き方・職業観を身につけ、自信を持って生きていけるようキャリア教育の研究を重ねる必要がある。また、多様な進路に対応するため、個別指導の充実と教職員の進路研修など生徒のサポート体制を整備することが課題である。
114	全	進路を自信をもって選択し、達成するために必要なバランスのとれた学力を身につけさせることが重要である。自分の適性や能力をよりよく生かし、妥協のない目標をもたせるための進路ガイダンスの充実が必要である。
115	全	・早期の進路決定を促しているが、学年によってはなかなか決まらない生徒がいる。・目標を高く設定するように指導しているものの、推薦入試で早々に進路先を決定してしまう生徒が多い。
116	全	科目を選択する場合に、自分の進路に関連する科目だけを選択しているだけでなく、何を中心に科目の選択をしたのかが明確でない場合がある。企業、あるいは大学等上級学校の中には、総合学科に対する理解が十分でないところもあり、広報活動をさらに充実させる必要がある。
117	全	効率的な基礎学力の向上 受験学力の向上。
118	全	基礎学力や、応用力を身に付けるための対策を強化していく。
120	全	・日々の学習、特に家庭学習が不足している現状を改めていく。・3年次に対しての取り組みを、1年次の段階から徹底していく。
121	全	目的意識の低い生徒に対する進路指導のあり方。
122	定	進路先をはっきり決められない生徒も多少いる。
123	全	自由な科目選択の幅が広く、系統だった科目選択をせずに最後に困るケースが見られる。
124	全	一部の生徒で介護福祉系列で学習したにもかかわらず、国家試験を受験しなかったり、福祉の道に進まない生徒もいる。
125	全	将来に対する目標・目的意識の希薄な生徒が少なからず存在し、学習意欲も乏しく、資格等何も取得しないまま卒業してしまう傾向がみられる。
126	全	基礎学力の不足から進路に対して消極的な生徒に対応するため、基礎学力を付ける手だてを学年と連携して取り組みと生徒の進路決定に向けての意欲と努力が継続するように粘り強く指導すること。
127	全	進学や就職という進路保証を向上させていくことで、より以上に地域住民からの信頼を得ていけるか。
128	全	1、2年次に進路に向けた様々な体験を経験しているにもかかわらず、進路選びはまだまだ受動的であり、主体的に自分の進路を決定するところまでに至っていない。学年との連携や情報提供の拡充を進める必要がある。
129	全	多様な入試制度の利用のため、その対策と大学入学後の学力保障が難しくなった。
130	全	就職希望者から4年制大学への進路希望者まで志望が多岐にわたっている。就職希望者に対しては、もっと、実社会で役立つ技術や資格が取得できるカリキュラムを、また進学希望には、よりよい環境整備が必要である。
131	全	・基礎学力の低い生徒への対応が難しい。・学習意欲や進路意欲の低い生徒には、進路実現に向けてのモチベーションを如何に高めるかが課題である。・保護者の経済的な事情から、能力はあっても希望の進路を断念しなければならない生徒がいる。
132	全	生徒の進路が多岐にわたるので、指導が困難である。受験に向けたクラスの雰囲気づくりが難しい。科目により、評価方向が異なるので、評価の仕方が難しい。
133	全	就職希望者も増加してきており、一回目の受験で不合格となると、指導にのってこない生徒が増え、最終的に未定者となっている。担任との連携も含めた指導が必要である。
135	全	進学指導ができる職員が少ない。
136	全	・保護者への意識啓発 進路ガイダンスや職業講話等の案内を配付し、参加を呼びかけているが、効果が少ない。・就職者の早期離職 ここ数年、就職後1年以内に約1/4の生徒が離職している。
138	全	フリーター志向やアルバイト志向がまだあり、職業に対する意識を確実に徹底させる。経済面からも進学への意識に問題がある。
139	全	国公立大学合格者の増加に向けた取組。
140	全	難しい目標に挑戦せず、第一希望実現より、入りやすい上級学校へ進学している。
141	全	進路先がほぼ固定化している。これを少しでも向上させることが急務である。
142	全	・科目選択に苦労している生徒も少なくないようである。・希望した科目を講座定員の関係で登録できない生徒もいる。
143	全	進路指導、科目選択ガイダンスの手法が、何人かの優れた教員に支えられており、全体としてシステマティックに行なえる段階には至っていない。
144	全	・現在行っている教育活動をキャリア教育の視点で見返し、本校としてのキャリア教育プランの策定が必要と考える。・大学進学への意識の向上と進学に必要な学力の保障も必要と考える。
145	全	キャリア教育だけに留まらず、生徒の前に立って指導するには、まず、教員自らが前向きに意欲的に物事に取り組む姿勢が求められている。特にキャリア教育にあっては、教員自身がキャリア形式をしっかりと行っていくことが、よりよい指導に直結していく。教員のライフステージにおける総合学科で働くことの意味意義を確立する必要がある。
146	全	・成績不振(単位不足)による進路活動できない生徒への指導→進路未定者の多さ。・基礎学力不足による進学指導の難しさ。・家庭の事情により、将来への展望が持てない生徒への対応。・外国籍生徒に対する指導。
147	定	進学した生徒や新たに地域の企業に就職した生徒が、進路先で適応できるような能力をさらに高めていく必要があると思われる。
148	全	今後の指定校も含めた進学先の開拓 AO入試なども含めた多様な入試スタイルへの対応。
149	全	年々大学・短大への進学希望者が増加しているため特に受験希望者の進路実現をどうかなえるかが課題となっている。
154	全	多様な科目を開設できるが、施設設備や人的資源、予算の確保に限界がある。間違いのない科目選択ができるように、十分に事前指導等を行う必要がある。しかし、指導が徹底しない場合もあるので、3年次になって科目選択と進路が対応していない生徒がいる。



155	全	「生徒自らが選択する力をつけさせる」ことには、教職員に待ちの姿勢とていねいな対応が重要であるが、このことを全教職員が共通認識する必要がある。
156	定	上記体験学習やインターンシップでは、産業社会と人間の科目の教員との協力を得て行うが十分に連携がとれなかった。また、無断で休む生徒もあり、その指導方法も考えなくてはならない。
157	定	コミュニケーション能力や対人関係について育成すべき点がある生徒が少なくない。
158	全	3年間のスパンでキャリア教育という視点で相談部(進路部)が各学年担任とさらなる連携を深め進路指導を行う必要がある。
159	全	地域の豊富な教育力を活用したインターンシップ、講演会などキャリア形成に関する教育を提供しながら、各学年に応じた進路に関するLHRの在り方をさらに検討し、本校に適した進路指導を展開することで、望ましい職業観や勤労観を見つけさせ、適切な進路決定に結びつけていきたい。
160	全	・目標を持ち、科目を選択して学習したことが、進路決定に生かされない場合が多い。・進学先や就職先に総合学科高校への理解を求めているかなければならない。
161	全	大学進学者数を増やしたい。
162	全	総合学科ならではの様々な分野への進路実現に対応している。反面、進学といった特定分野にしぼった指導にはまだまだ改善の余地がある。
163	全	安易な科目選択をしてしまい、将来の職業選択に結びつかない生徒がいる。
164	全	国公立大学を希望する者が、入学時には100名を超えるのに対し、実際に受験する者は数名しかいない実態がある。教育課程上での工夫は行われたが、その他の取り組みが必要である。
165	全	1年次から学習指導を充実させること。
166	全	進路実現に向けた、学習意欲の向上と、科目選択に対する意識を高めることが課題。
167	全	・「産業社会と人間」の科目が前期集中と短期間で実施しているため、じっくりと考える時間に限りがあり、多少慌しく感じる。・総合学科としてのさらなる進路指導の徹底。
169	全	生徒の中には進路に合せた科目選択のほすが、座学を嫌い安易な科目選択に流れる傾向が見られ国・数・英の基礎学力が十分には定着していない。
170	全	・進路指導と系列をどの様にむすびつけるか。
171	全	・推薦入学に依存する傾向が強く、入学してからの大学の授業についていける学力を身につけることが必要である。・毎日の家庭学習の習慣をつけさせること。
172	全	生徒・保護者の希望する進路を達成するべく支援するのは当然のこととして、人生また社会に対する理解が浅いとき、それをいかに広げ深めることができるか。キャリア教育の実を挙げなくてはならない。
174	全	進路の目標が違う生徒が同じクラスに混在するために(4つの系列が1クラスにいる)進路指導がやりにくいことがある。
175	全	一般入学試験(センター入試)での合格者を増していくこと。
176	全	現在インターンシップは社会福祉系列の授業を中心に取っている生徒のみ実施しているので対象生徒の拡大を図る。
177	全	選択科目により評定にバラつきがあり(基準の難易度が違うため)推薦会議を行う際、判断が難しくなった。進路希望が途中で変わった場合履修科目がその必要条件を満たせなくなる場合がある。大学受験の際、必要科目を履修していない場合の対応をどのようにするか。
178	全	・好きな科目を選択することにより、大学受験に十分対応しうる科目選択になっていないケースが見られる。
179	全	進学では推せん入試で合格する者がほとんどで学力レベルがなかなかあがっていない。女子が多く、進路に関しての取り組みが遅い傾向がある。
180	全	・大学進学希望者や短大進学希望者がAO入試や推薦に回る数が増加した。
181	全	・中途半端な科目選択が、進路活動に支障をきたすケースがある。(特に福祉系列、他の系列への変更が難しい)・2・3年次の科目選択の時期の改善。進路の方向性の決定時期とそれに必要な科目選択時期のギャップ。
182	全	就職・進学とも進路目標を立てるのが遅く、どの様な勉強をしなければならぬのか、どの様な手続き・手順で目標達成へ向かうのがしっくり理解させ、準備させるのが課題である。
184	全	興味関心をそのまま就職や進学に結びつけることが、すべてのケースにおいてできているかというと、そうではないのが現実である。また、特に就職に関しては、職業高校に比べ、内定時期が若干遅い。
185	全	多様な進路希望の実現に向けた体制の確立。
186	全	「科目選択＝進路選択」という側面が強いため、低学年次のキャリア教育の充実が必須である。
187	全	キャリア教育の観点に立ち、生徒の進路意識を高揚させ、進路実現を図るための、教員の意識改革と実践力(共通理解・実践や指導力の育成)が課題と考える。
188	全	学年に応じた進路指導のあり方、多様な進路希望を前提にどのように充実した指導が行えるのか。
189	全	地元企業への就職を希望する生徒が職場体験等で就職したい企業を見つけることができても、その企業が高卒者の採用を計画していないなどのミスマッチも見られる。
190	全	大学進学の複線化。特に専門系列からの推薦入学。
191	全	キャリア教育の全体計画の策定。
192	全	進学校のようにベクトルがひとつでないで、1年間進路指導に迫りまくられている。就職・専門・大学がそれぞれ同比率いる本校のような学校での進学指導は厳しいものがある。また、総合学科は選択能力のある一定レベル以上の生徒でないと成立しない。「進学指導(一般入試)」と「選択能力」が課題。
193	全	ほぼ100%、進路は決定するが、生徒一人ひとりの能力や適性が十分生かせる就職や進学ができたとは言えないケースがかなりある。正しい進路選択と充実した受験支援が今後の課題である。
195	全	・一般受験で、より高いレベルの大学に進学しようとする意識に欠ける。・公務員試験に合格する生徒はいない。
196	全	言語・自然科学系列からの進学実績を定着されるべく、いろいろな働きかけを行っていききたい。系列、年次が進路指導部とうまくタイアップして指導ができるような体制を整えたい。
197	全	大学進学を希望する生徒が多く、特に近年は小論文等の指導が必要な場合が増加しているが、指導体制が十分に整っているとは言い難い。大学以外の進路を希望する生徒に対する指導が手薄である。
198	全	保護者の進路意識を高める取り組みを充実させる必要がある。
200	全	・高い資格を求める企業もあり、専門性を高める教育課程が必要である。・進学に対応した進路指導の確立。
201	全	大学等の機関と連携し、進学に関する意識を更に高めていきたい。
202	全	・基本的な生活習慣や、基礎学力の養成。・多様な進路に対応するための教員の指導力。・就職者の離職問題。
203	全	進路指導部、担任とも進学・就職・公務員と様々な進路希望を持った生徒をすべて指導しなければならないので時間的余裕がなく大変な状況である。
204	全	就職について顕著な変化はみられない。
205	全	普通科が設定されていた頃にくらべ、選抜クラス、いわゆる進学クラスの設定が難しくなっている。各系列に優秀な人材が分散され、学年全体での統一した学力向上、受験指導が難しい。
206	全	・系列毎の特色を活かした進学・就職の実現。・進路希望達成のための基礎学力の向上。
207	全	2・3年次の授業が2時間続きとなるため、4単位の科目でも週2回の実施となるなど、本校生徒の実態からすれば、学力向上に不適な時間割である。実質的には一般受験による進学が極めて困難である。

208	全	・学校集団として学習に取り組む意識の形成が難しい。(特に成績中位層への対応)
209	全	職場体験などを通し、専門的な資格取得に対する要求が生徒、保護者共に強く、そのために専門学校を志望する数が多い。更に専門学校の入学のし易さも影響しているように思える。
210	全	保護者が進路に対する意識の向上を図る方策を検討し、計画的に取り組む必要がある。
211	全	・系列と結びつく進路指導の改善と実績の向上。・進学先の内容充実。(もっと強くアピールできる合格実績)
212	全	・インターンシップ受け入れ企業の開拓。・管外、道外への就職意欲の喚起。・多様な大学等入試制度に応じた個別指導の研究。
213	全	系列(学習内容)と進路(進学・就職)が直接結びつかない生徒も多い実態がある。
214	全	進学希望者の学力の育成。
215	全	・生徒や保護者の進路意識向上。・進路指導のシラバスづくりによる学校全体の組織のシステム化を推進。
216	全	基礎的な事項(数学・国語・一般常識)の意見を進路指導として毎月2回全校生徒を対象に実施している。学年が上になるに従って、真剣さが薄れ結果も余り良くない。就職試験突破のためにも、上級学校受験のためにも、どのような問題形態の方法がよいかが課題である。
217	全	ただし、学校としての進路先に毎年出すことができない。
218	全	在学中に職場における定着指導もしているのだが離職する卒業生もいて、パートや派遣社員に転向してしまう。
219	全	・大学の一般入試に対応できる力をつけることが難しくなってきた。
220	全	進路指導を推進するにしたがって本校生の学力問題が明確化されてきた。この問題をどのような方法で解決していくか。これが難問である。より一層精度をあげた進路指導部をいかに確立していくか。学力水準をどのような方法で引き上げるか、今後の喫緊の課題である。
221	全	早い時期からの目的意識定着化で、就職活動生徒の意識が向上した。しかし、進路未決定のまま、卒業をしてしまう現実があるので、全生徒に対する意識付けの必要がある。
223	定	特に就職した生徒の企業への定着率アップが課題である。
226	全	・個々に対応した職種達成を目指しているがすべてに求人があるわけではないので開拓に大変。・進路指導部・担任だけでなく系列担当者との連携が大切。
227	全	科目選択時に進路希望が明確でない場合、選択が困難で、進路と系列が結びつかないことがある。総合選択科目の枠数と、基礎学力定着のための科目の枠数との関係にも課題がある。
228	全	1年時に進路決定をさせる為、未成熟なままの希望でカリキュラムを組む生徒もいることから、段階を経て、取り組むことができる進路指導が必要と思われる。
229	全	無気力生徒への対応。
230	全	面接指導の実施を2年次から取り組むことにより、平常の生活指導も含め対応力を育成したい。そのためには担任指導がさらに重要になる。
231	定	1.県内求人0.4倍で就職は極めて困難であるが、県外への就職希望者はほとんどいない。 2.さらなる就職指導、進路指導の充実が必要。
233	全	介護、エステティックの両系列は高校レベルでは進学は可としても就職については厳しく、介護は介護福祉の資格を取得すると進路も開けるので今後、取得に向け、系列の強化に努めたい。
235	全	進路選択の幅が広がった分、進路確保の努力がかなり必要。特に女子の就職には苦労している。総合学科という学科についての認知度が低い。
236	全	就職や同分野への進学においては有利であるが、大学進学や他分野への進学について、入試科目の不足や履修されていない等の問題がある。
237	全	専門学校希望者が増加する傾向がある。やすきに流れる面と、大学のPRの方法に問題がある(専門学校は、PRが上手なので、流れてしまう。)
238	全	調査書の作成、確認が難しく、多くの時間が費やされてしまう。また、女子就職希望者に対するニーズにどのように応えていくかが課題である。
239	全	以前から比べると進学者が増加しており、基礎学力が問われることが多くなっており、学習に対する意識づけと、2年次からの指導を充実させる方法の研究が必要である。
240	全	・キャリア教育として進路指導部としての関わり方について。・生徒の多様な進路希望に応えられているかの検証。・大学進学者の主要学力の養成。
241	全	・希望職種からの求人がない。・大学推薦入試制度において、専門高校卒で受験できる大学とできない大学があり、その対応が大変である。



# 資 料

# 1. 調査依頼状

平成19年9月5日

校長 殿

国立教育政策研究所  
初等中等教育研究部長  
工藤 文三

## 総合学科についてのアンケート調査へのご協力をお願い

平素より当研究所の調査研究に格別のご協力とご高配を賜り御礼申し上げます。  
研究所では、平成18年度からプロジェクト研究「今後の後期中等教育の在り方に関する調査研究」（研究代表者 工藤文三）を進めています。本年度は、研究の一環として総合学科の成果と課題等について調査を行うことになりました。ご多用の折とは存じますが、アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1. 調査のねらい

総合学科の実施に伴う成果と課題等を把握することにより、今後の後期中等教育の改善に資する資料を得ることを目的としています。

#### 2. 調査の概要

- (1) 学校を対象とした総合学科の取組等についての質問紙（学校調査票）と、総合学科の生徒を対象とした質問紙（生徒調査票）による調査を行います。
- (2) 平成16年度までに設置された総合学科のすべてに依頼しています。

#### 3. 調査結果の取り扱い

- (1) 調査結果の扱いについては、学校ごとの公表を行うことはありません。

#### 4. 回答期限

- (1) 同封の封筒で、平成19年10月1日（月）までにご返送ください。
- (2) 同封の日本通運のペリカン便の送り状にて、着払いでご返送ください。

#### 5. 送付内訳

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| ①調査へのご協力をお願い（本状）     | 1枚              |
| ②学校調査票               | 1部（緑色）          |
| ③生徒調査票               | 45部（青色）         |
| ④返信用封筒               | 2枚（1枚は学校調査票封入用） |
| ⑤日本通運のペリカン便の送り状（着払用） | 1枚              |

#### 6. 回答・返送要領

- (1) 回答は学校調査票・生徒調査票に直接記入してください。
- (2) 生徒調査票は、最終年次の生徒に45名を上限として、なるべく多くの生徒に回答させてください。
- (3) 同封の封筒に学校調査票・生徒調査票を入れ、ご返送ください。なお、封筒のシールに学校名と生徒調査票の回答数を記入してください。

#### 7. その他

- (1) 集計結果は報告書にまとめるとともに、その概要を各協力校宛に送付いたします。
- (2) この調査の実施につきましては、都道府県教育委員会に別途連絡いたします。
- (3) 各調査票の最後の白の用紙は丁合のためのものですので、そのまま返送ください。

#### <問い合わせ先>

〒153-8681 東京都目黒区下目黒6-5-22  
国立教育政策研究所（後期中等教育研究会）  
TEL 03-5721-5032（事務局 屋敷和佳）  
TEL 03-5721-5064（工藤文三）  
TEL 03-5721-5150（代表電話）  
FAX 03-5721-5172 e-mail chuto@nier.go.jp

## 2. 学校調査票

国立教育政策研究所（平成19年9月）

# 総合学科に関する調査 ～学校調査票～

このアンケートは、貴校に設置されている総合学科についておたずねするのを目的としています。併設されている他の学科については調査対象としておりませんので、ご注意ください。

また、特に指示のない限り、平成19年度の状況をご回答ください。よろしくお願い申し上げます。

### ＝回答に際してのお願い＝

- 記入方法：① 特に質問文に指示がない場合には、選択肢の番号に○を付けてください。  
：② 回答に当たっては、太字で記されている問いや指示に従ってください。
- 回答期限：同封の封筒で 平成19年10月1日（月）まで にご返送ください。

※まず以下にご記入ください

1	学校名	_____
	立	_____ 高等学校（全、定）
2	学校住所	_____
	〒	_____
		_____ Tel _____（ ）_____
3	校長名	_____
4	取扱者名	_____

(1) 貴校の在籍生徒数について、下欄にご記入ください。(平成19年5月1日現在)

(2) 貴校の教職員数について、下欄にご記入ください。

(3) 貴校の総合学科が開設される以前の、いわゆる母体校にはどのような学科が開設されていましたか。あてはまるものの番号をすべて選んで○で囲んでください。

- 問2 貴校の総合学科において、生徒が科目を選択する際の指導についておたずねします。

- (1) 選択科目の内容を生徒にどのような方法で紹介していますか。あてはまるものの番号をすべて選んで○で囲んでください。

- 140 -

(2) 生徒の科目選択の方法はどのようなものですか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1. 1年次に2・3（・4）年次の科目をすべて選択している。
2. 1年次に2年次の，2年次に3年次の（，3年次に4年次の）科目を選択している。
3. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(3) 生徒に科目を選ばせる際の分野（系列）の役割はどのようなものですか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1. 生徒は，分野（系列）にとらわれず，科目を選択できる。
2. 生徒が分野（系列）を1つ選び，その分野（系列）で定めた科目の中から選択させる。
3. 生徒が分野（系列）を複数にわたって選び，それらの分野（系列）で定めた科目の中から選択させる。
4. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(4) 生徒が分野（系列）や科目を選択する際，どのような指導体制をとっていますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1. ホームルーム担任（副担任を含む，以下同じ）のみで行っている。
2. 進路指導担当教員のみで行っている。
3. 「産業社会と人間」の担当教員のみで行っている。
4. ホームルーム担任と進路指導担当教員とで行っている。
5. ホームルーム担任と「産業社会と人間」の担当教員とで行っている。
6. 進路指導担当教員と「産業社会と人間」の担当教員とで行っている。
7. ホームルーム担任，進路指導担当教員及び「産業社会と人間」の担当教員とで行っている。
8. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

### 問3 貴校の総合学科における開設科目についておたずねします。

(1) 各学次で履修する，必修科目，選択科目（総合選択科目，自由選択科目）の単位数を下欄にご記入ください。

	「産業社会と人間」	必修科目	総合選択科目	自由選択科目	HR活動	合 計
1 年次	～ 単位	～ 単位	～ 単位	～ 単位	単位	～ 単位
2 年次	～ 単位	～ 単位	～ 単位	～ 単位	単位	～ 単位
3 年次	～ 単位	～ 単位	～ 単位	～ 単位	単位	～ 単位
4 年次	～ 単位	～ 単位	～ 単位	～ 単位	単位	～ 単位
合 計	～ 単位	～ 単位	～ 単位	～ 単位	単位	～ 単位

（必修科目については、学習指導要領及び学校で定めた必修科目数を記入してください。  
 なお、それぞれ幅がある場合は、x～y，幅のない場合はx～xとご記入ください。）

- (2) 開設されているすべての分野（系列）について、分野（系列）名及び総合選択科目の科目数と単位数の合計をご記入ください。また、それぞれの分野（系列）の内容に該当するものを、下の1から15までの選択肢の中から1つ選び、ご記入ください。

分野(系列)名	総合選択科目(合計数)	内容
	科目 ----- 単位	
	科目 ----- 単位	
	科目 ----- 単位	
	科目 ----- 単位	
	科目 ----- 単位	
	科目 ----- 単位	
	科目 ----- 単位	
	科目 ----- 単位	
	科目 ----- 単位	

- 分野の内容
1. 人文    2. 国際    3. 自然    4. 情報    5. 福祉    6. 生活  
 7. スポーツ・健康    8. ビジネス    9. 環境    10. 食品    11. 生命  
 12. 工業    13. 芸術    14. 地域    15. その他

- (3) 選択科目の開講に必要な最低の履修人数を定めていますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、定めている場合、その人数を具体的にご記入ください。

1. 定めていない（希望者が1人でも開講する）  
 2. 定めている（\_\_\_\_\_人）

- (4) 総合学科の設置以降の、分野（系列）の新設・変更・廃止等の状況と、その時期を下欄にご記入ください。（自由記述）

問4 貴校の総合学科における原則履修科目「産業社会と人間」についておたずねします。

(1) 「産業社会と人間」の年間の指導計画にはどのような活動を組み込んでいますか。あてはまるものの番号をすべて選んで○で囲んでください。

1. 社会人講師による講話がある。
2. 職場見学・体験等を行っている。
3. 上級学校を見学している。
4. ボランティア活動を行っている。
5. 職業適性検査等を行っている。
6. ライフプラン発表会を行っている。
7. 調査研究を行っている。
8. 討論会を行っている。
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(2) 「産業社会と人間」では、どのような指導体制をとっていますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1. ホームルーム担任（副担任を含む、以下同じ）のみで行っている。
2. ホームルーム担任と他の1名の教員によるティーム・ティーチングを行っている。
3. 進路指導担当教員が行っている。
4. 「産業社会と人間」を担当する教員を別に決めている。
5. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(3) 平成18年度1年間で、「産業社会と人間」をはじめとして、総合学科の授業に協力を得た社会人講師の数（実数）を下欄にご記入ください。

（ここでいう社会人講師とは、「産業社会と人間」等の授業で、社会人に講話を依頼する場合など、ある授業科目等の一部分につき指導等を行う講師のことです。）

教科・科目等名	人数
産業社会と人間	人
その他の教科科目等	人
計	人

問5 貴校の総合学科における、「課題研究」についておたずねします。

(1) 「課題研究」の実施についてはどのようになっていますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1. 必修科目として実施している。
2. 選択科目として実施している。
3. 「総合的な学習の時間」を活用し、科目「課題研究」の趣旨を生かした指導を行っている。
4. 実施していない。
5. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(2) (1)で回答項目 1 または 2 を選んだ学校におたずねします。生徒の「課題研究」への取組はどのような形で行われていますか。あてはまるものの番号を 1 つだけ選んで○で囲んでください。

1. 生徒が個人で取り組んでいる。
2. 生徒がグループを作り取り組んでいる。
3. 生徒が個人で取り組む場合もあれば、グループで取り組む場合もある。
4. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(3) (1)で回答項目 1 または 2 を選んだ学校におたずねします。生徒は「課題研究」における課題をどのように決めていますか。あてはまるものの番号を 1 つだけ選んで○で囲んでください。

1. 原則として生徒が自由に決める。
2. 学校で提示したテーマの中から生徒が選択する。
3. 学校が決めて各生徒に割り当てたテーマを生徒が研究する。
4. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(4) (1)で回答項目 1 または 2 を選んだ学校におたずねします。「課題研究」では、どのような指導体制をとっていますか。あてはまるものの番号を 1 つだけ選んで○で囲んでください。

1. ホームルーム担任が指導している。
2. 課題別に担当教員を決めている。
3. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

#### 問 6 貴校の総合学科における進路指導についておたずねします。

(1) 生徒の選択科目や進路についての相談を担当する専任のカウンセラーを置いていますか。あてはまるものの番号を 1 つだけ選んで○で囲んでください。

1. 置いている。
2. 置いていない。
3. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(2) 分野（系列）や科目の選択についてのガイダンスにおいて、工夫している点がありますか。  
下欄にご記入ください。 (自由記述)

--

(3) 「産業社会と人間」の学習の後、その学習成果を生かし、どのような形で進路指導（キャリア教育等）に取り組んでいますか。下欄にご記入ください。 (自由記述)

--



問 7 貴校の総合学科における単位制の活用状況についておたずねします。

(1) 生徒の卒業に必要な修得単位数は何単位ですか。下欄にご記入ください。

	単位
--	----

(2) 生徒が時間割を作成する際、空き時間が生じることを認めていますか。あてはまるものの番号を 1つだけ 選んで○で囲んでください。

1. 認めている。
2. 認めていない。

(3) 履修年次を特定の年次に指定している科目がありますか。あてはまるものの番号を 1つだけ 選んで○で囲んでください。

1. 学習指導要領に定める必修科目のみ年次を指定。
2. 学習指導要領に定める必修科目に加え、年次ごとに選択できる科目を指定。
3. 年次を指定している科目は全くない。
4. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ ）

(4) 複数の年次の生徒と一緒に授業を受けることがありますか。あてはまるものの番号を 1つだけ 選んで○で囲んでください。

1. ある。
2. ない。
3. 可能だが、実態としてはない。

(5) 学期ごとの単位認定を実施していますか。あてはまるものの番号を 1つだけ 選んで○で囲んでください。

1. している。
2. していない。

(6) 学期ごとの卒業認定を実施していますか。あてはまるものの番号を 1つだけ 選んで○で囲んでください。

1. している。
2. していない。

問 8 貴校の総合学科におけるホームルームについておたずねします。

(1) ホームルームの編成方法はどのようなものですか。各年次ごとにあてはまるものの番号を 1つだけ 選び、下欄にご記入ください。（回答項目 4 のミックスホームルームとは、分野（系列）や進路希望等の異なる生徒が 1 つのホームルームに混在するようにホームルームを編成するものです。）

1 年次	
2 年次	
3 年次	
4 年次(以上)	

1. 選択科目別に編成している。
2. 分野（系列）別に編成している。
3. 進路希望別に編成している。
4. ミックスホームルームを実施している。
5. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ ）

(2) 年次が変わる際にホームルーム編成を変更していますか。あてはまるものを1つだけ選んで○で囲んでください。

1. 在学中は同じである。
2. 年次毎に変えている。
3. 2年次に移る際変えており、2・3（・4）年次は同じである。
4. 1・2年次は同じで、3年次に移る際変えている。
5. 1・2・3年次は同じで、4年次に移る際変えている。

その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(3) ショートホームルームをどのように行っていますか。各年次ごとにあてはまるものを1つだけ選び、下欄にご記入ください。

1年次	
2年次	
3年次	
4年次(以上)	

1. 始業時、終業時とも行っている。
2. 始業時のみ行っている。
3. 終業時のみ行っている。
4. 授業と授業の間に行っている。
5. 全く行っていない。
6. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

#### 問9 貴校の総合学科における学校間連携についておたずねします。

(1) 学修の単位認定を伴う学校間連携を実施していますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1. 実施している。
2. 以前は実施していたが、現在は全く実施していない。
3. 実施したことはない。

(2) (1)で回答項目1を選んだ学校におたずねします。その具体的な内容を下欄にご記入ください。  
(自由記述)

--

(3) (1)で回答項目2を選んだ学校におたずねします。廃止した具体的な理由を下欄にご記入ください。  
(自由記述)

--

問10 貴校の総合学科における学校外での学修の単位認定についておたずねします。

(1) 学校外での学修の単位認定を実施していますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1. 実施している。
2. 以前は実施していたが、現在は全く実施していない。
3. 実施したことはない。

(2) (1)で回答項目1を選んだ学校におたずねします。単位認定の対象としている学修はどのようなものですか。あてはまるものの番号をすべて選んで○で囲んでください。

1. 大学又は高等専門学校における科目等履修生としての学修
2. 専修学校における科目等履修生としての学修
3. 専修学校が高等学校の生徒を対象として行う附帯的教育事業における学修
4. 大学の公開講座、公民館等において開設する講座における学修
5. 技能審査等の合格に係る学修
6. ボランティア活動、インターンシップ（就業体験）等に係る学修
7. スポーツ又は文化活動で顕著な成績をあげたものに係る学修
8. 高等学校卒業程度認定試験における合格科目
9. 別科において修得した科目に係る学修
10. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(3) (1)で回答項目1を選んだ学校におたずねします。貴校では、学校外での学修を単位認定する際、その上限を設けていますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1. 上限を設けている。（\_\_\_\_\_単位まで）
2. 上限を設けていない。
3. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(4) (1)で回答項目1を選んだ学校におたずねします。平成18年度に、学校外での学修によって単位を認定した生徒ののべ総数と、単位数の総計を下欄にご記入ください。

のべ  人， のべ  単位

(5) (1)で回答項目2を選んだ学校におたずねします。廃止した具体的な理由を下欄にご記入ください。（自由記述）

問11 貴校の総合学科の生徒数、及び進路についておたずねします。

(1) 近年の入学時の定員数、入学者数、及び卒業者を下欄にご記入ください。

	入学		卒業
	定 員	入学者数	卒業者数
平成15年度			
平成16年度			
平成17年度			
平成18年度			
平成19年度			

(当該年度に、卒業する総合学科生徒がない場合は、「0」記入してください。)

(2) 平成18年度卒業生の進路の状況について、その数を下欄にご記入ください。(平成18年度卒業生がいる場合のみ記入。)

進路	進 学					就 職	その他	合 計
	大 学	短 大	専門学校	その他	小 計			
合 計								

※1 「進学」には、進学し、かつ就職した者を含める。

※2 「進学」のうち。「その他」には、専攻科、専修学校一般課程、各種学校（予備校等）及び公共職業訓練校等に入学した者（入学し、かつ就職した者も含む）を記入する。

(3) 平成13年度卒業生の進路の状況について、その数を下欄にご記入ください。(平成13年度卒業生がいる場合のみ記入。)

進路	進 学					就 職	その他	合 計
	大 学	短 大	専門学校	その他	小 計			
合 計								

※1 「進学」には、進学し、かつ就職した者を含める。

※2 「進学」のうち。「その他」には、専攻科、専修学校一般課程、各種学校（予備校等）及び公共職業訓練校等に入学した者（入学し、かつ就職した者も含む）を記入する。

問12 貴校の総合学科における、これまでの成果と課題についておたずねします。

(1) 教育課程についての成果と課題を、なるべく具体的に下欄にご記入ください。(自由記述)

<p>〈成果〉</p>	
<p>〈課題〉</p>	

(2) 学校運営についての成果と課題を、なるべく具体的に下欄にご記入ください。(自由記述)

<p>〈成果〉</p>	
<p>〈課題〉</p>	

- (3) 各教科・科目等の授業，生徒指導，進路指導についての成果と課題を，なるべく具体的に  
下欄にご記入ください。 (自由記述)

《各教科・科目等の授業》

〈成果〉
〈課題〉

《生徒指導》

〈成果〉
〈課題〉

《進路指導》

〈成果〉
〈課題〉

これで終わります。ご協力ありがとうございました。

### 3. 生徒調査票

国立教育政策研究所（平成19年9月）

# 総合学科に関する調査

## ～生徒調査票～

（最終年次生）

このアンケートは、高等学校の総合学科で学んでいる生徒の皆さんが、総合学科についてどのように感じているのかおたずねして、今後の総合学科の改善・充実に役立てようとするものです。この調査は、無記名で行い、あなたがどのように答えたのかはわからないようになっていますので、どうぞありのままをお答えください。

#### ＝回答に際してのお願い＝

記入方法：① 特に質問文に指示がない場合には、選択肢の番号に○を付けてください。  
：② 回答に当たっては、太字で記されている問いや指示に従ってください。

※まず次の各項目を記入してください。

#### 1 学校名

立

高等学校（全、定）

#### 2 あなたの性別（あてはまるものの番号を○で囲んでください）

1 男      2 女

#### 3 あなたが主に選択している科目（系列）分野

（あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、よくわからない場合は、先生にたずねてください）

1 人文	2 国際	3 自然	4 情報	5 福祉
6 生活	7 スポーツ・健康	8 ビジネス	9 環境	
10 食品	11 生命	12 工業	13 芸術	14 地域
15 その他				

#### 4 あなたの進路希望（あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。）

1 大学・短大に進学      2 専門学校に進学      3 就職      4 その他

問1 この学校への入学についておたずねします。あなたは総合学科に進学してよかったと思いますか。次のうちあてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない

問2 総合学科の特色についておたずねします。あなたは次の(1)から(6)についてそれぞれのよ  
うに思いますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

(1) 総合学科は生徒が自分の興味・関心や進路希望等に応じて、自由に科目を選択し学習できる  
学科である。

1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない

(2) 総合学科は、生徒が自分の進路について学び、じっくりと考えることができる学科である。

1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない

(3) 総合学科は、地域と連携した学習や行事等が重視されている学科である。

1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない

(4) 総合学科は、進学にも就職にも柔軟に対応できる学科である。

1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない

(5) 総合学科は、校則が緩やかで、自由な雰囲気学科である。

1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない

(6) 総合学科は、生徒がいきいきと学習や諸活動に取り組んでいる学科である。

1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない



問3 あなたは中学生のとき、総合学科についての情報をどこから得ましたか。次の1から10のうち、あてはまるものの番号をすべて選んで○で囲んでください。

- 1 高校調べなど、中学校の進路学習
- 2 中学校の先生との相談
- 3 高校説明会や高校の見学、体験入学
- 4 高校のパンフレットや教育委員会の高校紹介資料
- 5 高校のホームページ
- 6 保護者との相談
- 7 友人との相談
- 8 塾の先生との相談
- 9 新聞・雑誌等
- 10 その他 ( )

問4 あなたが総合学科を選んだ理由についておたずねします。次の1から11のうち、あてはまるものの番号をすべて選んで○で囲んでください。

- 1 自分の学力にあっているから
- 2 自分の個性を伸ばすことができると思うから
- 3 自分のやりたい勉強ができると思うから
- 4 進学に有利だから
- 5 就職に有利だから
- 6 親や先生がすすめたから
- 7 友人が希望していたから
- 8 自分で自由に学ぶ科目を選択できるから
- 9 自分の進路についてじっくり考えることができるから
- 10 特に理由はない
- 11 その他 ( )

問5 あなたはどのような基準で自分の選択する科目を決めていますか。次の1から9のうち、あてはまるものの番号をすべて選んで○で囲んでください。

- 1 自分の興味・関心のある科目
- 2 将来の生き方や希望する職業などに役立つような科目
- 3 資格取得に必要な科目
- 4 希望する大学の学部・学科の受験に必要な科目
- 5 自分の得意教科等、自分の良さを伸ばすための科目
- 6 単位取得が容易そうな科目
- 7 友人が選択している科目
- 8 特に基準はない
- 9 その他 ( )

問6 あなたは総合学科のどのような点に満足していますか。次の1から12のうち、あてはまるものの番号をすべて選んで○で囲んでください。

- 1 自分の興味・関心や進路指導等に応じて教科・科目を選択できる
- 2 幅広い分野にわたって多様な選択科目が開設されている
- 3 進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる
- 4 地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会が多い
- 5 調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動ができる
- 6 単位制なので、自分のペースで学習することができる
- 7 進学希望にも就職希望にも対応した教科・科目を選択できる
- 8 教員が熱意をもって指導している
- 9 施設・設備が充実している
- 10 教員や友人などと幅広い人間関係を得ることができる
- 11 ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発である
- 12 その他 ( )

問7 あなたは総合学科のどのような点に不満足ですか。次の1から12のうち、あてはまるものの番号をすべて選んで○で囲んでください。

- 1 自分の興味・関心や進路希望等に応じた教科・科目を選択できない
- 2 開設されている選択科目の分野や数が不十分である
- 3 進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である
- 4 地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会がもっと必要である
- 5 調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動がもっとも必要である
- 6 進学が難しい
- 7 就職が難しい
- 8 教員が熱意をもって指導していない
- 9 施設・設備が不十分である
- 10 教員や友人などとの人間関係が希薄である
- 11 ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発でない
- 12 その他 ( )

問8 あなたは全体として総合学科で学ぶことに満足していますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1 満足      2 ほぼ満足      3 やや不満足      4 不満足

問9 総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」を学ぶ意義についておたずねします。あなたは次の(1)から(5)についてそれぞれどのように思いますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

(1) 働く意義を理解し、将来の生き方や進路に目標を持つことができる。

1 そう思う    2 まあそう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない    5 わからない

(2) 学ぶことの意義や目的を理解し、総合学科における教科・科目の適切な選択に役立てることができる。

1 そう思う    2 まあそう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない    5 わからない

(3) 自己の興味・関心、能力・適性等、自己の個性について理解を深め、伸ばそうとする意欲を持つことができる。

1 そう思う    2 まあそう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない    5 わからない

(4) 社会人の講話や職場体験をとおして異なる世代とのコミュニケーション能力を高めることができる。

1 そう思う    2 まあそう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない    5 わからない

(5) 調査・研究、それに基づく発表・討論・職場体験等を通じて主体的な学習態度を身に付けることができる。

1 そう思う    2 まあそう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない    5 わからない

問10 「課題研究」を学んでいる方のみにおたずねします。あなたは次の(1)には欄の中に自由に記述、(2)から(4)についてはそれぞれあてはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

(1) あなたは、「課題研究」でどのようなことをしましたか。

--

(2) 「課題研究」は、3年間の学習のまとめを行うのに有意義である。

1 そう思う   2 まあそう思う   3 あまりそう思わない   4 そう思わない   5 わからない
--

(3) 「課題研究」は、自分で課題を設定し、学習計画をたて、自己の個性を伸ばすことができる。

1 そう思う   2 まあそう思う   3 あまりそう思わない   4 そう思わない   5 わからない
--

(4) 「課題研究」は、調査・実験・研究、作品製作、体験的な活動等を通じて主体的な学習態度を身に付けることができる。

1 そう思う   2 まあそう思う   3 あまりそう思わない   4 そう思わない   5 わからない
--

問11 今後、総合学科をよりよいものとするための提言、要望等があれば、自由に記述してください。

--

これで終わります。ご協力ありがとうございました。

---

# 今後の後期中等教育の在り方に関する調査研究

(「総合学科に関する調査」報告書)

平成 2 0 (2008) 年 3 月

発行者 国立教育政策研究所

住 所 〒100-8951

東京都千代田区霞が関 3 丁目 2 番 2 号

電 話 03-6733-6833 (代)

印 刷 株式会社マステック

---